トレスバラス移住地五十年史

五十年史編纂委員会

序……８
移住地グラフ５０年……２０
カラーアサイ……３０
スポーツ・グラフ……４３
アサイ開植５０年祭……４５
歴史の中の人……６０
アサイ事典……６４
移住地５０年の歩み……７４
開拓の息吹き……８０
大戦空白時代……
全盛時代……
大農時代……
移住地区の歴史……
ペローバ……８０　中央……８４
バルサモ……８５　パルミッタール…９３
フィゲーラ……１０１　グァルカイア……１１３
セボロン……１１４　ロゼイラ……１１９
ジャンガーダ……１２３　カビウーナ……１２５
サン・ジョアン…１２８　アモレイラ……１３０
セードロ……１３４　タンボリ……１３６
パイネーラ……１３７　ポルテーラ……１４１
サンタ・セシリア　１４２
日系名街路……
南伯ロンドリーナ単協……
移住地世相変遷……１４７
二、三世アンケート……１４８

開拓座談会……152
青年連盟……192
弁論……211
連合女子青年団……
長寿番付……
農産展……218
産業組合……228
産組七人の犠牲者……
悲劇産組破産史……
アサイ製糖工場成らず……
宗教……241
教育史……253
臣道連盟……262
日本戦災同胞救援会……
ＳＡＭＡアサイ市会……
郡長　議員……
俳壇……269
歌壇……276
歌謡・唱歌……278
囲碁……279
歌謡大会……
将棋……
コチア産組アサイ倉庫……281
重要年表……283
野球……284

歴代アサイ・ロータリ・クラブ会長……
柔道……314
剣道……317
相撲……320
卓球……326
陸上……338
編さん委員会……360

題　字　　大口信夫大使
文とカット　牛窪　襄　（ブラジル風土）
調査　編纂委員
表紙　堀内写真館

序

在ブラジル日本国特命全権大使

大　口　信　夫

アサイは、何よりもまず日本人が築き上げた町である。

（「文庫」編集部注　紙面の関係もあり、祝辞の内容は省略いたしました）

一九八二年二月

序

在クリチーバ日本国総領事

和田　規矩男

トレス・バラス移住地五十年史が刊行されるに際し、一言所感を申し述べる機会を与えられましたことは、私の光栄かつ喜びとするところであります。（以下略）

昭和五十七年二月

斧の音

移住地の朝は
お寺の鐘の音で明ける
その昔　拓人たちは
朝露を踏んで
原始林の中に入って行った
カーン　カーン
はるかなる斧の音が
耳底で鳴るようだ
遠い時の音が
開拓の雄叫が…

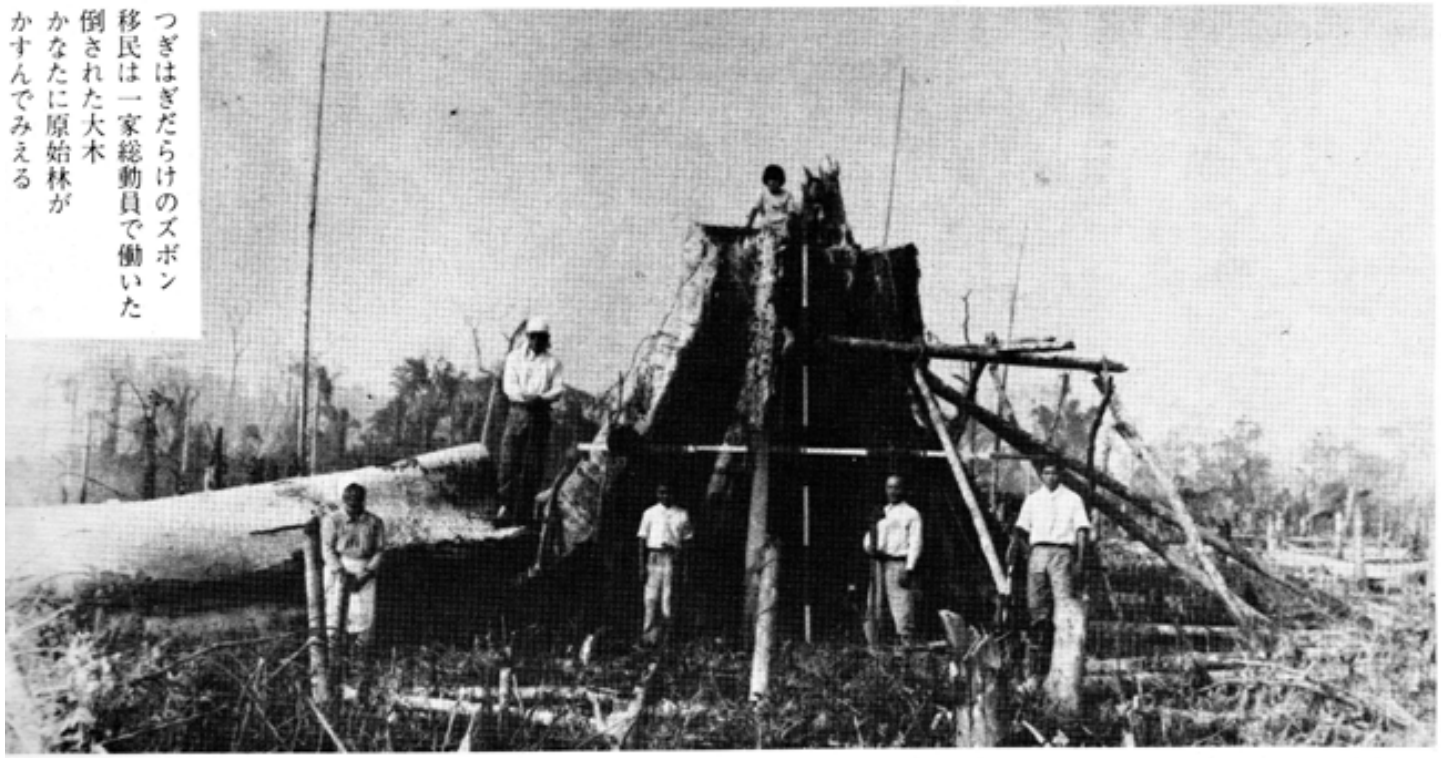
―牛窪―

斧の音

移住地の朝は
お寺の鐘の音で明ける
その昔　拓人たちは
朝露を踏んで
原始林の中に入って行った
カーン　カーン
はるかなる斧の音が
耳底で鳴るようだ
遠い時の音が
開拓の雄叫が…

―牛窪―

疲れては日本に遊ぶ夢ばかり　　歌迷



つぎはぎだらけのズボン
移民は一家総動員で働いた
倒された大木
かなたに原始林が
かすんでみえる

佐藤万吉一家＝一九四二年

五十年史発刊を祝して

弁理士　梅　谷　　光　信

序

ブラジル日本文化協会
会長　相場　真一

一九八二年四月

（略）

はじめに

風化しつつあるトレス・バラス移住地の歩みは、歴史の区切り５０年を記念して一冊にまとめられた〝生ける歴史〟先駆者と、虐史形成の主役者二、三世が、歴史に加わって、昔と今を取材する過去と現在の対語は、原点に帰って粛々と迫ってくる。

その昔、先駆者は原始林に飛びこんで、土と対決した。ごまかしのきかない行動力によって、ブラジルの中に郷愁の町、アサイは建設された。アサイを郷土として生れ育った二、三世は、原始林開拓に敢然と取り組んで耐えぬいた先人の克己心を受け継いでさらに住みよい郷土にするために、未来を背負う力を課題としてたくましく羽ばたいている。他地方の日系には、余りみられない郷土に見守られて、土に生きるアサイ日系は幸せである。今後、五十年、百年と今にもまして住みよい移住地であるように祈ってやまない。

ここに、半世紀のトレス・バラス移住地史を記して後世への贈物とする。真実を伝えておけば、温故知新、現在を見つめなおす反省の糧となる。

調査一年、編さん委員の努力によって上梓をみたこと、厚くお礼申し上げます。

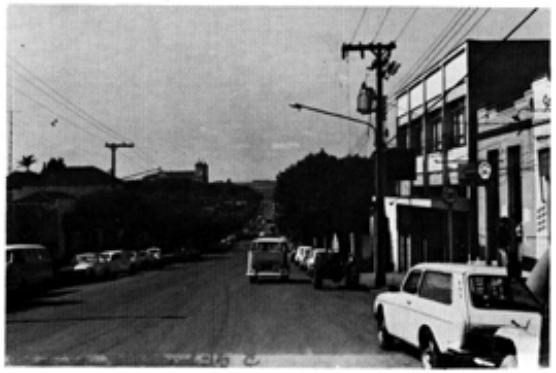
トレス・バラス移住地　五十年史編さん委員長

原　勉

一九八二年五月一日

移住地グラフ50年

上＝予定市街地に鉄棒の音あちこちに建ち始めた板小屋、赤耳＝一九三三年
中＝同本通り七年後
下＝40年後、同じ地点から見た本通り
＝一九八一年



郷愁の町アサイ

山の背の一本道の町アサイ
日本建築家屋がひっそりと
静かなたたずまいをみせている
緑と真赤な大地
母なるブラジルの中の
郷愁の町アサイ
＝一九八二年＝　牛　窪

移住地グラフ５０年

郷愁の町アサイ
山の背の一本道の町アサイ
日本建築家屋がひっそりと
静かなたたずまいをみせている

緑と真赤な大地
母なるブラジルの中の
郷愁の町アサイ

＝一九八二年＝　牛　窪

霜害を免がれた青々としたコーヒー園。

結実したコーヒー果。コーヒー果は青から赤。熟れると黒色に固まる。

ブラジルの国花。イッペの花。黄、紫、薄桃、白と咲き競う。
薄桃色のイッペは丁度桜の花のよう（小坂農場）

アサイ風土

開果した棉。３月大地は真白に包まれる。

棉採集―アサイはブラジルの棉産地。

亭々と聳えるペロー・バの大樹、山焼きのあとの黒焦げたトッコ（民）板葺屋根、板小屋の収容所（バルサモ区）耕作地の山を買った人々は、ここに引越し荷をおいて住い小屋建てに朝露に濡れながら山に入って行った—1935年—

上左—右から二人目　宮崎書記（右）勝田駐員、種蒔支配人—一九三九年
中右—バルサモ区日語校敷地に山焼きに集まった開拓者たち—一九三五年
中左—日伯合仁支配人（右）三浦聖日伯新聞社長（左）—一九三五年
下—アルトバウヤーリョ区で　右から二人目）—一九三四年　島田俊三（右から二人目）日伯合仁（左

稼ることもなかりし稲を刈る　第十

上右—矢崎銀夫、勝田印太郎、西村忠助（右から）—一九三三年
上左—中央区の稲畑（宇都宮）—一九三五年
中右—アラタ知私日—一九三七年
中左—植村達二、矢崎銀夫、西村忠助、勝田印太郎（右から）—一九三三年
下—ホビウーナ日本人会創立記念。前列右から○市川菊三郎、○鈴田米吉、○平賀金助○飯田源次郎、○南原留蔵、今藤数見、中列右から山口一三、野田幸松、○斉藤己島田与三郎、金野鶴松、○山口虎一、南原春雄、後列右から鈴田林吉、竹鶴開、都河正通、渡辺恒栄、小山田吉郎、南原秀男、○南原徳男—一九三八年　○印は故人。

上一西部ボンパウロ総領事を迎えて　移住地総出で歓迎　一九三八年四月二二日

中右一宮城県人アラ拓殖株式会社移住地訪問（右）　一九三四年

中左一アラ拓殖員　前列、左から伊藤、小倉、大林、赤坂、曽田、桜田、岡村、二列左から横倉、田中、一人おいて朝倉、三列、松崎、西尾、蜂巣　一九三五年

上下部河内大郎の住家　一九三五年

上右一アラ拓殖員、パルミッタール区へ家族ピクニック、山岡農場内のフィゲイラー　一九三八年十二月

上左一アラ拓殖株式会社運転手　一九三九年

中　上野克男教師、マツオ中央小学校に赴任、前列左から西村市蔵、日野倉右、一人おいて矢崎勝夫、上野克男、林、秀雄、横山修二、赤木平七、島田俊三らがみえる　一九三七年

下一アラ拓殖員、日野、島田大蔵、後に久谷義、野本、進、山崎安志、小清八郎、蜂巣ジョゼ、曽田宏太郎、谷田才次郎、久保庭栄　一九三七年

一九四五年一二月、大戦が終った年フィヂィ青年団は、サン・ジョロニモにピクニックした。小林、後藤、田島、坂本、鹿野、一行44人、バックにパラセ松。

サン・ジョン日語校、青年会館落成、天長節祝賀式に集った人々＝一九四七年四月二九日

集や校舎と言うも丸木小屋　坂本美代子

ハローハ日語校第一回卒業記念＝一九二九年一月

マノエル・リーバス州総領事来訪、産組内で、右端・大野、橋業、左端・組合。

上右＝トレス・パラス産業組合理事、監事＝前列右から、井戸開治、山岡純一理事、組合村一理事長、宇都宮百太郎理事、清水常登監事、後列右から三宅武監事、奥山孝治理事、辻本正行専務、浦浜忠作理事。

上左＝産組事やかなりし頃の仲間＝前列右から、起野弘、三宅すみ子、池田照江、辻本正行専務、後列右から、栗地教悦、池田、栗原パウロ、本庄賢一、橋業次＝一九四〇年

中左＝チバジー河の源流は原始林の緑を映して清らかと流れていた。河に入ると人間を知らない魚群が足にぶつかってきた。今のマット・グロッソ州の河を想えばよい。結婚披露には生捕ったばかりの魚をサシミにした＝一九四八年五月一四日、投網にかゝったピンタード西キロ。

中右＝四移住地目的産業協同組合結成相談会＝パストスで開催、前列左から畑中仙次郎（パストス）、藤好之一（本部）、臼井食仁（トレス・パラス）、後列右から古関忠弥（チエテ）、橋業産平（パストス）＝一九三九年

下＝橋業（前）、臼井（前）、島田（前）、ブラ拓支配人、前支配人松浦、前列左から久保、橋業、島田、井戸保、臼井、橋業産平、一人おいて山崎、後列に西尾茂、小倉清、前田、勝田ら＝一九三九年

上＝第二回トラホーム、十二指腸虫治療講習会を終えて、佐々木、中村、赤木、菊地、林、能篇、鈴木、高橋、羽山、土井、守屋、立石、渡辺、秋葉、木村、御、黄野、吉田ら＝一九四一年三月二三日

上＝第六回農産品評会委員、一九四一年七月一二日、これが戦前最後の品評会となった
江国、鈴木、小倉、神、井戸、中村、赤木、堅玉、山岡、阿部、吉沢、菊池、斉藤らがみえる

下＝ジャンガーダ区敬老会、パックの建物は会場、区長湯沢　茂＝一九四六年

上＝ペロー＝バ区開組20年記念新会館落成＝一九五二年十月二六日

中央区敬老会、一九四七年（開拓記念日に）
昔の敬老会は、お爺さんばかり、後にみえる赤木、宇都宮、清田（豊）船田らは当年の男盛りでした

下＝ペロー＝バ区女子青年団＝一九四七年

ー第12回農産展、前列左から永田、高橋、柳原、勝田、鈴木、小澤、後列　早田、奥田、田辺仁平、中島、鈴岡、松永、伊藤、原、吉田、森下、その他、団体最高点ーサンジョン区　3連覇の偉業を樹立ー 1955年7月24日

下ーパルサモ区入植25周年記念功労者表彰と敬老会（会長ー中島春雄）1958年9月6日

上ー第一八回農産品評会委員
ー一九六一年六月一二五日
中ーロゼイラ区入植20周年記念功労者表彰と敬老会ー一九五六年六月一五日
下ーパルサモ区OB親睦会員ー一九六三年

スポーツグラフ50年

第1回トレス・バラス少年陸上大会で優勝したロゼイラ・チーム前列右から清水、住谷、木村、中家＝1951年

（下）戦後第1回トレス・バラス青年陸上大会。ペローバ選手、戦前の覇者3連覇成らずフィゲイラ初優勝＝1946年

▲第一回学生柔道大会（サンパウロ）でアサイ中学優勝した折、大河内六段（左）、石原四段＝一九五七年九月一八日、アサイ道場全盛時代、門人三一九人

▲ハルサセ区新会館落成（会長・仲山清治）＝一九八一年六月

トーアサイ初代会長、一九五〇年一月建立、大谷光昭法王、智子妃方、大谷光照門主、姉子妃方高田伊師などお迎えした名誉一隅。

遠き地底に眠れる父よひと知れぬ移民哀史の空白に住む　本庄　研一

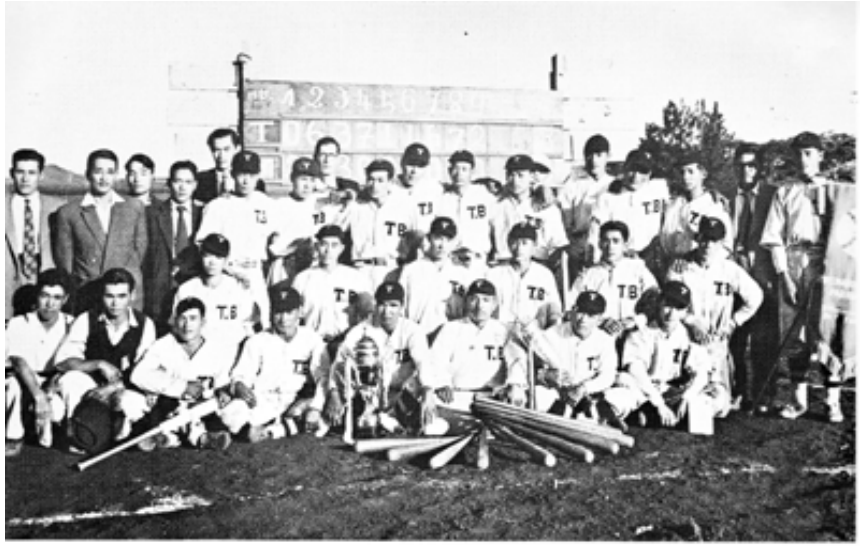
▲ジャンガーダ日語校＝1964年

同窓＝1958年＝

―第七回センバツ野球大会、パラナ×サンパウロの決勝戦、投手戦、延長11回表、小林が黄昏の二死満塁劇的アーチを放った名試合（写真―力投するパラナのエース・小林）
いまだにファンの記憶も新しく語り草となっている（一九五五年五月）前年の（一九五四年）第六回センバツ大会でパラナがサンパウロを破って（5×3）優勝旗を手に初めて州境を越えてからパラナ黄金時代が始まる
五四、五五、五六年（小林投手）三連覇の偉業を樹立、五八、五九、六〇年と（増田次好投手）二度目の三連覇に輝いた

上―在りし日の平岩（左）と禅院―1958年

開拓5年目、岡本通り―一九三七年、人影もまばらにひっそりとした、うらさびしいアサイの町。雨期（夏）になると通用でチーラ・ロッシャ（赤粘土質）はどろんこ、ツル〳〵によってよく転んだ。車がスリップして立往生、冬の乾期にはパラナの名物ポエイラが凍々と立ちこめて家も人もザラザラ、空はカラ〳〵、どんより濁って太陽も赤くなって寝あんどんのよう。



優勝　第2回北パ青年野球大会10月31日、11月1日、アサイ球場で開催　（トレス・パラス33×5マリアルパ）

下―戦後第1回北パ青年野球大会（ウライ球場）参加8チーム、優勝したトレス・パラス（トレスパラス7×6ウライ）　1945年
前列　頼則、木村要、頼則、山田、谷田、中列、谷山、酒井、星加、後列・岩井、小林、頼則、前田、木村政、橋本

↑第四回アサイ大会参加選手二二〇人。前列、右から河野神辰、進藤、前田、木村、石川、平岩、西森、佐藤、山田、工藤、後列↑工藤、坪井、坂本、藤谷、山口、佐藤、小野　一九五七年

第五回トレス・パラス剣道大会で優勝したロゼイラ区チーム
前列右から坂本、星野、秋葉、中列右から鈴木、竹山三五郎師範、永田、後列↑長瀬、川崎、竹山↑一九五〇年一二月

↑右↑第28回北パ陸上大会で優勝したトレスパラス野球↑　一九七一年
↓左↓トレス・パラス石原道場有段者と後援会員、前列右から湊浪、植田、湊浪、石原師範、佐藤、大林↑一九五六年

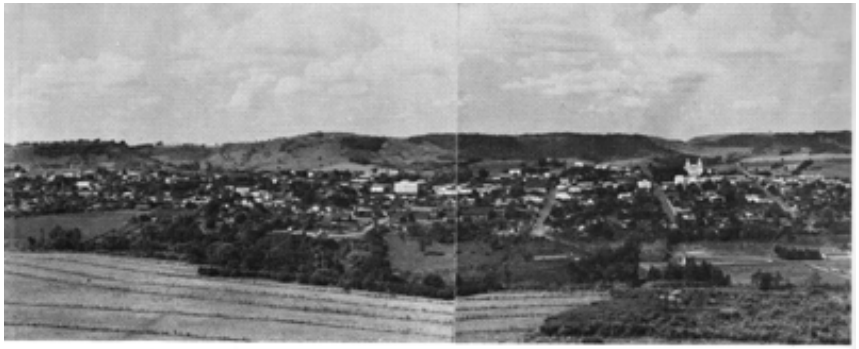
↑↑第16回全伯青年野球大会決勝戦　アサイ対豊和戦は、コロニア対日本製の対決として大気沸騰した。3×2　コロニアに凱歌があがった歴史的意義ある試合だった＝1962年9月
↑左↑　　トレス・パラス柔道大会＝1968年
↑右↑　　北パ陸上大会。優勝したアサイチームの主力。右から3人目宝宝　平業マリオ＝ 1976年
↑左↑パルミッタール区グランド開き。テープカットする上野県議（右）と小野区長（左）＝1960年4月
↑右↑大学野球の応援団ではありません。日本人の町アサイ野球の応援団デス＝1976年

アサイ半世紀の大祭典（写真説明）

五月一日、午前九時サン・ジョゼ中央教会前広場で移住地史上最大の開植五十周年記念式典（郡、文体協共催）が行われた。街の両側に飾られた四〇本の仙台七夕祭りの短冊、縦横に張りめぐらされた献灯一・〇〇〇個、櫓太鼓の音に山車が繰り出され、歴史的式典の幕は開かれた。人出一万、紺青の空、雲一つない1

第一回入植者に銀牌が贈られ、記念碑（大口信夫大使揮豪の〝拓魂〟）の除幕式が行われた。二日、午前八時三〇分壮厳な先没者慰霊ミサを行なった。

移住地では四月二四日から五月二三日までの一カ月間、バラエティに富んだ行事（卓球、バレーボール、歌と踊り、敬老会、手工芸展、ミス五十周年祭、ソフトボール、遊覧列車、盆踊り、フッ



アサイ半世紀の大祭典

待ちに待ったこの日、特設桟敷に招かれた第1回入植者たち　感無量、万感胸に迫っての去来するものは…。
最前列右から辻本、守屋、石川諸氏、池田夫人、池田氏、一人おいて船田岩田来亡人。

五月一日、午前九時サン・ジョゼ中央教会前広場で移住地史上最大の開植五十周年記念式典（郡、文体協共催）が行われた。街の両側に飾られた四〇本の仙台七夕祭りの短冊、縦横に張りめぐらされた献灯一・〇〇〇個、櫓太鼓の音に山車が繰り出され、歴史的式典の幕は開かれた。人出一万、紺青の空、雲一つない！

第一回入植者に銀牌が贈られ、記念碑（大口信夫大使揮毫の〝拓魂〟）の除幕式が行われた。二日、午前八時三〇分壮厳な先没者慰霊ミサを行なった。移住地では四月二四日から五月二三日までの一ヶ月間、バラエティに富んだ行事（卓球、バレーボール、歌と踊り、敬老会、手工芸展、ミス五十周年祭、ソフトボール、陸上、柔道、囲碁、将棋大会）の費用（一貫出その他一切）委員会負担で行なった。
六月一八日、照真寺で先没者慰霊大祭を営み開拓功労者を表彰した。

祭典委員会

名誉総裁　野々村　勝弘
総　裁　斎屋武セルジオ
委員長　小林　一郎
副委員長　草　勉、南原春雄、船田清雄、
委　員　野田　昭、森本ジョン、佐藤　昭、小笠原富士雄、藤川　宏、小川島秀雄、田辺　清、佐藤マリオ、小笠原マリオ、赤木津弥太、船田誠志、上田義明、古川　章、小山田実、竹山一夫、佐藤清治、柳院ジョルジ、浅岡原治、佐々木三郎、弘法光義、杉原五月、斎屋武セルジオ、加藤富夫、須沢一男、松村哲夫、名渡因郎、宮　敏夏、島田　巧、小谷ジュリオ、久村勝志郎。

地区委員　アモレーラ区・島袋　実、アサイ区・野田　昭、バルサモ区・斎屋光雄、カビウーナ区・小笠原富士雄、セボロン区・金松三郎、セントラール区・赤木津弥太、セージロ区・佐藤栄一郎、フィゲーラ区・野崎茂樹、グァルカイア区・大渡正高、ジャンガーダ区・岡村邦夫、パイネーラ区・藤原国雄、パルミッタール区・船田誠志、ペロービボ区・佐藤哲也、ロゼイラ区・佐藤俊也、サンジョゼ区・見野量一、サンタセシーリア区・大場義夫、ボルチーイラ区・島田松雄。

黒曜石の記念碑に彫刻された大口大使の揮毫「拓魂」。

トボール、陸上、柔道、囲碁、将棋大会）の費用（賞品その他一切）委員会負担で行なった。

六月一八日、照美寺で先没者慰霊大祭を営み開拓功労者を表彰した。

祭典委員会

名誉総裁　野々村　勝弘

総　　裁　喜屋武セルジオ

委員長　　小林　一郎

副委員長　原　勉、南原春雄、頼則照雄、野田　昭

委　員　森本ジョン、佐藤　昭、小笠原　富士雄、藤川　宏、小田島秀雄、田辺　清、佐藤マリオ、小笠原マリオ、赤木津弥太、頼則誠志、上田義則、古川　章、小山田実　竹山一夫、佐藤清治、禅院ジョルジ、浅岡　源治、佐々木三世、弘法光義、杉原五月、喜屋武セルジオ、加藤富夫、湯沢一男、松村哲夫、名波四郎、宮敏克、島田　巧、小岸ジュリオ、久村勝志郎。

地区委員　マモレーラ区・島袋　美、アサイ区・野田　昭、バルサモ区・菅原光雄、カビウーナ区・小笠原富士雄、セボロン区金松三郎、セントラール区・赤木津弥太、セードロ区・佐藤栄一郎、フィゲーラ区・野崎茂樹、グァルカイア区・丸茂正尚、ジャンガーダ区・岡村邦夫、ハイネーラ区・藤原国雄、パルミッタール区・頼則誠志、ペローバ区・佐藤哲也、ロゼイラ区・佐藤　彦也、サンジョゼ区・星野量一、サンタセシーリア区・大場義夫、ポルテーイラ区・　島田松雄。

（以上　写真の横の文章）

歴史の中の人

四大移住地の始祖

梅谷　光貞

梅谷専務が夫人に送った　〃パラナ州視察　絵葉書〃便り

（抜粋）

昭和三年（一九二八年）　三月七日、

『今日は紀元節でありますが、当地においては何等の儀式もありませぬ。当地に於いて植民事業に努力して我が国の建国の昔を偲ぶ時、何んとも言えぬ感にうたれます。大和民族の礎を当地に築き上げることは誠に愉快なり、第二紀元節を作り出したきものであります。光信さんに怪我をさしてはいけませぬ。皆様にて、よろしく御注意を願います。痛めばすぐ医者にかかれ』（子を思う親の情、切々と迫るものがある）　昭和二年（一九二七年）二目十一日〃紀元節の日〃

昭和三年（一九二八年）三月七日、午前七時サンパウロ発、斉藤和外務書記生と共にソロカバナ線視察の途に上る。コチヤ、ソロカバナ、ボツカツ、アバレ等の各駅を経て、午後八時、セルケーラセザール駅に着。直ちに駅附近のホテルに入る。岡島氏来訪せらる。

三月八日、豪雨来る。自動車容易に出発を肯んぜず。午前十時漸く雨を衝いて出発す。連邦州経営の第一植民地、蔵力氏、其他日本人の棉作、又、アグアバレータの日本人　綿作状況を見る。豪雨のため道路破壊、自動車進まず、途中より馬を利用す。棉作成績良好也。当地方は邦人棉作地として最も著名なる所也。

三月九日、雨天のため汽車役三時間の延着也午前十時十分漸く出発。午後二時オウリニョス着。直ちに自動車を駆らせてバルボーザ耕地に向う。途中パラナパネマ河を渡る。サンパウロパラナ両州の境をなす。午後四時バルボーザ耕地着。直ちに施設の一般を見る。コーヒーの成育、名種果樹の栽培、諸般の設備其他、実に規模広大、設備完全、悉く嘆賞の外なし。此地方鳴禽類極めて多し。朝夕自然の大音楽を聞く。

真に仙境に在るが如し。住宅の設備も亦完全にして、王候の生活を凌ぐものあるを思わしむ。

此所に宿泊す。

三日十日、午前八時自動車発。カムバラを横ぎり、シンザ河ラランジンニァ河を横ぎり広大無辺の大原始林を走ること約七〇キロメートル更に自動車を捨て、馬を駆ること五キロメートルにしてコンゴニヤに達し、問題の山科氏の土地を視察、直ちに引返し、再び自動車を走らせて本道より支道に入り、十八キロメートルの大森林を過ぎて野村耕地に着す。時既に午後八時道路険悪、加え、夜に入りたると以て頗る困難を極む。併も夜間の大森林中の旅行のことととて電燈の光に驚きて道に飛出して逃迷へる兎多数に上る。亦興味あり。野村耕地に宿泊す。月冴え、気清く、談尽きず。深更二時に及ぶ。

三月二日、午前九時より野村耕地の実況を視察。昼食頂戴の上、正午同地発、帰路につきカムバラ附近の日本村を視察す。二十家族ありコーヒー、柏、米等を作る。小学校あり。午後六時再びバルボーザ耕地に帰着宿泊す。若主人も友人を伴いて来泊せらる。食卓を共にし経験談を承る。

三月一二日、醒むれば豪雨軒をうつ。雨をついてバルボーザ耕地の実況を視察す。美事なるコーヒー園、整頓せるコロノの住宅、

感嘆の外なし（しみあり。不明。）
附近各種の鳴禽類群をなし、自然の音楽を聴くが如し。時々とうもろこし畑にオームの群を見る。オウリニョオスより汽車に依り、カッター駅より畑中、古間両氏を加へ、午後八時アルバレス・マッシャード駅に著す。夜九時横尾氏を其宅に訪問、当地の事情を聴くと共に明日ブレジョン植民地視察の打合わせをなす。
三月一三日、朝雨来る。午前十時過ぎより乗馬にて邦人植民地ブレジョンを視察、第一第二小学校を始めとして縦横に視察、横尾氏宅に帰り来れば大雨実に盆を覆すが如し。当地の有力者多数横尾氏宅に来り会し、御馳走に預りつ、苦心経験談を聴く。汽車二時間の延着とのこと午後十時暗夜を冒して停車場に至れば尚末だ到着せず。十時半漸く到着、午後十一時半サントアナスタシオ着、ホテル・サン・チャゴに入る翌日はバイベン植民地を見る。之又邦人発展地なり。（下略）

△

サンパウロ市から夫人に送った絵葉書にあるような広大な気宇により、日本政府を動かして前後二回来伯、二年四カ月の間にサンパウロ、パラナ川、パラグワイ国を車馬で実地踏査（通算旅行目数二九一日＝七二・〇〇〇キロ＝推定）して四大移住地を買収、移住地の盤石不動の恒久的基礎を確立すると共にミナスで土地払下げ許可を得、パラグワイ拓植計画４３万町歩移住地買収計画を立案、政府に建言したが不幸にして採用されず平釟三郎同連合会長に辞表を叩きつけた　（一九三一年）

△

翌年満州事変勃発により小磯国昭陸軍次官、永田鉄山軍務局長、今井伍介の要請で、陸軍少将待遇で関東軍初代移民部長となって渡満、用地百万町歩を購入して三十年間百万戸入植移民計画を推

進、軌道に乗せた。更に満州に次ぐ第三の日本民族発展の新天地、東南アジアと大洋州諸島に着目、政府軍と連絡をとって移民構想を練った。

海外移植民事業の実際経営の第一人者として拓務大臣に擬せられたが不幸、昭和一一年（一九三六年）九月二七日、東京都目黒区の自宅で死去した。享年五五才、正四位勲二等＝明治一三年（一八八〇年）一一月二日兵庫県養父郡畑村の内上谷部落の生れ。豊岡中、第一高校、帝大独法科卒　千住万世橋警察署長、岩手県、栃木県警察部長、台湾を経て北ボルネオ島、東印度、英領海峡植民地、マレー半島、印度支那、フイリッピン群島、南支那、各地植民地事情を視察、調査、帰台して台北庁長（３８才）朝鮮、満州、北支、中支、南支、中国本土と出張視察アルゼリア、チュニス、モロッコ、エジプト、中央アジア植民地事情視察調査した。一九二二年台湾新竹州知事、山梨県知事、一九二六年、長野県知事となったが、長野事件（県下警察署３、分署１４廃止した件により民衆が知事に暴行を加えた事件）により引責退官（４５才）要一九一七年海外移住組合連合会専務理事に就任。

生涯の理想、日本民族の海外発展の大業に存分の経験を振うことになった。

△

そして移住地建設のため来伯した。在伯中、丹念な絵葉書日記＝写真＝をさと子夫人に送っている。戦場、妻子に思いを馳せるし文武両道の将を彷彿とさせるものがある。

宮坂　国人

長野県諏訪郡豊田村、明治二二年七月一五日生。神戸商大卒、昭和六年北米経由渡伯。海外移住組合連合会専務理事、商銀専務取締役、勲三等旭日章、南十字星国家勲章受賞。

一九七七年三月一日死亡、８７才。

トレス・バラス移住地支配人

初代　斉藤　幸

長野県小県郡西塩田村字新町、明治二八年七月一七日生。大正七年四月若狭丸渡伯、長野師範卒。一九三二年四月、ブラ拓入社、同年初代移住地支配人として赴任、同年十二月チエテ移住地支配人に転任。

二代　臼井　介仁

広島県安芸郡本庄村、明治二二年（一八八九年）九月一七日生。明治四一年六月一八日笠戸丸渡　伯第一回移民。一九三二年十一月一六日、移住　地支配人として赴任、一九三七年クリチーバ，ブラ拓支配人、第二次世界大戦でカンパラに引退

一九六七年七月一七日死亡。

三代　榛葉　彦平

静岡県小笠郡栗本村、明治二五年二八九二年）

四月生。大正三年五月渡伯＝帝国丸。平野運平の実弟。一九三〇年ブラ拓入社、一九三九年移住地支配人として赴任。

一九七一年九月一七日　死亡、７９才。

宮坂　国人

長野県諏訪郡豊田村、明治二二年七月一五日生。神戸商大卒。昭和六年北米経由渡伯。海外移住組合連合会専務理事、南銀専務取締役、勲三等旭日章、南十字星国家勲章受賞。一九七七年三月一日死亡、87才。

トレス・パラス移住地支配人

初代　**斉藤　幸**

長野県小県郡西塩田村字新町、明治二八年七月一七日生。大正七年四月若狭丸渡伯、長野師範卒。一九三二年四月、ブラ拓入社、同年初代移住地支配人として赴任、同年十二月チエテ移住地支配人に転任。

二代　**臼井　介仁**

広島県安芸郡本庄村、明治二二年（一八八九年）九月一七日生。明治四一年六月一八日笠戸丸渡伯第一回移民。一九三二年十一月一六日、移住地支配人として赴任、一九三七年クリチーバ・ブラ拓支配人、第二次世界大戦でカンパラに引退。一九六七年七月一七日死亡。

三代　**榛葉　彦平**

静岡県小笠郡栗本村、明治二五年（一八九二年）四月生。大正二年五月渡伯＝帝国丸。平野連平の実弟。一九三〇年ブラ拓入社、一九三九年移住地支配人として赴任。一九七一年九月一七日　死亡、79才。

移住地青年のパパイ

西村　市助

山口県都農郡徳山市、明治二五年九月九日生れ

大正六年六月、若狭丸渡伯。一九二八年コルネリオ・プロコピオ・イガラバーバ植民地創設。西村組を作って移住地山伐りを請負う。青年のパパイ、スポーツのリーダー、移住地の人情親分であった。

一九五一年十月十四日死亡６０才。

歴史はこの人たちから始まる

舘脇　利一

青森県下北郡田名部町、明治二八年（一八九五年）一月生。昭和四年二月ハワイ丸渡伯　。トレス・バラス産業組合理事長を歴任、連合日本人会々長（戦前四期、戦後五期）を歴任。

一九五八年六月二八日　死亡。移住地葬、タテワキ・リイチ街誕生。

第一回入植者　　野村の五人

辻本　正行

広島県安芸郡坂村、明治二九年（一八九六年）一月一五日生。大正一四年二月、河内丸渡伯。

８７才、サンパウロ市在住、８６才。

石川　　藤

埼玉県大里郡中瀬村、明治二六年（一八九三年　）二月十日生れ。大正一二年一二月神奈川丸渡伯。ペローバ区在、８９才、移住最高齢者。

守屋庄左ェ門

仙台市、明治三五年（一九〇二年）五月五日生れ。大正三一年二月一八日河内丸渡伯、サンパウロ市在。

船田　六一

広島県佐伯郡湯平町、明治三十（一八九七年）八月一六日生れ。大正一四年二月河内渡伯。

一九六八年一目五日死亡。

移住地青年のパパイ

西村　市助

山口県都濃郡徳山市、明治二五年九月九日生れ。大正六年六月、若狭丸渡伯。一九二八年コルネリオ・プロコピオ・イガラパーパ植民地創設。西村組を作って移住地山仮りを請負う。青年のパパイ、スポーツのリーダー、移住地の人情派分であった。
一九五一年十月十四日死亡。60才。

歴史はこの人たちから始まる

館脇　利一

青森県下北郡田名部町、明治二八年（一八九五年）一月生。昭和四年二月ハワイ丸渡伯。トレス・パラス産業組合理事長を歴任、連合日本人会々長（戦前四期、戦後五期）を歴任。
一九五八年六月二八日　死亡。移住地樽、タテワキ・リイチ街誕生。

第一回入植者　野村の五人

辻本　正行

広島県安芸郡坂村、明治二九年（一八九六年）一月一五日生。大正一四年二月、河内丸渡伯。87才、サンパウロ市在住、86才。

石川　藤

埼玉県大里郡中瀬村、明治二六年（一八九三年）二月十日生れ。大正一二年一二月神奈川丸渡伯。ペローバ区在、89才、移住最高齢者。

岩田　雪登

広島県佐伯郡上永内村、明治二六年（一八九三年）　三月一二日生れ。

一九七九年五月二日死亡。８６才。

池田　友忠

岡山県川上郡富塚村、明治四十年（一九〇七年　三月二三日生れ。昭和二年四月、モンテビデオ丸渡伯

中央区在住。

勝田卯太郎

福岡県築上郡千東村、明治三三年二月一日生。大正三年五月、帝国丸渡伯。一九三〇年コルネリオ・プロコピオのイガラバーバ植民地に入植　西村組に入って山伐り入夫、ブラ拓勤務。マレシャル・ロンドン章受賞。アサイ名誉市民。

一九七三年五月一七日　死亡。

野村農場から歩いて三日

守屋庄左工門

守屋『トレス・バラス移住地が売り出されたときいて、わしら5人野村農場組は、馬3頭に交替で乗って出かけた日々は忘れない。護憲革命の最中だった。野村農場からサンタ・マリアーナの赤羽定雄さんの家に着いて握り飯を戴いて一晩泊めてもらった。翌日、コルネリオを過ぎセーラ・モレーナの山の中で夕立に会い、山の中で火をたいて野営した。翌朝三人は馬でジャタイジン二ヨに出て移住地へ二人はピカードを歩いて移住地に着いた。野村農場をたってから三日目だ。二、三日山ン中を見て歩いてロッテをマルカして又、山道を歩いて帰った。昔は原始林の山ばかりだった。トレス・バラスからバ・ディランテスまで百二、三十キロはあったろう。わしは三アルケールブラ拓に山伐りをたのんでおいて、十月一日目に入植した』（守屋の手紙）

入植の想い出

勝田卯太郎

生前、勝田卯太郎さんの思い出話

『わしは、西村組（西村市助）の仲間と一緒に食料や野営道具を担いで、一二五キロ、駅（コプロコピオ）からバゴン（貨車）に乗って、一八二キロ駅（ジャタイ）に着いた。一九三二年四月三十日、天長節の祝いをやった日じゃった。ジャタイには、チラリ、パラリ、十数戸の小屋があった町で、というより廃村で、斉藤幸支配人に挨拶して、板小屋のペンソンに寝た。

翌五月一日朝、馬車に荷物をつんで移住地に向かった。支配人は馬上、わしらはテク、四、五キロ行くと、もう道は狭くなってピッカードだチグレ小川の橋が穴だらけで、カロセイロは、荷物をほうりだして、さっさと帰ってしもうた仕方ないから、みんなで荷物をかついで、ふらふらしながら辿りついたものじゃッた。

夜、野営の仕度をして、八時頃夕飯食べた。

獣よけに火をたいたが、火番の不寝番は、いつも西村市助御大がした。良い親分だった。』

『斉藤支配人は、畠田副支配人、亀山文治郎技師と市街地を選定してペローバ区に仮事務所を建てた。斉藤支配人は、カマラーダとトランプをしたり温和な親しみ易い人だった。二代目、臼井支配人は、支配人としては切れたが、部下がなかった。暴動事件で狙われて逃げ廻ったり運がなかった。畠田支配人と感情的にまずくなって、両成敗、支配人はクリチーバに畠田さんは、本部転勤となった。三代目、榛葉さんは運がよかった。土地はどんどん売れるし、人の使い方もうまかった。小倉　清副支配人に仕事やらして、デンとしていた。戦後の勝ち組、負け組の時も認識派で、勝ち組の脅しに少しも動じなかった。腹がすわっていたよ』

アサイ辞典

開発一九二八年十一月四日、海外移住組合連合会は、移住地建設を目的にトレス・バラス移住地一二・五〇〇アルケールを購入、内地で分譲したが不振、渡伯した同連合会の宮坂国人専務は、目的の直来制度を在伯邦人に分譲、開植制度に改革。

独立海外移住地〝ブラジル柘植組合トレス・バラス移住地〟「ブラ拓」経営とした。

入植一九三二年五月一日、第一回購入者入植。

一九三六年二月十一日、接続地六・一〇〇アルケール購入、計一八・六〇〇アルケール。

行政区一九三八年十月二十日施行

都　政一九四四年一月一日郡政施行

面　積　四七四平方ｋｍ市街地　二・五平方ｋｍ

気　候　南部三州は一年の四分ノ三は、日本のの秋の気候、夏は十二月、一月、二月の三カ月だけ、常秋の気候、気温、平均２５度（アサイ）雨量（アサイ）年平均一・五〇〇ｍｍ

標　高　五五〇～七二〇ｍ

人　口　アサイ郡人口（国勢調査）

一九八〇年　一九七〇年

市街地一〇・一七〇　八・六二五

農　村一一・八三〇　二〇・五七九

計　二二・〇〇〇　二九二一〇四

有権者一一・七〇八　うち、男　七・一八三

女　四・五二五

日系人口一九八一年十二月調一九五七年調

市街地
世帯数　三八六　四四四
人　口　一・九〇六　三・三三二
農　村
世帯数　四九五　↓　八五八
人　口　三・三四〇　七・九九六
計
世帯数　八八一　一・三〇二　人　口　五・二四六
一一・三二八
年齢別人口は
一九六〇年代生れ　一・〇九〇
一九五〇年　〃　一・〇五六
一九四〇年　〃　七一三
一九七〇年　〃　六〇一
一九三〇年　〃　五七七
以下別表のように
時代は、一九六〇年代をトップに一九五〇年代生れとなった。
男女別人口は
男　二・六二〇
女　二・六二六
計　五・二四六　仲良く半々
学童人口
年度　市街地　農村
一九五八年　二・四七五・一一〇
一九七〇年　五・〇一九　一・三二二
一九八〇年　四・八八二　一・六八九
＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

地主一・二七〇人　全盛時代（５０～６０年代）は、地主数、目伯約半々、所有面積は日系が二倍を占めていた。一九七〇年の国勢調査では日系人口二・〇〇〇家族（推定）現在、八八一世帯に減少した。

重なる霜害にパラナ農業は、コーヒー栽培から大豆、小麦栽培、機械化農に転向した、め、失業者は離農、都市に集中、又は新開地マットグロッソ、ロンドニア両州に一大移動した

教　育

小学校　市街　伯語校　５

日語校　２

農村　日語校　１０

中学校　市街　伯語校　５

英語　音楽学校　２

農産物

主要生産物（７９～８０年ブラジル地理学院調）

種別　植付面積ＨＡ単拉トン日系生産比率（推定）

綿　花　二四、二〇〇　四五、八五〇　八〇％

籾　四二五　八〇〇　八〇％

玉蜀黍　四・〇〇〇　一四、四〇〇　七〇％

大　豆　一〇、〇〇〇　一四、四〇〇　九〇％

小　麦　八、〇〇〇　一〇、〇八〇　九〇％

フエイジョン豆　一、一〇〇　八三〇　七〇％

コーヒー（皮付二、三〇〇　三、三〇〇　　八〇％
イタリア葡萄　一四八　一、七〇〇　一〇〇％

歴代アサイ文化連合会会長
初代・舘脇　利一　一九三八～四二年（５期）
　　一九四三～四八年、第二次大戦で空白
酒井三佐雄一九四九年
舘脇　利一一九五〇～五五年（５期）
頼則　照雄一九五六～六二年（７期）
小林一郎一九六三～六五年（３期）
頼則　照雄一九六六～七二年（７期）
一九六八年二月　連日会解散、アサイ文化連合会創立　（連日会、青年連盟合同）
理事長　谷口　篤一九六八～六九年
評議員長　頼則照雄
理事長　青木孝雄一九七〇～七七年（８期）
評議員長　頼則照雄
理事長　小田島秀雄一九七八～八〇年
評議員長　小林一郎一九七三～八〇（８期）
理事長　森本Ｆジョン一九八一～
評議員長　原　勉一九八一～
恒例行事
　農産品評会、盆踊り、手芸大会、青年、　準青年、少年野球大会、陸上、卓球　柔道、フットボール、室内競技大会、歌謡、唱歌、お話大会、児童作品展

◎自由業　伯人　日系
医　者　十二　六
弁護士　一七　七
歯科医　七　六
建築技師　三　二
農業技師　一九　一三
判　事　一

田口ルイス光義一九七七～七九
斉藤セルソ　一九七九～現在

市　長（日系初、第14代　野々村義博）　一
市　議　一二　五
〃　（アモレイラ）　三
市会議長　一

◎商工業　その他
銀　行　五
連邦貯蓄銀行　一
工　業　三一
病　院　二
薬　局　五
協　会　一〇
組　合　三
寺　七
分析所　三
ガソリン給油所　六
商　業　七一〇　四九七
戸　数　二・三六七軒

各区性別人口

	男	女	計
ペローバ	56	59	115
バルサモ	164	163	327
フイゲイラ	139	144	283
パルミッタール	184	188	372
グルカイア	36	37	73
セボロン	56	57	113
ロゼイラ	118	109	227
サルチンニョ	2	5	7
カビウーナ	252	236	488
ジャンガーダ	56	38	94
アモレイラ	110	120	230
サンジョン	63	66	129
パイネイラ	142	125	267
セードロ	78	69	147
ポルテーラ	31	24	55
サンタセシリア	125	119	244
中央区	86	83	169
市街地	922	984	1906
	2620	2626	5246

アサイ出身　軍人
政治家、教授、判事

小倉　至道　　パラナ総大工学部教授
熊谷　和子　　アサイ師範校長
阿部　敬二　　軍警少佐
串間　秋夫　　少佐（故）
田中　寅松　　判事
水田ニルソン　　〃
猿橋ルイス　　〃
斉藤セルソ　　〃
田口ルイス　　〃
救仁郷靖憲　　元連議
上野アントニオ　連議
野々村義博　　市長

降霜

一九三四年　七月
一九四二年　六月二十日低地結氷
一九五三年　五月五日、七月五日　結氷
一九五五年　七月　結氷
一九五九年　六月六日
一九六三年　八月六日
一九六七年　六月九日
一九六八年　五月一七日
一九六八年　七月六、九日
一九七二年　七月九日

一九七五年　七月一七日　南パ雪
一九七九年　五月二九日、三十日
一九八一年　七月一九、二十日、南パ雪

各区沿革
△市街地
　開発一九三二年
面積　二・五平方ｋｍ
家族　三八六
人口　一九六
△中央区
開発　一九三二年
位置　市街地の周囲
家族　三三
人口　一六九
△ペローバ区
開発　一九三二年
面積　六三六アルケール
位置　市の西
家族　一六
人口　一一五
△バルサモ区
開発　一九三三年
面積　一・二六四アルケール
位置　町の東南
家族　五二
人口　三二七

△パルミソタール区
開発　一九三四年
面積　一・三〇〇アルケール
位置　町の東北
家族　五九
人口　三七二
△フイゲーラ区
開発一九三五年
面積一・二〇〇アルケール
位置　町から南８ｋｍ
家族　三八
人口　二八三
△グルカイア区
開発一九三五年
面積一・〇〇〇アルケール
位置　町から西南
家族　三〇
人口　七三
△セボロン区
開発一九三五年
面積一・三〇アルケール
位置　町から西南１８ｋｍ
家族　二一
人口　一一三
△ロゼイラ区
開発一九三六年
面積　七三〇アルケール

位置　町から北
家族　三二
人口　二二七
△カビウーナ区
開発　一九三七年
面積　一一〇〇アルケール
位置　町から東１０ｋｍ
標高　五五〇ｍ以上
家族　六三
人口　四八八
△ジャンガーダ区
開発　一九三七年
面積　四五八アルケール
位置　町から東北３ｋｍ
家族　一二
人口　九四
△アモレイラ区
開発　一九三七年
面積　一・二一〇〇アルケール
位置　町から東南８ｋｍ
家族　三九
人口　二三〇

△サンジョン区
開発　一九三九年
面積　一・四〇〇〇アルケール
位置　町から北１０ｋｍ

家族　一九
人口　一二九
△タンポリ区
開発　一九四〇年
位置　町から東北１５ｋｍ
パルミッタール区に合併
△パイネーラ区
開発　一九四〇年
面積　一・〇〇〇アルケール
位置　町から東南
標高　五八〇ｍ
家族　三四
人口　二六七
△セードロ区
開発　一九四〇年
面積　八〇〇アルケール
位置　町から北東
標高　七〇〇ｍ以上
家族　二二
人口　一四七
△サンタセシリア郡
開発　一九四八年
面積　七・四〇〇アルケール
位置　町から東南
標高　七五〇ｍ
家族　三五
人口　二四四

△ポルテーラ区
開発　一九四八年
位置　区の東北
家族　九
人口　五五
△パウダーリヨ
開発　一九三五年
位置　町から西南２５ｋｍ

アサイ市内日系業種
業別戸数
（８１年調）

医　師	６	農薬肥料店	３
歯科医	５	鉄工所	２
技　師	２	雑貨商	６
農業技師	２	貴金属時計店	２
弁護士	３	ホテル	２
判　事	１	時計修理工	１
会計士	６	美容院	２
銀行員	１０	運搬業	４
教　員	３	洋裁師	１
公務員	５	理髪店	１
開教師	４	新　聞	１
測量技師	１	写真店	３
視学官	１	バール	８
会社員	９	金物店	１

薬　局	3	塗料店	1
精米所	4	大工	4
工　業	1	バザール	2
自動車修理工場	5	セールスマン	3
書籍店	1	アナウンサー	1
家具店	2	食　堂	3
電気器具商	2	周旋業	3
呉服店	1	店　員	5
給油所	2	洗濯業	1
葬儀店	1		
タクシー	6		
代理店	1		
タイヤ修繕店	1		
柔道教師	1		
商　業	57		
農　業	64		
製麺工場	1		
従業員	24		
電気工	5		
自動車部品店	1		
無　職	56		
未　詳	24		
計	381		

移住地五十年の歩み

夜明け前

一九一四年〜一九三一年

一九一四年（第一次世界大戦がおこり、日本参戦、パラナ運河開通）アントニオ・バルボーザ耕主（モジアナ線リベロン・プレット周辺の大耕主）は、州境を流れるパラナバ　ネマ河を渡って北パラナを視察、その沃土に驚いた。早速、耕地を売り払って移住、州政府より官有林をアルケール２０ミルレースで払い下げて開拓にかかった。

一九二〇年（国際連盟創立）には、サンパウロ―パラナ鉄道会社を創設、一九二四年にオウリンニョスーカンバラ間を開通。

一九二四年　ロード・ロバート卿（英国の財閥・がブラジル棉花栽培会社を設立、翌二五年北パラナに四〇〇アルケール購入、棉花栽培に着手した。

一九二五年（日本でラジオ放送開始）にはコンゴニア河畔一帯三万アルケールの官有林をアルケール３０ミルレースで払い下げ、眠れる宝庫の扉を開いた。この頃になってやっと日本の資本家の間に常夏の大陸ブラジルに目を注ぎ始めた。

△年明けた二六年、南米土地会社（山科礼蔵社長）が、コンゴニア河一帯一万アルケ
ーレスの土地を二千コントスで買収した。

一九二六年　パラナ植産会社を創立、ピラボ河　川イバイ河一帯三六万アルケーレスを買収して）北パラナ土地会社と改称、二七～二八年にその隣接地一四万アルケーレスを買収して五十余万ア五ケーレスの開発事業にかかった。同会社は鉄道会社に出資して実権を握り、州政府と鉄道延長敷設協定を結んだ。

一九二六年　南米実業視察団(団長　山科礼蔵　東京会議所会頭)が北パを視察、コンゴニァ河畔一万アルケーレスを二千コントスで買収、同年野村農場が六五〇アルケーレ　ス、二八年　七五〇アルケーレス、計一四〇〇アルケーレスを購入。

一九二七年（東京に地下鉄が開通）八月、海外移住組合連合会（田付七太理事長、梅谷光貞専務理事、元長野県知事）が創立した。

十二月十日梅谷専務は、移住地購入のため来伯した。

梅谷専務は、輪湖俊午郎（信濃海外協会理事）を企画に参加させ、杉山英雄公証翻訳人を法律顧問に、畑中仙次郎サンパウロ総領事館嘱託と古関徳弥測量技師（同仁会に土地を踏査させ、武石潜蔵を書記として四年間滞伯、七万二千ｋｍを踏査して、バストス　一・二〇〇〇、アリアンサ隣接地　一・三二七、チエテ　四・七〇〇、計約六万７ルーレスを買収した。

一九二八年（第９回アムステルダム・オリンピック大会、織田幹雄三段、鶴田義行二〇〇米平泳に初の日章旗を掲げた）

△五月

梅谷専務は古関、畑中に北パラナ踏査を命じ、武石秘書が土地買収商談を進めた。十一月十四日、テーラ・ロッシァ・パラナ有限会社より、二一・〇〇〇アルケーレス　（一アルケール、二八〇ミルレース）を購入、売買契約を結んだ。

一九二九年　後宮農場（後宮武雄氏）が開拓に　か、つた。北パラナの黎明である。

△四月　移住組合連合会の代行機関、有限責任、ブラジル柘植組合（宮坂国人社長）が創立した。

一九三二年（日本で五・一五事件勃発）二月、向う三ヵ年カフェー植付禁止令が発令されたが、パラナ州は同法令適用を免がれたこれが北パラナ移動へ拍車を加えた。同年初めの邦人家族数は、カンバラ　二五〇、バンディランテス　九五、コルネリオ・プロコピオ　三五、アンジラ　五〇、コンゴニア　一五、ロンドリーナ八三、セーラグランデ　七〇、計　六〇〇家族となった。

開拓の息吹き

一九三二年～一九四一年

四月三日　富田政吉、亀山文治郎技師が移住地測量にかかった。斉藤幸初代移住地支配　人と島田俊三会計は、一四日、コ・プロコピオ駅に到着（三一年末同駅まで開通）山口商店（山口　栄）に輸送連絡を依頼して翌一五日、貨物列車でジャタイ駅に到着した。

町で徳重盛国（鹿児島県人）が雑貨商を開いていた。片岡が街道工事を西村組（西村市　助の下に勝田卯太郎、阿部幸六、永井純三、義家友之助、西村末吉等）が山伐りを請負い、五月一日、最初の斧を入れた。この日を斉藤支配人は入植記念日とし、土地名トレス・バラスをそのま、〝トレス・バラス移住地〟と命名した。海外移住組合連合会専務理事宮坂国人が渡伯、日本での分譲不振から経営方針を根本的に改革、規定の直来者制度を廃して、在伯邦人にも入植開植させる独立海外移住地とした。〝ブラジル柘植組　合トレス・バラス移住地通称〟ブラ拓〟経営により、愛土永

住〃を目的に開発諸施設（交通）、産業教育、学校、衛生、病院など、安住の郷土建設を発表、土地分譲にかかった。この日（五月一日）　視察者第一号　辻本正行、岩田雪登、船田六一、守屋庄左工門（以上　野村農場から）池田友忠（リンス）の六人が馬車で乗りこんだ。ついで、赤木平十、山内、会田巌が視察にきた。仮事務所に湯浅信助が赴任、運転手池田源吾と入植者が増した。

△七月十二日　政情不穏が伝えられていた政界に突如武力政変が起った。この護憲革命　で、パラナ鉄道は連邦軍に占領されて、パラナーサンパウロ州の交通は杜絶した。運搬車が徴発され、移住地は食糧危機に陥った。西村市助、池田源吾は危機を犯してコルネリオ町の山口栄に連絡をとり、一二〇ｋｍ離れたバンディランデスから牛車五台で一週間かかって無事食糧を運びこんだ。

九月二七日、斉藤支配人はブラ拓本部に連絡のため、島田会計、山口栄、北川貞と出発、パラナパネマ河を丸木舟で渡って戦線脱出に成功、十月四日、七ヵ月ぶりに　サンパウロ市に着いた。

この革命の真只中、池田友忠、船田六一、岩田雪萱、守屋庄左工門の三人がコルネリ　オから馬車で中央区に入植、石川　藤（十月五日）辻本正行（十二月）ペローバ区に入植した。市街地に高橋豊治、筒井徳治郎、池辺　清、三宅　武家族らが転住、丸野組（丸野勇氏）が伯人大工数名をつれて家屋建築請負を始めた。山口栄が支店を開設、丹治左門、伊藤昭男、柿田国義店員が移ってきた。十一月一六日、チエテ移住地支配人に栄転した斉藤支配人の後任に臼井介仁氏が二代目支配人として赴任してきた。臼井支配人は『馬の背型に建てられた市街地は発展の可能性がない』と移転をブラ拓本部に上申したが、予算の関係で採り上げなかった。支配人は、市街地をアサヒ（旭）と命名、後、アサイ（椰子樹の一種にもじって）と改称した。

◎分譲価

一等地　六〇〇ミル
二　〃　五五〇ヶ
三　〃　五〇〇ク
四　〃　四〇〇ヶ

申込みと同時に五分の一入金、五年賦、全額即時払い１５％引

シャカラ

一等地　一・〇〇〇ミル
二等地　八〇〇ミル
三等地　六〇〇ミル

二年賦、全額即時払い１０％引

市街地

一等一・二〇〇ミル　五等　六〇〇ミル
二等一・〇〇〇〃　六等　四〇〇ミル
三等　八〇〇ヶ　七等　三〇〇〃
四等　七〇〇〃

四年賦、全額即時払い２５％引

ブラ拓では、市街地発展促進のため、開業者には、宅地無償提供した。横山肉店、三宅ホテル、中村鍛冶屋、阿部理髪店などその恩恵に浴して開店した。また、煉瓦、板壁、瓦葺家屋（２４平方ｍ）建築に対しては、落成次年度の年賦免除の特典を与えて進出誘致に努めた。一方、土地分譲宣伝にかかり各線に土地代理人を委嘱した。

ノロエステ線　宮坂　実郎
ソロカバナ線　小早川治人
モジアナ線　島崎　岩吉
アララクワラ線　萱森弥之次

ドラデンセ線　　樋口　益雄

一九三三年(日本国際連盟を脱退、第１０回ロスオリンピックで、水泳日本が世界征覇した)

四月、ペローバ事務所は市街地に移転した在住者は、臼井介仁(広島、支配人)島田俊三(大阪、係員)湯浅信助(兵庫、)亀山文治郎(山形、技師)＝以上ブラ拓＝池田源吾(佐賀、運転手)丸野　勇(鹿児島)伊藤昭男(愛媛、店員)柿田国義(鹿児島、店員)石川　藤(埼玉、農業)辻本正行(広島、農業)船田六一(広島、農業)岩田雪登(広島、農業)守屋庄工衛門(宮城、農業)池田友忠(岡山、農業)筒井徳治郎(岡山、農業)高橋豊治(福島、山伐人夫)小橋高志(岡山、人夫)佐藤房太(長野、人夫)三宅武(岡山、ベンソン)丹治左門(福島、店員)西村市助(西村組請負)勝田卯太郎(福岡、人夫)永井純三(人夫)阿部幸六(福島、人夫のち理髪屋)おくれて森下　孝(長野一中曽根　進(群馬)ブラ拓医員二家族と池辺　清(農業)が入植した。富田政吉(ブラ拓)は帰聖した。

△ブラジル拓植組合トレス・バラス移住地事務所の土地分譲帳簿上、第一号購入者は、　赤木平十、池田豊三郎、森本平太郎となっている。三人は予約購入した翌３３年入植した。この年、会田巌、舘脇利一、門間定雄がペローバ区に柴山幸治(バルサモ)市街地に朝日勇が煉瓦工場建築にかかり、赤木平十、池田豊三郎、森本平太郎、宇都宮百太郎、中瀬浅次郎、村田藤蔵、鴨川千代吉、森下信ほか５家族(中央区)が入植した。

△亀山文治郎夫人が現(故)勝田卯太郎宅で日語家庭教育を始めた。

△三月一日　中央区日語校の落成と共に辻本正行が就任、次いで森川義規と同人が教壇　に立った。
市街地在住者　三七家族

日本人会創立
会　長　　赤木　平十
副会長　　森川　義規　　菊地　賢二
監　事　　若宮　　昇　　高橋　　未
書　記　　山本　武治
衛　生　　筒井徳治郎
トレス・バラス農会
一九一三四年創立　　会長　赤木平十、　副会長　館脇利一、入植家族　三七家族。
入植者は、生産、販売の研究調査を痛感して農会を創立、最適作物の研究試作営農に没頭した。
△種々苦心、棉試作の結果、エスプレッソ種
　９月蒔きによりアルケール三六〇アローバの収穫を上げ、愁眉を開いた。雨期ミンゲナンニョ種（フェイジョン）が最適とわかり、棉と共にアサイの特産となる。
△中央区日本人会創立
会長　西村　市助
会計　横山　盛二
学務　宇都宮百太郎

　産業組合創立
△五月一三日　理事長　臼井介仁、専務
　島田俊三が当選したが、自治を強調する移住地事務所側の辞退

により改選、理事長　舘脇利一、専務　辻本正行、理事　赤木平十、宇都宮百太郎、西村市助、監事　横山盛二、池田友忠、村田藤蔵が当選した。

一株　百ミルレース、半額即時払い、組合員二三、株数　六三口、ただちに精米所建設にかかった。中央小学校起工、医局薬局開設。

一九四〇年八月　中央区日会は地理的関係から中央区と市街地に分かれた。

△七月　降霜。

△十月　内山岩太郎総領事が宮坂国人専務の案内で移住地訪問。

△十一月　ブラ拓事務所、病院、産業施設物と電話架設。

△臼井支配人夫妻の奔走でサクラード・コンセンソラソン・デ・ゼズース小聖堂建立。

△初年度の農産事情は不良品、安値、貨高で一家族の農収は、二コントスに達しなかった。入植者の中には、サンパウロ州へ移転する者もあった。この年の入植者は、数間　安五郎、本庄賢一、山上定夫、四本光夫、清水雪登、丸山徳太郎、今井儀一、秋吉実　蔵（ペローバ区）滝浪忠作、同実善、同茂　奥野敏生、長谷芳松、上平友治、森山三次　石川　勉、菅原豊次、和田　寛、盛川政義、坂本　貢、山口庄次郎兄弟、星加和久、山口熊吉、安竹弥三郎（バルサモ）　野崎茂一、野崎茂樹、小見　寛、小見森衛、田甫　強、前岡正男、前岡新平、広沢一人、井戸開治、木葉　勤、木村又記、松下義光（フィ　ゲーラ）山岡純一、山岡環、山岡誉、山岡侃、幕田福夫、盛川弘（パルミッタール）市街地に山室滋治、須永嘉蔵、坪井辰蔵、坂本薫、谷田才次郎、中央区に笹沢新、難波梅　太郎、山田安一、鎌川善蔵、長田宣夫、滝川秀雄、末永清吉、山田満治、増田仁作、東　条健三、田口明男、沢田文輔、板

垣俊夫が入植した。

一九三五年

△この年、第一回農産品評会（農会主催）が開催された。

出品点数　二一七

△九月　クリチーバで綿花品評会が開かれ、　移住地から出品者１１人全部入賞した。

△ペローバ　（館脇悦子先生）バルサモ（浅見哲之助先生）小学校開校、中央、ペローバ、　バルサモ三校合わせて、学童９１、日語教師３、伯人教師１となったほか、教員住宅、医局（金野寅太医師）医師住宅、水道、アサイ第一第二、バルサモ、フィゲーラ収容所、今野煉瓦工場、今野製材所（今野　林三郎氏）が建られた。

入植者は古賀三郎（佐賀）金松栄吉（富山　宮沢一郎、藤田千代治（福島）中根兄弟、我妻忠雄、根本兄弟＝（グルカイア区）伊豆忠夫、小林一郎、宮坂実郎、福島実義　藤田秀雄ほか十一家族（フィゲーラ区）　今野林三郎、奥野末松、古荘貞記、浦谷　義太郎、松本多幸蔵、小山田　実、（市街　佐藤菊治、大森一郎、菊池　章、菊池　端　鳥賀陽忠純、本間　誠、門間基明、永洞　竜右工門、岡村重男、岡村兼芳、浦谷市五郎（ペローバ区）小岸金吾、小岸　右門七、西村達雄ほか七家族（パルミッタール）菊地三平、岡村喜和馬ほか４家族（中央区）加藤長松、土田円五郎、土田庄次郎、野村初太郎、伊部伊三郎、木村嬉市、後藤和夫、森　敏雄、加藤英二　ほか２７家族（バルサモ区）岡村喜和馬ほか４家族（中央区）加藤長広　土田円五郎、土田庄次郎、野村初太郎、伊部三郎、木村嬉市、後藤和夫、森　敏雄、加藤英二ほか２７家族

（バルサモ区）

△市街地に移転してきた中易定一、西村　茂は、ブラ拓の宅地無償提供で家を建て、反　物屋、西村は仕立屋を開業、ブラ拓に草間　宏、山崎安志、野本　進が赴任してきた。

開植３年間の生産と入植者数は次のとおり。

	三三年	三四年	三五年
入植家族数			一三六
棉（アローバ）	―	二、三七〇	一五・四一四
籾（俵）	五八四	四一〇	二九九三
ミーリョ（カロッサ）	五七	二八六	五九六
小麦（俵）			一〇七
フエイジョン（俵）	八二一	二七九六	一、二三九

一九三六年（日本で二・二六事件起こる）

△一月二八日　トレス・バラス日本人会創立

日本人会創立

会長　赤木平十、副会長　菊池賢治、森川義規、教育部長　西村達雄、外交　臼井ロベルト、農事　赤木平十、衛生　筒井徳治郎　監事　若宮　昇、高橋　末、会計　池田　友忠、滝浪忠作、書記　山本武治。

△臼井支配人は隣接地ハウエル兄弟所有地六一〇〇アルケーレスをアルケール当り二七　〇ミルレースで購入、二月二四日、地権を取得した。これにより一八・六〇〇アルケーレスとなった。分譲地代は、特等地一コントから四等地三五〇ミルレース。

△四月一三日　サンパウロ文教普及会トレス　バラス支部会が設置され、初代部会長に　西村市助が推された。
△五月　市街地にアサイ町会創立
　初代会長　中易定一が就任。
△五月二十日　臼井支配人の息子に端を発したカマラーダ暴動事件が起った。暴徒はブラ拓事務所、邦人商社を襲い被害を与えたが、臼井、島田の適切な処置により、主謀　者二人をジャタイ警察に拘留、市街地から追放して5日目、大事に到らず小事でくいとめた。
△産組に信用部開設、パラナ棉花会社別立
　社長　上野米蔵（カンバラ）副社長　館脇　利一が就任、経営一年で失敗、債権者ブラ　ス・マット会社に譲渡して解散した。
△六月一五日　川野武三郎、宮村繁人、井上　春雄、宮部　清、ロゼーラに入植、高見　岩男、土田唯行、パウダーリョ区に入植。
△パウダーリョ分譲事務所に電話架線。
△ブラ拓製材所設立、谷田才次郎主任となった。
△七月六日　梅谷光貞海外移住組合連合会初　代専務、東京で死去。
△第二市街地小学校、教員住宅、収容所完成
△パルミッタール区収容所、同小学校完成
△セボロン小学校、
教員住宅が完成。
一九三七年（日中戦争勃発）四月、学校協議会創立、アサイ中央小学校に上野克男文教普及会主事赴任。

青年連盟創立
　理事長　西村　市助　副　〃　菊池　端

△七月　高野鶴松、山口逸二（カビウーナ区　太田秀次郎、酒井政次、直砂吉治、佐藤　清助（アモレイラ）小川熊吉、岡村久次郎　宮　庄吉、石田太市、白田　正、高崎　忠　塚原十四雄、津田万二郎、布村三郎（ジャンガーダ区）荒堀一俊、清水鶴雄、清水　又一ほか七家族（ロゼーラ区）に入植した

△七月　日南産業ＫＫ創立（社長　平生釟三郎、常務　宮坂国人）海外移住組合連合会（平生釟三郎理事長）の代行機関であった〝ブラ拓〟は連合会の拓植事業のほか、日　南産業ＫＫの代行機関として、商事、銀行　鉱業、棉花、技術部と事業を拡大した。

◎年別入植家族数と開拓面積

年度	家族数	面積（アルケーレス）
一九三五年	二二六	八六九
一九三六年	二〇七	
一九三七年	三四三	二、二〇〇

この年、ジャンガーダ収容所、同教員住宅　ロゼーラ小学校、同収容所、中央小学校、教員住宅、郵便局、警察署が建設された。

連合日本人会創立

△八月二八日　トレス・バラス連合日本人会創立、出席者４０人、アサイ中央小学校で創　立総会を開催。

初代会長　舘脇　利一
副会長　中易　定一
経　理　島田　俊三
教　育　長尾　寿郎
外　交　菊池　章
衛　生　林　秀雄

△八月一五日　お盆の日、日支事変戦没者慰霊祭が行われた。

入植者内外人合わせて六〇〇家族
入植５周年記念祭を挙行
祭典委員長　西村市助
一九三八年（日本、国家総動員法発令）一月、欧州の風雲急を告げ、外国人取締りが強化　された。
△四月　市街地、電灯、水道施設完備、分水嶺上の町、アサイの夜空に電灯がともった　水道は水源地の水量不足で断水状態にあった。
△六日　日語校を閉鎖して巡回教授法採用、上野克男校長アラサツーバに転任、西村市助学校協議会長もどりアニット（ウライ）に移転して、中心人物を失ない、同協議会は解散した。

病院建設期成委員会結成
委員長　館脇利一、副委員長　中易定一
会計　池田友忠、書記　菊池　章、
委員　西村市助、赤木平十、加藤長広、
山岡純一、井戸開治、会田　巌、古賀三郎、宮村繁人、五月起工、十一月三日の明治節　に落成式を行った。院長　ドトール・バルダール
△八月六日　柔剣道連盟トレス・バラス支部創立支部長　島田俊三。
△今野製材所、コルネリオの伯人に売却。
△カビウーナ収容所、アモレーラ小学校落成
△今野カフェー精選工場、ブラ柘鉄工場、屠殺場建設。
△十月　行政区施行。
△南原春雄、市川菊三郎、飯田留次郎
島田与平、島田与佐吉ほか６家族入植（カビウーナ区）に入植。

一九三九年（第二次世界大戦勃発、双葉山６９連勝の偉業樹立）
△連合日本人全役員
会長　舘脇利一、副会長経理　畠田俊三、教育外交　菊池　章、衛生産業　井戸開治。
　中易定一中易定一林　秀雄
△農会、連日会に合流、産業部新設。
△農産品評会と立毛品評会開催。
△三月一八日　ブラ拓精棉工場落成、産組に賃貸契約（賃貸料１１コントス）した。
△五月　ブラ拓製粉工場竣工、今野精米工場再開。
△入植者六五六家族、三・五〇五人。　うち日系　九三〇人。
△司祭住宅と中央教会建立。
△九月　臼井支配人クリチーバ駐在ブラ拓本部代表に転任、島田会計、商銀バラガス支　店長に転出、榛葉彦乎支配人赴任
△ブラ拓施設のホテル、池田源吾氏に売却。
△市瀬仁七代理人、サン・ジョン区分譲開始　市瀬仁七、古川直次郎、久本一夫、永田正　三の四家族入植。
一九四〇年（日独伊三国軍事同盟締結）
△連合日本人全役員　副会長　中易定一　教育　滝浪忠作、池田友忠、外交
　会長　舘脇利一（三期（三期）経理　赤木平十、衛生　林　秀雄、産業　菊池　章。
△公の場所で枢軸国側の国語使用禁止、三人以上集会禁止令が発令された。
△一月　移住地自治支配人制となる。
△五月一日　南米銀行アサイ支店開設。

△田中光五郎、久保田藤太郎（パイネーラ区）　池田栄太郎、石原貞伊、岸野英夫、佐藤鉄治　宮崎貞一ほか三家族（セードロ入植、石川清司、石川　進、頼則　勇ほか三家族　（タンボリ区）入植。

△ブラ拓精珈工場完工。

△池田源吾アサイ＝ロンドリーナ間バス開業。

△　市街地中央区と分離して独立。

△十一月一九日　アサイ商工組合(合法団体)発足、　組合長　中易　定一専務　今野林三郎。

一九四一年（独ソ戦開戦、十二月八日太平洋戦始まる）

△一月　牛窪清四郎、移住地開植十年史編纂のためアサイに移転（舘脇利一、辻本正行産組理事の声がかり一連＝会、ブラ拓産組後援のもと調査始め。

△五月一日　クリチーバ日本帝国領事館開設、初代領事　小峯俊一氏赴任。

△第６回農産品評会開催、戦前最終の品評会となる。

連合日本人全役員

会長　舘脇利一　副会長　小本高一

会計　赤木平十　産業　井戸開治

外交　菊池　章　教育　小倉　清

△産組理事長　舘脇利一　辞す

◎年別移住地日系人口

市街地

年度	戸数	人口
一九三二年	一三	四八
三三〃	三七	六二
三四〃	四二	六七

三五〃	八二	五一六
三六〃	六	四〇
三七〃	二七	一二八
三八〃	二	一二
三九〃	一二	六九
四〇〃	二〇	八九
四一〃	一九	一一一
計	二六〇	一・一四二

農村

年度	戸数	人口
一九三二年	六	二〇
三三〃	二〇	一一二
三四〃	四五	二四〇
三五〃	六五	五一六
三六〃	六五	四二九
三七〃	一〇六	五九〇
三八〃	五七	一六1一
三九〃	二二	二〇四
四〇ク	三五三	一・八四五
四一年	二二七	七六五
計	八八〇	四・七七〇

全移住地

年度	戸数	人口
一一九三二年	一九	六八
三三〃	五九	一八三

三四〃	九五	三四六
三五〃	一九〇	一一四七
三六〃	一一一	六八四
三七〃	一五〇	八四九
二八〃	七一	二一二
三九〃	三八	二九四
四〇〃	六三九	三・五七三
四一〃	二四二	一三一〇
計	一・六一四	八・六六六

◎開植１０年、年度別開拓面積

（単位アルケール）

一九三二年	五二
三三〃	七六
三四〃	一九九
三五〃	五四〇
三六〃	六三五
三七〃	六一四
三八〃	三四一
三九〃	六九九
四〇〃	二・〇一〇
四一〃	三・〇一三
累計	八・一八三

郡立小学校

	教員数	学童教
ペローバ	一	一〇〇
アモレイラ	一	五〇
タンポリー	一	一〇〇
アモレイラ第二	一	一〇〇
カビウナ	休校	
合計	四	三五〇

◎州立小学校

アサイ・グルーポ	九	三〇〇
バルサモ	一	一六〇
フィゲーラ	三	一六〇
パルミッタール	一	一四〇
セボロン	一	一〇〇
ロゼーラ	一	一〇〇
ジャンガーダ	一	一〇〇
パウダーリョ	休校	
合計	一七	一・〇六〇
累計	二一	一・四一〇

大戦空白時代

一九四二年〜一九四五年

一九四二年（伯国対日外交断絶、枢軸国の資産凍結）

△連合日本人会

会長　館脇利一　副会長　小本高一

役員　赤木平十、井戸開治、林　秀雄、菊池　章、仁平広志、

伊藤重吉、服部助丸、石川清司、吉田仲太郎、西村達雄、熊谷清、小倉　清。

△一月二八日　ブラジル政府対日外交断絶

△二月四日　セボロン区の小泉徳雄（２５才）フィゲーラ区で時局に便乗した悪質労働者群に襲われ殴打されて死亡。

△二月　太平洋戦　枢軸国側取締令により邦字出版が禁じられたため移住地開植十年史編纂（牛窪清四郎）中止。

△三月一六日　池田源吾経営のアサイ、ロンドリーナ間バスが接収された。

◎開植１０年、年度別開拓面積

（単位アルケール）

一九三二年	五二
三三〃	七六
三四〃	一九九
三五〃	五四〇
三六〃	六三五
三七〃	六一四
三八〃	三四一
三九〃	六九九
四〇〃	二・〇一〇
四一〃	三・〇一三
累計	八・一八三

△三月二〇日　枢軸国人の財産申告が行われた。

△四月二八日　アルマンド・ギマランエス・クラーボ連邦政府監

督官、トレス・バラス　産組に赴任。
△七一一日　自家用車使用禁止された。

一九四三年（イタリア降服。南洋で日本海軍敗退。山本連合艦隊司令長官戦死）
△三月一八日　入江一、福永結実らがカロッサでセードロに行く途中、伯人少年にピストルの乱射をうけて一人死亡。
△十二月　ペローバ区の清水雪登宅に現われた伯人、ならず者二人を清水兄弟が縛り上　げて警察に突き出した処一人が署長の息子であったため激昂した署長は兄弟に拷問を加えた。池田源吾は兄弟救出のため夜、厳重警戒網を潜ってロンドリーナ警察に急報、早朝同署長の命令で釈放、九死に一生を得た。
△十二月八日をアサイ郡祭日に制定。

一九四四年（東条英機内閣総辞職、ドイツに、ロケット出現）
△税務署に昇格。
△三月　薄荷は、爆薬に使用される、敵国を利する産物生産は国賊行為であると、薄荷　蒸溜釜焼き打ち事件がおこった。
△四月二九日　黒木　栄氏、グワラナ工場落成祝賀宴が行われ、出席者　菊地新悦、　小倉　清、小沢勇夫、午窪清四郎、伊藤栄、岡本、榛葉ジョゼ、小林勇治、黒木　栄の　９人拘留された。
△奥野正一、安江浦次郎の所有地、６０アルケール　（タンボリー区）突如、州警兵により時間付強制立退きを命じられて没収された。その土地は、第三者に売却されて、いまだ返戻されていない。
△五月一日　ラジオ盗聴の件で池田源吾収監され、間もなくクリチーバ刑務所工護送された。
△六月二二日　ロンドリーナ拘置所に収監された９人、クリチー

バ刑務所に護送された
△西尾　茂（戦況ニュース配布の件）、河野　正夫、河野　静、薄荷生産阻止ビラ配布の件で、クリチーバ刑務所に収監。
△十二月一五日　産組棉マキナから出火、ブラ拓精米所を類焼、棉二四〇〇フアルド焼　失、精米所損害　五〇コントス。
一九四五年（八月六日、広島に原爆投下、一五日終戦）
△二月二六日　郡制施行。
△不動産登記所開設。
△三月　公証役場開設、司法区設定。
△三月　大戦のさ中、相撲愛好家によって、相撲大会が開かれた。
△五月　政府は、正式書類のない各区基本財産（ブラ拓が無償提供した学校基本財産地　の処分案を発表した。同指令に対し、ブラ拓の指図とおりに履行した区、パルミッタール、セントラル、グルカイア、セボロンロゼーラの５区とペローバ、セードロ、パイネーラ、フイゲーラ区の４区の基本財産は処分から免がれた。ブラ拓の指図に従わず、対策を講じなかったために処分された区もあった。
△六月六日　ブラジル対日宣戦布告。
△八目七日　広島に原子爆弾投下。
△八目九日　長崎に原子爆弾投下。
△八月十日　日本ポツダム宣言受諾。
△八目一四日　終戦の玉音放送、大東亜戦終結。

戦没軍人一五五万五千三〇八人　一般国民　二九万九千四八五〃
負傷者　二・六七〇万人
焼けた家　二六〇万戸

△八月一五日　大戦終了（一九四五年）により再び平和が戻ってきた。沈黙していた邦人社会は春の訪れに芽を吹きだした。
△国旗掲揚法違反で、役員五人収監さる（セボロン区）
△重岡　清、伯人に狙撃されて負傷を負う。
△サン・ジョン区球場開きに全伯日系コロニア最初？の日の丸の旗ひるがえる。
△シネ・サンルイス開業（岡野光男）
△日本の敗戦を、神州不滅の信念から認めることを不敬とする信念派は、敗戦を認める　者を、非国民として〝天誅〟を加える不祥事件を起こした。いわゆる勝ち組、負け組の葛藤によりコロニア史に汚点を残した。
　テロ　４１件、死亡　１６、重傷　１１、特攻側も死亡１、重傷１をだした。
九四六年（天皇人間宣言、極東軍事裁判開廷）
△連邦税務署開設
△臣連幹部５０余名、アンシエッタ島（監獄）に収監された。
△日本移民禁止法案９９対９９の同数となったがメロ・ビアンナ議長の一票で否決された。
△十二月ロゼイラ区開植１０周年記念祭挙行

全盛時代

一九四七―一九五七
九四七年（日本、６３３４年制教育法に改正修身公民地歴を廃止して社会科を新設、男　女共学、農地改革を断行）湯川秀樹＝ノーベル賞。
△二月　戦後アサイ日本入会復活
　顧問　長谷　芳松

会長　谷田才次郎
副〃　菊地　新悦
会計　和田　清助
書記　森　　敬二
外交　佐藤　正信
連絡　石川　　勉

評議員　中村純一、高橋豊治、徳重盛国、山田一介、内田　浩、組長　横尾良治、中村純一、川端信一、佐藤良一、粟窪定蔵、梶原弥一郎、和田清助、田村永治、佐藤喜一、藤戸　勇、菊地常蔵、有働文一、古城　時太郎、小林勇治、

△二月九日　フィゲーラ区戦勝信念派１９家族　区会脱会、双葉会創立、双葉日語校創設。

△セボロン青年団、Ｔ・Ｂ青年連盟から脱退　全伯青年連盟（戦勝派組）に加入。

△戦勝、戦敗の思想蔦藤で分裂していたジャンガーダ区会合併、復旧。

△戦後の思想対立でロゼーラ区も二派に分裂
　２２家族脱会、荒堀一俊、高橋角次、岡村正、江国情節、佐藤清介、加藤富弥ら敗戦認識派、親睦会を創立。一九五四年復旧合同

△植田兄弟、アサイ・シネマ館開館。

△二月一九日　カビウーナ区入植１０周年記念相撲及び演芸大会挙行。

△酒井忠美ほか４家族、ポルテーラに入植

△七月　現教会、仮教会堂建立。

△八月　母国救援会アサイ支部結成

委員長　榛葉彦平、委員　菊池　章、今野　林三郎、会員５７人、一九四九年九月末、第７回募金、累計　二六六・七三一クルゼイロ（寄付者二二五名）の義捐金をサンパウロ支部に送った。この額、サンパウロ、アラサツーバ、リンスに次ぐ第４位の成績

△ジャンガーダ区入植１０周年記念祭

△九月　トレス・バラス児童愛護会創立　会長　江口重親

△九月三日　児童愛護会解散

△九月一八日　トレス・バラス教員会創立　会長　薮谷定治、会計　後藤清喜、書記　松野尾泰行。

△十月　トレス・バラス区長会創立

会長　酒井三佐雄、副会長　勝田卯太郎

学務　中島春雄、会計　頼則照雄、外交、河合敏之、理事　各区々長

５０年七月、同会解散。

△久谷アントニオ、初代日系郡全議員に当選一九四八年（富士山のトビウオ・古橋が次々と世界記録を更新）

△仏閣建立委員会結成、委員長　勝田卯太郎

△サンタ・セシリア開植　十一月　アモレイラ区入植１０周年記念祭一九四九年二月八日　照真寺地鎮祭挙行一九五〇年　アサイ日本人会創立（戦勝信念派

顧　問　長谷　芳松

会　長　谷田才次郎

副会長　菊地　新悦

△一月二〇日　トレス・バラス　区長会

会長　館脇利一、副会長　菊地善右工門

会計、書記　勝田卯太郎、学務　中島春雄

産業　星野重兵衛、衛生　川瀬正三　外交　河合敏之

△第一回盆踊り一九五一年(マッカーサー解任されて日本を去った。日米安保条約を結ぶ。テレビ放送はじまる)

△一月一七日　区長会解散してトレス・バラス連合日本人会と改称、創立総会開催。

初代会長　舘脇利一、副会長　頼則照雄

会計　勝田卯太郎、学務　中島春雄、産業　筒井徳治郎、衛生　川瀬正三、外交　河井　敏之。

△昨年度勝ち組によるアサイ日本人会が結成されたが、一年後の二月一八日認識派によ　る日本人会アサイ市会(合法団体)が創立した。

会長　今野林三郎、副会長　菊池　章、

総務理事　本庄賢一、会計理事　尾形　弘　学務　西尾　茂、

社会　柳沢嘉輝、厚生　川瀬正三

△六月　民事、商事公証役場開設。

△七月　アサイ文化協会創立

会長　上野アントニオ

△七月二二日　郡長都会議員選挙で、柳沢

嘉輝一九二票、久谷アントニオ　一二七　平山　量　一二五、榛葉ジョルジ　当選、　議席日中日系４を占めた。

△全伯青年連盟各支部割当金問題からセボロン区青年団員２９人うち１４人脱会、日語校休校、通信授業を始めた。

△十一月一四日　アモレイラ都制施行、アモレイラ、カビウーナ、セートロ、バルサモ　の一部が同郡に編入された。

△トレス・バラス産組は経営難、出火、公金　利用、仮空伝票など乱脈をきわめて差押さ　え寸前に追いこまれた。起死回生のため、理事９人のうち７人が手形に保証して急場　を救ったが、ついに耐え得ず裏書きした理事７人は致命的莫大な打撃を受け、犠

牲者となった。産組諸施設は債権者の手に渡り、組合は消えた。
　歴史に特筆される犠牲者の名は
藤田千代治、西村達雄、中島春雄、奥野正一、福島実義、小笠原竹雄、中村孝治。
一九五二年（日本破防法成立、吉田内閣）
△連合日本入会
会長　舘脇利一、副会長　頼則照雄
会計書記　勝田卯太郎、外交　今野林三郎　産業　館脇又次郎、衛生　川瀬正三　学務　中島春雄。野村正善、産業　館脇又次郎、筒井徳治郎、外交　今野林三郎、柳沢嘉輝、川瀬正三。
△アサイ市会役員　会長　今野林三郎、
副会長　菊池　章、総務　田草川兵馬
会計　尾形　弘、学務　菊池　端、社会　柳沢嘉輝、厚生　川瀬正三。
△二月五日　フィゲーラ区双葉青年団、区青年団に復帰運動を起こした。
△八目二五日　加島兼信師　照真寺に着任。
△大谷光暢法王　智子裏方パラナ巡錫、随行員　稲葉道意師、古川智徳師。
△九月八日　大谷暢慶師家族着任。Ｊ
一九五二年　郡戸数
市街地　四・五〇〇
農　村　一・五〇〇
えち日系　一・五八三
　―サンタ・セシリアを含む
一九五二年（ＮＨＫＴＶ放映開始、吉田首相議会で　〃バカヤロウ〃　と暴言）

△一月九日　蓮沼門三、日本修養団主幹来旭
△連合日本大会（一月二三日）
会長　舘脇利一、副　頼則照雄、会計　勝出卯太郎、学務　中島春雄、副　野村正義、外交　柳沢ルイス、副　久谷アント二オ、産業　館脇又次郎、副　筒井徳治郎、衛生　川瀬正三
△アサイ商工組合復活
△アサイ市会役員　全員留任
△パラナ州百年祭日系コロニア委員会設定
委員長　舘脇利一、副　山崎安志、
山下源治、総務　岡崎伊志知、
庶務　久谷アント二オ、南沢寛治
会計　頼則照雄、熊谷　忠、柳沢ルイス
外交　金山喜代志、榛葉丈児、日本書籍三千冊　〃　野口英世〃
図書室と桜の苗を寄贈
△アサイ棉花研究会創立。
△修養アサィ支部創立、
名誉支部長　頼則照雄、団長　末永　勇。

一九五四年四月　パイネイラ区開拓１５周年記念祭挙行　（インドシナ戦争終わる。力道山、空手チョップで人気爆発、自衛隊創設）

△連合日本入会一月二四日
会長　舘脇利一、副　頼則照雄
学務　小林一郎、副　中島春雄
産業　舘脇又次郎、副　筒井徳治郎
衛生　川瀬正三、外交　久谷アントニオ　副　柳沢ルイス。
△大宅壮一、中野好夫、パラナで講演。

△正月　全伯青連セボロン青年団、T・B青連に復帰。
△分校していたロゼィラ青年団も合同。
△七月七日　飯海イザベル、カテキスタ布教に当たる。
△アサイ市会　会長　菊池　章（新）
副会長　佐藤佳司（新）他は全役員囲または三選。
△八月一四日　大谷光照門主　嬉子裏方巡教一九五五年（太陽族、マンボ、長髪族流行）△連合日本人会　会長　舘脇利一　副　頼則照雄　会計　勝田卯太郎、外交　柳沢ルイス　副　久谷アントニオ　学務　中島春雄
副　小林一郎、産業　舘脇又次郎、
副　小岸金吾、衛生　川瀬正三
△アサイ市会　会長　柳沢嘉輝（新）
副　米倉清吉（新）総務　田草川兵馬（四）
会計　小村光雄、学務　藤田秀雄　社会　上野アントニオ、厚生
川瀬正三（五）
△五月中央教会建立委員会結成。
△八月二日　ジャタイジン二ョ創立百年祭挙行。
△九月　曹洞宗管長　高階瓏仙師一行来寺。
一九五六年（日ソ共同宣言、日本国際連合に加盟）
△連合日本人会
会長　頼則照雄、副　中島春雄
学務　柳沢ルイス、副　小林一郎、
会計　勝田卯太郎、産業　田辺　博
副　小岸金吾、外交　久谷アントニオ
副　上野アントニオ、衛生　川瀬正三
△　ミス・コロニア　コンクール
月十九日サンパウロで開催、パラナ地方代

表に池田敏子さん決まる。ミス・コロニアに福田俊江嬢（ノロエステ）

△六月二八日　前連日会長　舘脇利一死亡　連日会葬。

△アサイ市会、会長　川瀬正三、副　田草川　兵馬、総務　水田マリオ、

会計　村田利八、　学務　松下好人、社会　上野アントニオ、

厚生　鷹嘴善志、運動　浅岡源治

△八月　　アサイ農村協会創立。

ドミンゴス・ジュリオン郡長

副　上野アントニオ、第一書記　オルヘウ　マクラン、第二書記

久谷アントニオ　第一会計　柳沢ルイス、第二会計　南嘉俊

監事　服部パウロ、野崎茂樹、神信次郎

△熊谷和子先生パラナ初のアサイ師範校長に就任。

△一九三八年トレスバラス連合日本入会創立以来、戦前四期、第二次大戦後復活した一九五〇年からの理事長を務めた舘脇利一引退。

△ロゼイラ区開植２０周年記念祭挙行

△五月六日　トレス・バラス農村協会創立

会長・ドミンゴス・ジュリオン、副会長・上野義雄、総務・オエフェン・マクラン、

副総務・久谷アントニオ、会計・柳沢嘉輝　会計・南　嘉俊

△十月三日　郡長、都会議員選

ドミンゴス・ジュリオン、郡長に当選日系では、上野アントニオ　（四八四票）

柳沢ルイス　（四二二）が二、三位で郡議に当選、アサイ有権者数　三・四二〇票

△十月　照真寺仏教会館建設委員会結成。

委員長　南　源吾、副　米倉清吉
幹事長　島田久平、会計　山田新一小谷弘　幹事　佐藤タケ
△十一月　昭真寺仏教会、合法宗教団体に登録。
△十一月　アサイ中学生学期試験問題でスト。
△十二月　シンパチア・クラブ創立
会長　横山西一、会員　飯田ミキエ
長谷イヨ、土居アヤノ、我妻源八
丹治ミエ子　角保美恵子
一九五七年（ソ連人工衛星　スプトニク一号を打ち上げに成功）
△連合日本人会　会長　頼則照雄、副　田草川兵馬　副　佐藤蔦雄、会計　勝田卯太郎、学務　小林一郎、副　南原春雄、産業田辺　博　副　小岸金吾、外交　久谷アントニオ、副　上野アントニオ、衛生　川瀬正三。
△アサイ市会
会長　柳沢ルイス、副　田草川兵馬
総務　水田マリオ
学務　栗山　茂
厚生　川瀬正三
会計　庄野巌美、
社会　西村正之
運動　浅間源治
△移住地開拓２５周年史編さんに着手（青年連盟編）
△四月二八日　ジャンガーダ区入植２０周年記念祭挙行
△八月四日　ロベルト・メンデス・ゴンサルベス駐日大使夫妻、磯野勇三総領事、宮坂　国人の案内で来訪
△頼則照雄、日本移民５０年記念祭典委員会副委員長に推された。
△九日三日　渋沢移動大使来訪。

△九月一六日　サンタ・カーザ開院。
△経済移動大使　渋沢敬三来旭。
△カビウーナ区開植２０周年記念事業日語校起工、総工費一〇〇万Ｃ＄
△十月四日　同朋会館管理委員会
会長　南　源吾、副　頼則照雄、副　長谷　芳松、会計　山田新一、理事　柳沢嘉輝　米倉清吉、勝田卯太郎、池田テル子　常任管理人　杉原五月九五八年（皇太子妃美智子さん、マスコミにのってミッチーブームをまきおこした）
△連合日本入会
会長　頼則照雄、副会長　田草川兵馬
副会長　中島春雄　会計書記　勝田卯太郎　学務　小林一郎、副　南原春雄、　産業　小岸金吾、副　奥山良男、原　正直　外交　久谷アントニオ、副上野アントニオ　衛生　川瀬正三。
△六月二〇日　移民５０年祭に三笠宮ご夫妻ご来伯。パラナ訪問。一九五九年（マンション、公団住宅、団地族誕生。トランジスター出現によりミニ機具流　行）
△連合日本人会　会長　頼則照雄、副　田草川兵馬、飯田留次郎、学務　小林一郎、副　野本正義
産業　奥山義雄、原　正直、外交　久谷アントニオ、副　柳沢ルイス　衛生　川瀬正三　書記　勝田卯太郎
△七月二八日　第一回教員会開催、同会創立１０周年記念紙芝居童話会開催。
△フィゲーラ区間植２５周年祭挙行。
一九六〇年（ソ連のガガリン少佐、人類初の宇宙飛行に成功、ジユセリーノ大統領ブラジ　リアに遷都）
△セボロン区開植２５同年記念祭

△連合日本人会　会長　頼則照雄、副　田草川兵馬、会計書　記　勝田卯太郎、医務　川瀬正三、学務　小林一郎、副　南原春雄、尾形末蔵　産業　奥山秀雄、副　田辺　博、外交　柳沢ルイス、副　上野アントニオ

△パルミッタール区電気架設。

大農時代

一一九六一年（カラーＴＶ放映が始まり、公害に動植が音を上げ始めた）

△連合日本人会

会長・頼則照雄、副会長・小林一郎、会計　勝田卯太郎、第二会計・庄野　巌、学務・　南原春雄、副・菊池　端、産業・田辺　博　衛生・川瀬正三、外交・柳沢ルイス、副・　上野アントニオ

△二月　バルサモ区点灯。

△セードロ区電化、水道工事完成。

△七月一六日　フィゲイラ区電化工事完成。

九六二年五月（吉田茂元総理（８３才）一行１０人来伯、英国からミニ・スカート日本に上　陸、キリスト・ヒゲ流行）

△連合日本人会　会長・頼則照雄、副・小林一郎、丹野鶴雄　会計・勝田卯太郎、第二会計・佐藤留作、学務・南原春雄、副・菊池　端、産業・田辺　博、副・原正道、丹野熊雄、外交・上野アントニオ、副・柳沢ルイス、久谷アントニオ、衛生・川瀬正三、池田正二

△全移住地電化工事完成。

△パイネイラ区、学校への配水難工事完成。

△三月一八日　アサイ市球場落成。
△四月一二日　田付景一駐伯大使来訪。
△五月一日から一週間、入植三十周年記念祭挙行。
△六月一四日ＴＢ農村協会主催農民大会開催
△九月　パイネイラ区点灯。
一九六三年（核実験停止条件が結ばれた）
△連合日本人会
　会長・小林一郎、副・丹野鶴雄、南原春雄
会計・勝田卯太郎、副・佐藤留作、学務・菊池　端、副・多胡一蚪、産業・田辺　博　副・原　正直、外交・柳沢ルイス、副・久谷アントニオ、衛生・川瀬正三、、頼則照雄勇退、顧問に推薦
△二月一七日　ペローバ区点灯。同区開拓３０周年記念祭挙行。
△二月　サン・ジョン区点灯。
△八月　バルサモ区開拓３０年史刊行（ＯＢ親睦会編）
一九六四年（アジア初の東京オリンピック大会＝第１８回＝開催、参加９４カ国、新幹線開通　三月革命、カステロ・ブランコ大統領、国家腐敗の厄を救う）
△連合日本人会　会長・小林一郎、副・丹野鶴雄、南原春雄　会計・勝田卯太郎、第二・佐藤留作、学務
△三月二四日　２０万基金募金委員会設置、委　員・頼則照雄、小林一郎、原　勉、南原春雄。
△七月　パイネイラ入植３５周年記念祭挙行。
△十一月三日　宇都宮百太郎勲六旭日章受賞＝愛媛県人
一九七六年
△文体協連合会
理事長・青木孝雄、第一副・小田島秀雄、第二副・古川　章、第三副・小笠原富士雄　第四副・岡村平八郎、第五副・田中虎松

評議員会　会長・小林一郎、副・原　勉、　南原春雄、菊池　端
△三月五日　孤児院建設準備委員会結成委員長・小岸ジュリオ
△ＣＯＰＡＳＡサイロ起工、予算一五〇億クルゼイロス
△三月二四日　文体協連合会、２０万墓金募金委員会結成（大口寄付）委員・頼則照雄、　小林一郎、原　勉、南原春雄
一九七七年　トレス・バラス移住地を自治制とし、自治支配人制として開発を期した宮坂　海外移住組合連合会専務理事（当時）南米銀行名誉頭取、三月二一日死去、８７才。
一九六七年勲三等旭日章、一九六八年南十字星国家勲章受賞
△カビウーナ日語校、競技場完成。
△チンブリー区、パルミッタール区に合併。
△五月　田中ルイス光義判事赴任。
△七月八日　平野サンパウロ総領事来訪。
△アサイ・ロータリ・クラブ各国留学生募集　条件＝旅費、滞在費、食費、月謝、学用品一切負担、期間一年。
△バルサモ区８１ｍの堀抜き井戸完成。
一九七八年
△二月一七日　南米銀行アサイ支店新築移転
△三月十一日　和田規矩男サンパウロ領事来訪。
△三月　アサイ市＝アモレイラ町間舗装路開通。
△五月三日　上野アントニオ連議、移民７０周年記念叙勲、勲二等瑞宝章受賞
△移民７０周年記念高令者表彰、アサイ８５人、（六月一八日、パラナ日伯文化連合会）△日本移民７０周年祭記念に日本外務省大臣より、在伯５０年以上８０才以上高令者に木盃を贈呈。赤木平十、石川　藤、盛川ダイ、清水雪登、同キセヨ、宇都宮百太郎、同つ　い、田篭竹次郎、大場ハツエ、田村アキ、徳重盛国、同ヤエ、

川端カナ、水田武市、　同キクエ、宮本亀之助、小松タメエ、沢田文輔、渡辺静夫

△七月十五日　パラナ一長寿　吉井伊勢太郎　（百才）死亡。

△七月　浜尾文雄大司教来訪。

△八目　国内倉庫建設計画第二号サイロ、アサイに建つ。

△十一日三日　秋の叙勲、赤木平十、勲六等旭日章受賞（岡山県人）

△十一日一五日選、上野アントニオ下院選１９人中１０位で当選。

△十一日一日　北パラナ運動連盟創立３０周年記念、ローランジァ体育館で挙行。

△十二日九日　宇都宮百太郎死亡、９７才。

一九七九年　マルゴット神父、アモレイラ托児所建設。

△八月一三日　藤崎盛一先生の立体農業講演会開催。

△コチア産組アサイ精根工場創立１５周年記念祭挙行、八月一八日。

一九八〇年

△五目一日　入植祭アサイ宮城県人会、仙台七夕まつり（吹き流し）を行なう。

△九月五日　菊池　端死亡、７０才。青年の指導者。

△中村正成、富山県知事から盛謝状と銀盃受賞　十月。

△十日二五日　佐々木治夫神父(ウマニスタ　慈善協会長５０才)に供われて、長崎純心聖母会の修道女６人がロンドリーナ空港に到着した。浜本アサノ（５５）　田中綾子（３５）　高平恵子（２６）ら３名は、サン・ジェロニモ・ダ・セーラ都内に建設したライ病院で看護婦として、松永リツ子（３５）谷口　涼子（３４）堂園みつ子（２７）の３名は　サン・セバスチョン・ダ・アモレイ

ラ托児所で奉仕。
一九八一年四月　アモレイラ＝ＢＲ三六九街道間舗道開通。
△四月二五日　中島春雄死亡、トレス・バラス産組様牲者の一人、行年７２才。
△四月　カビウーナ区電話開通。
△パルミッタール、カビウーナ、バルサモ、ポルテーラ、セードロ区電話開通。
△五月　移住地開拓５０年史編纂委員会結成＝委員長・原　勉、編集担当・牛窪清四郎パ　ラナ新聞編集長。
△七月二五日　川瀬正三市会議長（医師）死亡、６７才。
△十月、カビウーナ区では、来年迎える区入植４５同年を記念して、教え子たちが樋代武　夫先生（日語教師、勤続３２年）への報恩訪日資金力カンパを始めた。

◎アサイ文化連合会役員

△理事会（一九七七年）
理事長…青木孝雄、第一副理事長…古川章　第二副理事長…田中寅松、第三副理事長…　小笠原富士雄、第四副理事長…小田島秀雄　第五副理事長…岡村平八郎、総務理事…久　保武嗣、会計理事…浅間源治

△評議員会　会長…小林一郎、第一副会長…原　勉、第　二副会長…南原春雄

△理事会（一九七八年）
理事長…小田島秀雄、第一副理事長…古川　章、第二副理事長…青木孝雄、第三副理事　長…小笠原富士雄、第四副理事長…岡村平八郎、第五副理事長…森本ジョン、総務理事…久保武嗣、会計理事…浅間源治

△評議員会　会長…小林一郎、第一副会長…原　勉、第二副会長…南原春雄

△理事会（一九七九年）
理事長…小田島秀雄、第一副理事長…古川　章、第二副理事長…青木孝雄、第三副理事　長…小笠原富士雄、第四副理事長…岡村平八郎、第五副理事長…森本ジョン、
総務理事…湯沢一男、会計理事…浅岡源治

△評議員会　会長…小林一郎、第一副会長…原　勉、第　二副会長…南原春雄

△理事会（一九八〇年）

理事長…小田島秀雄、第一副理事長…古川　章、第二副理事長…森本ジョン、第三副理　事長…小笠原富士雄、第四副理事長…竹山一夫、第五副理事長…岡村平八郎、総務理　事…佐々木三世、会計理事…浅岡源治

△評議員会　会長…小林一郎、第一副会長…原　勉、第二副会長…南原春雄

△理事会（一九八一年）

理事長…森本ジョン、第一副理事長…古川　章、第二副理事長…小笠原富士雄、第三副　理事長…湯沢一男、第四副理事長…竹山一夫、第五副理事長…小田島秀雄、総務理事　名波四郎、会計理事…浅間源治

△評議員会　会長…原　勉、第一副会長…小林一郎、第二副会長…南原春雄

ペローバ区

沿革

開植一九三二年

面積　六三六アルケール

家族数　一六

人　口　一一五

年　表

一九三二年　移住地の歴史は、ペローバ区から始まる。五月、ブラ拓が仮事務所を同区に開設して分譲を始めた。入植第一号は、十月二五日、第３６号を購入した石川　藤（埼　玉県人）第二号

は、十二月第３７号に入った　辻本正行（広島県人）以下第一号から第五　号地までの面積六三六アルケールー三二年に入植した二家族は、伐採させた地区に、　ミーリョとフェイジョンを植えて収穫したが、買い手がなく、ミーリョは畠で腐らしフェイジョンは、どうにか売ったが手取り一ミルにしかならなかった。牧草、芋苗を数km離れた先住伯人を訪ねてわけてもらって植付けた。生の斗いを続けた。翌三三年に会田　巌、会田一雄、舘脇利一、門間定雄の三家族が入植した。翌三四年、本庄賢一、山上定夫、清水雪登、数間仁太郎、数間三郎、教間安五郎、四本二郎、丸山徳太郎、今井儀一、秋吉実蔵、清水隆之の八家族が入植、一三家族になった。

△十月十日、区会創立、初代区長　会田　巌　会計学務　清水雪登、学務　教間安五郎　区代表　石川　藤。

△ペローパ小学校建設、移住地最古のもの。

一九三五年　日語授業開始、館脇悦子夫人　先生となる、学童１３人。

△青年会創立、移住地最初の青年会

初代会長　数間仁太郎、二代　会田一雄

三代　菊地　端、この年、青年会館建設

弁論、剣道、陸上、野球と優秀な選手を輩出、ペローバ王国を築いた。

△佐藤菊治、大森一郎、菊池　章、鳥賀陽忠純、永洞竜右工門、門間　要、岡村重男、岡村兼芳、浦谷市五郎が入植した。

一九三九年から四本二郎、数間三郎、巡回教授を行なう、戦争で中止。

一九四二年　開植十年目、入植家族５０余家族となる。

一九四三年十二月　第二次世界大戦の真只中、清水兄弟４人は家に現われて、竹入商店の　偽バーレをだした伯人、かたり者二人の中一人が、署長の息子とは知らず、縛り上げ　て警察に突き出した。縛られている我が子　をみた署長は激昂、４人を拘置所に入れて　激しく拷問した。救出しなくては命が危ない。池田源吾は、夜警戒網を潜ってロンド　リーナ警察に急報、明け方、ロ市署長の命令で釈放された。

一九五二年七月二六日　開拓二十年記念に木造会館建築。

建設委　館脇又次郎、数間安五郎、神田時栄、清水雪登。

△五月三日、開拓二十年祭が盛大に挙行された。午前七時三十分、アサイ教会でミサが　行われ、石黒総領事夫妻、初代支配人斉藤幸、臼井介仁夫妻が出席した。午前九時一五分、アサイ照美寺で大館誓住職により先没書慰霊祭が行われた。式後、農機械化部隊、中、小学童の一大市内行進があり、学童に記念品が送られた。当日、次の功労者が表彰された。

宮坂国人、加藤　好、井久保　治、斉藤　幸、臼井介仁、榛葉彦平、ドトールバルダル・アルミーリョ・ラマル、移住地先駆者　石川　藤、船田六一、岩田雪萱、守屋庄左工門、池田友忠、筒井徳治郎、高橋豊次、三宅　武、勝田卯太郎。

◎八十才以上の高齢者二六名に記念品が贈られた。

愛沢モヨ９４才、日隅安太郎９２才

平賀子之助８９才、石橋ユキ８９才

拡野リタ８７才、佐藤ヨツ８４才、塩野ミネ８４才、杉本常次郎８４才、沖田ダリ８２才静栄ケサガメ８２才、八田宗太郎８２才、島田ミツ８２才、渋谷雪太郎８２才、白田ユウ８１才、木村弥左

工門８１才、木村ウシ８１才、渡辺キノ８１才、岡村クマ８１才、高月藤太郎８１才、藤戸フイ８０才、上村市太郎８０才、木村庄八８０才、渡辺シカ８０才、千葉由太郎８０才、阿部善四郎８０才、内山田庄一８０才。

一九六二年　ペローバ開拓三十周年記念事業として、電気架設委員会を結成した。

委員長　舘脇又次郎

委　員　数間安五郎、会田一雄、清水六雄、木村弥平治、数間徳治。

一九六三年二月一七日　電気架設工事完了

一九六三年二月山七日　電気架設工事完了祝賀　シュラスコ開催、架設１９戸。

一九七八年　移民七〇年記念祭に、日本外務省より贈られて来た、ブラジル日本移民七〇周年記念在伯五〇年以上、八十才以上の高齢者表彰状と木杯伝達式が同朋会館会議室で行われた。

清水雪萱、清水伊勢代、石川　藤

神田イトの四人受賞。

功労者と名選手

菊池　端＝東京都＝移住地青年のリーダー、トレス・バラス青年連盟理事長歴任。

清水隆之＝広島県＝全伯的槍投選手、一九四〇年代。

△

名物＝豊受大神を祀る碑がある。

中央区

沿革

開発　一九三二年十月

人口　二四家族二九五一年・一二〇家族）
　一六一人

一九四九年九四戸　一九八一年一八戸

日系所有面積　四六五・五アルケール

州内所有面積　三〇四・〇アルケール

州外所有面積　一・三〇〇・〇アルケール

◎作付面積

作付面積　三二五・五アルケール

牧　場　七六・〇

カポエイラ　五五・〇

その他　九・〇

計　四六五・五アルケール

◎生産概況

大豆　二〇一ＡＬ　一六・〇八〇俵

棉　一〇三〃　三六、〇〇〇アローバ

コーヒー　一三〃一〇二、〇〇〇箱

葡萄　四〃　一〇二箱

養蚕　四・五ＡＬ　五・五六九ｋｇ

牛　二二四頭

馬　七頭

年表

一九三二年　船田六二　岩田雪登、池辺清、守屋庄左上門、　筒井徳治郎、池田友忠が　　入植。

一九三三年　和田　寛、金野寅太、池田豊三郎、中瀬浅次郎、森本平太郎、宇都宮百太郎、村田藤蔵、村田　末、荒沢鉄夫、鴨川千代吉が入植。

一九三四年　トレス・バラス農会創立、

初代会長　赤木平十、副会長　館脇利一、

中央区と市街地を一丸とした日本人会は年と共に発展、土木産業、衛生と活発な動き　　を見た。

一九三四年　滝川秀雄、山田満治、増田仁作、笹沢　新、末永清吉、東条健三、山田安一難波梅太郎、鎌川善蔵、高橋　末、長田宣夫が入植。

一九三五年　山田貫一、星野重兵衛、沢崎忠雄、豊田米蔵、田口繁三、鈴木政喜代が入植。

一九三八年　学務局の命令で日本語小学校閉鎖

△七月一三日　中央グランド完成。

建設委員　池田清広、林　文吾、西村恒夫、津田　丈、中易正吉、山室新太郎。

バルサモ区

沿革

開植　一九三三年

面積　一・二二三アルケール

日系家族　五二

人口　三二七

◎種別耕作面積　（単位アルケール）

コーヒー	三七五　（一九六三年）
棉	二九四
牧場	六〇
その他	一二〇
計	八四九
在植地主	八〇
在外〃	二八七
伯人	四六
総計一・二六四	

◎人口　一九六三年　一九八一年

戸数	七六	五二
人口		
女子	三〇一	
男子	三六八	
計	六六九	三二七

年表　バルサモ区

開植一九三三年九月　柴山幸治入植。

△八月一五日　小学校開校。

一九三四年　滝浪忠作、実善　茂兄弟、長谷芳松、上田平友治、森山三次ら入植。

△小鷹義子日語教師、オレリア・マッシャード伯語教師を迎え、学校後援会創立、　初代会長　和田　寛

△区日本入会創立　初代会長　柴山幸治　　青年団々長滝浪唯雄。

一九三七年　森　敏雄会長時代、滝浪忠作が会報を発行。

一九三八年　加藤長広会長の時、学校後援会解散して区日会に編入『バルサモ区自治会』と改称した。

△会館竣工、会長　森　敏雄、会計　滝浪忠作、長谷芳松、青年団長が主軸となって建設。

一九四一年二月二日　滝浪忠作を表彰。

△六月一五日　宿願の学校井戸ポンプ完工。

△六月二九日　柴山幸治、旅行中死亡、区葬

一九六一年二月一八日　バルサモ組に電灯架設。

一九六二年一月二二日　日語校増設

一九六三年五月二一日　区ＯＢ親睦会創立

会長　伊部衛、副会長　栄森久雄　後藤和夫。

△八月四日

区入植３０周年記念祝賀のど自慢大会開催、記念区３０周年史発刊（ＯＢ親睦会編さん）

一九六八年七月七日　伯語校新築落成

会長　斉藤　弥　記念盆踊り大会開催。

一九七三年十一月二日　入植４０周年記念祭挙行　会長　座間正輝

一九七七年　伯語校敷地譲渡　会長　後藤和夫

△堀抜き井戸８１㍍起工してから二ヵ月目遂に完成。

一九七八年十一月十二日　入植４５周年記念祭挙行、歴代会長の名札を作製。

一九八〇年七月　競技場、更衣室落成
会長　数間弥祐
一九八一年六月　新会館落成　会長　仲山清治　総工費二五〇万C$、在植老４８家族。

農業推移
草創期＝コーヒー生産
六一年から棉、大豆、葡萄作
七二年＝養蚕が加わり
八〇＝柚、大豆、葡萄、養蚕。

功労者
柴山幸治、滝浪実善、加藤長広、中島春雄、加藤英治、座間正輝。
○新会館建設功労者
後藤和夫、仲山清治、永露嘉人
○生字引　森下硬一
○名選手　野球…星加和久、後藤和夫
陸上…酒井（一〇〇㍍一一秒五＝一九四八年）加藤富夫少年（１５才、一千㍍、三分〇〇七秒＝一九五五年）
青年会小史　バルサモ青年団

一九三五年　青年団（トレス・バラス青年団支部）発足、会費一ミル。
一九三六年五月二一日　市街地に暴動事件起こる区自警団を組織した。
△六月一四日　第一回雄弁大会開催。

△八月一五日　小学校落成、開校式、第１回　運動会、第１回演芸会開催。
一九三八年六月三日　第１回移住地雄弁大会開催。幕田春雄、山根章一、須永嘉蔵、長谷　友二、中島熊雄　出場。
一九三九年二月一一日　青年会館落成、永露正高を表彰。
△三月五日　第４回移住地野球大会、リーグ戦でバルサモ優勝。コーチ　浅見鉄之助。
一九四〇年　会員２５人。
△第５回移住地野球リーグ戦で連覇。
△九月八日　第６回移住地野球大会で三連覇一九四一年九月五、六日　第７回移住地野球大会　四連覇。
△六月一日　機関誌〝真珠〟発行。
△十二月三日　柔道、剣道大会開催。
一九四二年二月一日　第二次大戦々事令により集会中止一九四五年一月三日　ピリアニット（ウライ）に馬で遠征、親善野球試合を行なう。
△二月一三日　第１回汎トレス・バラス相撲大会、アサイ市で開催。バルサモ三位、　栄森、盛川奮斗。
一九四六年三月三一日　パラナ松４号発行。
△十一月三日　学校基本財産地コーヒー園除草、欠勤者一名もなし。
一九四七年三月九日　武道会発会式挙行、三月一六日、音楽部設置。
△三月二九日　第９回移住地野球大会バルサモで開催、バルサモ優勝。
△四月二七日　区入植１５周年記念相撲大会開催。

一九四八年四月一七日　第１０回移住地野球大会
で連覇。
△六月一二日　第２回汎トレス・バラス相撲大会で優勝。
△六月二六日　区柔道大会開催。
一九四九年十月一六日　第３回移住地弁論大会開催、バルサモ三位。
一九五〇年一月二九日　全伯青年団結成準備委員会に田中行成、米倉　博代表を派遣。
△二月七日　１７対１４で全伯青年団に加入。
△二月一一日　紀元節祝賀区陸上大会開催。
△二月二六日　全伯青年団入団を撤回。
△八月二八日　新トレス・バラス青年連盟に加入。役員に安保、江田、星加が推された
△十一月二五日　柔道畳１８畳到着。
一九五一年一月一一日　会館に神棚を設置。
△二月一〇日　道場畳開き挙行。
△三月九日　第１３回移住地野球大会、バルサモ優勝。
△六月二七日　南部忠平一行来旭。
△七月八日　第１３回移住地陸上大会、バルサモ優勝。
△九月二三日　第３回移住地相撲大会　バルサモ優勝。
△九月三十日　木村八段一行来旭。
△十一月一五日　第５回移住地弁論大会開催一九五五年二月一一日　区旗贈呈式挙行。
△三月十～一三日区カンポ落成視賀汎ＴＢ　野球大会開催。
△四月四日　区農友会登録
△七月七日　アデマール・ダ・シルバ選手、デモストレーションを行なう。

一九六一年五月一三日　区グランド最終大会となったトレス・バラス陸上大会開催、この年、アサイグランド創設。
△八月二三日　機関紙〃バルサモ〃発行。
一九六三年　区４Ｈクラブ発会。
一九八一年
△十月　バルサモ歌謡愛好会、卓球愛好会誕生。
歌謡愛好会
会長　湯原順三、副　加藤富夫
卓球愛好会
会長　後藤和夫、副　加藤富夫

一九四八年四月一七日　第１０回移住地野球大会で連覇。
△六月一二日　第２回汎トレス・バラス相撲大会で優勝。
△六月二六日　区柔道大会開催。
一九四九年十月一六日　第３回移住地弁論大会開催、バルサモ三位。
一九五〇年一月二九日　全伯青年団結成準備委員会に田中行成、米倉　博代表を派遣。
△二月七日　１７対１４で全伯青年団に加入。
△二月一一日　紀元節祝賀区陸上大会開催。
△二月二六日　全伯青年団入団を撤回。
△八月二八日　新トレス・バラス青年連盟に加入。役員に安保、江田、星加が推された
△十一月二五日　柔道畳１８畳到着。
一九五一年一月一一日　会館に神棚を設置。
△二月一〇日　道場畳開き挙行。

△三月九日　第１３回移住地野球大会、バルサモ優勝。
△六月二七日　南部忠平一行来旭。
△七月八日　第１３回移住地陸上大会、バルサモ優勝。
△九月二三日　第３回移住地相撲大会　バルサモ優勝。
△九月三十日　木村八段一行来旭。
△十一月一五日　第５回移住地弁論大会開催一九五五年二月一日　区旗贈呈式挙行。
△三月十～一三日区カンポ落成視賀汎ＴＢ　野球大会開催。
△四月四日　区農友会登録
△七月七日　アデマール・ダ・シルバ選手、デモストレーションを行なう。
一九六一年五月一三日　区グランド最終大会となったトレス・バラス陸上大会開催、この　年、アサイグランド創設。
△八月二三日　機関紙〝バルサモ〟発行。
一九六三年　区４Ｈクラブ発会。
一九八一年
△十月　バルサモ歌謡愛好会、卓球愛好会誕生。
歌謡愛好会
会長　湯原順三、副　加藤富夫
卓球愛好会
会長　後藤和夫、副　加藤富夫

女子青年団年表　バルサモ区
創立一九三八年　初代団長　宇田川サキ先生復活一九四七年一月一二日
△一月一九日　制服を制定。
一九五五年二月一三日　輪読会を行なう。

△トレス・バラス連合女子青年団誕生。
一九五六年四月二二日　団の事業棉摘みを行なう。
一九五七年八月二日　T・B女青連レクレーション大会に出場。
△二月二日　T・B女青連手芸展に出品。
一九五九年六月二一日　T・B女青連5周年記念レクレーション大会に参加。
一九六〇年十月一五日　T・B女青連主催手芸展に出品。
一九六二年六月三日　女青連主催第7回レクレーション大会に参加。
女子青年団正副団長

パルミッタール区
沿革
開植一九三四年
面積一・三〇〇アルケーレス
人口　三七二
日系家族　五九
在住者所有面積　五一二アルケール
不在地主　二三五　〃
三五戸一八戸
区外所有面積　三五四　〃
乗用車　六二台、カミニョン　一八台、トラトール　九八台、収穫機　六台。
農牧概況
品種　単位（域）　収穫量

コーヒー　三〇二　三二・八五〇俵
棉　一一八　四九・二〇〇

アローバ

大豆　一二三　一一・八八〇俵
小麦　一二〇　九・七九〇俵
米　一一　八九〇俵
葡萄　三　四・五五〇箱
蜜柑　一・二〇〇樹
養鶏　八〇・〇〇〇羽
豚　四〇〇頭
馬　六五頭
ミーリョ　一一八　二一・二八〇俵
桐　一〇アルケール

パルミッタール区年表

開植一九三四年七月　山岡純一（岡山県人）入植。
一九三五年　小岸金吾、小岸右門七、西村達雄、名久井定吉、熊谷秀吉が入植。
一九三六年　奥野正一、奥田富吉、南　源吾、永井純三（増田薫の土地）に入植。
△区会創立、区長…山岡純一、副区長…小岸　金吾。
一九三七年　安藤安太、干場安治、大谷儀兵衛　植田英五郎、秋葉倉之助、立石喜三郎、　富岡正之、山本軍四郎、上田貞喜、倉岡要　田村繁治、覚元清吉、南　寛吾、梶原才吉　堀内友治、増田薫が入植。

△在植者二六家族となり、日語校を開校。
初代　大谷儀平先生、区役員留任。
一九三八年　外国語新教育法発令により、分散教授法をとり、ブラジル語教育だけとなる
△政府は五月ブラ拓より、学校基本財産地として無償提供された書類のない土地の処分　を通達した。同指令に対して、当区は、ブラ拓の指図に従って対処、個人名儀所有地として処分から免かれた。
一九四八年　区長　立石喜三郎、副　重岡伝太
△会館落成。
一九四九年　区長　頼則照雄、副　田村勇人、
　磯部先生赴任。
一九五〇年　区長　立石喜三郎、副　国付竹次郎
△州政府より助成金三〇〇コントスをうけ、総工費八〇〇コントスの校舎建設、柳沢ルイス郡議の功績大。
一九五一年　区長　頼則照雄、副　田村勇人
一九五二年　区長　西村達雄、副　立石喜二郎
一九五三年　〃　頼則照雄　副　竹井治作
一九五四年　〃　小岸金吾　副　南　源吾
。
△区会、合法国体として登録、名称〃アミーゴス・デ・ハルミックール協会〃一一九五五年　区長　頼則照雄、副　立石喜三郎
一九丘六年　〃　小岸金吾、副　谷山竹治。
一九五七年　〃　西村達雄、副　重岡義雄。
△奥野正一、安江捕次郎、タンボリー区の土地六〇アルケール、当

局より没収命令をう　けてから三日目、警兵によって立退きを命じられて退去したま、土地は署長によって第三者に売り飛ばされ、いまだに返らない一九六〇年四月二四日　運動場落成祝賀会開催
委員長　小野忠次郎、進行　秋葉光男、　接待　西村達雄、会場
小岸右門七、シュラスコ阿部重雄、野球　重岡芳人。
アサイ、バルサモ、カビウーナを招いて祝賀野球大会を開催、この後、シュラスコ。
△電気架設委員会設立、委員長　西村達雄、副　頼則照雄、小岸金吾、全委員に土居　逸夫、外交委員に岡崎登、田村保、委員山岡誉、重岡芳人、頼則誠志、秋葉光男、小岸右門七、小岸寿利夫、
一九六一年　区民待望の電気架設工事完了、午後五時点灯、三月二五日　電化祝賀会挙行各委員に記念品を贈る。
一九六二年　トレスバラス開植三十周年、当日区より山車参加、パルミッタール山車入賞州知事より金一封をうける。
△十二日十五日、当区最初の入植者　山岡純一　死亡、区葬、葬儀委員長　渡辺勇作、副　重岡芳人。
△山岡、小岸養鶏（五万羽）を始める。
一九七〇年一月八日　西村達雄死亡。
一九七二年　岡村早雄当選したが病弱の為辞任前区長代行。
△六月八日　小岸金吾死亡。
一九七三年　コーヒー新植開始、江頭先生退職
一九七四年　目語教員八木令二就任、現在に至る。
一九八〇年八月二十五日　小岸右門七死亡。

惜しまれて逝った人
称えられている人

山岡純
＝岡山県＝一九六四年十二日一五日
死亡、７５才。
一九三五年、只一家族当区に入植、幾多の困難を克服して後輩への道を開き大きな礎石を残した。区では、区葬をもって遺徳を称えた。

西村達雄＝北海道＝第二回入植者、組合運動の帰途、自動車事故に遭い、一九七〇年　一月八日死亡、６７才、絶命の産組に理事の責任感から手形の保証して致命的損害を甘受した移住地の尊い犠牲者。

小岸金吾＝三重県＝第二回入植者、組合運動の良き指導者逝く、一九七二年六月八日　７１才。

小岸右門七＝二重県＝第二回入植者、区の生き字引死亡、一九八〇年八月二五日享年　７２才。

大豆	一二三　一一・八八〇俵
小麦	一二〇　九・七九〇俵
米	一一　八九〇俵
葡萄	三　四・五五〇箱
蜜柑	一・二〇〇樹
養鶏	八〇・〇〇〇羽
豚	四〇〇頭
馬	六五頭

パルミッタール区年表

開植一九三四年七月　山岡純一（岡山県人）入植。

一九三五年　小岸金吾、小岸右門七、西村達雄、名久井定吉、熊谷秀吉が入植。

一九三六年　奥野正一、奥田富吉、南　源吾、永井純三（増田薫の土地）に入植。

△区会創立、区長…山岡純一、副区長…小岸　金吾。

一九三七年　安藤安太、干場安治、大谷儀兵衛　植田英五郎、秋葉倉之助、立石喜三郎、　富岡正之、山本軍四郎、上田貞喜、倉岡要　田村繁治、覚元清吉、南　寛吾、梶原才吉　堀内友治、増田薫が入植。

△在植者二六家族となり、日語校を開校。

初代　大谷儀平先生、区役員留任。

一九三八年　外国語新教育法発令により、分散教授法をとり、ブラジル語教育だけとなる

△政府は五月ブラ拓より、学校基本財産地として無償提供された書類のない土地の処分　を通達した。同指令に対して、当区は、ブラ拓の指図に従って対処、個人名儀所有地として処分から免かれた。

一九四八年　区長　立石喜三郎、副　重岡伝太

△会館落成。

一九四九年　区長　頼則照雄、副　田村勇人、

磯部先生赴任。

一九五〇年　区長　立石喜三郎、副　国付竹次郎

△州政府より助成金三〇〇コントスをうけ、総工費八〇〇コントスの校舎建設、柳沢ルイス郡議の功績大。

一九五一年　区長　頼則照雄、副　田村勇人
一九五二年　区長　西村達雄、副　立石喜二郎
一九五三年　〃　頼則照雄　副　竹井治作
一九五四年　〃　小岸金吾　副　南　源吾

△区会、合法国体として登録、名称〃アミーゴス・デ・ハルミックール協会〃一一九五五年　区長　頼則照雄、副　立石喜三郎
一九丘六年　〃　小岸金吾、副　谷山竹治。
一九五七年　〃　西村達雄、副　重岡義雄。

△奥野正一、安江捕次郎、タンボリー区の土地六〇アルケール、当局より没収命令をう　けてから三日目、警兵によって立退きを命じられて退去したま、土地は署長によって第三者に売り飛ばされ、いまだに返らない一九六〇年四月二四日　運動場落成祝賀会開催
委員長　小野忠次郎、進行　秋葉光男、　接待　西村達雄、会場
小岸右門七、シュラスコ阿部重雄、野球　重岡芳人。
アサイ、バルサモ、カビウーナを招いて祝賀野球大会を開催、この後、シュラスコ。

△電気架設委員会設立、委員長　西村達雄、副　頼則照雄、小岸金吾、全委員に土居　逸夫、外交委員に岡崎登、田村保、委員山岡誉、重岡芳人、頼則誠志、秋葉光男、小岸右門七、小岸寿利夫、

一九六一年　区民待望の電気架設工事完了、午後五時点灯、三月二五日　電化祝賀会挙行各委員に記念品を贈る。

一九六二年　トレスバラス開植三十周年、当日区より山車参加、パルミッタール山車入賞州知事より金一封をうける。
△十二日十五日、当区最初の入植者　山岡純一　死亡、区葬、葬儀委員長　渡辺勇作、副　重岡芳人。
△山岡、小岸養鶏（五万羽）を始める。
一九七〇年一月八日　西村達雄死亡。
一九七二年　岡村早雄当選したが病弱の為辞任前区長代行。
△六月八日　小岸金吾死亡。
一九七三年　コーヒー新植開始、江頭先生退職
一九七四年　目語教員八木令二就任、現在に至る。
一九八〇年八月二十五日　小岸右門七死亡。

惜しまれて逝った人
称えられている人

山岡純
＝岡山県＝一九六四年十二日一五日
死亡、７５才。
一九三五年、只一家族当区に入植、幾多の困難を克服して後輩への道を開き大きな礎石を残した。区では、区葬をもって遺徳を称えた。

西村達雄＝北海道＝第二回入植者、組合運動の帰途、自動車事故に遭い、一九七〇年　一月八日死亡、６７才、絶命の産組に理事の責任感から手形の保証して致命的損害を甘受した移住地の尊い犠牲者。

小岸金吾＝三重県＝第二回入植者、組合運動の良き指導者逝く、
一九七二年六月八日　　７１才。

小岸右門七＝二重県＝第二回入植者、区の生き字引死亡、一九八
〇年八月二五日享年　　７２才。

一九七一年　ロンドリーナ方面へ修学旅行
（日語校生徒）
一九七三年　二月六日、マリンガ方面へ修学旅行（日語校生徒）
△十月七日、野菜と加工品持ちより、フェイラ開催。
一九七四年二月二六日、サンパウロ方面へ見学旅行。
一九七五年二月二日、ブラジリア見学旅行。
一九七六年二月一二日、カピバラー発電所修学旅行（日語校生徒）
一九七七年田中会長訪日の為、頼則絹子代理
一九七九年一月二一日、リオ・デ・ジャネイロへ見学旅行。
一九八〇年　二月五日、ガラッパ海岸海水浴

フィゲイラ区

沿革

位置　アサイ市から南へフィゲーラ小学校まで８ｋｍ
人口　一九四八年一二五家族
一九八一年　　二〇〃
不在家族　一八戸
計　　三八家族
面積一・二〇〇アルケーレス
開植２５周年調査当時の日系人所有面積

九四六アルケール

世帯数推移

年度	戸数
一九三四	八
三五	二八
三六	三三
三七	五二
三八	八一
三九	九〇
四〇	九一
四一	一一二
四五	一〇五
四八	一二四
五〇	一〇八
五五	七二
六〇	六二
六五	六一
七〇	五三
七五	四四
八〇	四一
八一	三八

年表　フィゲーラ区

開発一九三四年九月　井戸開治、斉藤万助、広沢一人、小見　寛、野崎茂一、木葉　勤　松下義光、木村又記、田甫　強、前岡新平、前岡正男、小見森衛、野崎茂樹、井戸厄治入植。

△三月三日、トレス・バラス青年団創立
フィゲーラ支部として発足、
支部長　田甫　強、副支部長　木村辰雄
団員　前岡正雄、井戸　巌、斉藤助光の三人。
一九三六年二月　区日本人会創立
会長　井戸開治、戸数３３家族
△パルミット小屋の日語校開校
初代教師　藤田秀雄、旧児童２０人
二代　豊島健太、三代　後原盛雄
四代　小松寅太郎の時（一九三九年）外国語教育弾圧のため中止。
△区会創立、初代区長　井戸開治。
△女子青年団創立、初代　藤江絹子
副　小林滝代。
△九月、基本財産地にコーヒー五・五〇〇本植付ける。
一九三七年　ブラ拓の援助により伯語校舎落成
△トレス・バラス青年団、青年連盟に改組により、フィゲーラ青年団と改称。
一九四一年六月　基本財産地にコーヒー四・五〇〇本増植。
一九四五年　プログレッソ組で日語校開校
永吉義光先生。
一九四九年　中央会館落成〝明治学園〟日語校開校、中野伊幾子先生就任。
△伯語校四年制に昇格。
一九五〇年　パラナ州統領モイゼス・ルビオン来植。
△戸数一二四、区全成皿時代を迎える。

△五〇年　戦後の勝敗問題から、勝組脱会、二月九日〃双葉会を〃創立、会員１９家族
　双葉日語校創立、教師　吉田しづえ。
一九五一年　渡辺退助先生赴任、同年仁木　禎教師奉職。
一九五二年二月五日　双葉青年団、同区青年団に復帰運動を起こす。
△八月　東本願寺　大谷光暢法主来区
△九月二四日　川端万次郎区長死亡、区葬を行なう。
△伯語学校々舎改修。
△十一一月三十日　ＴＢ者達主催、剣道大会に出場。
△十二月　東京帝大助教授　泉　靖一来植。
十日間、移民実態調査を行なう
一九五三年一月九日　蓮沼門三日本修養団主幹来旭、講演会開催。
△二月、フィゲーラ区日本人会をフィゲーラ区親睦会と改称、合法団体登録、学校基本　財産地１３アルケール、ブラ拓本部より正式に譲渡され登録。
△六月七日、中原剣道九段来旭、歓迎大会を開催。
△十一日生活改善施行以来八年間区民積立浄財を靖国神社に献金。
△十二月八日、青年連盟主催第六回剣道大会当区会館で開催。
△十二月　基本財産地々権を親睦会に移譲。
一九五五年十月一六日　上野アントニオ郡全議員に当選。
△十一月六日　汎ＴＢ剣道大会、当区会館で開催。
一九五九年二月　開植二五周年記念事業として運動場美化改装。
△二月二二日、区開植二五周年記念祭典盛大に挙行。
△四月、皇太子殿下御成婚記念祝典汎アサイ移住地棉祭りミスコンクール区の上川千嘉　江嬢立候補。

一九六〇年一月二八日　州官報第二七四八七号により伯語校グループに昇格。
△四月十二日、北伯水害救済義指金を送る。
一九六一年七月十六日　区電気架設落成祝賀会盛大に挙行、原勉名誉顧問となる。
一九六四年七月十八日　当区間植三十周年記念　祭典大演芸会挙行。
一九六六年　目語校々舎落成。
一九七〇年　汎トレス・バラス青少幼年陸上大　会優勝祝賀会盛大に行なう。

△十二月二一日伯語校々舎建設する州政府に敷地四・〇〇〇平方mを提供。
一九七一年九月七日　伯語校々舎落成、州立校に昇格。
一九七三年四月一三日　痴漢横行、火急の場合は花火で合図することを議決。
△七月、区の男女青年団員減少により男女合同体制となる。
△十二月三日　男女青年団々員減少により合併。
一九七四年四月二八日　間植四十周年記念事業に美化作業、実態調査、祝賀演芸会を開催一九七五年二月九日　アサイ教員会創立２５周年記念誌発行に当り、九百クルゼイロ寄付。
一九七九年　間植四五周年記念祭挙行。
一九八一年二月二二日　アサイ入植五十年記念史発行の件きまる。

＊＊＊

一九八一年　二〇家族
戸数減少は機械化農によるもの、生産面では増産を示している。
主要産物　棉、大豆、小麦。

惜しまれて逝った人
井戸開始＝兵庫県＝トレス・バラス産業組合理事として活躍
称えられている人
伊藤重吉＝愛知県＝苦難の組合時代、活動した理事長。
福島実義＝広島県＝瀬死の産組を再建しようと保証して物精両面の大打撃をうけた組　合の尊い犠牲者。
岡本荘平＝高知県＝棉花協同出荷組合長、精棉工場建設の功。
小林一郎＝島根県＝アサイ文化連合会評議員長南伯単協理事長として長年移住地を統　卒。
原　勉＝広島県＝アサイ文化連合会評議員長副委員長として長年活躍、開植五十年　記念祭々典委員長。
伊豆忠夫＝広島県＝三〇一組の仲人を勤めた。
８５才、夫婦健在。

青年会年表
創立一九三五年三月三日　トレス・バラス青年団創立と同時にフィゲーラ支部として発　会、会員　田甫　強、木村辰雄、前岡正雄、井戸　巌、斉藤助光の５人、年末に坂本春　清、坂本辻雄、小林一郎、小林常雄、伊豆　秀夫、中根光寿入会一一人となる。
一九三六年　小林辰雄支部長辞任、前岡正雄支部長となる。
△第二回移住地陸上大会に出場、以後毎年出場

一九三七年　トレス・バラス青年団、青年連盟と改組、各支部、青年会と改称。
△共同棉作地の耕作々業を行なう。以後毎年継続。
△役員辞任、改選を行なう。
一九三八年　岩崎団長辞任、改選を行なう。
△第一回雄弁大会に出場。
一九三九年
△南部忠平来植、コーチを受けた。
△コチア中堅青年講習会に佐々木団長を派遣一九四〇年
△青年の日伯両語夜学開始。
△第６回移住地野球大会に出場、以後毎年出場。
一九四一年
△青年会機関誌〝研〟発刊。
△第二次世界大戦拡大、戦事令により集会困難となる。
一九四二年
会の耕作地、歩合作とした。
△休会。
一九四三年、四四年活動、休会状態に入る。
一九四五年　移住地野球大会で優勝。
一九四六年　第９回汎トレス・バラス陸上大会で優勝。
一九四七年　第１０回陸上大会で連覇。
△十二月六日　カイテ奥のカンポイ内ブラジレイラ炭坑見学。
一九四八年　会主催第１回剣道大会開催、優勝。
△会主催第１回雄弁大会開催。
△汎トレス・バラス陸上競技大会三連勝。
△六月二六日　日下部先生を迎え修養講話開催。
一九四八年　運動場拡張工事開始。第１２回野球大会で優勝。

△第３回剣道大会で優勝。
△公会堂イナグラソン挙行。
一九五〇年　第１２回野球大会で連覇。
△機関誌　〃曙〃　を発刊
△一一月一四日　永田稠、力行奈々長と４Ｈ
副総裁の講演開催。一九五一年　藤井会長辞任、改選を行なう。小林徳雄、会長に就任　△小林会長辞任、吉沢幸一会長に当選。
一九五二年九月三日　サントス、サンパウロ、カンピナス見学旅行を行なう。
一九五三年中原達土歓迎剣道大会に出場。
一九五四年機関誌　〃曙〃　再刊。
△八月八日一九五五年一九五七年
第一回卓球大会に出場。
一九五五年　準青年野球大会へ出場。
一九五六年　重要事項なし。
一九五八年以降記録なし。

年表　フィゲ１７区女子青年団
一九四一年三月三日　フィゲーラ区女子青年団創立、相談役　古川七郎、佐々木荘太郎、　広沢一人、指導員　木村武城。
一九四六年三月六日　第二次大戦の空白時代（五年間）明けて青年団復活、広沢一人区長時代。
△八月十一日、汎トレス・バラス陸上競技大会に優勝、祝賀慰労会を催す。
一九四七年四月十五日　州知事モンゼイス・ルピオン訪旭、歓迎会に参加。

△十月二五日　ロンドリーナ飛行場、日本荘発電所等見学。
一九四八年九月十七日　サンジェロニモ滝に遠足。
一九四九年　女子相談役廃止、青年部長を推戴、鷹嘴善志指導に当たる、〃自菊〃誌発刊。
一九五一年三月三日　男女共催シネマの夕純益　一コントス、カンポス・ジョルドン療養所に寄付。
△四月七日、布教帥、八十山凡水師が講演。
△十月六日、クリチーバ市見学、団員二八名州統領ルピオンと会見、州統領の厚意によりパラナグアまで特別列車で旅行。
△十月二九日、連合青年団主催弁論大会開催　於・アサイ・シネマ館。
自髭千代、佐々木啓子出場。
一九五二年一月二日　仁木先生を迎え音楽練習
△八月三一日　東本願寺大谷光暢法主夫妻来植歓迎会に参加。
△十二月十四日、泉靖二大学助教授、実態調査に来植、歓迎会に出席。
△十二月二一日　小林一郎訪日土産話を開催一九五四年八月二二日　サンパウロ市制四百年、祭典見学旅行（団員十六名）を行なう。
一九五五年三月十九日　４Ｈクラブ　林、永田両先生の講演会開催。
△三月二七日、修養団講習会隣村青年団を招いて開催、出席者一〇〇人。
△五月十五日　生長の家講演会開催。
△七月二四日　大沢先生を迎え料理講習を開催、この間、週三

回日語勉強。
一九六三年三月十日　アプカラーナ市の青木技師、アメリカ青年の歩みとシネマを解説。
一九六五年五月九日　上野義雄州議の協力でクリチーバ官庁と・パラナグアを見学。
一九六九年七日十五日　区三五周年記念祭典祝賀会を開催、シネマを上映。
△七日十六日　青年団員、セッテケーダス、フォス・ド・イグアスー、パラグアイ旅行　を行なう。
一九七一年五目二三日　汎トレス・バラス陸上競技大会優勝慰労会開催。
一九七二年四月二日　フットボールサロン経費捻出の為、男女共同ケルメセを行なう。
一九七四年八月四日　汎トレス・バラス女子バレーボール大会に連覇。
一九七六年一月二日　青年部長　古川マリオの尽力によりカンボリュウ・フロリアノポリ　ス、プライア、サン・ジョアキンに旅行。
一九七八年　萱沼(サンゼント)の案内でイタイプ発電所を見学。

教育
フィゲーラ小学校日語教師
創立一九三六年四月五日　フィゲーラ日語学校開設。
一九四九年　明治学園と改称。
歴代日語教師

歴代教師　　年度

藤田　秀雄　一九三六年四月
豊島　健太　一九三七年七月
後原八千代　一九三八年八月
小松寅太郎　一九四〇年

第二次大戦、外国語教育禁止

△伯語校一九三七年開校
日系教師だけ抄記
フィゲーラ小学校創立　一九三六年四月五日
一九四九年　明治学園と改称。

リチーバ官庁と．パラナグアを見学。
一九六九年七日十五日　区三五周年記念祭典祝賀会を開催、シネマを上映。
△七日十六日　青年団員、セッテケーダス、フォス・ド・イグアスー、パラグアイ旅行　を行なう。
一九七一年五目二三日　汎トレス・バラス陸上競技大会優勝慰労会開催。
一九七二年四月二日　フットボールサロン経費捻出の為、男女共同ケルメセを行なう。
一九七四年八月四日　汎トレス・バラス女子バレーボール大会に連覇。
一九七六年一月二日　青年部長　古川マリオの尽力によりカンボリュウ・フロリアノポリス、プライア、サン・ジョアキンに旅行。

一九七八年　萱沼(サンゼント)の案内でイタイプ発電所を見学。

教育

フィゲーラ小学校日語教師

創立一九三六年四月五日　フィゲーラ日語学校開設。

一九四九年　明治学園と改称。

歴代日語教師

歴代教師　年度

藤田　秀雄　一九三六年四月

豊島　健太　一九三七年七月

後原八千代　一九三八年八月

小松寅太郎　一九四〇年

第二次大戦、外国語教育禁止

△伯語校一九三七年開校

日系教師だけ抄記

フィゲーラ小学校創立　一九三六年四月五日

一九四九年　明治学園と改称。

グルカイア区

沿革開植　一九三五年

面積一・〇〇〇アルケール

人口七三（一九八一年現在）

家族一〇

一九三五年六月　間植、藤田千代治、八〇アルケールを購入して開拓、同年同郷の八代、山内、根本兄弟（福島県白河郡釜子村）と我妻忠雄が入植した。

△第二次世界大戦後、外国移民の集団は禁じられたため、ブラ拓はグルカイア、ジャンガーダ、ロゼーラ区の一部を伯人希望者に開放した

△一九四九年までに日系１５家族、ブラジル人約一〇〇家族が入植、邦人集用地トレス・バラス移住地では特異地域となった。

△移住地内協同体として縦の連絡はあるが、結成された青年団も戦後解散した。

＃　＃

日本語校、一九五三年～五八年まで開校、一九五九年閉校。

一九六二年までカフェー栽培。

一九六二年～一九七〇年、棉、フェイジョン。

一九七〇年以降、大豆、小麦に転向。

一九六二年　会館落成

一九六五年　小学校増築

一九七五年　伯語校落成

△日伯カトリック教会建立

＊＊＊

藤田千代治

福島県西白川郡東村の人

昭和６年１０月、ブエノス丸で渡伯

一九三五年グルカイア区に入植

セボロン区

沿革

人口　一九六〇年

男子　一九〇　邦人　一〇二

女子　一九五　日系　二八三

計　三八五　計　三八五

人口　一九八一年

家族数　八

不在地主　十三

人口　一二三

関植一九三五年

面積　一・一三〇アルケール

種別耕作面積（単位アルケール）

＝一九六五年調＝

コーヒー	一〇・五
綿花	四一五・〇
雑作	七一・五
森林牧場	七六・〇
日系の所有地	五七三・〇
他地方所有地	三九一・五
アサイ市西南	一八ｋｍ
肥沃なテーラ・ロッシア地帯	

人口推移

日系人口戸数

年度	戸数
一九三五年	二
一九三六年	八
一九三七年	一五
一九四六年	二七
一九四七年	二八
一九五〇年	四八
一九五一年	五〇
一九五三年	六一
一九五五年	六三
一九五九年	七一
一九六〇年	四六
一九六一年	五五
一九六二年	四四
一九六三年	四七

一九六四年　四八
一九六五年　五〇
一九八一年　二一　人口　一一三

年表　セボロン区

一九三五年七月　古賀三郎（佐賀県人）
契約者・伊藤春正、津田　覚、菅野直喜、大内克巳四人と共に入植。
△九月　金松栄吉（富山県）入植。・
一九四二年二月　小泉徳太郎氏、不良伯人から暴行をうけ死亡、区葬。
一九四四年　第二次世界大戦、日伯国の断絶による不穏な社会情勢に備えて交番（巡査派　出所）を建設、自衛手段をとる。
一九四五年六月　伯国対日宣戦布告
△九月　学校基本財産没収決まる。
一九四六年　国旗掲揚法違反で役員五入収監された。
△重岡　清氏、チバジ河周辺で狙撃されて負傷を負う。
一九丘三年四月　パラナ州独立百年祭記念事業に協力を決議。
一九丘四年十一月一四支道改修工事完成、平賀橋開通。
一九五七年七月　農友会を登録、区有地登録。
一九五八年七月　青年会館落成。
一九六〇年七月　入植二十五周年記念祭挙行。
一九六五年七月十一日　間植三〇周年記念祭挙行。
祭典委員長　丹野　熊雄
副　〃　広谷　七郎

功労者表彰

開拓先駆者

古賀三郎、金松栄吉、歴代区長　初代古賀三郎から十六代・小田島仲蔵まで一六人。

日会功労者

平賀三太郎、佐藤　照徳、大和田一郎、小山内清之助、、小田島百太郎、小松寅太郎。

青年団功労者

吉田仲太郎、丹野、熊野、岡村晋典、佐藤万里夫

丹野、佐藤、慶吉。

女子青年団功労者

佐藤　万吉、赤沢富士子、平賀万里子

高令者七〇才以以上、八人

一九六七年　日語校、会館落成

一九八一年　称えられている人

吉間金太郎（９１才）

佐藤　万吉（８８才）

金松　栄吉（９４才）

丹野　熊雄

佐藤万里夫

青年団年表

一九三七年十月二四日　志津源次郎提唱、同宅で結成、団員一六人。

△十二月　T・B青年連盟に加入。

一九三九年全伯中堅農事講習会に丹野熊雄を派遣。

一九四〇年第三回衛生講習会に金松正雄を派遣。
一九四一年機関誌〝清流〟発刊。
一九四六年日語夜学開始。
一九四八年月報発刊。
△第二回雄弁大会に佐藤照徳二位、丹野隆吉三位に入賞。
一九四九年　第三回T・B剣道大会、一位…佐藤万里夫、二位…丹野隆吉
一九五〇年　運動場建設、幹線道路修築。
△三月　T・B青連脱退、全伯青年連盟に加入
一九五一年二月　各支部の割当金問題から団員　二九人中一四人脱会。
△七月　更新青年団結成、団員一六人。
一九五二年　第三回　T・B相撲大会で優勝、全伯相撲大会に佐藤万里夫出場。
一九五四年五月　T・B青年連盟に復帰。
一九五五年　第六回　T・B相撲大会、佐藤万里夫優勝。
一九五七年　校友会結成、会館に柔道道場設置

日語校小史

一九三七年　田尻暁近就任、一年後転任。
一九三九年　外国語教授禁止、閉鎖。

一九四〇年夜学教育開始、佐藤万吉、丹野熊雄、全松正雄、吉田仲太郎、佐々木啓二郎、井料田政光、大和田一郎の八人指導担当。
一九四七年八月　小松寅太郎　就任
△九月、仮校舎起工

△十月、目語教育停止命令をうける
一九四八年　日語校閉鎖
一九四九年四月　校舎兼会館新築落成、勤労奉仕延一・〇〇〇人
△八月、教員住宅落成
一九五一年九月　政治関係で休校、通信教授実施。
一九五二年　水道工事開始、清藤補助教員就任
一九五三年　校庭拡張工事竣工。
一九五七年八月　校友会創立、小松先生勤続十年謝恩会開催。
△教員住宅増築。
一九六一年七月　小松寅太郎退任、木幡二郎着任。
一九六四年七月　教員住宅再増築。

年表
一九四〇年　ブラ拓、伯語校建設。開校休業状態が続く。
一九五六年二月　日会私立小学校建設、総工費　五七・〇〇〇クルゼイロス、州政府公認私立セボロン小学校として経営。
△九月、伯語教員住宅落成、工費一一五・七四二クルゼイロス
一九六〇年九月　伯語教員住宅新築落成。

ロゼイラ区
沿革
開拓　一九三六年
面積（アルケール）　八〇〇
日系所有面積　八〇〇
他地方所有面積　一・八八〇
耕作面積　七二〇

種別耕作面積

大豆　小麦　七二〇

イタリア葡萄　一〇

標高　五〇〇～六〇〇

人口　家族

一九五〇年　九六

一九八一年　三二

伯人　三

日系人口　二二七人

年表

開植一九三六年六月一五日　川野武三郎（熊本県）宮村繁人（熊本県）最初の斧を入れた。

川野武三郎の契約者・宮部清一（熊本県）井上春雄（愛媛県）が入植。

一九三七年十月三日　区日本入会創立。初代会長　川野武三郎。

一九三八年三月　小学校竣工、後原先生赴任

五月二六日　学務局の閉鎖命令で閉校、巡回教授となる。

一九三九年　架橋、道路開設、修理工事開始。

一九四一年四月二九日　区公会堂落成。・

△九月　学校基本財産地区にコーヒー植付開始。

一九四二年　日伯国交断絶、銃器、ラジオ、雑誌、教科書、国旗、ご真影など没収された　△大降霜

一九四三年　連年の降霜に、コーヒー栽培を断念、棉、ラミー作に転向。

一九四六年十一月二三日　開植十周年記念祝賀会開催。二四日、同祝賀運動会開催。

一九四七年　他区同様基本財産地区は、個人名儀で購入することにきめて接収をのがれた一九四八年　日語校再開、坂口光喜先生就任。

一九五〇年　間植十五周年記念連日会主催農産品評会、家族慰安運動会開催。

第二次大戦後の勝組、負組の二派に分かれて紛糾、日本敗戦を認める荒堀一俊、高橋　角次、佐藤清介、江国英節、加藤富弥、岡村正ほか十六家族は区会を脱会〝親睦会〟　を創立した。国を思う心に変りはない。この思想的な対立も年月が解決してくれた。

一九五四年、両者歩みよってまた和やかな四年前に復旧した。

△地形平担、耕作至便であるが重なる霜害に一九五三年頃からカフェー栽培から棉作

有畜農に転向、セボロン区と共に移住地最大の棉作地帯となった。日系九〇家族（一九四八年）全盛時代を招いた。

△戦災義捐金二十コントス　（一四万一千四百円）厚生省（日本）に送付。

一九五六年三月七日　荒堀棉倉庫全焼。

△五月七日　区基本財産地を登録。法的会長　千葉ジョルジ。

△区開拓二十周年記念挙行。功労者表彰＝歴代区長　川野武三郎、荒堀一俊、妻沼佐助　菊地善右工門、熊谷　清。　功労者住谷　万之助、清水又一、清水鶴雄、岡村　正、　宮崎政次、中家種雄、山崎直記。　先駆者　川野武三郎、宮村繁人、宮部清一、井ノ上　春道。

一九五七年　区会館起工。建設委員長　荒堀一俊、委員　清水又一、高橋角次、中家種男一九五八年八月九日　区会館落成演芸会挙行。

一九六一年六月一八日　日語校々舎増築落成。

一九六三年十月三一日　電気架設、一斉に点灯
一九六四年五月二三日　伯語校落成式挙行。
一九六五年三月　小島　正、荒堀　啓、自動車　事故。山崎重雄の倉庫焼失。
一九六八年八月九日　長年の懸案、三組1四組間架橋工事完工（コンクリート）
△中家　満　ジャタイジンニョ郡副郡長に立候補、惜しくも落選。
一九七一年七月二日　区開植三十五周年記念　演芸大会とグランド拡張、運動会を開催。
一九七六年七月四日　区開植四〇年記念祭挙行
一九七五年　ジャタイ、アサイ間舗装路開通。
一九七七年　区基本財産地区に桐五〇〇本植林
称えられている人
荒堀一俊、川野武三郎。
スポーツ関係
中家種男（指導者）
全伯的選手
妻沼　登（長路離）
佐藤英雄（　〃　）
中家一郎（跳躍）

ジャンガーダ区

沿革

開植一九三七年

面積　四五八アルケール

人口　一九五五年　六四家族

一九八一年　一二家族　九四人

一九三七年　小川熊吉（石川県）石田太市、宮　庄吉、岡村久次郎、渡辺滋次郎入植

日系名　街路

館脇利一街

加藤カルロス好之街

斉藤　幸街

臼井介仁街

榛葉彦平街

田形マリオ敏雄街

勝田字太郎街

松本政幸街

商伯農業協同組合

ロンドリーナ単協

創立　アサイ倉庫　一九六九年三月二四日

初代理事長　南原　春雄

二代　〃　小林一郎（理）

歴代倉庫主任　遠藤正三郎、大貫栄達、下坂、中村

年表　ジャンガーダ区

一九三八年　日本人会創立

初代会長　小川熊吉

一九四〇年　ブラ拓が区基本財産として建設した小学校は、一九五〇年　郡に移管、都立　ブラジル小学校となる

△二月十日　青年団創立　団長　島村早雄

一九四八年　入植１０周年祭挙行

△女子青年団創立

一九五〇年　新築した青年会館を本校と分校で日語教育を始めた。

初代　坂本正義先生

△三浦義清、運動場建設敷地を寄贈、四月二十九日、運動場と青年会館落成式を挙行

一九五七年四月二八日　青年会館で入植２０年記念祭典が行われ、次の者が表彰された。

宮　庄吉、古田磯吉、斉藤勘之丞、湯沢茂、石橋福松、江島芳太、住田盛三郎、岡村　久次郎、中野政一、上田　清の１０人、６０才

以上高齢者　白田こう（８５才）ほか１４人

一九六九年十二日　日語校閉鎖

農業推移

一九四〇～五〇年　コーヒー栽培

一九五〇～七〇年　棉、米、フエイジョン

一九七〇～八〇年　大豆、棉

一九五三年～五五年、区棉花産量五〇〇万アローバ、一地区生産量ブラジル一を記録した。

教育

◎ジャンガーダ日本語学校

創立一九四〇年

△一九五〇年四月九日開校、三浦義清、敷地　半アルケール寄贈

△初代教師　坂本正義（一九五〇～五三年）　木村　稔（一九五四～

◎州立農村ジャンガーダ伯語校

年度	教員数	学童数
一九五八	一	七五
一九六五	四	八四
一九七〇	四	八六
一九七五	三	八六
一九八一	二	五一

カビウーナ区

沿革

開発一九三七年

面積一・二〇〇アルケール

人口　一九八一年　四八八八　家族六三

一九五五年　家族一二七

標高　五五〇m以上

農業推移

一九三八年～七五年　カフェー
一九五一年　副業に養鶏、養豚、ペカン
一九六二年　副業にイタリア葡萄
一九七五年　霜害で大豆、小麦に転向

年表

入植一九三七年、高野鶴松、山口逸二、
一九三八年　商原溜蔵、市川菊三郎、斉藤　己
一九三八年　区日本人会創立。会長　南原溜蔵　会員１４人。
一九四〇年　ブラ拓建設の区小学校落成。
会長　飯田留次郎　学童４７名
△青年団発足。団長　飯田三次郎
一九四二年六月　南三川大降霜、四三年の降霜　被害甚大、幸いカビウーナ区の被害僅少。
一九四五年八月十五日　終戦。
一九四七年二月十九日　入植十周年記念。相撲、演芸大会開催。会長　市川菊三郎
一九四八年　会長　松倉仙之助、会館建設予定　敷地購入。
一九五〇年　会長　田野有幸、会館建設に着工
一九五一年四月二十九日　会館落成式挙行。
会長　伊藤六郎
一九五二年　会長　小笠原竹雄。
一九五三年六月　大降霜、区のコーヒ１園全滅
一九五五年七月　大降霜、ようやく新芽の揃ったコーヒー園、樹勢挽回不能状態の打撃を　受けた。幸いカビウーナ区は被害軽度。
一九五六年　区基本財産地区、合法団体として登録の必要から農会を創立。会長　服部パウロ。

△十月アモレイラ都議選、南原春雄会長の後援により、平栗範智当選。

一九五七年　開植２０周年記念に小学校々舎起工　総工費　百万クルゼイロス。会長　島田与平。

△十二月七日落成　州立小学校に昇格。

一九六〇年　平栗範智再選

△電化工事完工。

一九六四年　伊藤光輝都議当選

一九六九年　島田巧　都議に当選。

一九七二年四月三日　カビウーナ区間植３５年記念　相撲、演芸大会開催。

一九七三年　畠田巧　都議再選。

一九七七年　小学校、競技場完成。

建設委員　南原春雄、島田巧、斉藤昇、小山田吉郎、島田与平。

△平栗範智都議三選。

一九八一年　アモレイラ＝ＢＲ三六九街道間舗装路、区内を貫通。

△電話区内４２戸に架設、総工費四五〇万クルゼイロス。

日語校日語校学童

一九五五年　一七〇名

一九八一年　四八名

カビウーナ日語学校

創立　一九四〇年

校舎落成　一九五一年四月二十九日

一九五七年グルッポ校建設

サン・ジョン区

地域　四・八〇〇アルケール

年度	一九六〇	一九六二	一九八一
日系所有面積	一六八域	二四九	三三八
借地面積	一五〃	一九	
不在地主面積	五二〃		

種別耕作	
大豆	三〇〇
小麦	三〇〇
イタリア葡萄	三
ペカン	四
牧場	六

年度	一九五七	一九五八	一九八一
家族数	三六	二二	一九
人口			一二九

農業推移

一九五〇～七〇年　棉、雑作。

一九六三年～イタリア葡萄（村上毅栽培第一号）

一九七一年以降　大豆、小麦。

年表　サン・ジョン区小史

一九四一年五月　公明植民地創立

初代会長　市瀬仁七、副会長　古川直次郎

土木・久本一夫　のちサン・ジョンの植民会と改称。

一九四四年　市瀬宅でブラジル語教室始業。

初代　マリア・マセド先生

一九四五年一月二九日　青年団創立。

団長　垂田　滋、副　後藤哲男。

一九四六年　機関誌〝大亜細亜〟発刊。その後　〝太陽〟　〝灯台〟　〝耕土〟　〝南島〟と改題された。
△球場開き、日の丸の旗を掲揚移住地最初の　国旗掲揚。恐らく日系コロニア掲揚第一号一九四七年四月二九日　女子青年団創立。
初代団長　村上禎子、副　後藤昭子、団員　２０人。
一九五〇年二月十一日　日語校で奉祝紀元節。
△三月　庭野　進、四月　村上、山本、井上　前理事脱会者続出により区会解散。
一九五二年十二日三日　明治節揺拝式挙行。

一九五七年五月十二日　第一回卓球大会開催。
△六月二日　母の会創立。
会長　星野とみ、副　山本とし子、会計　尾形のえ、事業　小田切きよ。
一九五八年六月一目　区間植２０周年記念運動会開催。
一九六二年八月四日　日語校々舎修理竣工。
一九六三年二月十六日　待望の電気点灯祝賀会開催。
一九六五年　州政府より助成金七・〇〇〇、ジャタイ郡より二・〇〇〇、計九・〇〇〇コ　ントスでグルッポ校新築起工。
一九六八年八月十日　ジャタイ創立二〇年祭挙行。
△十一月十五日　松本、アサイ市長候補落選
中家ジャタイ副市長選落選。
△星野宗雄、ジャタイ市議選に落選
△区の功労者に農産展通算優勝１０数回に及ぶ
篤農家・尾形末蔵と故・後藤清喜先生。

サン・セバスチョン　ダ・アモレイラ区

沿革

郡面積　八・五三八アルケーレス
（二二九・七四一平方ｋｍ）

標高　六〇〇～七〇〇ｍ

人口　六・九二四　うち日系人人口　二三〇

日系所有面積一・一〇八アルケーレス

郡外所有面積　六五〇アルケーレス

郡内種別植付面積

大豆　一・九六一アルケーレス

棉花　一・二三九　〃

ミーリョ　九二〇　〃

コーヒー　四〇八　〃

主要農産物　管内種別収穫量

大　豆　一七二・九四五俵（６０ｋｇ）

棉　花　三八四・八五五アローバ（１５）

コーヒー（皮付）　四四・六一三俵（４５ｋｇ）

ミーリョ　一四一・八七二俵（６０ｋｇ）

フェイジョン一・五八九俵（６０ｋｇ）

小　麦　一二一・七三五俵（６０ｋｇ）

マモーナ　四一・五〇〇ｋｇ

イタリア葡萄　六〇・九二五箱

農業推移

一九五三年までカフェ栽培
一九五三年の降霜から棉作
一九七〇年から大豆、小麦
一九六〇年　鈴木貫一、イタリア葡萄栽培

日系人口動態

日系人口	家族	人口
一九四五年	七二	
一九五三年	五六	
一九五八年	四二	
一九八一年	三九	二三〇

アモレイラ町概況

職業	日系	伯人
スーペルメルカード	一	一
精米所	一	一
雑貨商	三	
ピンガ工場	一	
製材	二	
薬局	一	
給油ポスト	二	一
電気商	一	
自動車修理工場	一	四
バザール	一	
教員	一	一
歯科医	二	
医師	一	
組合	一	

銀　行　一
病　院　一
托児所　一
商業高校　一
師　範　一

アモレイラ区　小史

開植一九三八年　入植者・太田秀次郎、酒井政次（北海道）真砂清治（富山県）佐藤清助（山形県）

一九四〇年　栄野比武栄、新里紹永、川上重善　ほか九家族入植

一九四一年　区会創立、会長　佐藤清助、在植　家族１２

一九四四年　第二次大戦中、区会解散

△市街地区画分譲始まる一九四六年　第二次大戦終了、区会再開

一九四七年　区会館落成

△女子青年会発会

△Ｔ・Ｂ中央日本人会に加入、日語校創立

一九四九年十一月二〇日　区入植川年記念祭挙行

一九五〇年　桜校創立

一九五一年　日語校増築落成

△十一月十四日　都制施行（アモレイラ、カビウーナ、セードロ、ホルテーラ、バルサ　　モ一部、カショエイラ、アメリカーナ、アサイ郡よりアモレイラ郡に編入された。

一九五三年　大降霜でコーヒー園の被害大、地主５６中１４家族転出

一九五六年　都議選に鶴田政雄、平栗範智当選

一九五七年二月十六日　アモレイラ日本人会はアモレイラ親睦会と改称、合法団体に登録

△桜校閉鎖

一九五八年　川上重善、区会修身顧問となる

一九六一年十二月　区電化

一九六七年十二月十七日　アモレイラ町とアモレイラ区合同　アモレイラ中央日本人会成立

顧問　荒川　清

会長　出口　良三

副〃　為広　栄

会計　山本　盛志登

学　務（日語）大崎伝市

伯語　間島弘志

土木　江田正成

産業　鈴木秀雄

運動　清水久直

娯楽　塚本秋蔵

外交　間島弘志

新校舎建設委員会結成

委員長　出口良三

副〃　江田要

会計　山本盛志登

書記　為広栄

△十二月十七日　戦後の思想対立で分裂していた区会合同（出口良三会長時代）

一九六八年二月二五日　新校舎落成式挙行
一九七一年十一月十四日　アモレイラ市制２０年　記念祭典
一九七八年三月五日　アサイ、アモレイラ間舗装開通
△アモレイラ女子青年団、アサイ文化連合会女子部に別入
△戦中戦後日本、支那で３０数年布教につとめた日語流暢なビトル・マルゴット司祭（ベルギー人）布教につく
△前岡　進、平栗範智、吉沢和人、都議に当選
一九八〇年　長崎の純心聖母会から６人の修道女が、サン・ジェロニモ病院に奉仕、浜元　アサノ、高平恵子、田中綾子はら癩院に、松永律子、谷口涼子、堂国みつ子保母、アモレイラ托児所に奉仕
一九八一年　アモレイラ＝ＢＲ三六九街道間舗装路開通
△区農村電話開通

称えられている人
大山栄吉、金田小次郎
△小林徳雄
一九五四年第六回全伯地方選抜野球大会から三連覇の偉業を打ちたてた。
パラナチームのエース

セードロ区
沿革
開植一九四〇年
面積　八〇〇アルケーレス
標高　七〇〇ｍ

人口　一四七人
家族　二二（一九六〇年　六〇家族）

農業推移
一九四〇～六二年　カフェー
一九六三年以降　棉作
年別作付面積率

年度	カフェー%	雑作%
一九五八～六三年	八〇	二〇
一九六三～六六年	六〇	四〇
一九六六～七〇年	五〇	五〇
一九七〇～七五年	四〇	六〇
一九七五～八〇年	二〇	八〇

小史　セードロ区
草分け一九四〇年六月二五日　池田栄太郎　石原貞伊　宮崎貞一　木村四郎。
△七月七日　岸野英夫　岸野武彦
伊藤健作　佐藤鉄治　佐藤弥右工門
△八月六日　永山安松
一九四四年　区相撲始め。
一九四五年一月　区青年団創立、団長　浜津　正夫、機関誌〃南球〃発行。
佐藤、岸野、竹田、熊谷　家庭教室開始
一九四七年　日語校創立、初代　青木房江先生。
△五月　女子青年団創立、広瀬厚子。
一九五〇年　伯語校開校、開植１０周年記念演　芸大会開催。
△石原貞伊、柔道剣道開始。

一九五二年　講道館使節団、高垣八段、吉松義彦七段、大沢六段来伯を機に石原貞伊四段　アサイ道場開設。
一九五六年　熊谷博、親睦会創立
会長　大鹿一男。
△セードロ音楽団創立。
一九六一年　電化、水道、敷設工事完了。
一九八一年　電話開通。
△アモレイラ、カビウーナ、セードロ、ポルテーラ、ＢＲ三六九号街道間連結
舗装開通。セードロ区からの距離、セードロ＝アサイ町　１５ｋｍアモレイラ町２４ｋｍ

タンボリ区
沿革
開発一九四〇年
入植一九四〇年　石川清司、石川　進、石川　泉、石塚定雄、大西宗八、南　五郎、頼則　勇。
△区会創立、区長　石川清司。
一九四一年　伯語校創設。
一九四七年　戦争の暗黒時代が明けて、区会が再会。
一九五〇年六月十五日を入植記念日に制定、入植１０周年記念演芸大会開催。
△家族慰安清遊会誕生。
△男女青年会創立。
一九五七年　区内を流れるマドロガーダ川以北が戦後ウライ郡管轄に編入され、行政面で二分されたので区会の立場が複雑になっ

た　ため、連日会加入は見送られていたが、この年、移住開拓２５周年記念に連日会に復帰　した。

一九七七年　入植者都会に移転（不在地主）在植者減少により区会を解散、パルミッタール区に合併した。

伯　語　校

郡立チンブリ伯語校

年度	教員数	学童教
一九六〇年	一	二〇
一九六五年	一	七〇
一九七〇年	二	四七
一九八一年	二	四三

パイネイラ区

沿　革

開植一九四〇年

面積一・〇〇〇アルケーレス

人口

年度	家族	人口
一九五二年	六七	
一九五九年	五四	
一九六四年	五一	
一九八一年	三四	二八三

年表

開植一九四〇年　田中光五郎（福井県）久保田藤太郎（香川県）入

植

一九四二年　パイネイラ区日本入会創立。会長　田中光五郎、会員二十七名、十七家族。

一九四九年　第二次世界大戦の空白時代を経た

二月　パウダーリョに建設された校舎三教室のうち、一を解体して当区に移管、都立　　ブラジル小学校創立。

△三月　寺小屋式日語教育を開始。太田先生　学童四十三名。

△十一月　校舎落成、パイネイラ育英尋常小学校開校。初代、佐藤次郎先生。

一九五四年四月二九日　青年会館落成式と開拓十五周年祭記念演芸大会挙行。

一九六二年九月　電化工事完成。点灯。宿願の学校への配水問題解決。十五ｍの櫓を建て　て、一千リットルの水槽に水を揚げ、六〇〇ｍ離れた学校の給水に成功。

一九七二年　日語校舎改築。

一九七三年　日語教員住宅新築。

一九七四年　青年会館改築。

一九七五年七月二七日　入植三十五周年祭挙行。

開拓先没者慰霊祭、児童お話大会、記念演芸大会、歌謡大会など盛大に催された。

表彰者＝先駆者　原　正直、林　康夫、渡辺辰雄、藤原鶴一。

功労者　藤原七郎、原　正直、渡辺調一、会田三郎、大谷義雄、藤原国雄、井上治男、笹　豊久、佐久間　勇、日語教師四人。

年功者十三人。

△日語校改築。

青年団年表　パイネイラ青年会創立一九四五年十二月　会員十二人

一九四六年　運動資金稔出共同作業を行なう。
一九四七年　移住地区対抗野球大会に出場。
一九四八年　相撲大会開催。
汎トレス・バラス野球と陸上大会に出場。
一九四九年　会員三十二人となる。
一九五〇年　二月十九日全伯青年連盟トレス・バラス支部へ加盟。
△連合青年団第一回剣道大会に出場
△連合青年団第一回陸上大会に出場
△連合青年第一回相撲大会に出場
△連合青年団第一回野球大会に出場
一九五一年
△連合青年団第二回野球大会に出場
△連合青年回第二回陸上大会に出場
一九五二年　連合青年団第三回雄弁大会に出場
△連合青年団第二回相撲大会に出場
△連合青年団第三回陸上、同野球大会へ出場
一九五三年　青年連盟合同問題で本多会長辞任　沖村忠興会長となる。
一九五四年　連合青年団解散、青年連盟に復帰
△第十五回陸上大会に出場、毎年出場。
△第五回相撲大会に出場
△第一回歌謡大会に出場

一九五五年第十六回野球、陸上大会に出場
△第六回相撲大会に出場

一九五六年　機関誌〝協和〟発行。
△同志会誕生。
△第三回卓球大会に出場。
一九五七年　準青年野球大会に出場。
一九七四年　青年会館改装。
一九八一年　会耕作地２アルケールに共同大豆栽培

婦人会正副会長
パイネイラ婦人会
創立一九六二年
会長　大谷ツヤ子、副会長　山岡サキ、佐久間美津子、中村　愛子
児童　現在（八一年）二〇人
ブラジル語科
四代　藤原真理子（一九五四年）

郡立パイネイラ伯語校

年度	教員	学童
一九五八	二	一一三
一九六五	三	一六二
一九七〇	四	一〇八
一九七五	四	一〇〇
一九八〇		
一九八一	三	六二

郡立パイネイリンニァ伯語校

一九五八	二	九一
一九六五	三	八三

一九七〇　二
一九七五　二　四六
一九八一　二　六一

ポルテーラ区
沿　革
開発　一九四七年
面積　三・〇〇〇アルケーレス
人口　五五人（一九八一年）　九家族

年表
開植一九四七年　グレーバ・アメリカーノ（レオン・イスラエル・コーヒー輸出ＫＫ　所有地）三〇〇〇アルケール）の一部をバルボーザ植民会社が分譲。
一九四八年　佐野武男　同社総代理人が分譲開始した。
△十月　ポルテーラ区日本人会創立　初代　会長　三浦　治
一九四九年　日本語学校建設、平藤正慶先生赴任
一九五〇年　女子青年会創立
△ブラジル語学校創立　川手節子先生赴任
一九五一年　会長　木崎　衛
一九五三年五月　矢永初会長　大降霜のため、コーヒー園全滅、在植者５７家族の中３０余家族転出
一九五四年　会長　川浪泰義の時、及川久之助教師、他校に転任、休校となった。
　小笠原宗一翁、霜後、区の財政凶難時代無報酬教鞭をとった。
一九五四年　会長　川浪泰義の時、及川久之助教師、他校に転任、

休校となった。

小笠原宗一翁　霜後、区の財政困難時代、無報酬教鞭をとった。

一九五五年　会長　白井一介
一九五七年　入植１０年祭挙行
一九六二年　山岡侃の協力で電化
一九八一年　アモレイラ＝ＢＲ三六九街道間舗装路　区内を貫通、交通至便となった。

教育
ブラジル語校
一九八一年　児童数　二五
日語校　なし

サンタ・セシリア区

沿革
面積　七・七三四アルケーレス
郡人口　九・九五三人
日系、日全会員　二五家族
会員外　一〇　〃
計　三五　〃
人口　二四四人
標高　五〇〇～七五〇ｍ
サンタ・セシリア郡日系人実態（一九六八年）
開植　一九四八年
面積　日系所有面積　二・六〇五域

不在地主　五一〇〃
新興区　八三三〃
他地方所有面積一・二〇〇〃

同地方は、その昔サフリスタ（豚飼い先住民）が原始林を伐探してはミーリョを植え、豚を放し飼いしては、転々と山を伐って移動して行った。

一九四七、八年には、原始林は伐り倒されつくして、草の伸びるまゝ毒蛇の棲息する荒野と化していた。トレス・バラス移住地の隣接地でありながら顧みられなかったのは、大木が伐り倒された跡、本の繁っていない草原地帯、土人とサフリスタが点在するだけの僻地であったからである。一日に一回、ジャルジネイラ（バス）がアサイに通っていた。

一九四八年、この地帯の大地主、ロンドリーナのマセド家が土地分譲を始めてから、邦人の視察者が増えた。

翌五〇年、標高七〇〇m、地形平担、肥沃なテーラ・ロッシァは忽ち一〇〇余家族の邦人で活気を呈しだした。

年表

一九四八年　菊地新悦、荒沢鉄夫が分譲、
　ルペソ・ソアレスが市街地分譲。
　サンタ・セシリア町、中央区、日勝、平和、共和、大和、新興、パボン区があり、各区に日本人会がある。
一九四九年三月十八日　校舎落成、入植者の勤労奉仕で開校。
一九五四年九月二十六日　汎サンタ・セシリア日本人会創立。
　会長　地田周一、副会長　田中光正郎、
　会計　石井平四郎、書記　薮谷定次。
一九五六年　汎サンタ・セシリア青年会再結成

△六月二十四日　第一回弁論大会開催
△七月十三、十四、十五の三日間、第一回各区対抗野球大会開催。平岩商会優勝旗を寄贈。
△第一一国弁論大会に出場、団体一位、日語部で宮本光明、伯語部で鈴木益美が一位、初。陣を飾った。
△八月二十二日　〃農村協会〃りを登録、校舎、学校敷地の地権を取得した。
一九五七年二月一日　日語校再開、教師　及川　末男。
△第１２回弁論大会で連覇。
一九五八年三月四日　日語教員住宅完成。
△十三日　日語校舎増築。
△七月二日　入植１０周年記念祭盛大に挙行。
一九六二年　石井敏雄、荒井克己　都議に当選
一九六三年七月六日　入植１５周年祭挙行。
一九六四年六月　会員家族調査を行ない名簿録を配布。
一九六五年二月二十一日　汎日会主催第一回棉作立毛品評会開催。
一九六六年二月二十日　第二回棉作立毛品評会開催。
△平野　稔　市議に当選。
一九六七年二月九日　棉作講習会開催。
一九六八年二月二、三の両日、農産品評会開催
△七月六日　入植２０周年祭挙行。
第一回入植者を表彰。
柳　良雄、塩沢省三、平野　稔、鶴田重広　立井照三、小松豊、渡辺要一、丸山
△　汎日会女子青年会の功労者
森口久一、千葉静子を表彰。米村いえ（８８才）ほか１５人の高令者に記念品を贈呈。

△七日　祝賀運動会、歌謡、唱歌大会開催。
△十二月　サンタ・セシリア青年会解散。
一九六九年二月　サンタ・セシリア日会文化部と運動部設置。
△平野　稔　副郡長に就任。
一九七〇年四月　新興区在住者数家族汎目会に加入。

一九七三年　入植２５周年記念一環事業として次の行事を行なった。
△四月二十九日　天皇ご誕生日祝賀式
△五月二十七日　家族慰安運動会
△十月二十八日　球場バックネット建設。
△サンタ・セシリア青年会復活結成式挙行。
相談役・日会長　渡辺要一、指導員　高崎　広英、片山慶治、会長　米村　司、副会長　片山慶一、会計　矢田光生、書記　荒井信夫、文化部長　大橋ペードロ、事業部長谷川好美、野球部長内山俊明、陸上競技部長　片山慶一、フットボール部長　岩永高夫。
△十一月十八日　サンタ・セシリア婦人会創立。
相談役　渡辺要一、顧問　岩永千代子、会長　片山実子、副会長　米村かなえ、会計　矢田つる子、修養部長　林　三千代、修養　副部長　宮本節子、書記　池上千代。
△十一月二十五日　日語校改築委員会結成。
顧問　森口久一、小松　豊、鶴田重広
委員長　渡辺要一、副委員長　平野　稔、
会計　米村　弘、外交材料購入係　平野　稔、高崎広英、森口茂信、現場監督　高崎　広英、岩永伯次、林　洲澄。
△十二月　管内支部対抗野球大会。

△日語校　上水道施設。
△日語校々合と会館改築。
一九七四年六月二十七日　日語校改築落成祝賀式挙行。
改築完成費用総額三〇・三一四クルゼイロス二〇センターボス。
一九七五年　渡辺益美　都議に当選。
一九七八年　アサイ～サン・ジェロニモ間舗装路開通。
△七八年十一月十二日　サンタ・セシリア入植３０周年記念祭挙行
△祭典委員
相談役　森口久一、祭典委員長　大場義夫
祭典副委員長　高崎広英、渡辺要一、平野稔、
会計　宮本康雄、総務　米村　弘、
外交（招待係）平野　薫、前岡　勇、
盆踊り係　片山慶治、矢田宜兀、書記　大橋清治。

功　労　者
功労者　森口久一、宮本太郎、汎日会両顧問、森口茂信（球界）陸上　片山親子、短距離。
球界　大場義夫、前岡　勇があげられる。

種別耕作面積
種類別耕作面積（一九六七年）
カフェー　一七八・〇〇〇本
棉　六〇〇域
米　一六〇〃
ミーリョ　一七〇〃
牧畜数

牛　八二頭
馬　二一一頭
豚　一五四六頭
養鶏　一三四九羽
兎　五七〇匹

サンタ・セシリア日語校
創立一九四八年七月
校舎落成一九四九年三月
教師　薮谷定次一九五三年～一九五六年、
及川末男一九五七年、及川久之助
一九五七年～一九六五年、東海林勉
一九六五年～一九七一年、池上千代
一九七二年～一九八一年現在
児童　五〇人（一九七二年）サンタ・セシリア・ド・パボン郡
伯語校

（八一年）

高商　一
中学　一
小学　五
学童　二・〇八六人

移住地世相変遷

錦衣帰国時代

四、五年したら金を儲けて日本へ帰るんだ、移民は一攫千金を夢みて、六十余日、船に揺られて海を渡った〟悲願錦衣帰国〟を

心の支えにコロノ生活に耐え、人跡未踏の原始林の開拓に生命を賭けて働いた。出稼ぎ移民にとっては、ブラジルの暮しは、仮ものである　堀立小屋、空樽の食器、手製の机、腰掛、つぎだらけのシャツ、貧しい食事、生きて行く限界ギリギリの生活であった。無医、無施設無人の樹海で、日曜祭日を返上して、ただ働いた。開拓のみすぼらしさ、貧しさ、病いに、発狂して死んだ人もあった。開拓の苦しさに耐えられたのは〝金を儲けて日本に帰る〟が心の支えとなって働けた。暗い中から起きて夜まで働いた。働いて疲れた身体には、娯楽も何もいらなかった。寝るのが極楽だった。入植者が十数家族になると学校を建てて日本語教育を始めた。故郷に錦を飾る移民は、ブラジル語を覚える必要はなかった。

△

第二次世界大戦＝枢軸国側に対する取締りは厳重をきわめた。外国語、外国語教育、ラジオ新聞、旅行、武器などの使用、所有を禁じられ押収され、拘束され、資産凍結の軟禁状態におかれた。〝戦がすめば帰国よ〟移民は黙々と働いた。

二世時代

祖国は破れた。移民は茫然自失した。やがて帰る祖国が破れた絶望感は、好むと好まざるとに拘らず、永住を覚悟させた。日主伯従教育は伯主日従教育に変り、二世は母方の環境の中に急速になだれ、同化した。戦前一世を三角形の底辺とした日系コロニア社会は漸く二世を中心とする菱形に推移し、一世、準二世農全盛時代を招いた。

大農機械化時代

重なる降霜にコーヒー栽培が不可能となったパラナ州はコーヒー樹を抜根、棉、大豆、小麦の大農機械化農転向した小地主は、

大地主に買収され、労農夫たちは、新開地、マット・グロッソ、ロンドニア両州に移動又は離農、都市に集中の過疎現象をもたらした。敗戦により永住を覚悟した移民は驚異の発展を遂げた。僅か７５万の日系がブラジル農生産を支配していた。全国民の台所を賄っている〝農業日系〟は、全ブラジル人の絶賛を博している偉大な農業者である。ブラジル最古、最大の規模を誇る恒例のアサイ農産品評会は、３９国を迎え、出品点数三千点をマークしている。

より大和民族的二世像

日語話す９５％　読む５０％老父母を養う９０％

日系ブラジル人は、法律的文化的に立派をブラジル人である。しかし、肉体的には、ブラジル人が言う了〝ジャポネース〟である。二、三世は雑婚しない限り、あくまでも〝ジャポネース〟である。自然、ブラジル社会には入り切れず、日本人社会と二世社会に生きている。完全にブラジル人社会に入り切っているものはごく少数でしかない。このアンケート調査は、トレス・バラス移住地を対象に行なったもので（８１年１２月末）ブラジルの中の日本人移住地という特殊地域で生育したトレス・バラス、三世は、地方の二、三世より想像以上に民族的に日本人であった。〝子は親の鏡〟アサイのデーターは風雪に耐え、辛酸に耐えて原始林を開拓した一世の克己の姿は、子供への限りない訓えとなり救いとなって二世、三世の気質の中に脈々と流れ受け継がれている１大和民族アサイ二世である。

トレス・バラス移住地１７区　二世：一七九人　三世：三五人、計二一四人（平均年令３２才）から寄せられた回答を集計したも

の。
問１、２により二、三世は日本人であると同時に国籍の面でブラジル人である。
問３、郷土日本人移住地に育った二世だけに９５％が日本語を話し、半数が日本語を読んでいる。
問６、日本人が好きな理由　１勉強家　２人情、３勤勉　４正直の順
問７、伯人好きな理由　１明朗、２親切、自由、３愛嬌
問８、日語校必要ですか　ハイ一九〇、８８％　問９、１０、老父母扶養しますか　１一八九、８８％、
日本人会館必要ですか　一八九人がハイ、老父母を養い、日本人会館の必要を認めている頼もしい回答が出た。
問１１、結婚後両親と同居しますか　ハイ一二二、５７％
アサイ日系二、三世の美しい日本民族性を浮彫りにした。日本の若者より日本人的であるかもしれない。
▽問１、日本人と思いますか？
思う　一三八、思わない二九、白紙二
埋由＝血統一〇二、伝統七九、体質四八
▽問２、伯人と思いますか？
思う一八八、思わない二〇　白紙六
埋由＝精神的五一、文化的六四、感情的二七　国籍九九
▽問３、日本語を話しますか？　話す二〇四、話さない、読む一〇三
▽問４、友人は？日系人一五一、伯人八、その他二三
▽問５、場は？　日本人二三、二世五〇、伯人三九
▽問６、日本人が好きですか？　好き二〇八、嫌い六
好きな理由＝人情四六、勉強家五三、正直二九、勤勉三七

嫌いな理由＝内気二、心配性六、無愛想六、利己的四
▽問７、ブラジル人が好きですか？　好き二〇六、嫌い八
好きな理由＝自由五七、明朗七八、親切五八　愛矯四八
嫌いな理由＝高慢八、横暴、無分別八、ずぼら二
▽問８、日語校必要ですか？　必要一九〇、不必要一、分らない一九、白紙四
▽問９、日本人会館必要ですか？　必要一九九、分らない一五
▽問１０、老父母を扶養しますか？　扶養する一二二、しない二七、分らない六五
▽問１１、結婚後両親と同居しますか？　同居する一二二、しない二七、分らない六五
▽問１２、移住地の将来　発展する一五一、しない三四、分らない二二　白紙七
▽問１３、移住地の適性産業　コーヒー四七、ミーリョ七二、大豆一三一、　小麦六八、棉一七二、牧畜二三、養鶏三五、養豚三七、養蚕一二
▽問１４、未来の農業
大農三三　小農七七、農牧八四、牧畜一二
▽問１５、配偶者
日本人二四、二世一六三、伯人一〇、白紙十七
▽問１６、ブラジルの長所　気候六六、平和一一四、大陸六、未来性五〇国民一八、生活四四
▽問１７、ブラジルの短所
学校不足六三、社会福祉七〇、保安一三〇、社会機構四九
▽問１８、日本食好きですか？　好き二〇七、嫌い七
▽問１９、ブラジル食好きですか？　好き一一〇、嫌い四

開拓座談会

ペローバ区
場所　ペローバ区会館
時　一九八一年七月二十日
　　かっこ内は区入植年

出席者
門間節雄（３３）清水六雄（３４）舘脇従男（３４）清水八起（３６）佐藤哲也（ロゼー７４０）丸山茂良（３８）大森建司（４２）木村吉春（７０）

悪童仲間
アサイに入植してから約５０年、共に学び共に働き過ごして来た悪童仲間が、いま皆５０代となった。故郷ペローバ区で平和郷を築いている。
トレス・バラス移住地の区の歴史は、竹馬の友の糸でつながり、ハダシで学校に通った感傷につながる。
５０年史編纂開拓座談会に集まった区の現役は（五十代）筋書のないドラマで作られた少年の日の哀感にひたりながら青春時代に思いを馳せて生き生きと語った。少年讃歌…和気あいあいと実に親しい。
事もなげに語る言葉のはしに土に賭けた移民の命の厳しさが、ひしひしと伝わってくる。嬉しそうに語る人々の姿に、ふっと、この校舎で学んだ少年の日の姿が重なった。４０年前建てられた板の校舎は黒く古びて朽ちかけていた。

教育勅語

清水六『九ツの時、日本学校ができたので（一九三五年）入った。舘脇悦子先生に修身を習った。教育勅語、半分くらいまで覚えている』
門馬『十二の時（一九四九年）に日本学校に入ったが、日本語校が５５人、ブラジル校に５５人　同じくらい居た。毎日喧嘩ばっかりしていた。今の子供はおとなしい』
木村『十五の時、夜学に行った。一晩おきに倉田先生にならった』
丸山　『町のブラジル学校で習って夜学を本村と一緒に習った。遊びはボリンニャとり、陣とりなど』

天秤棒かつぎ

清水六『日本語は四六年頃から勉強した。昼間学校に行って、帰ってきてから水運びと洗濯をさせられた。天秤棒をかついで、ラッタ罐に水を入れて川から運んできた。肩がいたんで、そのために背が伸びきれなかった（笑）それに夜、米つきをやった。昔の話をすると子供たちは古い古いとかたずけるが、苦労しないと人間にはなれない』
丸山　『そう笑うが、第一、今の予は天秤棒はかつげないよ』
門間『川の近くにある井戸から七、八〇メートルかついできた。夜は豆ランプで勉強したものだ。鼻の穴が真黒になって、髪の毛がチリチリと焼けた。なにしろ家にいるより学校に行ってた方が楽しかった。家では仕事しなくちゃならないからナ』
清水六『オヤジは、こわかった』
門間『オヤジもこわかったがヨウたちも悪かった。道の辻に告示版があって連結しあうことになっているのだが、その版を的にして、オモチャのピストルで的打ちをやった。棉の時期になるとカ

リンボをちぎって投げ合いサ、学校帰りにやったものだった』
清水八「それにパチンコ』
門間『ガビローバをマンゲロンに入っておとしでとった。みんなナダシだった。靴なんかない、買えなかった。カミーザもサッコ袋で作って、ドーセなんかなかった。ザラメとラパドーラ』
大森『スイカ、マモン、畑にはあった』
舘脇『キノコ』
大森『ビッショには困った。指の形が変った。』

上等兵

門間『入隊はクリチーバ、上等兵』
清水六『終戦時なので志願制度だったのでカストロに入隊したが、すぐ除隊した』
丸山『クリナーバに入隊』
木村『戦車隊上等兵、月給が新兵の１０倍なので』（笑）
清水六『大平洋戦で日本は敵になったので武器取られた（押収された）泥棒が増えたので非常警戒を行ない青年訓練を行なった。
大戦中の一場の悪夢だが―ブラジルは良い国だ』
清水八『僕は日本人だが、子供はブラジル人、立派なブラジル人になるよう望んでいる』清水六『この大陸に移住してきた両親に感謝している。未来のある大国で楽しく暮せること、これ以上の幸せはないと思う』

☆　☆　☆

５０年史編さんを紙上でみた数間三郎（ペローバ出身、ロンドリーナ在住）は次のように語った。

仙人、山崎瑞仙

数間三郎「第二次世界大戦で日本語教育が禁じられた時、宮下誠二先生はいたゝまれずにクリチーバに移転した。それからわしたちが教授した。菊地さんや、みんなで教えた。山崎爺さんは、瑞仙と号して漢文を良くした。

山上さんは、山の中で養蚕をやっていた髭を生やした仙人のような人で授業は教育勅語ばかり暗誦させていた』

会館建設物語

あの会館建設には思い出が多い。会館建設の発起人は阿部実親子兄弟がとっても熱心で、造ることになった。金なしで造るのだから、みんな山に入った。青年総出で山伐りを始めた。パルミットは伐って割って板にした。一カ月間は畠の仕事を放ったらかしてかゝった一日、九メートルの梁を山から担ぎ出しにかかった。ところが、どうしても担げない。これには困った。あの頃、馬やカロッサを持った人はほとんどいなかったからネ。丁度その時、カロッサの轍の音がガタゴトしてきたでねえか「おーい」大声を張り上げた。近づいてきたのが日本人、菊地　章さんでねえか、地獄に仏とは、あんな時のこったネ、みんな喜んだネ、やっとこさ、カロッサに積んで引っ張った。あの時のことは今でも忘れられねえネ』としかに地獄に仏であったに違いない。

赤木津弥太（３３）田辺　博（３４）田口明男（３４）奥野泉生（３４）

田辺『ジャタイから入ってきた。先ずパルミット小屋を建てた。屋根はタブインニョ（板）カーマ（寝台）はパルミットを割ったの

を並べて、その上にミーリョの皮を入れて作った。
　コルションの上に寝た。バンコ　（腰掛）机（二メートル位の長さ）を作った。それが食卓にもたった。プラッタ（皿）カネッカはイズマルテ、食事は米、フェイジョン、カルネセッカ（乾肉）播いた野菜ができるまでは、それはヒドイものだった。幸い、中央区にはどこにもミナ（湧き清水）があるので水に不自由はしなかった。カマラーダに木を伐らして（一日、5ミルレース）ミーリョ（玉筍黍）米、フェイジョンを播いた。収穫したが土地代アルケール五五〇ミルが払えない（5年払い無利子）翌年棉作した『赤木『アンジラで棉作しているのをみて山を伐って、ロッサして棉作した。良く焼けた跡はできたが半焼の処はできがよくない。低地の棉はできすぎてカリンボ（棉実）が開かない、それでもアルケール四〇〇アローバとった。
　森本、池田、筒井さんも収穫した』
田口　『昔は雨が多くて町に買物に出られず食料がなくなって困った』

大八車

田辺『カフェーも植えた。カフェーは砂地より発育が一年遅いが育ってから強い。まだ銀行が開店されない時代で自給自足だった。大八車（人がひく車）で出荷した。カロッサ（荷馬車）はなかった』
　赤木『カロッサはファゼンデイロ（耕主）しか持ってなかった』
田辺『中央区は町に近いから歩くのは助かった　長谷、滝浪兄弟は米の代りにサツマをはって食べていた。鉢巻で土を堀りおこして　―作物は思うようにとれず銀行はなし、土地代は延期してくれず苦しんだものだ。弁当もって山に行って手車でミーリョやカ

フェーを引いた。中央区は急の山だからひどい。夜９時１０時頃まで働いたものだった。よく病気しなかったものと思う。くたくたになって家に帰ってきて、タンボール（油糧）の風呂に入って夕飯を食べるともう白河夜舟（ぐっすり眠る）だった。その中、カフェーの値がでてきて一〇〇俵でカミニョネッテが買えるカフェー全盛時代となった。ところが５３、５５年の大霜でカフェーが全滅、棉作転向者激増でカフェー生産者は減少、全伯一棉産地に変って行った』

出席者

小山田　実（３５、フィゲーラ区）西村　茂（３５）佐藤留作（３５、ペローバ区）佐々木　繁（４０）久谷アントニオ忠行（３７）佐藤佳司（４１）田辺（３４、中央区）後藤（３２、サンジョン区）田辺、後藤は中央区、サンジョン区での座談会を編集した。

＋　＋　＋

ブラジルは敷地提供、免税などで企業を誘致しているが、このブラジルのお箱企業誘致の元祖は、なんとお膝元のトレス・バラス移住地であったとは、昔、今から５０年前、企業ならぬ　〃商業誘致〃を行なった。

その頃、移住地は時を同じくして売りだされた国際植民地に人気を奪われて、鉄道から遠く離れた移住地に入植する書は少なかった。そこで、臼井支配人は、特典付き市街地分譲（市街地に家屋を建築居住する者に〃無償宅地提供〃の名案を本部に提出した。

水汲み人夫

後藤『一九三二年、ブラ拓職員のムダンサを引っぱってきた池田源吾運転手は半年はどテント生活をしていたが、パルミット小屋（タブインニァの屋根）を建て、住みついた。山伐りの西村組の親分西村市助は、現水源地の坂下の小屋に住んで仁王様のような体で破れ鐘声で人夫を使っていた。勝田卯太郎、阿部幸六、永井純三、小橋高志らが働いておった。

ブラ拓事務所には臼井介仁支配人、島田健三会計、亀山文治郎技師、湯浅信助、おくれて森下　孝（現勝田氏の家に居住）中曽根　進が転住、池辺　清、丸野　勇、植村建造運転手大森、鎌川善蔵、佐藤房太、柿田国義　朝日　勇、田島らがブラ拓のポンプの水揚をしたり、水汲みしたりして飯を稼いでいた。わしも水汲みだった』

田辺『一九三三年に現会田ポストのところにブラ拓事務所ができた。臼井支配人、島田会計　亀山技師、植村運転手などがいた。今の勝田さんの家に森下　孝が住んでいた。郡役所の上側に山口商店（山口　栄）そこに丹治さんが働いていた』

西村『一九三三年頃だったと思う。ブラ拓は家を建て、商売をする人に宅地を提供することにして売り出した。山伐りをしていた阿部幸六は、床屋をやることにして、ダッタを貰った。三宅　武はペンソン、横山盛二は肉屋、高橋豊治はパン屋開業を条件に宅地を貰って仮小屋を建てた。開業した三宅ペンソンのポロンに山田新一が入って靴を叩いていたが、すぐ家を建てた。わしもその恩典に浴して洋服屋を始めた（笑）高橋パダリア、中易、禅院も貰った組だった。古荘貞記、梶原さん、小橋の店もあった』

久谷『古荘さんは井戸堀りしていた。ブラーボな人だった。私は、永井純三さんのカミニョンで入ってきた。丁度運動会の日だった。

ジュンケーラ耕地（カンバラ）から一日かゝって入ってきた。一九三七年、父（勇）がブラ拓製材二代目主任となった』
佐藤留『僕は汽車でジャタイにきてペデボーデ（車）で町の収容所に入った。大森の家や仮事務所があった。収容所はこの下の道にあった。岩崎や鎌川、久場ドトールがいた。小池八雄が運搬、勝田さんが今の家に住んでいた
森下　信が郵便取扱所をやっていた
小本バールがあってバラッカで毎週土曜日にバイレがあった。武徳殿（現裁判所）で桜田、松山、竹山、野本さんらが剣道やっていた。
　武徳殿は戦争中に没収されてしまった』
西村『バイレでは必ず喧嘩がおこって殺しがあったナ』
田辺『移住地最初の小学校教師、辻本正行さんは馬で中央小学校（現中央教会のところにあった）に通勤していた。辻本さんの後に平田、森川義規予備少佐が教えた。中肉小柄な人だった。一九三四年だった。
　組合創立で専務取扱いとなった滝沢半歳が組合に入り、山崎安志が測量していた』

ローソクの灯

久谷『３７年には電気水道はあった』
佐々木『１０時に消灯』
小山田　『ローソクは欠かせなかった』
西村『ムダンサ（引っ越）では一カ月もかゝって米一俵食べてきた人もあった。雨が降るともう車は動けなかったから、車が滑って川の中に落そうになって肝をつぶしたり、木が倒れてきて下敷

になろうとしたり、命拾いしたものだ。水がなくて風呂なんか一カ月も入らなかった（笑）今日は、誰か風呂をたいたか調べて貰いに行ったものだった』（笑）

佐藤留『雨が降ると桶やバシア（アルミニュームの器）を出して水をためた。あの頃の雨水はきれいだった。天秤棒担いで水貰いに行ったものだった』

西村『古城さんのパパイがキントに水を入れてカロッサで売っていた。初め二ミルだったが一九五〇年頃、町の水揚げポンプが焼けてから五ミルになった（笑）

一九三五年は視察者が増えてホテルは満員、水がなくて川に顔洗いに行った。三七年頃には町に日本人が百家族になった』

久谷『三七年にブラ拓支配人住宅や病院、堀抜井戸が完成し、ジャタイからブラ拓と警察署、産組、セラリア（製材所）に電話がひかれた。電話専用の乾電池だった。アサイ～パウダーリョ間もこの年だった』

後藤『田島運転手はパウダーリョ間電話架設していたが、道に出てくる豚を捕えてきては、横山肉屋に売っていた。のんびりしていた時代で、みんなその内をわけて貰ったものだった（笑）みんな貧しかったが善意に充ちていたので楽しかった。開拓の意気に燃えてジャンジャン山の中に入って行った』

働くのが一っぱいだった

佐藤佳「昔は働くのが一っぱいで娯楽などいらなかった。働いて、働いてコロニアの地盤は築かれて行った。

久谷『若い人に歴史を読んで貰い、昔を知って貰うことは人生の大きな参考となり、訓えとなることだから』

バルサモ区
　場所　バルサモ区会館
時　　五月二十日
出席者　　かっこ内は入植年
森下硬一（３４）奥野敏生（３４）奥野　敏（３４）加藤英二（３５）後藤和男（３５）永露嘉人（３６）仲山清治（４０）湯原順三（６４）

食べる物もなかった

森下『入植当時はないものずくしだった。野菜、水、新聞、ラジオ、馬、車、金、山の中だからそれはひどかった』
加藤『開拓はまず食べることが第一だった。生きること、それがどうにか種をまいて食べられるようになってから、第二に教育、子供をカボグロにしてしまっては開拓の意義もない。そこで学校建設した。小贋先生にお願いして始めた』
奥野『滝浪忠作さんがとても骨折ってくれた』
後藤『小鷹先生に習った同窓生に永露嘉人、土田輝夫、加藤好作、滝浪実善、土田千鶴子、みんな一緒に勉強した』
永露『原始林の海だった。フィゲーラ、ペローバ、バルミットが一つぱい茂っていた。マカコ（猿）が群をなしてキイキィ鳴いて枝から枝に飛んでいた』
後藤『オンサ（豹）がほえる声もきいた。鹿、アンタ、ケッシャーダの肉など食べたナ』
森下『原始林の中は昼なお暗くひんやりとした。大気が甘い香り

が漂って爽快だった』

難工事、配水

加藤『それが今は一望の大豆、小麦畑、バルサモ区では水で一五、六年苦しめられた。学校の横に井戸を堀ったが、３０メートル堀っても水がでてこない。収容所に入った人たちは水がなくて困りぬいていた。天秤棒を担いで水貰いに行く姿が実に気の毒だった。

神藤一会長の時（一九四四年頃）四度目の井戸堀りに神さんは深い井戸に下りて働いていた。とうとう出ずに後に五〇〇メートル離れた水源地に１０平方メートルの穴を堀って下側に６０メートルのバレッタ（溝）を堀って排水ポンプで水を流した。みんな裸でやった。延べ五〇〇人かゝって、やっと青年会館へ水を上げた時の感動は今でも忘れない』

森下『日本病院（サンパウロ市）建設の時、邦字新聞がコロニアに募金を呼びかけた。その時、加藤長広さんは（区長）募金運動に歩いた。その寄付者芳名が紙上に発表された。

旧知から手紙がきてネ、長広さんは実に誠実な人だった。バルサモ区の歴史は不自由した。水の解決と野球と文化（俳句）につきると思う。野球と文化はその項に譲ってこのくらいではないかナ』

加藤『それに完成した会館、二五〇万Ｃ$かけた豪華版だ。これだけの大事業は一世じゃできない。若い者の力でこそできたもの、バルサモの自慢だよ』（八月一日、盛大な落成式を挙行した）

パルミッタール区
場所　同区会館
時　六月一八日　出席者
かっこ内は入植年
山岡　環（３４）西村次男（３５）小岸弘次（３５）小岸ジュリオ（３５）倉岡　要（３６）宮部　深（（３６）中山松男（３９）重岡芳人（４１）頼則照雄（４１）小山良男（４１）佐々木新治（４２）

☆　☆　☆

パルミッタール区には日本直来移民、奥野正一法学士、奥田富吉巡査部長？山岡純一親分南　源吾、西村達雄、小岸金吾と多士済々であった。その昔、一九四〇年前後、区会は議論口論の場、奥野法学士と奥田巡査部長が諤々と口角泡を飛ばしたものだった。

その頃、町への買物はテクテク１０教キロの山道を歩いた。一日、奥田、上田貞記、倉岡の三人が町に買物に出かけての帰り、サッコを肩にかついで山路をテクテク戻ってきた。周囲は鬱蒼とした原始林の海、樹海だ。小岸さんの山まで来た時だった、垂れこめていた空からポッリポッリと雨、間もなく大雨となった。三人は樹蔭に雨宿りした。

山のうわばみ

倉岡『まァ一杯やろうと言うことになって、ピンガをラッパ飲み、一週間分買ってきたピンガが空っぽになってしまった。どれ帰ろうとなって上田が立ち上がったがヨロヨロと尻餅、立ち上がってはコロリ、泥だらけになって大笑いしたことがある（笑）小岸、西

村、奥田、大虎揃いだった』

猿の肉

山岡環『入植は一九三四年、ブラ柘が道を開けておいてくれたが、橋がなかったので町の収容所に入って橋作りをした。父(純一)が44才、子供6人、現住居の下に小屋を建てて山一アルケール伐ってミーリョをまいた。ケッシャーダ(山豚)に食べられた残りを横山肉屋に一俵三ミルレースで売った』

倉岡要『オンサ(豹)がいて学校前の重岡さんのところの道の真ん中にいた。じっとしていて動かない。恐ろしいネ。山の中で吠える声がウワーンと響いてきた。気持悪かったネ。

ナンポリ区の石川清司さんは、いかもの食いでピンガの肴に蛇とマカコ(猿)の肉を食べていた。マカコの肉は赤黒くて泡があってうまくない。石川さんは、それをアサ(焼く)してメーザ(机)の抽き出しにしまっておいて食べていたし(笑)

中山『ウルツーなんかも味噌につけて焼いて食べていた』

没収されたまま、返されない土地

倉岡『戦争中、入江さんが殺された時、殺人強盗をつかまえるために山狩りをやった。戦争中なので武器をとり上げられていたので棒なんか持ってやった』

頼則『うちの小屋に泥棒が隠れていた。夜の9時頃、チンボリ区の弟のところから馬で帰ってきて小屋をのぞくと人がいる。若かったので〝この野郎!!〟ってどなって押し開けた。泥棒の奴、ふるえて手を上げた。捕まえて南さんところにいた巡査に引き渡した。バルサモ区でも夫人と子供が風呂に入ってる間に宮地さん(ボテコ経営)が殺された』

佐々木『戦争中、奥野正一と安江浦次郎さんはタンボリ区の土地

６０アルケールを没収された。兵隊が来て即時強制立退き命令してコロノを追いだして強奪した。その土地は第三者に売却してしまって、いまだ返却されてない。これはひどい。わしも日本刀を押収された。勿論そのまま、返ってこない』

重岡『日本語教育が禁止されて教科書を没収されたので教科書を作って夜、巡回教授した。

小山良男、山岡　勲、秋葉光男、土居三郎、土居芳郎、奥野美智宏、倉岡　続、奥野恒美、安江練二などが交友会を作って巡回教授したものだった』

ピンガの勢い

倉岡『入植（３６年）してから三年目に学校を建てた。在植者１５家族総動員で労動奉仕だ。この道べりでトッコ(株)堀りをやった。いやにいばる口達者な大工さんがいてネ、小倉清さんだった。手弁当でネ、ピンガ一杯のむのが楽しみだった（笑）ピンガがでるぞというとみんな集った』(笑)

頼則『ピンガが入るから、みんなよう喧嘩した。会議はいつも喧嘩だった。奥野、奥田、南はようやったもんだ。酒も強かったが気力も強かった。昔の者は土性骨が据っていたよ』

フィゲイラ区

場所　同朋会館

時　五月二一日　出席者

小見盛衛（３４）野崎茂樹（３４）小林一郎（３５）後藤元次（３６）かっこ内は区入植年

井戸開治を知らぬか

トレス・バラス移住地には、まだ草分けが大分いる。みな一風もっている。人生の辛酸に堪えてきた人の落着がにじみでている。苦労が土性骨を据え、人間を作り上げたのだ。

開拓初細の区会を後藤元次は語る。

『その頃の区会は実に真険だった。さながら帝国会議そのものだった。区長ッ！！異議があります。片岡辰蔵さんが手を上げて堂々と意見を述べる。岸戸茂吉さんが起立する。オヤジつまらんこと言わなきゃいいのにと思っていると区長、行政方針を発表しなさい　(笑)まるで議会だよ。また、この区長が傑物、田舎のカリヤドール　(間道)で通り合わせたと思い給え』

井戸『おッ、お前はどこの区の者かな？』

後藤『ハイ、フィゲーラ区の者です』

井戸『フィゲーラ区？フィゲーラのもんでわしを知らんか？わしは万年区長の井戸開治じゃアーン』(笑)

どんと胸を叩いて髭を撫でる。いやーすごいのなんのって、明治の人はサムライじゃったよ』

小林『井戸開治さんから十年ぐらいたって、広沢一人さんが区長になったが広沢さんはマジメな人なので毎日学校(学校の中に会館があった)に通うために広沢さんの畑の中の道が足跡で変ってしもうた』(笑)昔の人、明治の人は節操を重んじ、名を尊んだものでした』

後藤『わしはパラグウスから車二台で来た。コルネリオで雨になってエンカイアしてウライ地点にきた時ガソリンがなくなった。コルネリオに戻ってガソリンを入れて翌朝たったので二日がかりでやってきた』

野崎『わしは三日二晩かかって着いた』
後藤『パルミット小屋の収容所に入った。わしらが初入所だった』
野崎「３４年にはなかった。板屋根だったナ、あの大木があった』
後藤『雨で焼けず、石油をかけてたが、それでも焼けなかった』

移住地唯一のトラック

小林『野崎さんは一・五トンのフォードのカミニョンを持っていた。サンパウロ州から移住地に入った最初のトラックだった。ブラ拓と中易がペデボーデを持っていた。一日、野崎さんがうちの山に入って迷ってわめいていたことがあった』
原『松本泰治さんは大便しに山の中に入ってから出口を迷ってカフェーザールの中に寝たことがある。朝、町にでかける時はカルサを一着持ってでた。露に濡れるので、替えなくちゃならなかった』
小林『本道から学校までの道、青年団で開いた一九三五年だった』
後藤『３６年には学校ができてグランドもでき、北パ野球、陸上、剣道を開催した。

剣道は桜田、佐々木清太郎（初段）永吉二段などがいた。みんなパルミットを伐り倒して食べていた』
野崎『ブジユウ（ゴリラの種類）がいたな』
小林『論田はタマンドアを見にランプを近づけて、噛みつかれた。ロンドリーナのアボーボラ植民地からフィゲーラ区にきた者だがキョトンとして変り者だった。パイネイラ街道には土人がいた。その頃（一九三七年）中央区の森川耕地（陸軍少佐）の独身青年たちが野球を始めた。河野兄弟、林などでバルサモ区で浅見が始めた』

白い馬

後藤『昔はなにかあるとパンフレットを配ったりビラを貼ったり、ねんずくでやったもんだ。豊島先生問題の時、坂本清助親爺は白い馬に乗って調停にでかけた。シャレッタに乗って今のキャデラッキだね〃どうだこの馬〃って』

原『羨ましかったナ、豊島先生は実に変っていたネ』

小林『排斥されて組替えまでさせられる村八分にあった。今、クリチーバの図書館で番人している』

野崎『マルコンデス先生も変っていた。ビッショ（動物）好きでタツー、ケッシャーダ、 鹿など飼っていた』

後藤『山伐り時代、俺は小林のボタ餅にだまされて山伐りさせられた。ボタ餅が食べたいばっかりに、ボタ餅一つで山伐り手伝いしたものだ。あの頃から小林は曲者だった』

小林『ウフフ……そうだったかのォ』

後藤『岩崎がきた時、小林は野崎に岩崎を団長にしてやろう、俺が産業部長をやる。後藤が運動部長、佐々木を副団長、オッセは会計やれ、うんと飲めるぞと言う。岩崎は名門の次男坊だ。窓ガラスの家に住んでいた。岩崎を訪ねて岩崎を団長に推して一杯飲もうって根胆だ。岩崎は団長を引きうけて、まず一杯となった。小林が飲め飲めと俺をつつく、その頃から人を踊らせていた』（笑）

小林『そんな事でもしなきゃ昔は楽しみはなかったよ』（笑）

ピンガ飲まずにいられなかった

後藤『ピンガを飲んだ勢いで開拓したもんだ。

ピンガで苦しさを忘れて働いたと言った方がいい。だから酒豪は多かった。木村の髭爺さんは馬にまたがってゆらりゆらり木村嬉市の大バカ野郎って町の大通りを怒鳴って帰ってきた』

野崎『移住地最初のピクニックはジャタイだった。中易とブラ拓のカミニョンで出かけたがバランカにのり上げて斉藤の娘が足を折った。下敷になったものを病院に運んだり大騒ぎだった』

小林『徳雄も乗っていたが幸い事故死はなかった。これが移住地交通事故第一号、マァ草創期の思い出はこんなところかナ』

グルカイア区
場所　同朋会館
時　五月一七日
出席者
山内孝義（３６）中根与志雄（フィゲーラ入植３５年、グルカイア入植４２）　かっこ内は入植年

サッコの扉

山内『古川さんと佐々木さんの山まで道があった。そこに荷物を半年ほどおいて、ピッカードを開いて山に入った。みんな意気に燃えていた。大工がいないので、みんなで助けあって家を建てた。井戸堀りから道開き、今考えると、よくやったと思う。外人に１０アルケール伐らしたが金がなくなったので、２アルケール一人で伐った。ペローバが多かったので、朝、二本倒すともう昼になった。直径一メートルもある木がアルケールに４０数本あった。フィゲーラの大木なんか根廻りが一反歩くらいあった。キノコができるのでもったいなくて伐らなかった（笑）

山の中にはオンサ（豹）カスカベル（毒蛇）猿、山豚、ペリキッ

ト、アンタ（獏）いたネ』
原『ハンモックを吊って子供を寝かしたが、その下にカスカベルがいた。カマラーダが午後からカッサにでたので肉を買ったことがなかった』
山内『棉小屋にジャララカがいてビックリしたことがある。あの頃は家の戸なんか開け放しだった。パルミーッタール小屋で窓にぶら下げたサッコの扉が風に揺れていた。夜は月の光がさしこんでチバジーの流れの音と獣の鳴き声がきこえてきた。雨が多くてマレッタで全滅した。うちだけがかからなかった。一九四二年頃だった。キニーナやアゲブリーナ、バルダンを飲んだり注射したものだった』
中根『わしは子供だったので、よく知らない。
最初、日伯両校があったが、なくなったのでフィゲーラの学校に行った。藤田先生にならった。日本人はパトロンだし、外人はカマラーダの子だから、みんなおとなしくて、レスペイタしていた』（笑）

日本より良いなァ
山内『とにかく闘志で張り切っていた。労働は苦しいとは思わなかった。日本より良いなアと思った。作るものはなんでも化物のようにできた。カフェーも三、四本で一俵とれた。
４２、４３、４８年の霜で枯れたが、地力があるので回復するので６２年までカフェーをやった。
カフェーを止めたのは老齢で樹が弱ったからで、棉、雑作、大豆、小麦なんでもとれる。
農業は沃土が第一』

セボロン区
場所
市内セボロン小学校時
時　七月一八日

出席者
川田春彦（３６）吉田仲太郎（３７）丹野熊雄（３７）佐藤万里夫（４１）広谷七郎（５７）上山明正（７３）

開拓初期は、どこでも風土病がつきまとう。
移住地セボロン区の歴史はマラリヤとの斗いであった。マラリアが勝つか、人間が勝つか凄惨な斗いが続けられた。山裾を流れるチバジー河は降り続く雨で陸岸に溢れ、マラリアは無気味に猖獗をきわめた。

ブタジレイロ
佐藤『小学校に通っている頃、大人の日本人からブタジレイロとバカにされたものだった』
丹野『そうだった、昔は一世から二世はバカにされた』
佐藤『ブタジレイロとバカにされてね、情ながった。しかしブタジレイロ（笑）ばっかりでブラジル人の子供はほとんどいなかったので　よその地方の子供のようにいじめられることはなかった』
丹野『その点アサイは恵まれている。伯人を日本語でマンダしていたからナ』
佐藤『日本人はパトロンの子、伯人はカマラーダの子だからみんないばっていた』（笑）

川田『よそはそうはいかない。ブラジル人の中に日本人の子が入るので、みんなブラジル語ばっかり』
上山『一九五〇～六〇年代は、日語校が各区にあって全盛時代だったが、現在は霜害でコーヒー園から、大豆小麦の機械展に転向したため農村人口が半減、日詰校も半減した』
川田『アサイにくると二、三世でも日本語で話せるので気持がいい』
佐藤『よその二、三世は日本語は書けないし第一話せるものも少ない』

馬を買う金もなかった

丹野『この区はね、パウダーリョに行く１６支道が一本あった。あとは原始林の海だった。ホイセで木を伐って山の中に入ったものだった』
吉田『その１６支道から日語学校までの連絡道をみんなで造った。一九三八年頃だったし
川田『サフリスタ（外人の豚放し飼い）が歩いた道らしいものはあった。米をとって売るのに、兄弟四人で担いで一俵２０ミルで売った。
　車なんかなかった』
吉田『車どころの騒ぎじゃない、馬買う金もなかった』
佐藤『金がなくて山伐りもこの手でやった』
丹野『ほんとによくやったものだった。ブール一匹買った時は嬉しかった。涙が出たよ』
佐藤『馬は今の飛行機だよ』
丹野『ブールを持ってたのは三郎さん（古賀）だけだった』

吉田『そう、わしも四、五年してから買った』
川田『今でこそ開けきったが、当時歩いて四日かゝってロンドリーナに着いたことがある。
　セボロンをでて中央区の宇都宮さんの家で一泊して池田のバスでジャタイに着いて、その頃は一日に一回しかバスがでなかった。チバジー河をバルサで渡って、それからロンドリーナに、ロンドリーナでは当時診察料は１０ミルだったが、５０ミルとられた。今の金で一万クルゼイロ相当とられたことになる』

魚が足にぶつかってきた

丹野『マレッタで全滅したものナ、患者のない家はなかった』
佐藤『家でも一人死なしている』
丹野『そのかわり魚はいた。下のチバジー河では魚が足にぶっつかってきた』（笑）
吉田『フィゲーラ区でもマレッタがあった。ドトール・バルダール診療所はマレッタ患者の行列だった。一年くらいしてからなくなったが』
原『その代りと言っちゃなんだが土地はいい』
上山『セボロンとフィゲーラ区は実に土地がいい』
吉田『棉の木が子供が登れるくらいにできた』
丹野『一九五〇年代は一アルケール六〇〇アロローバもとれた。モジアナの棉作り名人、岡野　健が見にきてこれはすばらしい。できた棉でなく、作った棉だと言った。何しろ一回摘みで四〇〇アローバ（アルケール）とれた。

喧嘩古賀

吉田『青年団をつくってトレス・バラス青年連盟に加入した。その発会式を新年宴会をかねてやった。その時、古賀三郎さんと志津さんが喧嘩をやった。古賀さんがピンガの入っているガラフオンをぶん投げた。志津さんが気絶してしまった』
丹野『大変なことになった。すぐ志津さんに水をかけて蘇生させた。その事件で金松が会長を辞めた』
吉田『原因は、新年宴会の順序がなっとらんと古賀さんが言いだしてケンカとなった。酒が入ってるから勇ましい』（笑）
佐藤『二派に分かれて大分もめた』
丹野『俺も古賀さんとケンカして青年団長辞めたことがある。古賀さん、まだ３３才くらいで短気だったものナ、殺気でソバによりつけなかった。その位みんな元気だった。だから道のない原始林の中に飛びこんで開拓できたんだ』

ロゼイラ区
場所　ロゼイラ会館
時　　７月１８日
出席者

川野春蔵（３６・６・１７）菊地　繁（３７）
荒堀徹夫（３７）清水又一（３７）清水　健（３７）清水鶴雄（３７）児島　正（３７）菅野俊雄（３７）児島三次（３７）住谷正雄（３８）岡村　英（４１）西田　繁（４４）坂本二三二（７８）
渡辺章（７８）宮崎仁士　遠藤利幸（８０）　かっこ内は入植年

日本人は日本人の中

川野『町の収容所に一週間いてね、今のベンダのある所に小道があってネ、そこから入ってきた。原始林の山でネ、父（武三郎）が３８才私が１７、叔父の宮村繁人と弟、孝一の四人だった』

荒堀『ムダンサ（移転）してくる時、バストスの先でカミニョンが焼けて荷物が丸焼けになった。母がミソ桶の中に入れておいた金だけが助かった。移住地の収容所(現区小学校のところ)に入ってから入植した』

住谷『収容所が満員だったので草茫々のひどい新山道を１０キロ以上歩いて入ってきた』

清水鶴『わしは伯人の耕地にいたが子供が生れた。木は木の中、日本人は日本人の集団地の中と思っている処へ島崎岩吉代理人(移住地土地販売代理人）の宣伝をきいて移転してきた』

荒堀『倉庫はパルミットの板壁、住居は板の小屋、屋根はタビンニァ（板を割った板瓦）入植者の協力で建てた』

児島『グランドは青年がトッコ（株）を堀って造った』

清水鶴『架橋工事は総動員でやったナ』

教育村

菅野『太平洋戦中、日本語教育が禁じられたので熊谷清さんが巡回教授をした。中家種男さんが青年を指導して夜学を始めた』

清水鶴『日本語話して牢屋に入れられたよ。わしは戦勝組だった。神州不滅の教育をうけて育った人間だから戦勝を信念としていた。訪日して精神力と科学力の差を知って、帰伯してから榛葉さんに敗戦を認めに行った。榛葉さんはほめてくれた。ロゼイラ区は先輩に偉い人がいて教育に熱心だった。荒堀、川野両先輩が子福者も子の少ない人も、みな教育できるような制度をつくったので、

みんな助かっている。昔、教育基金作りに町に寄付を募りに行った。中易にことわられてから乞食は

すまいとそれから寄付廻りに歩かない。あれから４０年になる』

清水又『荒堀、川野さんが区から立派な人が出ることは区の名誉だと先生を優遇して教育に力を入れている。ロゼイラの誇りと思っている』

原『今、町で五〇〇万クルゼイロス、四教室増築案が持ち上がっている。町の日語校を小学から中等校まで統合する〃教育の殿堂〃で５０代の二世が音頭をとっている。外国語として祖先の国の言語は祖先を知り祖先の国の文化を知るためにも、ぜひ子孫に伝承させたい』

☆ジャンガーダ区は、古参者の出席がなく話題少なかったゝめ割愛しました。

カビウーナ区
場所　カビウーナ会館
時　　７月２０日

南原春雄（３８）飯田三次郎（３８）小山田吉郎（３８）長谷川昌輝（４０）小笠原竹雄（４０）平栗征司（４１）島田　巧（４２・郡全議員）樋代武夫（５０・教員）かっこ内、区入植年

オンサと毒蛇

南原『学校の下に収容所があって、そこに郡司とわしが入った。１６家族入った。熊田さんも同期だった。斉藤　巳さんが先に入っ

て、小山田さんは服部さんの契約者だった。
　原始林の山でナ、斉藤　巳さん酔っぱらって這って帰ったことがある（笑）
山焼いたあとのトッコが一杯でカスカベルがいて、危険だった。十匹ぐらい殺した』
小笠原『私はベラクルースで借地棉作りしていたが、日本の声のかゝった処にきた方がよいと移住地に入ってきた。４０年に４３家族入ったが収容所に入って原始林の山だろ、恐いところにきたナと思った。収容所の中では、みんな元気が良かったので、飲んでいる。気が立っているから、すぐ口論が始まる。恐しいところだった。その人たちももう半分もいない。みんな死んでしまった』
南原『労働したあとの一杯で疲れを忘れる。また労働したあとの一杯はうまいものナ、ピンガの勢いで苦しみを忘れて働いた。自然強くなるわけだ。入植した年、区会ができた。会館がなく、親爺が区長やったので、家で会議した。アビーザ（通知）するのにフォイセでピッカーダ（小道）を開いて歩いて廻ったものだった』
小笠原『獣がいたので山の中にカラパット（ダニ）がいて、たかられて困った』
南原『カリアドール（間道）を開く時、オンサ（豹）がでた。山の中に姿をかくしたが恐かったナ、道にタマンドア（蟻喰い）が二匹いた。立ち上がって人間より高い。二八〇メートルはあった。フォイセで叩き殺した。ペリキット（オヽム）の大群が、空いっぱいに鳴きながら飛んでいった。蝶々が紙吹雪のように飛び上がったりしたものだが大農となって農薬を使いだしてからいなくなってしまった』
長谷川『タツー（アルマジロ）が交尾していたが、蹴飛ばしても逃げない』（笑）小山田『マカコ（猿）はたくさんいたナ』

長谷川『水くみに行った時、ウルソー（毒蛇）が立ってノドをふくらまして襲ってきた。ゾッとしたネ、カスカベルと同じだが、鈴がない』
南原『カスカベルはコーバ（カフェーの穴）の中によくいた』
長谷川『佐藤さんのみよ子ちゃんが噛まれた。
カロッサ（荷車）で町に連れていった。一五、六キロ、ガタガタ揺られて行くのだからネ、時間の長かったこと』

農業の後継者を

南原『セッカ（早魃）で水くみに４キロも歩いた。山火事で作がとれない事があった。一九四〇年だったナ、カビウーナ区は、標高が高い（六〇〇メートル以上）　ので、何回も霜害を逃れたので、一九七五年までカフェーは４メートルくらい繁っていた。二本で一俵とれた。それが、七五年の霜で全滅したので、大　豆、小麦作に転向した。霜のこない地帯でカフェー栽培しようとフランカ（モジアナ線）で始めたが、カツアイ種、ムンド・ノーボを植えて、アルケール六〇〇～七〇〇俵とった（８１年７月２０日の大降霜で被害をうけた）教育と同時に子供のうち一人は農業を継承して欲しい』
原　『一世の開拓精神は、受けついで貰いたいものだ』

アモレイラ区

時　　７月１９日
場所　アモレイラ会館
出席者

酒井　隆（３９）大崎伝市（４０）山本盛志登（４１）山本多美（４１）為弘　明（４１）為弘富江（４１）匹田よしえ（４１）鈴木秀雄（４１）坂本節年（４１）荒川亀子（５４）出口亮三（５１）清水久直（５８）水本清治（４７）縄手保子（６０）小林徳雄（７３）
松山　孝（７３）かっこ内は入植年

昼間働いて夜洗濯

アモレイラ区(アサイ)では婦人が５、６人加わって賑った。低地は白一色で包まれた霜の朝（１９日）アモレイラ会館に集った人々はブルブル縮こまっていた。話題が開拓当初の少年、少女時代に移ると、話が活気を帯び、笑いが会館にハネ返った。

山本多美『カビウーナに入った時１２才で、同級生に塩沢房吉、渡辺　強、服部ジュリオさんなどがおりました』

山本盛志登『なんだ、お前の同級生は男ばっかりかい』（爆笑）

為弘富江『１２才の時バルサモに入りまして、同級生に酒井　隆、山口あき子、中島正子、中島房江さんなど』

為弘『お弁当をもって行きました。その頃は山の中で働いておりましたのでマッシャードの音をたよりに行くのですが、山伐りして倒れた大木をまたぎながら行くのですが、カフェがみんなこぼれて着く頃には無くなっていました』(笑)

坂本節幸『僕は１１の時、アモレイラに来た。勉強はしなかった。シチリンゲ（パチンコ）で鳥獲りをやった』

為弘明『戦前、日本語熱は大したもので、みんな一生懸命やった。戦争に勝って日本に帰るって思想時代だったから』
荒川亀子『一っぺんに変ってしまったが、昔は小川に洗濯に行って水をかついできた』
小林徳雄『タンボールの風呂に入ったものだった。昼間は明るくて見られるから夕方に入った(笑)小川でサッポが鳴いていた。先生がオンサが出たら逃げたらいかん。みんなかたまって帰るようにと言った。オンサの出る山道をよく親は通学させたものと思う。昔の人は勇気があった』
縄手夫人『小林さんは日本字がとても上手で、日本で習ったのでしょう』
小林『こっちの小学校ですよ』
縄手夫人『学校で図画の時間が楽しみだった』
小林『ペローバと小屋の絵ばかり措いていた』
匹田よしえ『私は昼間畠で働いて帰ってきてから夕飯の支度、子供の世話で、カフェー妙りや洗濯は夜したものでした』

野菜をみに行くのが楽しみ

為弘夫人『入植当時は野菜一つ食物がありませんので、蒔いた野菜を見に行くのが楽しみで毎日畠に行きました。バナナも花が咲くと蕾に蜜ができて蜜蜂が集ってきます』
山本夫『人参や大根畠でとって生で食べたものです。甘くてとてもおいしくて、レポーリョ（キャベツ）などできすぎて真中からヒビが入って割れたものです』
縄手夫人『雨が降ってくると遠くの山に雨足がみえて、ミーリョが倒されたりすると子供心にも悲しくなって反対にセッカ(早魃)

で枯れそうになっていたミーリョが雨がくるとミーリョが生き返って、子供心にもとても嬉しかった。』
匹田夫人『自分の土地には愛情が湧き、作物に愛情を覚える。だから真剣です。これが成功の一番の原因だと思います』
大崎『入植当時はマルゴーゾ（雑草）が生えている。高原と原始林で、町にボテコが一軒あったきりだった。４８年頃になって伊藤金次郎さんの雑貨商と北山善次郎さんのパダリアほか伯人の店が１０軒くらいになった』
清水久直『弁当を下げて歩いてアサイに買物に行ったものだった。２２㎞はあった。帰ってくると陽は暮れていた』
パイネイラ、カビウーナ区の人達は、早朝、緑の樹海の間の小道を１５～２０㎞、馬や徒歩で町に買物に出かけてはサッコを担いで帰ってきた。
家に辿りつく頃は夕暮れて、原始林の山が魔物のように黒く沈んでいた。４０年後の今は原始林はみられず、冬（六、七月）の移住地は一望、緑の小麦畑―
清水『オンサの話だが、兄はウライに行く道で　オンサに出会ってピストルで打とうとした。
　外人が打つな、打ちそこなったら大変なことになると言う。そこで道べりで弁当を食べてオンサがどくのを待った。そこへ外人が後から馬できたが、馬がいなないて動かない。オンサは悠々と道の真ん中に寝ているんだ。
　その中やっと山の中に入って行った』
荒川夫人『セッカ時期には山に火が入って家のすぐ側まで焼けてきた時はこわかった』
縄手夫人『そうですネ、こわかった事は沢山ありますが、嬉しかったことは、やはりカーザした時ネ』

後藤　稔（４１）星野量一（４１）秋葉隆三（４２）尾形末蔵（４２）村上　毅（４４）白田　誠（５６）かっこ内は入植年

土地取上げるぞ

後藤『この区は英国のシンジケートからマックス・ウエルが買収して五年賦で分譲を始めてから（一九三九年）すぐ世界大戦となったゝめ日本人に売らず外国人だけに売った。三年目の支払いの時（一九四一年）年賦払わんと取上げるとおどされた。戦争中だから圧力を加えてネ、こっちは敵国だから弱いさネ』

尾形『わしはサルバ・コンドット（旅行許可証）　がすぐとれず入植が遅れた』

後藤『警察がうるさくてムダンサ（移転）も大変だった。守屋が手伝いにきてくれてソルダード（兵隊）に金をやって帰って貰って引越してきた。当時、集会を禁じられたのには困った。しかし、魚はいっぱいいた。一人で二百、三百キロもとった。カザメント（結婚式）なんかチョット待ってナって具合で川に行って取ってきて、サシミにする。あの橋下（チバジ橋）で四、五〇キロあるジャウを一六〇キロもとった。兄貴（清喜）は先生していたが、子供たちに腹一杯食べさせて、みやげにサッコにつめて持って帰ったものだった。チグリンニョ（地名）にはオンサ（豹）がいた

村上『星野さんのところにオンサがいた』

尾形『チグリンニョはアンタ（（獏）の巣だった。アンタの肉はゴツゴツしてうまくない』

後藤『山豚が穴の中に逃げこんだので棒で突き殺したことがあった。この区にはまだマカコ（猿）がいる。ポチンニョ川でコブラ

がカピバラ（水豚）を追っかけていた。フィゲーラ区にはコブラがたくさんいた。小見　寛のカフェーザールでコーバ（穴）を棒でリンパ（片付ける）して、一日に１２匹とったことがある。ウルツは、なおこわい。襲ってくる。大豆畑になってから増えた』
尾形『棉畑の時は農薬を使うからいなくなったが大豆になってから増えだした』
後藤『入植当時は車がなくて、あのペデボーデだった。星野量平は酒豪だった。倒れた時、雨の中を歩いて町に医者を呼びに行った。ドトール・ジュリオンが来て道から歩いて手当してくれた。戦争中、ジャタイの店は砂糖を売ってくれなかった。自由によその町に行けないので、夜コルネリオに砂糖を買いに行ったこともある』

気が張っていたから苦しさは感じなかった

尾形夫人『いろんな事がありましたネ。私は二五、六才でしたので気が張っておりましたから苦しさは感じませんでした。朝、お洗濯をすましてから子供を寝かせて山にでました。蟻にくわれて死んだ子供の話をきいておりましたので空ラッタ（缶）に水を入れてカーマ（寝台）の脚を入れておきました』
尾形１当初はカフェー、４２年の霜には助かったが４３年の霜にやられたが、又、カフェーをやった。５３年の霜にやられてから棉、そして大豆、小麦に変えた』
後藤『マット（原始林）を伐り開いたので妨害物がなくなって、気候が変ってしまった。こう毎年霜がくるようになっちゃ、パラナのカフェーはお手上げだネ』
尾形『カフェー生産地は北伯に移動する以外はない』

セードロ区

場所　セードロ会館
時　　六月一八日
出席者
佐藤弥右工門（４０）岸野哲夫（４０）岸野三郎（４０）小野勇（４６）島田松雄（ポルテーラ５１）　山岡　侃（ポルテーフ）村上　陽（４７）　　かっこ内は入植年

みんな山岡さんにお世話になった

岸野三『２３才の時、父と兄と入植した。一九四〇年七月七日、ブラ拓からムダンサ貨(汽車賃)補助をうけて入ってきたのだが、池田　栄太郎、石原貞伊、宮崎貞一、木村四郎とうちの五家族一緒だった。６月２５日にウライの山に入った。その小屋で石原アサ子が生れた木村は石原の所に入った。食べるものがなに一つない。パルミッタールの山岡純一さんにバタタ、マンジョカなど貰って厄介になった』

佐藤『道作りに伊藤さんとパルミットを伐っていたが、滑って足を折った。入植当初家も建てゝない時なので苦労した』

岸野『開拓初期はできすぎて困った。棉なんか木ができすぎて、半分捨てゝしまった』

村上『フェイジョンもよくできた。値が安くてフェジョン、カミニョン一台（５０～６０俵積荷）と小麦粉一俵ととりかえっこした。なんてピアーダが生れた。ミーリョなど、山豚やペリキット、マカコに食べられてしまった』

岸野『ひどい道を四ツ車でウライに出荷したものだった。その頃、一九五〇年頃、石原さんが倉庫で柔剣道をやり始めた。みんな若

かった。第一回運動会（一九四五年）には青年総動員で、トッコ、アランカ（堀る）してやった。６１年には電化したが、山岡　侃さんの手柄だ』

山岡『そんなことはない』

岸野『とにかく昔は貧しく苦しかったが、楽しかったヨ、みんな善意に充ちていた』

パイネイラ区

場所　ハイネイラ会館

時　　六月二五日

出席者

渡辺辰雄（４１）幕田秋男（５１）会田正義（５５）松尾文子、渡辺　肇、幕田春代、樫本又二（６０）岩田義久（６１）

かっこ内は入植年

名物櫓タンキ

渡辺『パイネイラ区には名物がある。学校に水がないので、総動員で井戸掘りをやった。高さ１５㍍の櫓を建て、タンキを上げてボンバで水を揚げて六〇〇㍍離れた学校に配水した。

１５㍍の櫓に上がってタンキを据えつける仕事は難工事だった』

樫本『何しろその櫓に登ると揺れるので恐ろしい代物です。ユーカリの柱を次々と縛ってつぎ足して行ったヒドイもので、村上先生が上がったがこわくて仕事ができない。藤原七郎大工さんが上がって、やっと仕事をした。タンキの苔、掃除に上がると揺れる、すごいものです』

とにかくこの名物の櫓タンキによって学校に給水できるように

なった』

マラリアと腹痛

岩田『今、思ってみると、よく病気しなかったものと思う。町の医者の処方箋はマラリアか腹痛ときまっていた。小野さんが蛇に噛まれた時、アモレイラ町に走って行ったが注射がなくて、アサイの町に連れて行ったくらいのもの、みんなよく病気しなかったものだ』

日本語は大切

樫本『ブラジルで日本語を教えるのには、先生がブラジル語を知らないと教えられない。カラスはコルボ、石はペードラとボルトゲースで説明する外ない。家庭で日本語を使うようにすることが大切で日本語を覚えておかないと必ず後悔する時がくる。後悔しないように覚えて欲しい。パイネイラ区は、日語教育熱心なためにみな日本語が話せる。日本からきた修道女さんも日本語が話せるとは考えていなかったと感心していた』

幕田『せめて会話だけは日本語で話して貰いたいと思う』

岩田『ブラジル語を勉強する余暇に日本語も覚えて欲しい。親のためにも、自分のためにも』

サンタ・セシリア区
場所　宮本太郎宅
時　六月二五日
出席者　宮本太郎（４８）平野　稔（４８）郡全議員）
渡辺要一（４８）矢田由高（４８）平野　薫（４８）岩永高行（４８）大場義夫（５８）藤村アルマンド（７４・医師）

かっこ内は入植年

再生林地帯

平野稔『サンタ・セシリア、サン・ジェロニモ奥は一九二〇年頃からサフリスタ　（豚の放し飼）が入って大木を伐り倒して売った。あとで豚を放し飼いした。だから二帯が再生林で大木はない。大木がないカッポエイラ（高原）なので痩地と思われて購入者がなく、荒涼としていた。一九四八年、サン・ジェロニモのジョゼ・フエレイラ・ミンゴッテ郡長やマセド地主がこの一帯を分譲しだした。移住地に隣り合わせているので、急速に開発された。

向いの山は土人の保護地域だ。アサイからサン・ジェロニモに道が一本あっただけで、購入者はエンシャドンで道を開いて入植した。みんな協同作業でやった』

宮本『移ってきた時、町に家が七軒くらいあった。アサイの町から歩いてきたものだった。

今は舗道となって近くなったが（２２ｋｍ）その頃は３０kmはあった』

平野稔『歩いて４時間かゝった。昔は足が強かった。山の人と町の人とは足が違う。この頃は、つまずくようになったが』（笑）

宮本『その道が天気が続くと蝶が舞い上がり、雨が降るとツルツルのぬかるみになって、カミニョンがエンカイア（滑って）して長い行列を作ったものだった』

心の支え錦衣帰国

平野稔『入植した時は小屋にエンセラードをかけて入った。大戦後でまだ日本人社会は混沌としていた。戦前は金を儲けて日本に

帰ろうと一生懸命働いた。ただそれだけを目的に働いた。家も堀立小屋のあばら屋だった。戦事令で日本語使用禁止(公共の場)されたが、みんな隠れて日本語を勉強した。だからブラジル語は勉強しなかった。家の廻りに花一本植えなかった。それが戦争に負けてから、帰る祖国を失ったという気持が、永住に変った家の廻りに蜜柑を植え花も植えだした。それから農業、日系の発展は知事や大統領までが、その功績をほめちぎってくれる』(笑)

藤村ドトール『教育の関係で、やはり日本人の子は病気しない。ブラジル人の方が多い。農村の病気で一番多いのは、蛔虫、日系では老人病』

平野稔『病気で気がついたが、サンジェロニモのライ病院(佐々木神父経営)で長崎から修道尼が6人きて、皮膚病患者の手当をしている。3人はアモレイラの托児所で働いている。開拓の苦闘談はどの区も、みんな同じと思うので、この位でいいのでは…』

歴史の裏

４人放談

時一九八二年一月三一日
所・羽山克巳宅
出席者・丸山由三（ペローバ区３４古北政次（ジャンガーダ区３８）岡村清巳（ペローバ区４１）羽山克己（ジャンガーダ区４０）　（　）内は入植年

青連合同劇

丸山『戦後トレス・バラス教員会が、分裂したトレス・バラス青年連盟の合同運動を起こしたが、仲々進まなかった。この合同問題のキッカケを作ったのは、僕と名久井一だった。

偶然ロンドリーナ行きバスに同席して、合併問題に触れて、手を握ろうと言うことになった。呉越同舟だった（笑）

それから急転直下に合同されたのだが、歴史には乗ってない。どうでも良いことだがね』

古北『世の中は、そうしたものだよ。とかく縁の下の力持ちは表面には現われない。歴史は陽の当たる場所を歩いた者しか現われないものだよ　〃一将功成って万卒枯る〃だよ。実際北パラナ運連復活運動を起こしたのは、岡村理事長、ぼくが副で奥野恒実会計、笠岡達男社会部長らで復活準備相談会を開いて、ウライの西村市助御大と何回も下相談したものだった。機到って調印となったが、トレス・バラブス２５周年史には調印式に顔を出した者しか乗ってない。代表になっている木村は野球だけで何もしてない。岡村は第一出席してない。出席してない者が代表で出席したことになっているのだから妙だ。とにかくお膳立したのは、ばくら四人だった。定款を作製して登録したのもわしだよ』

岡村『話はかわるが森　潤介は、臣連には入ってなかったが、強硬派だった、めに理事長を辞めることになった。代りにぼくがなったが酒井さんなど、〃いま川崎三造がきている。
日本が勝っている証拠を見せてやる。聞きにきなさい〃と勧誘されたものだった』

思い出ちりじり

丸山　『そう同級生と言えば、僕はペローバ小学校第一回生でね、同期に数間梅子、数間秋子　本庄保子、会田三郎、本庄信重、清水五郎と僕の七人、席順まで目に浮んでくるよ。舘脇悦子先生は上品な人だった。よく肩をこらして、学校帰りにもんでやったものだった』
岡村『中司の兄は長距離で名を売ったが、真赤なシャッツを着てハデだったなァ』古北『当時は（一九五〇年前後）熱が入って盛んだった。青年会員が八〇〇人、幹部が３４人もいた』
丸山『各区の応援団が仮装して旗や太鼓を鳴らして応援したものだった。郷土愛があるから熱が入る（写真参照）そうだね、青年連盟の功労者と言えば、本庄　賢二菊池　端、森下　信といったところ。
丸山『弁論大会では失敗談がある。ヒヤかされて、つまって次の文句がでてこない。あの時はヒヤ汗が流れでたよ。それから練習して北パ大会で二位に入った。
一九五〇年前後で滝浪　誠、佐藤照徳、林繁信、木村要一郎、丹野隆吉、秋葉隆三、小林徳雄大分いたよ』
羽山『猿橋昭夫は日伯両語でやった。林　繁信は、誰の耳にも一位入賞間違いなかったが、三位に落ちた。審査員が一〇〇点満点のところ一〇点満点につけたものだから三位に落ちた。ぼくは採

点集計係をしていたので後からわかったことだが―』岡村『戦争中、アルマンド・クラーボ、組合監督官が増資を始めた。池田友忠、永井純三理事時代で、池田さんはコンプレンデウ、コンプレンデウの連発だった』（笑）

人物と成功者

丸山『全く二言目にはコンプレンデウだった。
（戦時中日本語使用は禁じられていた）あれで押し通したからな、偉いよ（笑）そうだな、人物は、後にも先にも館脇利一さんだろう。本庄賢一、菊池　端、上野アントニオというところかな成功者は『堀一俊、古川　章、原　勉、湯沢　啓（養豚）出身者では、岡村良雄（ＹＯＫ農機製作）山口義雄、阿部タイヤ再製工場、田中行成（ナッタ製油会社）本庄賢一（アグロスール　種苗）吉井　巌、熊谷良雄、登、四ツ本二郎（共営ビアソン・ウムアラマ）妻沼忠雄（コロラード）中家種男（エンジネイロ・ベルトロン）上田作之進（ＣＯＦＥＬ）中司三郎、羽山克己（ビデオゾン）住田輝雄（ＳＡＥＬ故人）そんなところかな‥』

トレス・バラス青年連盟

創立一九三五年三月三日　参加支部・中央、ペローバ、バルサモ、フィゲーラの四区、６８人、中央市街村小学校で会合
初代団長　中曽根　進、副団長　森下　信
△四月　機関誌発刊
△郵便事務取扱い
△第一回陸上大会開催一九三六年　団長　森下　信、副団長　中曽根　進、パルミックール支部加入、団員一二二
△第二回陸上大会開催
△ロンドリーナへ遠征、惜敗
一九三七年　市街地、セボロン加入、七支部となる
△青年連盟結成　顧問　臼井介仁　理事長　西村市助、副理事長　菊池　端　理事　相沢治平、本庄賢一、柳川琢治、西村恒夫、書記　久保庭　亮

地区名	理事	監事
中央区	村田行一	池田清広
ペローバ	菊池　端	会田一雄
フィゲーラ	小林一郎	佐々木啓太郎
バルサモ	木葉市三	植田貞晴
パルミッタール	山岡　環	欠員
セボロン	吉田仲太郎	河野広吉

△市街地グランド起工
一九三八年　理事長　西村市助、副理事長、菊池　端
△弁論部新設　部長　菊地新悦
△産業部新設　部長　塚原喜美夫

△第一回産青連講習会　本庄賢一を派遣
△第二回全伯陸上大会に選手４人出場
△柔剣道連盟アサイ支部創立
　支部長　島田俊三
△陸上大会を目前にして
　中央と市街地が合併出場することに端を発して第三、四回と連勝したペローバ青年会が連盟を脱会、第五回大会に不参加
△七月一三日　中央グランド落成　建設委員　西村市助、菊池端、本庄賢一、　相沢治平、桜田松麿、塚原喜美夫、津田丈、柳川琢治、久保庭亮、菊地新悦（以上青連役員）池田清広、林文吾、西村恒夫、中易　正吉、山室新太郎　西村組が建設、これに青年団が勤労奉仕によって完成した。青年団はペローバ、フィゲーラ、市街地、中央、バルサモの六、工事費は寄付で賄われた
△同グランド最初の行事、第三回各区対抗陸上開催
△八月二一日　北パ青年連盟創立理事長　横沢太一、副理事長　森下　信　連盟主催第一回陸上野球大会移住地で開催
△高令者名簿製作一九三九年　理事長　舘脇利一、副理事長　菊地新悦
△ペローバ青年会、連盟に復帰
△第二回コチア産青連講習会に、津田穂風、丹野熊雄、佐々木啓二郎を派遣
一九四〇年　理事長　舘脇利一、副　本庄賢一
△機関誌〝土赭〟旬報発行
△秋山昭禅　来植
△青年連盟準産連体制プラン作製
一九四一年　理事長　森下　信、副　菊地新悦
△第二次世界大戦激化

△陸上チーム、クリチーバに遠征、非登録団体のため試合できず帰植

一九四二年　休会

一九四六年　終戦の翌年再会

理事長　森　潤介、副　岡村清己

会計　中原秋男、社会　山崎普一

運動　木村要一郎、相談　森下　信

加入団体・市街地、中央、パルミッタール　セードロ、ジャンガーダ、ロゼイラ、ペローバ、サン・ジョン、フィゲーラ、バルサモ、カビウーナ、セボロンの１２一九四七年　理事長　岡村清己、副　古北政次

△六月二九日　大戦中休会していた北パ青年連盟、ウライ会議で〝北パスポーツ連盟〟として復活、結成式を挙げた。

アサイから木村要一郎野球郎長を代表に、菊池　端、小林一郎、川瀬正三、三先輩が出席した。上野アントニオ（カンバラ）森正明（バンディランテス）江原（サンタマリアナ）山中、只野文児、山形（コルネリオ）西村市助、久万　浩、杉谷（ウライ）半田秀夫、大沼　薫（ロンドリーナ）の５支部代表１１人が出席

△十月　中央区協和会青年会と中央区青年団の連盟加入に端を発して、岡村理事長以下　役員総辞職、再選の結果　理事長　西尾茂、副　今井勘一郎　当選

△アモレイラ青年団、旭青年団、パイネーラ　青年会加盟

△中央区青年団脱会

一九四八年　役員選で理事長　西尾　茂　副　庄司　寛　当選、西尾固辞した丶め再選、理事長　古北政次、副　阿部正春

△六月一三日　北パ・スポーツ連盟合法団体となる。同連盟アサイ支部法定役員　理事長　井本　稔、副　酒井麻一

会計　神　信次郎、書記　尾西博幸
文化　森本昌生、陸上　宮坂　実　　野球　坂口光喜
△北パ陸上大会（ロンドリーナ）に出場
一九四九年
理事長　菊池　端、副　古北政次
△ポルテーラ、タンボリ、ジャクチンガ、中央区青年団加入
△講習会、修養会、農事講習会、農場見学、トラホーム治療、検眼、検便、十二指腸虫駆除、各区にシネマ巡回上映、雄弁集発行、

一九五〇年　理事長　菊池　端、副　西尾　茂
会計　小林一郎、
社会　楽得嘉一郎
武道　市川　浩、
農事　串間　近
野球　星加和久、
娯楽　藤井　寛
陸上　上川　孝行、
相撲　後藤和夫
△一月初旬　全伯青年連盟トレス・バラス支部創立委員会（勝組信念派）当連盟に合流を要望したため、合流賛成派と不賛成組、中立派の三派に分裂した。脱会区はカビウーナ、パイネーラ、セードロ、パルミッタール、ジャクチンガ、ロゼーラ、セボロン、ジャンガーダの８支部
△二月　青年連盟解散
△三月五日　解散宣言を解消、十二日残留組８支部と、結成したばかりのアサイ文化協会が鳩合〃新トレス・バラス青年団〃を創立、北パ・スポーツ連盟に加入した理事長　安保慶太郎、副　上

野義雄　副　小林徳雄、加盟団は、バルサモ、アモ　レイラ、ポルテーラ、フィゲーラ、ペローバ、サン・ジョン、中央、タンボリ、アサイ文化協会の９支部

△ピラチニンガ学生連盟見学団アサイ訪問、座談会、講演会開催

一九五一年　理事長　安保慶太郎、副　小林徳雄

△南部忠平来植

△木村政彦七段一行来植

△ジャンガーダ青年団復帰加入

△北パ青年野球大会マリンガで開催、アサイ四連覇の偉業樹立

一九五二年　理事長　小林徳雄、副　吉井　巌

一九五三年

理事長　吉井　巌、副　星野量一

△カビウーナ、カショエイラ青年団復帰

一九五四年

△一九五〇年に連盟が分裂してから〝新トレス・バラス青年連盟〟の名称で活動してきたが、一九五四年一月三一日、旧青年連盟復活、大同団結の議がきまり、五月九日中央区青年会館で全伯青連トレス・バラス支部合同と旧青年連盟復帰総会が開かれた。

復帰合同斡旋協力者、連日会と教員全幹部

両青年団幹部４５人出席のもと、大同団結、復帰合同第一回総会が開かれ役員改選が行われた。

理事長　小林徳雄、副　名久井一、守屋　繁雄、第一会計　小坂正衛、第二会計　丸山由三、外交　上野義雄、野球　木村正和、陸上　白林政直、弁論　清水久直　武道　星野量一、相撲　佐藤万里夫、農事　丹野　章、娯楽　岡村良雄、教育　安保　慶太郎、書記　丸山由三

顧問　館脇利一、頼則照雄
相談役　菊池　端、西尾　茂、中畑知助　小林一郎、下石長之助、阿部重雄、川瀬正三、鷹嘴善志、朝倉正徳
△連盟支郎はフィゲーラ、バルサモ、アサイ協会、ポルテーラ、サン・ジョン、アモレイラ、ペローバ、カビウーナ、中央、カショエイラ、ジャンガーダの１１支部
復帰支部　パルミッタール、セボロン、パイネーラ、セードロ、ロゼーラの５支部
△４Ｈクラブ講演会開催、講習会開催
一九五五年
理事長　小林徳雄、副　守屋繁雄
副　丸山由三
一九五六年
理事長　藤井　寛、副　小坂正衛
副　江田　要
一九五七年
理事長　小林徳雄、副　丸山由三
副　小坂正衛、会計　名波昭一
野球　倉谷　実、
陸上　小田切輝雄
弁論　倉谷実隼、
卓球　木村正和
相撲　小笠原富士夫、
柔道　植田貞雄
剣道　竹山一夫、
農事　清水久直
外交　上野アントニオ、

修養　安保慶太郎、
音楽　木村金吾
一九五八年
理事長　小林徳雄、副　丸山由三、
副　名波昭一、会計　名波昭一
書記　丸山由三、
野球部長　倉谷　実、副　神田正幸
陸上部長　浅岡源治、副　小田切輝雄
弁論部長　林　進、副　倉谷実隼
農事部長　清水久直、副　前岡・茂
柔道部長　植田貞雄、副　坂本博道
剣道部長　清水　健、副　竹山一夫
相撲部長　小笠原富士雄、副　佐藤恵吉
卓球部長　木村正和、副　鈴木洋一郎
音楽部長　木村金吾、副　多胡宗郎
修養部長　安保慶太郎
外交部長　上野義雄
一九五八年九月二二～二六の五日間、農事講習
会開催（於　中央区会館）講師　林　義夫
△十一月三十日から六日間第三回北パ農事講習会(於　アプカラナ農学校)
アサイから　１６人参加
一九五九年
理事長　浅岡源治、副　木村金吾、
副　丸山由三、副　守屋繁雄、副　林　進
会計　平栗義晴
野球部長　富田恒祐、副　倉谷　稔

陸上部長　神田正幸、副　船田　毅
弁論部長　倉谷実隼、副　林　進
農事部長　前岡　茂、副　早川　清
剣道部長　清水　健、副　竹山和夫
柔道部長　植田貞雄、副　坂本博道
音楽部長　多胡宗郎、副　竹田昇司
卓球部長　木村正和、副　坂本正雄
相撲部長　小笠原富士雄、副　森口英治
修養部長　安保慶太郎、副　大場義雄
外交部長　上野義雄、副　千葉浄治
書記　丸山由三
北パ評議員　浅岡源治
〃　木村金吾
〃　丸山由三
相談役　小林徳雄
一九六〇年
理事長　浅岡源治
副　木村金吉、小林徳雄、上野義雄
△五月四～七の四日間、農事講習会（於カビウーナ会館）受講者
８３名、聴講者２０名
一九六一年
理事長　小笠原富士雄
副　丸山由三、木村金吾、林　進
会計　木村金吉、副　角保有喜雄
野球部長　村田豊三、副　後藤和夫
陸上部長　船田　毅、副　平間照蔵
文化部長　浅間源治、副　平栗義晴

音楽部長　谷岡　優、副　多胡宗郎
相撲部長　森口英治、副　佐藤恵吉
剣道部長　清水　健、
柔道部長　植田貞雄
弁論部長　倉谷実隼、副　中家　甲
農事部長　佐藤功二、副　弘法清人
外交部長　上野義雄、副　平栗範智
卓球部長　木村正和、副　藤沢　明
書記　安保慶太郎、副　丸山由三
北パ連盟評議員　小笠原富士雄
〃　〃　丸山由三
〃　〃　木村金吉
〃　林　進

△五月二～七の六日間、農事講習会、受講者　男子２５、女子１８名（於　パルミッタール区会館）

△移住地２５年史発刊祝賀会、古荘食堂で開催

五〇〇ページ、編さん委員長　小林徳雄氏に記念品贈呈、編さん委員　小林徳雄、菊池　端、田草川兵馬、木村金吾、西尾　茂、青木洋一、安保慶太郎、上野義雄、磯部雄二、丸山　由三。

△九月一三日より一週間、農事講習会（於カビウーナ会館）

一九六二年

理事長　小笠原富士雄
副　丸山由三、木村金吉、林　進
会計　木村金吾、書記　安保慶太郎
野球部長　村田豊治、副　坂本正雄
陸上部長　船田　毅、副　平間　正
弁論部長　倉谷実隼

農事部長　佐藤功二、副　小泉　尚
柔道部長　植田貞雄
剣道部長　清水　健
相撲部長　森口英治
卓球部長　木村正和
音楽部長　谷岡　勝、副　多胡宗郎
文化部長　平栗義晴、副　林　進
外交部長　上野義雄、副　久谷アントニオ
北パ運動連盟アサイ支部評議員
評議員　小笠原富士雄、丸山由三、木村金吉
△農事講習会五月六日から一週間、フィゲーラ区で開催
一九六三年
理事長　浅岡源治、副　丸山由三、村田豊三、小笠原富士雄
幹事　小林徳雄、木村金吉、倉谷実隼
補充幹事　谷岡　優、弘法清人

△北パ青年野球大会マリンガで開催、アサイ四連覇の偉業樹立
一九五二年　理事長　小林徳雄、副　吉井　巌
一九五三年
理事長　吉井　巌、副　星野量一
△カビウーナ、カショエイラ青年団復帰
一九五四年
△一九五〇年に連盟が分裂してから〝新トレス・バラス青年連盟〟の名称で活動してきたが、一九五四年一月三一日、旧青年連盟復活、大同団結の議がきまり、五月九日中央区青年会館で全伯青連トレス・バラス支部合同と旧青年連盟復帰総会が開かれた。
　復帰合同斡旋協力者、連日会と教員全幹部

両青年団幹部４５人出席のもと、大同団結、復帰合同第一回総会が開かれ役員改選が行われた。

理事長　小林徳雄、副　名久井一、守屋　繁雄、第一会計　小坂正衛、第二会計　丸山由三、外交　上野義雄、野球　木村正和、陸上　白林政直、弁論　清水久直　武道　星野量一、相撲　佐藤万里夫、農事　丹野　章、娯楽　岡村良雄、教育　安保慶太郎、書記　丸山由三

顧問　館脇利一、頼則照雄

相談役　菊池　端、西尾　茂、中畑知助　小林一郎、下石長之助、阿部重雄、川瀬正三、鷹嘴善志、朝倉正徳

△連盟支郎はフィゲーラ、バルサモ、アサイ協会、ポルテーラ、サン・ジョン、アモレイラ、ペローバ、カビウーナ、中央、カショエイラ、ジャンガーダの１１支部

復帰支部　パルミッタール、セボロン、パイネーラ、セードロ、ロゼーラの５支部

△４Ｈクラブ講演会開催、講習会開催

一九五五年

理事長　小林徳雄、副　守屋繁雄

副　丸山由三

一九五六年

理事長　藤井　寛、副　小坂正衛

副　江田　要

一九五七年

理事長　小林徳雄、副　丸山由三

副　小坂正衛、会計　名波昭一

野球　倉谷　実、

陸上　小田切輝雄

弁論　倉谷実隼、
卓球　木村正和
相撲　小笠原富士夫、
柔道　植田貞雄
剣道　竹山一夫、
農事　清水久直
外交　上野アントニオ、
修養　安保慶太郎、
音楽　木村金吾
一九五八年
理事長　小林徳雄、副　丸山由三、
副　名波昭一、会計　名波昭一
書記　丸山由三、
野球部長　倉谷　実、副　神田正幸
陸上部長　浅岡源治、副　小田切輝雄
弁論部長　林　進、副　倉谷実隼
農事部長　清水久直、副　前岡・茂
柔道部長　植田貞雄、副　坂本博道
剣道部長　清水　健、副　竹山一夫
相撲部長　小笠原富士雄、副　佐藤恵吉
卓球部長　木村正和、副　鈴木洋一郎
音楽部長　木村金吾、副　多胡宗郎
修養部長　安保慶太郎
外交部長　上野義雄
一九五八年九月二二～二六の五日間、農事講習
会開催（於　中央区会館）講師　林　義夫
△十一月三十日から六日間第三回北パ農事講習会（於　アプカラ

ナ農学校）
　アサイから　１６人参加
一九五九年
　理事長　浅岡源治、副　木村金吾、
　副　丸山由三、副　守屋繁雄、副　林　進
　会計　平栗義晴
野球部長　富田恒祐、副　倉谷　稔
陸上部長　神田正幸、副　船田　毅
弁論部長　倉谷実隼、副　林　進
農事部長　前岡　茂、副　早川　清
剣道部長　清水　健、副　竹山和夫
柔道部長　植田貞雄、副　坂本博道
音楽部長　多胡宗郎、副　竹田昇司
卓球部長　木村正和、副　坂本正雄
相撲部長　小笠原富士雄、副　森口英治
修養部長　安保慶太郎、副　大場義雄
外交部長　上野義雄、副　千葉浄治
書記　丸山由三
北パ評議員　浅岡源治
　〃　木村金吾
　〃　丸山由三
　相談役　小林徳雄
一九六〇年
　理事長　浅岡源治
　副　木村金吉、小林徳雄、上野義雄
△五月四～七の四日間、農事講習会（於カビウーナ会館）受講者
８３名、聴講者２０名

一九六一年

理事長　小笠原富士雄

副　丸山由三、木村金吾、林　進

会計　木村金吉、副　角保有喜雄

野球部長　村田豊三、副　後藤和夫

陸上部長　船田　毅、副　平間照蔵

文化部長　浅間源治、副　平栗義晴

音楽部長　谷岡　優、副　多胡宗郎

相撲部長　森口英治、副　佐藤恵吉

剣道部長　清水　健、

柔道部長　植田貞雄

弁論部長　倉谷実隼、副　中家　甲

農事部長　佐藤功二、副　弘法清人

外交部長　上野義雄、副　平栗範智

卓球部長　木村正和、副　藤沢　明

書記　安保慶太郎、副　丸山由三

北パ連盟評議員　小笠原富士雄

〃　丸山由三

〃　木村金吉

〃　林　進

△五月二～七の六日間、農事講習会、受講者　男子２５、女子１８名（於　パルミッタール区会館）

△移住地２５年史発刊祝賀会、古荘食堂で開催

五〇〇ページ、編さん委員長　小林徳雄氏に記念品贈呈、編さん委員　小林徳雄、菊池　端、田草川兵馬、木村金吾、西尾　茂、青木洋一、安保慶太郎、上野義雄、磯部雄二、丸山　由三。

△九月一三日より一週間、農事講習会（於カビウーナ会館）

一九六二年

理事長　小笠原富士雄

副　丸山由三、木村金吉、林　進

会計　木村金吾、書記　安保慶太郎

野球部長　村田豊治、副　坂本正雄

陸上部長　船田　毅、副　平間　正

弁論部長　倉谷実隼

農事部長　佐藤功二、副　小泉　尚

柔道部長　植田貞雄

剣道部長　清水　健

相撲部長　森口英治

卓球部長　木村正和

音楽部長　谷岡　勝、副　多胡宗郎

文化部長　平栗義晴、副　林　進

外交部長　上野義雄、副　久谷アントニオ

北パ運動連盟アサイ支部評議員

評議員　小笠原富士雄、丸山由三、木村金吉

△農事講習会五月六日から一週間、フィゲーラ区で開催

一九六三年

理事長　浅岡源治、副　丸山由三、村田豊三、小笠原富士雄

幹事　小林徳雄、木村金吉、倉谷実隼

補充幹事　谷岡　優、弘法清人　安保慶太郎

会計　小笠原富士雄、副　村田豊二

総務　丸山由三

第一書記　前田聖二、第二　河内　要

野球部長（青年）頼則浩一、副　佐藤敏夫

（準青年）小泉　尚、副　立花　弘

（少年）藤江　勝、副　土井清治、
（０・Ｂ）富田恒祐
陸上部長　三浦貞雄、副　平間照蔵
弁論部長　坂本正雄、副　南原　弘
農事部長　佐藤功二、副　菅沼　勉
音楽部長　多胡宗郎、副　笹原　実
文化部長　平粟義晴、副　吉沢聖一
相撲部長　石井ジョージ
卓球部長　伊藤留作
北パ連盟評議員　小笠原富士雄、丸山由三、弘法パウロ
△五月一三日から一週間農事講習会（於　バルサモ会館）
一九六四年
理事長　倉谷実隼、副　弘法パウロ、前田聖二、頼則浩一
幹事　浅岡源治、村田豊二、丸山由三
補充幹事　小笠原富士雄、後藤和男、石井ジョージ
第一会計　小笠原富士雄、第二　佐藤功二
総務　前田聖二
書記（ポ）青木孝雄、（日）林　進
野球理事　神田正勝（青年）中村康成
（準青年）小泉　尚、（０・Ｂ）三浦貞雄
陸上理事　平間照蔵、副　中家四郎
農事理事　菅沼　勉、副　加藤富雄
音楽理事　中島敏文、副　笹原　実
卓球理事　小幡　弘、副　前田功二
弁論理事　南原　弘、副　堺沢新一
文化理事　安保慶太郎、副　平栗義晴
北パ運動連盟

評議員　倉谷実隼、弘法パウロ、頼則浩一、前田聖二
企画理事　小田島秀雄
△五月四日より六日間農事講習会（於　カビウーナ会館）
一九六五年
理事長　青木孝雄副　弘法パウロ、丸山由三、頼則浩一
幹事　倉谷実隼、小笠原富士雄、木村金吾
補充幹事　佐藤功二、谷岡　優、池田正美
書記　丸山由三、菊地　譲、今野克己
会計　浅間源治。副　西川直美
野球理事　平野邦幸（青年）神田正行
（準青年）清野　満（O・B）村田豊二
陸上理事　中家四郎、副　尾形義光
卓球理事　小幡　弘、副　藤原　功
歌謡理事　笹原　実、副　加藤富雄
弁論理事　南原　弘、副　宮本康雄
文化理事　安保慶太郎、副　平栗義晴
農事理事　中島　隆、副　柴山コウサク
社会福祉部　酒井　修、副　菅野敏夫
フットボール理事　今野克己　副　菊地譲
衛生理事　能田幸夫、副　松永四郎
北パ運動連盟評議員　青木孝雄、弘法パウロ、丸山由三
△第二回ケルメッセ、三日二八、二九日、四月四、五の四日間開催（於　アサイ町）
△第二回ケルメッセ、五月二九、三〇日（於　アサイ町）
△第三回〃　六月五、六日（於　アサイ町）
一九六六年
理事長　頼則浩一、副　青木孝雄、中家四郎、島田末男

幹事　古川　章、三浦貞夫、弘法パウロ
補充幹事　浅間源治、丸山由三、後藤　繁雄
第一書記　丸山由三、第二書記　小田島秀雄、第三書記　菊地
譲　会計　浅間　源治、副　福島昭
野球理事　小笠原富士雄、副　村田豊二
野球青年部　佐藤敏夫、準青年　木村金吾
０・Ｂ部　佐藤マリオ
陸上理事　加藤富男、副　相田千治
卓球部　井上幸男
歌謡音楽理事　多胡宗郎、副　笹原　実
農事部　堺沢　進、副　菅原正一
企画部　菅野　俊雄、副　藤原　功
蹴球部　今野克己、副　池田信行
文化部　安保慶太郎、副　西川直美
北パ運連評議員　青木孝雄、弘法パウロ
中家四郎、評議補　島田末男、丸山由三
△第四回ケルメッセ　四月三日アサイで開催
△第五回〃　四月九、十日　アサイで開催
△第六回〃　四月一六、一七日　〃
△第七回〃　五月二八、二九日　〃
一九六七年
理事長　小田島秀雄、副　中家四郎、青木孝雄、堺沢　進
総務　青木孝雄、副　平野　稔
会計　浅岡源治、副　福島　彰
野球理事　後藤和夫、青年　佐藤敏夫
副　中村康成、準青年　神田正勝、
副　菊地エーリオ、

審判部　小笠原富士雄　　副　平野邦男
幹事　丸山由三、村田豊二、弘法パウロ
補充幹事　木村金吾、重岡芳人、谷岡　優
北パ連盟評議員　小田島秀雄、中家四郎、青木季雄
補評議員　堺沢　進、浅間源治、小笠原富士雄

△第八回ケルメッセ四月一、二日

アサイで開催

一九六八年一月

理事長　青木孝雄、副　中家四郎、弘法パウロ、畠田末男
幹事　古川　章、三浦貞夫、丸山由三
補充幹事　浅間源治、後藤繁雄
O・B野球部　藤原国雄、副　伊豆　豊
陸上部　加藤富男、副　江田正則
農事部　前岡　進、副　座間正光
卓球部　井上幸男、副　吉田エーリオ
蹴球部　菊地　譲、副　清水信行
音楽部　藤島一雄、副　土居則義
文化部　西川直美、副　岸野和夫
社会部　佐藤ジョゼー
福祉部　今野克己、副　頼則浩一
企画部　福島　彰、副　酒井　修

△トレス・バラス青連と合併

産青連

一九四一年三月三十日　産組で〝産業組合青年連盟〟結成式を挙行。

委員長　菊池　端、委員　田甫　強、本庄　賢一、滝浪　茂、津

田穂風、中島春雄、
その年の暮、第二次大戦勃発で解消。

弁　論　雄弁大会

一九三八年六月三日　第一回移住地弁論大会
町の中央小学校で開催、出場者２６、参加７区
大会長　西村市助、審査委員長　舘脇利一団体
１ペローバ青年会、２フィゲーラ　３中央区　４バルサモ、５パルミッタール、６セボロン、７市街地、棄権
個人
１本庄賢一、２倉岡　続、３坂本辻雄、４山根　章、５前田徳次郎

一九四八年七月四日　第二回大会(パルミッタール会館)　大会長
菊池　端
団体
団体・カビウーナ、個人・滝浪　誠

一九四九年十月一六日　第三回大会(パルミッタール会館)大会長　菊池　端、団体
団体・カビウーナ、個人・林　繁信

一九五〇年十月二六日　第四回大会(アサイ市)
大会長　舘脇利一、団体・アサイ、
個人・安保慶太郎

一九五一年十一月一六日　第五回大会　(アサイ市)
大会長　菊池　端、団体・ペローバ　個人・高橋新平
△第二回北パ雄弁大会に出場(アサイ第二位)

一九五二年十一月九日　第六回大会(アサイ市)　大会長　菊池端、団体・ペローバ、個人　川田秀雄

一九五二年十月一八日　第七回大会　（アサイ市）　大会長　舘脇利一、団体・サンジョン
　個人・秋葉隆三
一九五四年四月二五日　第八回大会　（カビウーナ）大会長　菊池端、国体・カビウーナ　個人　日語・桑波田典、伯語・河合三郎
△五四年十二月一二日　第九回大会(アサイ)　大会長　菊池端、団体・カビウーナ
　個人　日語・山崎敏夫、伯語・伊藤米子
一九五五年六月二六日　第十両大会　（アサイ）
　大会長　小林徳雄、団体・カビウーナ　個人　日語・横山つや子、伯語・三宅幸子
一九五六年六月二四日　第十一回大会　（アサイ）
　大会長　藤井　寛、団体・サ・セシリア、
　個人　日語・本多弘喜、伯語・古田　進
一九五七年五月一九日　第十二回大会(アサイ)
　大会長　小林徳雄、団体・サ・セシリア、
　日語・宮本光明、伯語・鈴木マスミ
一九五八年五月二五日　第十三回大会（同朋会館）団体・1カビウーナ、2サンタ・セシリア、3パルミッタール、4新興個人
　1平栗　範智（カ）　一・一三二点
一九五九年六月一四日　第十四回大会（於・同朋会館）
　団体
1カビウーナ
2パルミッタール3サ・セシリア
個人・日語
1柳町忠重（カ）　2林　進（サ・セ）3襖

伯語
1藤井富子（パ）　2山岡多美子（パ）
△第六回北パ大会　（於・アセル会館）
団体・2アサイ、
四・二一二点
三・八一一〃
三・六八〇〃

個人・日語　3高路由美子、4林　進　5柳町忠重、伯語　2
都竹ヒオキ
一九六〇年六月五日　第十五回大会（於・同朋会館）
団体
1パルミッタール、2アサイ
個人・日語
1南原　弘（カ）　四二三点
伯語
1飯塚　静香（パ）　九八〇点
△第七回北パ大会　七月二日（於・マリンガ）
団体　3アサイ
個人　日語　2林　進
伯語　4飯塚　静香
一九六一年六月一一日　第十六回大会
（於・同朋会館）
大会長　小笠原富士雄、総務　丸山由三、
1パルミッタール、2カビウーナ、3バルサモ、4アサイ、5
サ・セシリア
団体成績

順位　区名　出品戸数　入賞得点数　％

1サンジョン　二五　三〇三　一二・一二

2アモレイラ　四三　二四五　五・七〇

3ペローバ　三九　二一六　五・五四

個人

尾形末蔵、棉花、フェイジョンで四年連続一位を占めた。

一九五七年　第十四回農産展

産業部長　田辺　博

副部長　小岸金吾

出品点数　二・四〇〇点

渡辺千太郎　八五（カビウーナ）

川端　カナ　八五（パイネイラ）

小林　トヨ　八五（フィゲーラ）

沢口　タ二　八五（フィゲーラ）

末藤　仁子　八五（市街）

上川　久子　八四（市街）

山崎タカエ　八五（ロゼイラ）

金鋪　タカ　八五　（市街）

木村　ナツ　八四（市街）

斉藤　シノ　八四（バルサモ）

盛川　ダイ　八四（アモレイラ）

伊豆　忠夫　八四（フィゲーラ）

久谷　満枝　八三（市街）

愛沢　ハナ　八三（カビウーナ）

青木　静生　八三（カビウーナ）

渡辺　静夫　八三（カビウーナ）

古川　イト　八三（サン・ジョン）
熊谷シマエ　八三（市街）
古田　守親　八三（パイネイラ）
田村　アキ　八三（パイネイラ）
神田　イト　八三（ペローバ）
立仙　虎行　八二（アサイ市）
立仙　シメ　八二（市街）
森本　繁保　八二（市街）
山中　　要　八二（市街）
市ノ江揚助　八二（市街）
田篭　ヨノ　八二（フィゲイラ）
海辺松ヨキ　八二（ケボロン）
佐藤　ナミ　八二（セボロン）
中山おとめ　八二（アモレイラ）
金松　キヨ　八二（セボロン）
丹野　八重　八二（セボロン）

農産品評会

一九三二年　第一回農産展
　ロンドリーナで開催アサイ、ロンドリーナ共催。
一九三五年八月　アサイ主催、第一回農産展、
　アサイランジァ小学校で開催

　出品点数　二一七。

△ブラ拓は、各移住地の指導精神として〝ガット運動を起こし〟
愛土永住〟を鼓吹した
　実行委員長　臼井介仁、副委員長　島田　俊三、委員　草間宏
三、野本　進、森下孝、柳川琢治、勝田卯太郎、特別実行委月

館脇利一、西村市助、赤木平十、第一回農産品評会（農会主催）がガット前線部後援で開かれた。九月、クリチーバで開かれた棉花品評会では、移住地からの出品者全部が入賞、金メダル目録を受賞した。このメダルは受賞しなかった。

目録受賞者は次のとおり、清水雪登、館脇利一、会田　巌、柴田幸治　滝浪忠作、井戸開治、村田　実、山田満治、東条健三草間宏三、森山三次。

一九三七年七月一一日　開植五年目、第二回

農産展開催、サンパウロ領事館勧業部の

北村政吉技師を審査員に招いた。出品点数　二一二、入賞者

一等　棉　　池田豊三郎

二等　棉　　加藤　長広

二等　籾　　池田豊三郎

△第二回クリチーバ農産品評会（農務省主催）　六月二十～七月五日まで開催、同展に移住地から出品、次の人々が入賞した。

一等　棉　　村田藤蔵

一等　籾　　柴山幸治

二等　菜豆　　本庄賢一

佳作　ミーリョ　　柴山幸治

△第一回棉立毛品評会開催

入賞者

一等　加藤長広、二等　坂根亀市、玉置常吉、三等　荒沢鉄夫、高橋　末、渡辺智教、伊藤重吉

一九三八年　第三回農産展

帝国総領事館から金銀銅牌が授与された。

一九三九年　第四回農産展

一九四〇年八月二二日　第五回農産展

順位	区	入賞得点数	出品点数
1	バルサモ	一〇一	九〇
2	フィゲーラ	七五	八四
3	ペローバ	六八	五〇
4	中央区	六二	八〇
5	ロゼーラ	二六	二八

△四月三日　棉立毛品評会

一等　金田小次郎

二等　神田時栄

三等　小岸金吾、中村孝治、数間三郎、斉藤　己、若杉　清

団体成績

一等　バルサモ、二等　ペローバ、三等　中央区、四等　パルミッタール

一九四一年　第六回農産展

総合一等　川端万次郎、二等　松下義光

出品点数

綿　花	一五八	野　菜	三
籾	五九	小　麦	二六
フェイジョン	五八	大　豆	四二
ミーリョ	五八	小一畢豆	一〇
カフェー	五二	マモナ	六
果　実	四	その他一二	

第六回農産展以後第二次大戦で中止

一九五〇年七月二二日　第七回農産展

入賞者

一等　カフェー　小野彦三郎、小笠原竹雄

〃　綿　花　三浦胞衣治、斉藤孫三郎

籾　〃　筒井徳治郎

菜　豆菜　豆　四本二郎

〃　大　豆　鈴木蘭治

農産加工品、民芸、手芸品など出品

団体成績

1ペローバ、2中央区、3セードロ

在植家族二・〇〇〇

一九五一年七月一四日　第八回農産展

産業部長　筒井徳次郎

副部長　舘脇又次郎

出品点数一・三〇〇点

一九五二年七月五日　第九回農産展

産業部長　舘脇又次郎

副部長　筒井徳次郎

出品点数一・七〇〇点

一九五三年七月二五、六日　第十回農産展

一位　サンジョン出品点数　二・〇〇〇点

一九五四年七月二、三日　第十一回農産展

一位　サンジョン、二位　ペローバ、三位

三位　アモレイラ

出品点数　二・三〇〇点

一九五五年七月二四日　第十二回農産展

産業部長　舘脇又次郎

副部長　田辺　博

出品点数　二・六〇〇点

△一位サンジョン三連勝を遂ぐ、同区の出品点数一・〇四二、入賞者数三九、尾形末蔵　棉花、大豆、ミーリョで一位、フェイジョン二位を占めた。

一九五六年七月二七日　第十三回農産展

産業部長　田辺　博

副部長　小岸金吾

出品点数　二・三〇〇点

団体成績

順位	区名	出品戸数	入賞得点数	%
1	サンジョン	二五	三〇三	一二・一二
2	アモレイラ	四三	二四五	五・七〇
3	ペローバ	三九	二一六	五・五四

個　人

尾形末蔵、棉花、フェイジョンで四年連続一位を占めた。

一九五七年　第十四回農産展

産業部長　田辺　博

副部長　小岸金吾

出品点数　二・四〇〇点

一九五八年七月八日　第十五回T・B農産展開催、産業部長　田辺博、副部長　小岸金吾

出品点数　二・三〇〇点

一九五九年六月二七、二八日

第十六回T・B農産展開催

出品点数一・三八八点

出品家族　六五七

団体成績

1タンボリ、2サンジョン、3カビウーナ

入賞者

一位　尾形　末蔵　３１点　サン・ジョン

二位　服部パウロ　２２カビウーナ

三位　後藤　稔　２０点　サン・ジョン

一九六〇年　第十七回T・B農産展開催

産業部長　田辺　博

副部長　原　正直

副部長　石川　政次

入賞者一位　尾形末蔵

一九六一年六月二五、二六日

第十八回T・B農産展開催

産業部長　奥山良男

副部長　田辺　博

出品点数　一・八〇〇点

一九六二年　第十九回農産展開催

産業部長　田辺　博

副部長　原　正直

副部長　石川政次

出品点数　二・〇〇〇点

一九六三年　第二〇回農産展開催

一九六三年　第二〇回農産展開催

産業部長　田辺　博

副部長　石川　政次

副部長　丹野　熊雄

出品点数一・八〇〇点

一九六四年六月二七、二八日

第二十一回T・B農産展開催

出品点数一・六〇〇点

団体成績

1タンボリ、2サンジョン、3ポルテーラ

入賞者

一位　南　五郎　タンボリ

二位　尾形　末蔵　サン・ジョン

三位　畑中清次郎　タンボリー

一九六五年　第二十二回T・B農産展開催

産業部長　石川　政次

副部長　舘脇又次郎

副部長　丹野　熊雄

出品点数一・五〇〇点

一九六六年　第二十三回T・B農産展開催

産業部長　石川　政次

副部長　丹野　鶴雄

副部長　丹野　熊雄

出品点数一・三〇〇点

一九六七年六日二三日

第二十四回T・B農産展開催

産業部長　丹野　熊雄

副部長　野崎　茂樹

副部長　清水　久直

出品点数　一・四九六点

団体成績

１タンボリ、２サン・ジョン、３カビウーナ

一九六八年六月二九、三〇日

第二十五回Ｔ・Ｂ農産展開催

団体成績　１タンボリ、２サン・ジョン

産業部長　田辺　　博

副部長　　清水　久直、中島　　隆

出品点数　一・五〇〇点

最高得点賞　南　　五郎

最多出品賞　星野　量一

一九六九年　第二十六回農産展開催

出品点数　一・三三三点

団体成績　１タンボリ、２サン・ジョン

入賞者

最高得点賞　　最多出品賞

一位　南　五郎　　一位　服部パウロ

二位　尾形　末蔵　　二位　南　　五郎

三位　服部パウロ　　三位　頼則　勇

△五月七日　第三回アサイ立木品評会（コチア産組アサイ綿花協同出荷組合主催）開催　多数収穫賞・菱田重雄、技術賞・吉田仲太郎

一九七〇年六月二四、二五日

第二十七回農産展開催

産業部長　田辺　　博

１タンボリ、２サン・ジョン

最高得点賞　　最多出品賞

一位　南　　五郎　一位　服部パウロ

二位　服部パウロ　一位　渡辺
三位　尾形末蔵　三位　南　五郎
出品点数一・五〇〇点
一九七一年　第二十八回農産展開催
産業部長　中島　隆
副部長　堺沢　進、中山茂夫
出品点数一・五〇〇点
1タンボリ、2ポルテーラ、3サン・ジョン
最高得点賞　最多出品賞
一位　服部パウロ　一位　服部パウロ
二位　尾形　末蔵　二位　西村　米一
三位　南　五郎　三位　星野　量一

一九七二年　第二十九回農産展開催
産業部長　島田　巧
副部長　清水久直、吉田パウロ
出品点数　一・七〇〇点
1サン・ジョン、2タンボリ、3ポルテーラ
最高入賞　最多出品賞
一位　尾形　末蔵　一位　星野　量一
二位　後藤　稔　二位　服部パウロ
三位　南　五郎　三位　西村　米一
一九七三年六月二三、二四日
第三〇回農産展開催
出品点数　二・〇〇〇点　団体成績
1サン・ジョン、2タンボリ、3アモレイラ、4ペローバ、5ポルティラ

入賞者　　最高得点賞　　最多出品賞

一位　尾形　末蔵　二位　尾関　東、

二位　加藤　幹男

一九七四年六月二二、二三日第三十一回農産展

団体成績

1サン・ジョン、2ポルティラ、3グルカイア、47モレイラ

入賞者

最高得点賞　　最多出品賞

一位　加藤　幹夫　一位　尾形　末蔵

二位　星野　量一　二位　星野　量一

三位　尾形　末蔵　二位　秋葉　隆三

1サン・ジョン、2グルカイア、3タンボリ

最高得点賞　一位から三位まで、サン・ジョン区独占

産業部長　島田　巧

副部長　吉田パウロ、奥野　敏

出品点数　二・三〇〇点

一九七五年　第三十二回　T・B農産展開催

州知事農務長官出席

最高得点賞　一位　尾形　末蔵　二位　秋葉　隆三

三位　市川　浩　両賞ともサン・ジョン区が独占

最多出品賞

一位　尾形　末蔵　二位　星野　量一

三位　白田　誠　サン・ジョン区が独占

1サン・ジョン、2グルカイア、3タンボリ、
産業部長　吉田パウロ
副部長　奥野　敏、小岸カイロ
一九七六年　第三十三回T・B農産展開催　農務長官出席
産業部長　吉田パウロ、副部長　小岸カイロ　丹野ベント　宇都宮パウロ
1・サン・ジョン、2グルカイア、3タンボリ
最高得点賞
一位　尾形　末蔵　一位
二位　服部　パウロ二位
三位　秋葉隆隆三　三位
最多出品賞　尾形　末蔵　神国マリオ　服部パウロ
出品点数二・三〇〇点
一九七七年第三十四回農産展開催、吉田大使
農務長官出席
産業部長　吉田パウロ
副部長　小岸カイロ、丹野ベント
宇都宮パウロ
出品点数　二・五〇〇点
1サン・ジョン、2タンボリ、3グルカイア
最高得点賞　最多出品賞
一位　尾形　末蔵　一位　尾形　末蔵
二位　服部パウロ　二位　神田マリオ
三位　秋葉　隆　二位　服部パウロ
一九七八年　第三十五回T・B農産展開催
産業部長　奥野　敏

副部長　吉田パウロ、小岸カイロ、丹野ベント、宇都宮パウロ
出品点数　二・三〇〇点
1サン・ジョン、2グルカイア、3ペローバ
最高得点賞　　最多出品賞
一位　尾形　末蔵　一位　尾形　末蔵
二位　白田　誠　二位　秋葉　隆三
三位　神田マリオ　三位　服部パウロ

一九七九年　第三十六回農産展六月一七日
農務長官代理　鈴木領事を迎えて開催
1サン・ジョン、2グルカイア、3ポルテーラ
最高得点賞　　最多出品賞
一位　尾形　末蔵　一位　尾形　末蔵
二位　古城　守　二位　白田　誠
三位　白田　誠　三位　秋葉　隆三
出品点数　二・二〇〇点
産業部長　奥野　敏
副部長　小岸カイロ、丹野ベント、宇都宮パウロ

一九八〇年　第三七回農産展、六月二八日、約
一千の人出を集めて開幕
出品点数　二・二九三点　出品種目　一七〇余
産業部長　島田　巧
副部長　小岸カイロ、丹野ベント、宇都宮パウロ
1サン・ジョン、2ペローバ、3グルカイア
最高得点賞　　最多出品賞
一位　尾形　末蔵　一位　尾形　末蔵
二位　山内　道雄　二位　服部パウロ
三位　神田マリオ　三位　白田　誠

一九八一年

ブラジル最大最古のアサイ農産展は回を追う毎に盛大、出席した和田総領事は〝私は各地で農産品評会を見ているが、これほど盛大なものは見た事がない〟と驚嘆した。

そのブラジル一農産展の最多出品区サン・ジョンは、今年も最多出品最高得点の両賞を獲得して農栽王国の貫禄をみせた。

その王国の農栽名人　尾形末蔵区長は、今年も最多出品と最高得点の両賞を獲得した。通算〝十数年〟王座を独占している。

△第三八回アサイ農産展は六月二七、二八の両日、同朋会館で和田総領事を迎えてオープン、出品点数　二・四七〇、今年も最多出品、最高得点賞は、常連勝のサン・ジョン区に輝いた。同区は出品家族数十七で出品点数六〇八、入賞得点数四七二、計一・〇八〇点、二位のペローバ区、出品点数三三一、入賞得点数二二七、計五四八点、出品家族数一三を圧倒する得点差をみせた例によって、サン・ジョン区の〝農栽名人〟尾形末蔵区長は最多出品、最高得点の二冠を独占した。

産業部長　島田　巧

副部長　小岸カイロ、丹野ベント、宇都宮パウロ

最多数出品賞

一位　尾形末蔵　一〇七点　サンジョン

二位　秋葉隆三　六〇点　サンジョン

三位　山内道雄　四三点　グアルカイア

入賞得点

一位　尾形末蔵　八二点　サンジョン

二位　白田　誠　七七点　〃

三位　山内道雄　五〇点　グアルカイア

◎農産展功労者
石川政次、丹野熊雄、館脇又次郎、服部パウロ、南　五郎、尾形末蔵、田辺　博

組合

創立一九三四年五月一三日
理事長　臼井介仁、理事　島田俊三が当選したが、入植者の自治組織を強調する〃ブラ拓〃は辞任した。再選の結果理事長　舘脇利一、専務理事、辻本正行　理事　赤木平十、宇都宮百太郎
西村市助、監事　横山盛二、池田友忠、村田藤蔵
組合員　二三人　六三株
事業
販売　七・五六四ミルレース
購買　一・七三二　〃
計　九・二九六　〃
欠損　一・九〇一　〃
一九三五年七月九日　精米所落成
△十二月二六日　ジャタイ駅倉庫借家、四年契約、家賃七〇ミルレイス
事務所がなく、辻本正行（小学校教師）専務理事を月給五〇ミルレイスで専務事務取扱いを嘱託して経営した。
組合員一〇六、出資株　二八六
事業
販売　二七八・三六〇ミルレイス
購買　四四・〇三六　〃
利用　二・七五二　〃

利益　五三三　〃

一九三六年　販売、信用部開設、ブラスコット精棉工場を館脇利一理事長名儀で譲り受けて〃パラナ〃棉花ＫＫを創立

社長　上野米蔵、副社長　館脇利一

△井戸開治、清水雪登、村田　実　新監事に増加、組合員一〇六人　株　二八六口

一九三九年　組合員三四五人、出資株六一〇口

（単位ミルレース）

△出資株金　六一・〇〇〇

払込済　二六・一七五

特別積立　六・一〇〇

繰越金　九・四七三

剰余金　二八・八七一

信用部

預金　二九三・四六三

借入　三〇〇・〇〇〇

貸付　四一五・七〇〇

販売部

実棉　五九六・七五九

野菜　二四七・四七五

他　一八・五二一

精米貨　一・二九二

△一九四二年　第二次大戦により邦人の資産は凍結され、主要邦人商社は政府の管理下におかれた。産組はアルマンド・ギマランエス・クラーボ連邦監督官によって管理支配され、池田友忠、永

井純三理事が執務した。
一九四三年　クラーボ監督官は輸送問題解決のため、伯銀からカミニョン１０台購入資金の融資をうけた。その融資を流用して組合の某理事と薄荷栽培したが、失敗に終った。
　十二月一五日、組合棉マキナ倉庫から出火。折からの水不足のため燃えるにまかせた棉５５万アローバ全焼、保険を差引いてなお莫大な損害を出した。赤字経営の産組は重なる事故でさらに困窮、統制は乱れた。主任級は、架空ペザージェンを切り、割増伝票が切られ経理は乱れた。５０％の免税保護政策をうけながら組合が商人に対抗できなかったのは素人の商法だけではない。獅子心中の虫は組合員の中にあった。

一九四六年　大戦終了の翌年、邦人社会から理事が就任、復旧運動にかゝった。当時組合の赤字は数千コントスに達した。
　△九月九日　理事　伊藤重吉、井戸開治、
　菊池　章、神　藤一、高橋角治、奥野正一が選出された。
一九四七年　伊藤重吉理事長は大戦中乱脈した。組合整理に努めたが、腐敗した組合整理には潔癖にすぎた。よく小倉　清ブラ拓副支配人に相談していた。〃複雑怪奇〃な内容に僅か七カ月で投げだした。
　後任理事長に中村孝治が就任した。
　商務理事　菊池　章、理事　西村達雄、神　藤一、井戸開治、奥野正一、中島春雄、小林喜一、福島実義
産組七人の犠牲者
一九五〇年　奥野正一が理事長に据った。
　専務　中村孝治、商務　菊池　章、理事、中島春雄、西村達雄、赤木平十、小笠原竹雄、藤田千代治、福島実義

奥野理事長は再建にかゝった。赤木理事は倉庫主任を解雇した。整理が進むにつれ、闇取引き、架空ペザージェン、割増伝票、ルーナルデリ会社との契約コーヒー未納分棉会社への契約不履行罰金など、バランセッテ（損益対照表）の赤字外の赤字が三倍もあった。

一九五三年　理事たちはサンパウロ産組中央会、棉花会社、伯銀に運動、伯銀の融資金、支払い三年間猶予に成功した。

負債総額　一六・〇〇〇C$を
組合精棉工場　五・〇〇〇C$
組合事務所他諸施設一・〇〇〇〃
で整理した。残り一〇・〇〇〇C$は
九人の理事がそれぞれ一一〇万C$の手形借主となることで一応再建への目安はついたが、菊池商務理事は抵当物件がなく、赤木理事は財産名儀を長男に変更していたため、七人の理事が署名した。その名は藤田千代治、中島春雄、西村達雄、小笠原竹雄、奥野正一、中村孝治、福島　実義
福島『北島会計は、私にアシーナしないようにと忠告した。しかし署名した理事の名前をみて、どうしても逃げることはできなかった』
　福島は語った
精棉工場が5・000C$評価で借金のかたにとられた時代の一〇・〇〇〇C$の負債を背負った上、総決算でこれ以上負債はない筈になっていた負債が続々とでてきた。
　中島春雄さんが『だまされた。こんな思いをするなら、死んですむことなら死んだ方が楽だ』と言った。
『その通りだ』西村達雄が答えた。ルナルデリ会社から藤田理事

指名でプロテスタされた。これは、無利子１０年賦払いに示談成立して藤田は倒産から免がれた。ことこゝに至って理事は組合解散を決議した。

この時、藤田が、建設は難く破壊はたやすい、折角の組合を潰すに忍びず、理事が百コントずつ出しあって再建しようと計ったが、も早刀折れ矢尽きた理事を動かすことはできなかった。

一九五三年七月、１９年間移住地産業発展に尽したトレスバラス産組は消滅した。

再建を期して手形を発行、負債を背負った。七人の理事は、物心両面に大打撃をうけて組合と共に倒れた偉大な犠牲者となった。藤田『西村さんは精神誠意、私欲を離れて組合のために尽された立派な方でした。死んですむことだったら、死を選ぶと言っていました。しかし問題は死んで解決できることでなし死ぬことは父に妻に子をより悲しませることになる。手形のことより年老いた病床の父の耳に入ることの方がつらかった。

女房だけには真相を伝えましたが〃年よりと子供を、おいてどうなるの〃と泣かれました。素人の愚かさから組合再建に乗りだして、こんな目になって、妻子に対して申し訳なくて…』

福島『中島さんは自殺しようとした。考えて思い止まったが、自殺を考えなかった者はいなかったと思う。みんな土地を売り払って整理した。犠牲になって組合が助かったのなら犠牲になり甲斐はあったろうが、組合は跡形もなく元も子も無くして犬死してしもうた』

藤田『館脇、辻本さんが創立した組合は戦中の乱脈経営で破産した。私たちの力がなかったゝめに先人の労苦に報いることができなかったのが残念です。』 組合は必要なものトレス・バラス、バンディランテス、イビポラン組合など〃前車の轍〃の訓として二

度悲劇は繰り返さないことです。来年５０年を迎えて感慨無量です。原さんのような立派な方がいるので移住地は安泰ですが次の時代を背負う人の養成が大切だと思います』藤田は始めて産組破産の経緯を発表した。稀に見る立派な人格者である。

悲劇産組破産史

◎中島春雄の日記抜粋

一九四七年一月四日

産組理事会で、中村孝治常務理事、菊池章　商務理事に当選。

△五月四日　組合臨時総会開催。出席者一五〇人余。セボロン区会、理事二名制裁決議文を提出、ジャンガーダ区も同理事二名弾劾案を提出した。

△五月五日　福島実義、赤木平十、土田庄次郎、監事に当選。理事会は同理事二名に謹慎を勧告、組合からの借金即時支払いを請求した。

△七月十日　伊藤重吉理事長辞表を提出、理事慰留に努め、理事会で一時預りの形式で保留。

一九五二年　選挙戦で理事長・奥野正一、商務　理事・菊池章、常務理事・中村孝治選出。

△七月二五日　理事・中島春雄、西村達雄、小笠原竹雄、藤田千代治、福島実義、赤木平十当選。監事・清水雪登、小岸金吾、山本。

△九月十日　田中恒太、産組に一・二四〇コントを請求、理事八人、田中の窮状に対して精選コーヒー９０俵と残り六四一コントスの手形１０月２５日期限で支払う。赤木平十不在のため理事八人が手形に保証した。

△十月二六日　田中恒太の代理人小倉清、手形支払い督促に来植。商銀に融資交渉を行なう。
△十一月十二日　菊池、中村理事借款交渉に出聖、金融成らず帰植。
九五三年二月一日　理事二名辞職勧告の件で中島春雄、藤田千代治、小笠原竹雄、西村　達雄（欠席）福島実義、奥野正一会談。小倉清を後任に推薦することに決め、慎重を期することを申し合わせた。
△四月十日　菊池章理事辞任、西村達雄常務理事に就任。
△六月一五日　パラナ銀、ノロエステ銀の手形支払いに頭痛鉢巻1組合は巨大な借銭で前途多難。
△六月二七日　産組の土地代、西村と奔走して金策に成功、一応愁眉を開く。
△七月一日　中島、藤田、金策に出聖、原田宅とスザノ産組訪問。
△七月二二日　次々とくる手形支払いのため金策に奔走、心労激しく日記をかく暇もない。
△八一一日　西村と出聖、金策つかず、コミッサリオに組合の不動産を一時抵当に入れることを中央会に委任して帰植。
△八月一八日　アスンソン・コレイア商会カルロス・ボルビンにプロテストされた手形
　額面一〇〇コントス、西村達雄個人で支払う（半額は西村個人の商銀株券を渡した）
△八月一九日　プロテストされた手形＝借主
　館脇利一の手形三五コントス、中島二五コントス、工藤十コントス出し合って決済。
△鈴木商会より契約カフェー出荷の催促をうける

△八月二六日　商銀の約手プロテストされる
△十一月五日　手形の支払いのため金策に追われて神経衰弱気味。厭世的になって恐怖症に襲われる。この不安から逃れたいと死を考えた。町から帰ってきたら、隆が熱病で寝ていた。森山さんのカザメントを控えて死んで迷惑をかけるのは、すまない。一生一代の祝いをさまたげてはならない。家の中で踊りの稽古をしている子供達をみて思いとどまった。
△十一月九日　心を強くもとうと努めたが、厭世感は募って行くばかり…
△十二月二十日　産組の負債分担額支払いのため、商銀株券を売却、クリチーバの宅地を今野氏に売却。第二耕地売却にかかる。
△十二月二二日　犬山氏、借金の督促に来宅
　事情説明して延期して貰う。
△すべてを天意に委せる気持になれて、心の安らぎを得た。当面の問題に善処して最善の方法をつくすことが神意にかなうことを忽然として悟った。不思議と心が落着いてきた。
一九五四年一月七日　第二耕地、手取り九五〇コントスで売りに出した。ロンドリーナのダッタ一・〇〇〇コントスで売れた。神に感謝の祈りを捧げた。八〇〇コントス預金
　斡旋人に六〇コントス手数料を払い、一四〇コントス持ち帰って妻に見せる。西村七五、藤原九〇、木村要一郎五一・五〇〇、伯人六〇、計二七六・五〇〇ミル支払う。
　心の重荷が少し柔いだ。
△一月一四日　借主・館脇利一の組合の手形
　額面一〇〇コントス、利子一年半分共に一二二・五〇〇ミル犬山氏に支払う。同日館脇に決済を通知した。
△五月二一日　田中恒太に入れた手形、理事七名で支払う。赤木

平十、支払いに応せず
△六月一五日　中村孝治、菊池章に組合のレバンタメント作成を要求、継続か清算か、オノラット弁護士、西村達雄と相談した。
一九五六年十一月一七日　ついに債権商社に組合不動産を譲渡することに決議。
△手形を書替え、弁護士料四〇〇コントスを二五〇コントスに引下げ、手形で支払う。
△十一月二九日　借主・館脇の手形一〇〇コントス（菊池章保証の手形）菊池未払いのため、借主名儀を中島に肩替えした。期限一九五七年七月三十日に延期。
△塩野南銀支店長から手形支払いの請求をうける。逃れられない災難なら、できるだけ果して行こうと腹を決めた。
九五七年十二月　クリチーバのダッタを大西に一三〇コントスで売却、館脇の手形を支払う。
一九五八年十月　福島義憲も組合の借金対策に苦悩している。不憫
△十月二九日　朝曇り、西村と同道、コミッサリオへの支払い分担金一四二・八六〇ミル奥野正一に手渡した。
一九五九年三月五日　アサイ裁判所へ西村、藤田、小笠原、中島、証人として出頭、裁判延期。
△四月二二日　西村来宅、福島の手形書替えた。
　以後、次第に生長の家に帰依して行く日記で埋められている（のち生長の家地方講師）
アサイ製糖工場成らず
一九六三年　霜害対策産業として政府のアルコール院はカフェー代替産業、カンナ栽培を奨励、パラナ州に１０所製糖工場設置許可を発表した。アサイ連日会では直ちにカンナ

植付希望申込書を配布建設運動を起こした

一九六四年九月三十日　アサイ製糖会社建設委員会結成、委員長小林一郎、委員　菊池　端、南原春雄

一九六五年一月十一日　宮本　実連譲の運動によりクォーター（生産割当許可）が下付された。

△工場建設費　四〇〇万コントス

うちＧＥＲＣＡ融資７０％　カンナ生産者組合員（三〇〇人）出資３０％生産者に対する伯銀融資条件＝抵当物件として全財産登録義務が発表された。植付申請者は愕然、申請取り消しが続出した。加えてパラナ州における製糖工場建設許可の報に対し、北伯製糖業者は〝肥沃なパラナ州に許可することは、北伯業者の生命取りとなる〟と反対運動を起こした。連邦政府、猛反撃にあって、製糖工場建設許可を取り消した。こゝに於いて足かけ三年にわたった委員懸命の運動は、ついに水泡に期した。この製糖問題は、次期連日会改選にも尾を曳き、顧問・頼則照雄が会長に返り咲くことになった。

△十一月十二日　菊池、中村理事借款交渉に出聖、金融成らず帰植。

九五三年二月一日　理事二名辞職勧告の件で中島春雄、藤田千代治、小笠原竹雄、西村　達雄（欠席）福島実義、奥野正一会談。小倉清を後任に推薦することに決め、慎重を期することを申し合わせた。

△四月十日　菊池章理事辞任、西村達雄常務理事に就任。

△六月一五日　パラナ銀、ノロエステ銀の手形支払いに頭痛鉢巻１組合は巨大な借銭で前途多難。

△六月二七日　産組の土地代、西村と奔走して金策に成功、一応愁眉を開く。

△七月一日　中島、藤田、金策に出聖、原田宅とスザノ産組訪問。
△七月二二日　次々とくる手形支払いのため金策に奔走、心労激しく日記をかく暇もない。
△八一一日　西村と出聖、金策つかず、コミッサリオに組合の不動産を一時抵当に入れることを中央会に委任して帰植。
△八月一八日　アスンソン・コレイア商会カルロス・ボルビンにプロテストされた手形
　額面一〇〇コントス、西村達雄個人で支払う（半額は西村個人の商銀株券を渡した）
△八月一九日　プロテストされた手形＝借主
　館脇利一の手形三五コントス、中島二五コントス、工藤十コントス出し合って決済。
△鈴木商会より契約カフェー出荷の催促をうける
△八月二六日　南銀の約手プロテストされる
△十一月五日　手形の支払いのため金策に追われて神経衰弱気味。厭世的になって恐怖症に襲われる。この不安から逃れたいと死を考えた。町から帰ってきたら、隆が熱病で寝ていた。森山さんのカザメントを控えて死んで迷惑をかけるのは、すまない。一生一代の祝いをさまたげてはならない。家の中で踊りの稽古をしている子供達をみて思いとどまった。
△十一月九日　心を強くもとうと努めたが、厭世感は募って行くばかり…
△十二月二十日　産組の負債分担額支払いのため、商銀株券を売却、クリチーバの宅地を今野氏に売却。第二耕地売却にかかる。
△十二月二二日　犬山氏、借金の督促に来宅、事情説明して延期して貰う。
△すべてを天意に委せる気持になれて、心の安らぎを得た。当面

の問題に善処して最善の方法をつくすことが神意にかなうことを忽然として悟った。不思議と心が落着いてきた。

一九五四年一月七日　第二耕地、手取り九五〇コントスで売りに出した。ロンドリーナのダッタ一・〇〇〇コントスで売れた。神に感謝の祈りを捧げた。八〇〇コントス預金斡旋人に六〇コントス手数料を払い、一四〇コントス持ち帰って妻に見せる。西村七五、藤原九〇、木村要一郎五一・五〇〇、伯人六〇、計二七六・五〇〇ミル支払う。

心の重荷が少し柔いだ。

△一月一四日　借主・館脇利一の組合の手形額面一〇〇コントス、利子一年半分共に一二二・五〇〇ミル犬山氏に支払う。同日館脇に決済を通知した。

△五月二一日　田中恒太に入れた手形、理事七名で支払う。赤木平十、支払いに応ぜず

△六月一五日　中村孝治、菊池章に組合のレバンタメント作成を要求、継続か清算か、オノラット弁護士、西村達雄と相談した。

一九五六年十一月一七日　ついに債権商社に組合不動産を譲渡することに決議。

△手形を書替え、弁護士料四〇〇コントスを二五〇コントスに引下げ、手形で支払う。

△十一月二九日　借主・館脇の手形一〇〇コントス（菊池章保証の手形）菊池未払いのため、借主名儀を中島に肩替えした。期限一九五七年七月三十日に延期。

△塩野南銀支店長から手形支払いの請求をうける。逃れられない災難なら、できるだけ果して行こうと腹を決めた。

一九五七年十二月　クリチーバのダッタを大西に一三〇コントスで売却、館脇の手形を支払う。

一九五八年十月　福島義憲も組合の借金対策に苦悩している。不憫

△十月二九日　朝曇り、西村と同道、コミッサリオへの支払い分担金一四二・八六〇ミル奥野正一に手渡した。

一九五九年三月五日　アサイ裁判所へ西村、藤田、小笠原、中島、証人として出頭、裁判延期。

△四月二二日　西村来宅、福島の手形書替えた。

以後、次第に生長の家に帰依して行く日記で埋められている（のち生長の家地方講師）

アサイ製糖工場成らず

一九六三年　霜害対策産業として政府のアルコール院はカフェー代替産業、カンナ栽培を奨励、パラナ州に１０所製糖工場設置許可を発表した。アサイ連日会では直ちにカンナ

植付希望申込書を配布建設運動を起こした

一九六四年九月三十日　アサイ製糖会社建設委員会結成、委員長小林一郎、委員　菊池　端、南原春雄

一九六五年一月十一日　宮本　実連譲の運動によりクォーター（生産割当許可）が下付された。

△工場建設費　四〇〇万コントス

うちＧＥＲＣＡ融資７０％　カンナ生産者組合員（三〇〇人）出資３０％生産者に対する伯銀融資条件＝抵当物件として全財産登録義務が発表された。植付申請者は愕然、申請取り消しが続出した。加えてパラナ州における製糖工場建設許可の報に対し、北伯製糖業者は〝肥沃なパラナ州に許可することは、北伯業者の生命取りとなる〟と反対運動を起こした。連邦政府、猛反撃にあって、製糖工場建設許可を取り消した。こゝに於いて足かけ三年にわたった委員懸命の運動は、ついに水泡に期した。この製糖

問題は、次期連日会改選にも尾を曳き、顧問・頼則照雄が会長に返り咲くことになった。

宗教

浄土真宗　照真寺

一九三八年八月十五日（お盆の日）

日支事変戦没者慰霊祭挙行。

委員長…高橋豊治、会計…丹治左門。

一九四〇年十月二十日　慰霊祭挙行。

委員長…館脇利一。

委員…赤木平十、和田　寛、永露、石川藤、西村達雄、飯田留次郎、伊藤重吉、高崎忠、藤田千代治、岸野英夫、石川清司、熊谷清

祭主…上川青雲、坂根亀市、奥田富吉。

一九四八年八月二四日　アサイ墓地納骨堂建立式　八十山凡水、中司真水執行。

△十一月三一日　仏閣建立委員会結成。

委員長…勝田卯太郎、副委員長…飯田留次郎、委員…古荘貞記、長谷外三郎、笠岡俊郎、神　藤一、河野　静、相談役…小倉新之助、南　源吾、坂根亀市。

一九四九年二月八日　照真寺地鎮祭挙行。

△八月二〇日　上棟式挙行。中司真水、小倉　加水、織田慶爾外四僧が執行。

一九五〇年一月十四日　照真寺落成。

落成式を兼ねて入仏式、慰霊祭、報恩講の四大儀式を執行、稚児行列を行った。

総工費　二五〇コントス。儀式は、小倉如水、織田慶爾（アサイ）八十山風水、中司真水（ロンドリーナ）伊原善行、尾坂誓勇（マリリア）伊藤空信（カフェランジァ）武島道宣（アルバーレス・マッシャード）講師で行われた。門徒総代　勝田卯太郎、門徒副総代　神藤一、飯田留次郎、古荘　貞記、笠岡俊郎、相談役　長谷外三郎、山田新一、坂根亀市、南　源吾、伊豆忠夫、小林喜市。

一九五二年八月二五日　加島兼信師着任。

△八月二五日　大谷光暢門主智子裏方パラナ巡錫随行員稲葉道意、古川智徳両師。

△九月八日　大谷暢慶師家族と着任。

一九五四年八月十四日　西本願寺法主　大谷光照祝下嬉子裏方一行パラナ巡錫

一九五五年九月二〇日　曹洞宗管長　高階瓏仙　禅師一行来寺。

一九五六年十月二八日　照美寺仏教会会館建設　委員会結成。委員長　南　源吾、副委員長　米倉清吉。幹事長　島田与平、会計　山田　新一、小谷　弘、幹事　佐藤タケ、飯田ミキエ、長谷キヨ、土居アヤノ、我妻源八、丹治ミエ子、角保美恵子。

△十一月　公認宗教団体に登録。

一九七一年　住職住宅新増築。

一九七二年　仏教会同朋会館をアサイ文化連合会に寄贈。

一九七三年三月　本庄開教使帰国。

△九月六日　今井崇記聞教使着任。

一九七四年五月八日　仏教会鐘楼建設を議決。

児童　七五人。

△七四年十二月三十日　島田与平会長死亡。

一九七五年三月十五日～十六日　本山より稲葉　道意師を迎えて鐘楼客殿落慶法要を厳修。
△八月十六日　幼稚園開園、児童二八人、初代教師　今井多美子、米倉直美。
一九七六年八月十六日　米倉直美辞任、阿部ヨランダ就任。
一九七七年七月十五日　庫裡増築落成。
△阿部ヨランダ辞任　能島栄子就任。
一九七八年八月十六日　照真寺創立三十周年を迎える。
△五月二三日　幼稚園増築。
一九八一年五月十六日　食堂、庫裡、改築きまる。

霊　友　会

関数一九一九年（日本）
ブラジル開教、一九六九年アサイで布教。
一九七五年　サンパウロ支局開設。現在、増田英祐南米総局長布教に当っている。
△ブラジル霊友会々長　小田島秀雄（三期）現在に至る。
アサイ会員　五〇〇余人、ブラジル総会員三万余人。
△霊友会の教え＝読経して先祖を供養し日々新たな自分に立ち返って、より確かな生き方を求めていこうと実践して行くこと〃魂の開発運動〃をスローガンに今日の行ないが明日の自分を創ることに努めている。

天　理　教

《天理教トレス・バラス教会》
一九四二年　渡辺滋次郎布教所長、天理教トレス・バラス布教所建立を申請

一九四六年　中央区にシャカラを購入（現地）起工。第二次大戦で枢軸国人は、三人以上集会を禁じられていたので、上棟、瓦葺きなど、三人以上屋上に上がらぬよう苦心した。

（一九五〇年）

天理教ブラジル布教管理所（バウル市）所長・大竹忠治郎より、管内天理教トレス・バラス教会として認可された。

会長・渡辺滋次郎、役員・紺野　弘

一九五一年二月一日　会長・渡辺滋次郎死去

△四月一七日付、後任会長・渡辺初枝姉任命される。

△十一月、渡辺初枝会長は、増田安一を帯同天理教本部へ帰参の為、訪日。

一九五二年五月一三日付、本部直轄一般教会として『天理教トレス・バラス教会』の許可下りる。神殿、会長住宅、信者詰所、客殿、育英舎等つぎつぎと完成、木造建築ながら一応整備、一九四七年、渡辺滋次郎育英部を設けて日語教師を招聘、農村信者の子弟教育に務めた。一九五一年十月、種々の事情で閉鎖。

△五二年五月　渡辺初枝姉大いに布教に精進、教線はマリアルバ市、遠くソロカ　バナ線ヴェンセスラウ市に伸展。

一九五四年四月二四日　教会全焼の大節に遇う

一九五五年十二月　渡辺初枝会長は、信者九名を連れてブラジル出発、翌一九五六年の教祖七十年祭参拝。

一九五六年九月八日　新神殿（煉瓦造り）９メートル×２５メートル）落成奉告祭執行。

一九五七年　岡村俊郎、天理教本部に派遣され一九五八年教師補、一九五九年、教会役員となる。

一九六〇年　渡辺初枝会長、鈴木貫一夫妻を連れて帰本。

一九六三年　渡辺初枝会長は増田安一ヴェンセスラウ布教所長並

びに宮崎よしマリアルバ　布教所長を帯同本部帰参
一九六五年十一月三十日　渡辺初枝会長は、信者二十一名を引卒して教祖八十年祭に団参
一九六八年　天理教真柱継承奉告祭に会長代理に藤川栄一役員を派遣。
一九七〇年　渡辺会長　信者十八名を引卒、本部婦人会創立六十周年記念総会に参加。
一九七三年九月二日　渡辺初枝会長出直行年九十才。
△九月二五日　岡村俊郎空路天理教本部祭典に向う。
一九七四年一月四日　岡村俊郎教会長就任奉告祭を行なう。
△九日一一五日　新会長、就任御礼参拝に本部帰参す。
一九七五年二月十六日　チバジー布教開莚式、所長・藤川むめを姉
△三月二三日　ブラジル大和布教所間莚式、所長・和田岩吉
一九七六年一目十二日　教祖九十年祭団参第二便で四十三名、四月団参三十四名出発
△八月、教祖九十年祭記念、控室、男女更衣室上棟式挙行。
△記念行事として少年笛鼓隊結成
△稚楽部発足、部長・板井金志
一九七七年九月十二日　教会後継者　岡村平八郎、教会長資格検定講習受講の為、天理教本部に行き同年十一月二二日帰会す
一九七八年九月五日　岡村俊郎教会長ほか信者一行八人本部参拝に出発。
一九八〇年四月十四日　天理教本部婦人会創立七十周年記念総会に三十一人出発
一九八一年十月八日　教祖百年祭教会長教義講
歴代会長　加藤和男、上村拓也、斉藤桂治、福田義則、中島　巌

会員８５人
△子供会、一九五六年六月発会　　歴代会長　酒井　修、酒井幸子
一九四六年　池田源吾、滝浪　茂、酒井三佐雄　木村末喜、協力のもと花嫁修養の〃家庭光　明寮〃落成、歴代寮長　池田源吾、木村末吉、西広一人、工藤　定
一九五二年　徳久克己博士、パラナ各地巡講を機に各地に誌友会が創立、九月十日　汎パラナ誌友相愛会連合会発会　初代会長滝浪　茂
一九五五年十二月　サンタ・セシリア誌友相愛会発足、会長　森口　一人
△青年会、一九五七年三月発足
歴代会長　森口徹雄、会長　矢田由高
△子供会、一九六一年十一月発足
一九五六年七月　谷口清超先生、パラナ巡錫更に伸展。
一九五八年　セードロ区誌友相愛会発足、
歴代会長　浜津清司、佐藤弥右工門。
△サン・ジョン区誌友相愛会四月発足、
歴代会長　市川吾郎、市川　喬
△バルサモ区誌友相愛会、四月発足
歴代会長　中島春雄、数間三郎
△白鳩会、一九六六年六月発足
歴代会長　滝浪とり、座間芳枝
青年会、一九六六年一月発足
歴代会長　中島　進、加藤富男
子供会、一九六六年二月発会

会長　堺沢俊一

△カビウーナ区誌友相愛会発足

会長　愛沢義照

一九六三年七月一九、二〇、二一の三日間、

谷口稚春師、輝子先生一行、アサイで講習会開催

△十月二七日　全パラナ五つの連合会に分割　アプカラナ以東、パラナ第一誌友相愛連合会発会

歴代会長　工藤　定、中島春雄

△白鳩合パラナ第一連合会十月発足　会長　工藤恵子

本門仏立宗

一九四六年八月　草刈庄蔵ミランドポリスからアサイに移転、十日十三日高祖日蓮聖人御命日に自宅で初めて御講を奉修信者４家族

一九四七年七月　リンスの御導師茨木日水上人よりパラナ第３１大宜組の組名をうけた。

信者１２戸

一九五〇年八月　アサイ町に石川講師によって仮集拝所起工式挙行。

△十月八日　茨木日水上人入仏式を挙行。

一九五一年九月二十六日　本山より茨木日水上人を通して〃本法寺〃の寺号受領。

一九五二年四月二十八日　第五世講有日風上人より本法寺護持の御本尊をさずかる。

一九五三年一月　上行寺住職　石川講師本法寺兼任住職となる。

一九六二年三月　池田正祐師着伯。

△十一月　本法寺青年会創立。
池田師講師に当たる。本法寺婦人会発足。
一九六四年　本法寺ロンドリーナ移転に対してイガッポ湖畔に敷地購入。
△九月　移転地鎮式挙行。
一九六六年五月八日　石川講師移転遷座式を行なう。
△五月下旬　石川講師本法寺初代住職に就任
△十二月　石川講師タウバテ仏立寺住職に転任、同月二十九日神保清胡師着任
一九六七年九月　浜田清豊師責任講師として着任。
一九七七年二月二十四日　神保清胡御導師、本法寺新本堂起工式挙行。
△七月　新本堂完成。
アサイで初声を上げた妙法五字の御題目は、今信徒二七〇戸、準信徒一〇〇戸、教区一〇、組二一、班三七の組織でパラナ一円に隆昌をみている。

歴代局長

氏名		就任	退任
組長	草刈　庄蔵	一九四七年	一九五〇年
局長	草刈　庄蔵	一九五一年	一九六六年
〃	小河　歳雄	一九六七年	
〃	藤　満蔵	一九六八年	一九六九年
〃	小河　歳蔵	一九七〇年	
〃	藤　満雄	一九七一年	
〃	草刈　与蔵	一九七二年	一九七三年
〃	藤　満雄	一九七四年	

〃　松田　吾輔　一九七五年　一九七六在
〃　藤　満雄　一九七七年
〃　増田　賢貞　一九八〇年（現在）
アサイ信徒　二〇戸

救　世　教　アサイ布教所

布教所建設以前

一九六一年十一月　鈴木春江、根本万吉、金岡　弘、高橋亘夫人、西村ら西村宅で布教を始め浄霊して入神。

一九七一年二月二二日　ロンドリーナの後藤、山下両先生を主に、信者の協力で布教所建設、現信者日系一〇〇、伯人五〇。

布教委員　熊谷健也、根本正行、鈴木春江、為弘儀光、児島三次、阿部　勇。

△行事、感謝祭、毎月第三日曜日に行なう。

△ロンドリーナ布教所では山月流生花教授。

△ちなみに一九五五年八月九日、ブラジル布教始め一九六五年ブラジル宣教本部サンパウロ市に創立。

カトリック教

◎日系布教

一九三四年五月一日　移住地最初のミサ、臼井介仁支配人同マリア・テレザ夫人の要請でエウジェニオ・ヘルテル神父（ロンドリーナ）が行なった。アサイ・カペラは、ピリアニット教区に属していた。

一九三九年　移住地、アサイ行政区に昇格、教会堂建立委員会結

成、カペラ（小教会堂）落成
一九四二年十月八、九日　第一回クリズマ（転身寄蹟式）挙行
一九四三年六月二九日　教会建設委員会結成、榛葉彦平、第二会計に就任
一九四四年三月一日　聖ヨゼフを守護聖人として、アサイ・パロキアが独立教区として発足、ジャカレジンニョ管区におかれ、故フランシスコ・ボルケス神父の代まで続いた。その間、故マルチンニョ神父、カテキスタ、飯海イザベル、島崎マグダレーナが神言修道会から派遣されてきた。
△カトリック婦人会創立。
△暁の星青年会創立、ドナ・ソフィアほか信者の努力による。
△幼稚園創立、婦人会の後援、菊池けい子、神成喜恵、神成秀子ほか日系女性がカテキスタに協力、カテキスタが去ったあと、平栗よみが保母の役をつとめた。
一九五四年六月四日　本建築教会堂一部地階広間完成
△神言合は、二世の大沼神父（日本で勉学した司祭）をアサイにおき、後、アモレイラの主任となる。
一九六〇年一月一日　代りに日本語に堪能なグドルフ・コンスタンチーノ神父を第六代主任司祭に迎えた。一年後、同神父離伯、カテキスタ野村は、ショエン・スタット会のイルマンとなり、カテキスタ佐藤は、日本のトラピスト修道院に入り、横井姉妹は名古屋に帰った。神言合は、故ジョゼ・バイエル神父とカテキスタ野田、箕浦伝道婦を派遣した。五年後、バイエル神父は転任、日系向け宣教師は不在となった。佐々木、宮本、木村神父がロンドリーナから出張、毎月ミサを立てた。
　聖体奉仕者（ミニストロ・エウカリスチコ）位階制が採用されて浅岡源治が受講してミニストロ日系第二号となり、布教を助け

ている。
一九六一年　ジョン・メラット師、モッカ日伯青年会を組織したが一九七〇年転任、同年
第九代ジスラウ・カリス神父の時、日本からビトール・マルゴット師が大沼神父のあとを継いで、アモレイラ教会の主任神父となり、アサイ日系人の布教も行なった。タピライに転任したカテキスタ箕浦も定期的に出張した。カテキスタ小山田クレウザ・ジュリアーナ姉妹が生れ、ドトル矢野、工藤謙二夫妻、工藤イネスなど多くの功労者がいる。

△一九七〇年　ジスラウ神父時代、多胡みや子ほか伯人教師が担当、神父の努力で修道女達の家が落成、園児の増加をみて今日に至っている。
一九八一年九月二八年にわたって移住地の布教活動を続けてきた神言会は、ジョン・バルグレウスキイ神父を最終に、アサイ教区はコルネリオ・フロコピオ司教区に渡した

☆　☆　☆

新司祭オズワルド師は、マルゴット神父が病気欠席の場合、日系人に不自由させまいと、一週間でミサの日本語をマスターして日本語でミサを立て、信者を感激させた。
◎聖堂建設
一九四四年二月一日、パロキアとして発足
三十年を費やして教会堂が完成した。その間、現数会委員会理事長・佐藤　久、赤本平十、佐藤清介、浅間源治らの犠牲と献身日系コロニアの協力によるものが多い。
明けの星幼稚園は、サンジョゼ幼稚園と改名して経営、男子のリーガ・サンジョゼ会は廃止となったが、カトリック婦人会は活

発な動きをみせている。

カトリック婦人会

一九六九年　山室　邦子　佐藤　律子
一九七三年　藤田ヒロ子　太田　都美
一九七四年　山田千鶴子　浅間　文江
一九七五年　浅間扶美枝　太田郁美子
一九七六年　太田　都美　佐藤よつ子
一九七七年　鈴木とく子　堀内　恵美
一九七八年　〃　〃
一九七九年　〃　〃　〃
一九八〇年　〃　〃

会長…鈴木のり子、副…堀内恵美
会計…山田千鶴子　浅岡扶美枝
書記…庄司正子
区長…佐藤節子、佐藤　律子　数間百合子、藤本志満子、小笠原せつ子

◎アサイ教会所属カトリック信者数

一世　五〇名
二、三世　一六六一名
（一九七八年調査）

移住地管内部教育概況

一九三三年　市街地の現、勝田宅で亀山文子、森下孝夫人、日語教員を始めた。学童十三人
一九三四年三月一日　教育会創立
△八月、市街地中央小学校落成、移住地最初の小学校、初代日語教師・辻本正行次いで森川義視
△八月、ヘローバ校落成
一九三五年四日一日　ヘローバ校開校　教師・舘脇悦子、学童十三人
△中央小学校公認となる　学童五六人、三八年一月グループに昇格
バルサモ、フィゲーラ区、仮小舎で日語教授始める、教師・浅見誓之助
一九三六年八月十一日、バルサモ校落成、三七年公認、教師・小鷹義子、学童五〇人
△フィゲーラ校開校　四月五日、三八年三月　公認、教師・藤田秀雄、学童四五人
△四月十三日　サンパウロ文教普及会トレスバラス部会設立、初代部会長・西村　市助
一九三七年四月　区長、教師、学務員の連絡…協議会創立、アサイ中央小学校々長に上野克男赴任
△八月　セボロン校落成、翌年二月開校、教師・田尻暁近、学童十三人
△同月アルト・パウダーリョ校落成
△十月　パルミッタール小学校落成、教師・大谷儀平、学童二四人
一九三八年三月一二日　ロゼイラ小学校落成

教師・瀬戸原盛雄、学童二五人、上野克男
教師アラサツーバに転任、西村市助学校連
絡協議会長ウライに移転、協議会解散
一九三九年　アモレイラ日詰校落成
一九四〇年　カビウーナ日語校創立　教師・熊田米吉（一九四七年）
△校舎落成一九五一年四月二九日
△ブルッポ校建設一九五七年
△ジャンガーダ日語校創立閉校一九六九年　教師・佐藤房栄
△第二次世界大戦拡大と共に衰退を辿った外国語教育取締り、厳しさを増しバルサモ、パルミッタール、ペローバ区通信教授を行なう
一九四一年　タンボリー小学校創立
△サン・ジョン日語校始め、教師・後藤清喜
△一九四八年五月　サン・ジョン日語校創設
教師・後藤清喜
△同校舎落成一九四九年三月、敷地、後藤繁治寄贈
△星野量平運動敷地半アルケール寄贈（十二月）
△一九七九年閉校
一九四四年　鈴木裁縫学校創立
今日まで約六・五〇〇人卒業
一九四六年二月十日　富士学園（市街地）創立　教師・松野尾泰行
△グルカイア日語小学校創立
林出亀彦　（一九五〇年）休校（一九五五年）
一九四七年　アモレイラ日語校創立、教師・金田小一郎
△セードロ小学校創立、教師・青木房江

△トレスバラス児童愛護会創立、会長・江口重親
一九四八年七月　サンタ・セシリア日語校則立　教員・薮谷定次
△校舎落成　一九四九年三月
△三月四日　パイネイラ育英尋常小学校創立　教師・大田　剛
《州立アサイ中学校》
一九四九年六月十一日　都立アサイ中学校建設委員会設立
委員長・ドトール・ドミンゴス、ジュリオン　郡長、第一会計・アルツール・モンテネグロ、第二会計・鈴木正太郎委員・ドトール・エドガール・バルダル、エドカル・マルコンデス・ビルジリオ・スプリ、久谷アントニオ、川瀬正三、ジェロニモ・ジャタイ、舘脇利一、菊地　章、榛葉彦平、池田源吾、中島春雄、藤田千代治　坂本作次郎、佐藤万吉、河上重善、宮坂実郎、高橋森太郎、田川力太郎、石川　進、宮　庄吉、湯沢　茂、頼則照雄、四本二郎
一九五〇年二月開校　入試合格者一〇八人
△アモレイラ分校創立、教師・北林豊次、山田甚一
一九五七年閉校。
△ポルテーラ日語校　教師・平藤正慶
一九五四年閉校。
△誠泉学園　三月一日創立、教師・下石長之助、一九七〇年閉校
一九五三年　州立アサイ・グルッポ日系初の校長・今野オリンダ俊子就任（一九五七年）
△アモレイラ町日語校創設、教師・長谷川　閉校一九六五年七月
△《サン・ジョゼ幼稚園》
一九五五年二月　アサイ・カトリック教会が祈念堂に移転したのを機に旧教会に幼稚園を開設した。保母・菊池圭子、柳沢イザウラ、園児五〇人
一九五六年　イザベラ伝道婦、病気のため相川マルガリダ伝道婦

が派遣され、保母として直接指導にあたった
一九五七年三月　相川伝道婦退植、平栗貴代美が保母となる
光彩絵画教室
一九五五年十二月一日創立、教師・大谷暢慶師
一九五八年十二月　北パ教育連合会創立、

トレス・バラス教員会

一九四七年　トレス・バラス児童愛護会創立、会長・江口重親、会計・薮谷定治、書記・松野尾泰行
△九月一八日、児童愛護会解散、一八日
移住地日語教師が富士学園に会してトレスバラス教員会を創立した。出席者・薮谷定治（中央区）江口重親（中央区大和校）松野尾泰行、亀谷四郎（富士学園）後藤清喜（サン・ジョン）中畑知助、安保慶太郎（バルサモ）磯部雄二（パルミッタール）中野伊幾子（フィゲイラ）小松　寅太郎（セボロン）及川末男（アモレイラ）太田喜作、織田一美（カビウーナ）青木房江（セードロ）の１１校１４人
児童　八五〇名
会長　薮谷定治、会計　後藤清喜
書記　松野尾泰行
江口重隆、亀谷長四郎、中畑知助、安保慶太郎、磯部雄二、中野伊幾子、小松寅太郎　及川末男、太田喜作、織田一美、青木房江
△十一月　第一回児童作品展開催
△教授法研究会開催
△第一回児童作品展示会開催

△少年相撲、少年少女陸上大会を主催
△青年野球、陸上、青年連盟に協力
△非合法校、学務局より閉鎖を命じられ休校
自習帖を作製、通信または巡回教授法をとる
△戦勝派と認識派で分裂した青年連盟の合同仲介の斡旋の労をとる
△第十五回青年、第五回少年の陸上合同大会を開催、於・フィゲーラ、選手九〇〇余、移住地開発以来最大の大会を共催
一九五二年　日語校を私立登録、法規に従い外国語教員資格検定試験を受けて資格を取得
グループ卒業学童以上を対象に授業開始
△全員二七人、児童一・三〇〇人に増加
一九五一年八月　教育局の閉鎖令により休校巡回教授を行なう
△連日会学務部長　中島春雄　副部長　野村正喜、河合敏之
野村正喜副部長、河合敏之外交部長、合法的手続きのため州教育局と交渉を始めた

一九五二年　外国語教授資格試験を行なう
教師２５人合格、外国語教授有資格となる。
△六月四日　第二次大戦後の意見対立により分裂していた青年連盟、教員会の努力により、合同、一九五〇年来の対立を解消、連日青連、教員会共催陸上大会を開催した選手九〇〇余名
一九五五年　日語版〝ブラジル歴史〟ガリ版発行
一九五七年　算数教科書（ブラジル式計算法採用）　全五巻上
一九五七年　北パ少年野球大会でアサイチーム　三連覇と全伯大会で優勝
一九五八年十二月　北パラナ教員連合会創立

一九五九年七月　教員会創立１０周年記念誌発刊
一九六四年七月　教員会創立１５周年記念行事盛大に行なう
△教員会主催行事と関係行事は次のとおり

トレス・バラス児童作品展
一九五〇年　第一回開催、出品校１８、五二年第、二回開催、五九年まで出品校１８、以後日語
校漸減一九八一年第３１回開催１１校。
一九六九年一月一九日　北パラナ教育連合会創立１０周年記念に青木房江、樋代武夫、鷲見一夫、木村三男教師表彰、アメリカ新聞協

移住地日語校
富士学園歴代教師
会から青木洋一、樋代武夫教師最高功労章受賞。
△七月　トレス・バラス教員会創立二十年祭挙行
一九七五年三月　教員会２５周年記念誌（ガリ版）発行。
△九月二八日　２５周年記念表彰、青木房江、青木洋一、樋代武夫、小川幸次郎一九七六年六月　サンパウロ総領事館、２５年以上勤続の青木房江先生を表彰。
一九七八年七月一八日　サンパウロ総領事館、青木洋一、樋代武夫先生を表彰。
一九七九年七月二九日　トレス・バラス教員会創立３０周年記念文化祭＝合同学芸会開催（１１校）青木房江先生を表彰。
△三月四日　パラナ教員会２０同年記念に樋代武夫（４３）青木房江（３１）青木洋一（２７）八本令次（３０）中川　彰（３０）表彰（かっこ内は勤続年）

△七九年　三十周年記念文化祭挙行
一九四九年―創立当時
　日語校一〇、教員一三、児童八五〇
一九五三年―全盛時代
　日語校二二、教員二九、児童一・四八〇
一九七九年
　日詰校一一、教員一六、児童五八一
一九八〇年七月　トレス・バラス教員会三十周年記念に、唯一の生存者創立会員、青木フサエ先生表彰
一九八一年七月五日　青木洋一先生（７３才）心臓病で死亡
△富士学園父兄会は、総工費二五〇万クルゼイロで校舎増築を決めた
　会長　薮谷定治、会計　後藤清喜
　書記　松野尾泰行
　江口重隆、亀谷長四郎、中畑知助、安保慶太郎、磯部雄二、中野伊幾子、小松寅太郎　及川末男、太田喜作、織田一美、青木房江
△十一月　第一回児童作品展開催
△教授法研究会開催
△第一回児童作品展示会開催
△少年相撲、少年少女陸上大会を主催
△青年野球、陸上、青年連盟に協力
△非合法校、学務局より閉鎖を命じられ休校
自習帖を作製、通信または巡回教授法をとる
△戦勝派と認識派で分裂した青年連盟の合同仲介の斡旋の労をとる
△第十五回青年、第五回少年の陸上合同大会を開催、於・フィ

ゲーラ、選手九〇〇余、移住地開発以来最大の大会を共催
一九五二年　日語校を私立登録、法規に従い外国語教員資格検定試験を受けて資格を取得
グループ卒業学童以上を対象に授業開始
△全員二七人、児童一・三〇〇人に増加
一九五一年八月　教育局の閉鎖令により休校巡回教授を行なう
△連日会学務部長　中島春雄　副部長　野村正喜、河合敏之
野村正喜副部長、河合敏之外交部長、合法的手続きのため州教育局と交渉を始めた

一九五二年　外国語教授資格試験を行なう
教師２５人合格、外国語教授有資格となる。
△六月四日　第二次大戦後の意見対立により分裂していた青年連盟、教員会の努力により、合同、一九五〇年来の対立を解消、連日青連、教員会共催陸上大会を開催した選手　九〇〇余名
一九五五年　日語版〝ブラジル歴史〟ガリ版発行
一九五七年　算数教科書（ブラジル式計算法採用）　全五巻上
一九五七年　北パ少年野球大会でアサイチーム　三連覇と全伯大会で優勝
一九五八年十二月　北パラナ教員連合会創立
一九五九年七月　教員会創立１０周年記念誌発刊
一九六四年七月　教員会創立１５周年記念行事盛大に行なう
△教員会主催行事と関係行事は次のとおり

トレス・バラス児童作品展

一九五〇年　第一回開催、出品校１８、五二年第、二回開催、五九年まで出品校１８、以後日語
　校漸減一九八一年第３１回開催１１校。
一九六九年一月一九日　北パラナ教育連合会創立１０周年記念に青木房江、樋代武夫、鷲見一夫、木村三男教師表彰、アメリカ新聞協会から青木洋一、樋代武夫教師最高功労章受賞。
△七月　トレス・バラス教員会創立二十年祭挙行
一九七五年三月　教員会２５周年記念誌（ガリ版）発行。
△九月二八日　２５周年記念表彰、青木房江、青木洋一、樋代武夫、小川幸次郎一九七六年六月　サンパウロ総領事館、２５年以上勤続の青木房江先生を表彰。
一九七八年七月一八日　サンパウロ総領事館、青木洋一、樋代武夫先生を表彰。
一九七九年七月二九日　トレス・バラス教員会創立３０周年記念文化祭＝合同学芸会開催（１１校）青木房江先生を表彰。
△三月四日　パラナ教員会２０同年記念に樋代武夫（４３）青木房江（３１）青木洋一（２７）八本令次（３０）中川　彰（３０）表彰（かっこ内は勤続年）
△七九年　三十周年記念文化祭挙行
一九四九年―創立当時
　日語校一〇、教員一三、児童八五〇
一九五三年―全盛時代
　日語校二二、教員二九、児童一・四八〇
一九七九年
　日詰校一一、教員一六、児童五八一
一九八〇年七月　トレス・バラス教員会三十周年記念に、唯一の生存者創立会員、青木フサエ先生表彰

一九八一年七月五日　青木洋一先生（７３才）心臓病で死亡

△富士学園父兄会は、総工費二五〇万クルゼイロで校舎増築を決めた。

臣道連盟

アサイ臣道連盟＝戦事犯＝

戦後コロニアは勝ち組、負け組に分かれて同胞相剋の悲劇を演じた。いわゆる〝勝ち組〟には二十余の結社があった。その会員数と組織において、臣道連盟が代表的であった。一九四二年二月一一日の紀元節を卜して吉川順治退役陸軍中佐を中心に臣道実践を目的に臣道連盟が結成された。中佐が書いた〝薄荷（ハッカ）は敵国の爆薬となり、絹は落下傘に使われる〟と云うハッカ国賊論により、四二、四四年にかけてマリリア、ツバン、フ・フルデンテ、バストス、はじめ、バンデイランテス、コルネリオ・プロコピオ、アサイなどで黄金小屋焼き打ち、ハッカ蒸溜釜破壊事件、桑抜き事件などが頻出した。同事件の黒幕的存在として指導者格の中佐は、約一年監禁された。脳溢血で出獄したが活発な動きはできず、指導権は根来良太郎に移った。

一九四四年二月　牛窪清四郎は小沢勇夫と語り不祥事件防止のため、産業妨害に抵触せぬ方法で〝薄荷栽培漸定縮少中止方法〟草稿これを西尾　茂、河野　静がゲラ刷、小沢勇夫、丹　俊夫（ロンドリーナ）曽我部博（ロンドリーナ）が配布した。

△四月二九日　黒木　栄ガラナ工場は、天長の佳節を卜して落成祝賀宴を開いた。

△四月二十九日　黒木　栄ガラナ工場は戦事令〝公衆の場で枢軸国の国語の使用、三人以上集会を禁ず〟を犯して、天長節に落成祝賀宴を催した。招かれた人たちは、宴酣警察の急襲をうけてアサイ拘留所に拘置された。

小倉　清、菊地新悦、小沢勇夫、黒木栄岡本、伊藤　映、榛葉ジョゼ、岡本喜一、牛窪清四郎の九人　その場を逃げたもの数十人。

△バンデイランテス、コルネリオ・プロコピオでは、蒸溜釜破壊事件により指導層と容疑者十数人が収監された。荒井豊蔵、笹根先生、藤原父、藤原　弘、藤原二郎親子佐々木、芥川俊丸、身吉　勉、浅野進一郎末藤、その他（バンデイランテス）桑抜き事件で只野文児、只野安雄、山下賢太郎（コルネリオ・プロコピオ）らが収監された。只野安雄、山下賢太郎は、青年会長指導者として留置された。め、ロンドリーナ拘置所から釈放された。アサイ天長節組の岡本喜一、榛葉ジョゼは二世のため間もなく釈放された。榛葉は釈放の知らせをうけても、容易に出所しようとはしなかった。留置した以上、正当な釈放理由を知らせて欲しいと署長を困らせた。

クリチーバ刑務所に送られた荒井豊蔵、笹根、藤原父、末藤（未成年者）ら会の責任者たちは間もなく出所した。五月一日ラジオニュースを提供していた件で池田源吉が署に連行され、その夜クリチーバ刑務所に直送された。六月二二日、ロンドリーナ拘置所からクリチーバ刑務所に護送された天長節組七人は、二十五日、所内日光浴で池田と顔を合わせた。池田は重罪視され独房に入れられていたのだ。わずか一ヵ月余会わぬ間に池田の頭髪は白髪になっていた。戦事犯（アサイ、バンデイランテス、コルネリオ）は同じ未決監に収容されたがクリチーバの原　美作（子供の徴兵忌避罪）は別監に収監されていた。さらに二ヵ月たった八月、ニュース配布の件で河野正夫、ニュース報道の件で西尾　茂、謄写版貸与の件で河野　静が送られてきた。監房内で

（注・臣連発足当時の事情は、２０１０年現在はちがう内容のことが判明している）

は、差し入れの伯字紙で戦況を批判しあったこれをデマニュースとする菊地、只野とバンデイランテス組、敗色を認める小倉、牛窪、河野　静、西尾、伊藤、中庸の小沢岡本、黒木、刑務所の中でも三派に色分けされた。

相次いで起きた事件にサンパウロ州のテロ団体と関連があるものとみた警察は背後の首魁を突きとめようとバンデイランテス組を水攻め、掌叩き（ゴムで叩く）の拷問に付した。関係のないバンデイランテス組は良く耐えた。関連のないパラナからは、泰山鳴動して鼠一匹も出なかった。

拘置満一年を迎えてバンデイランテスの青年たちは出所した。続いて四月二九日、アサイの天長節組と夫々満一年を迎える毎に出所した。たゞ只野文児だけは産業妨害罪でピアラクワラ家族監で四年の刑に服した。

一九四五年四月　出所した菊地新悦は、谷田その他の同志と寄り合って臣道実践を唱えた

神風ニュース

八月一五日、終戦から一ヵ月後の九月二三日、臣道連盟がサンパウロで発会、直ちに奥地日本人集団地に呼びかけた。

神州不滅の信念組　谷田才次郎、菊地新悦、長谷芳松、岡崎鶴寿、山田一介、寺岡忠弥ら同志は呼応して臣道連盟に加盟、アサイ支部（谷田才次郎支部長）を創立した支部では、本部から配送されてくる怪ニュースをガリ版で複製して同志に配布した。十月、牛窪は臣連アサイ支部幹部に招かれて幹部二名と全伯臣連大会に出席した。会場のクリスタールホテルには全伯臣連代表が百余名集っていた。牛窪は大会開催に先立って怪ニュースの出所を質問した。根根来良太郎の側に控えていた牛沢鶴太郎が

答えた。

『吾々は神風ニュースとして、その出所は詮索しないことにしとる』

満足な解答は得られなかった。牛窪は真実を報道するよう、デマ記事が与える害毒の恐ろしいことを述べると出席簿の名前を消して会場を出た。産組の件で出聖、小川ホテルに投宿していた館脇利一理事長、辻本正行専務は報告を聞くと、牛窪に二人を呼び返すよう頼んだが、牛窪は二度と会場には入れなかった。

帰植後牛窪は幹部たちに中庸な記事を報道するよう忠告したが、既に放れた矢を戻すことはできなかった。

一九四六年　谷田は本部理事となり、菊地がアサイ支部長となった。

△三月七日、溝部幾太バストス産組専務

△四月一日、野村忠三郎元文教普及会事務長暗殺、古谷重網元駐亜公使暗殺未遂

△六月二日、脇山甚作退役陸軍大佐暗殺とサンパウロ、ノロエステ、パウリスタ線で１０数件凶行が演じられた。サンパウロ州保安局捜査課では臣連幹部がテロ行動に関して間接的に物心両面の協力者として検事局へ提訴した。

△八月十日、臣連幹部８０人は大統領令で国外追放処分に付された。その中に谷田が含まれていた。臣連会員約十万、この外、同目的の外廓団体が２０余組織されていたので、検事局では速かに処置するため、十二日８０人をリオ、サントス中間の海上アンシエッタ島に隔離収容した。

△十二月二日、第二次国外追放処分７６人、六日、第三次国外追放処分が発表され総計一七七人となった。当時政府としては、これだけの人を国外に追放することは不可能事であった。治安上島

送りとした。その間人身保護令が適用されて漸次釈放された。
島から帰った谷田に『谷田詣で』が激増した。

勝ち組

一九五〇年　各区でフィゲーラ、セボロン、カビウーナ、パルメイラ、サン・ジョン、ジャンガーダ、ロゼイラ、アモレイラ区は勝ち負け二派に分かれた。フィゲーラ区では１９家族が区会から脱会、双葉会を創立して双葉日語校を建てた。木材は谷田が寄贈した、開校式には谷田が一場の訓辞を与え、吉田しすえ女教師が教壇に立った。

△アモレイラ私立日語校建設、材木、谷田の寄贈、教師　鯨岡欣三郎

△セボロン区青年団トレス・バラス青年連盟から脱退、全伯青年連盟（強硬派）に加入した。

△ロゼイラ区は認識派２２家族が区会を脱会〝革新会〟を創立した。

荒堀一俊、高橋角次、加藤富弥、岡村　正、佐藤清介ほか１７家族、ジャンガーダ区会も分裂した。

△二月、戦後最初のアサイ日本人会が信念派によって結成された。入会者一七〇家族、市内在住日系、三四〇家族の約半数を占めた。

顧　問　長谷　芳松
会　長　谷田才次郎
副会長　菊地　新悦
会　計　和田　清助
書　記　森　敬二
外　交　佐藤　正信

連　絡　　石川　　勉
評議員　　中村純一、高橋豊治、徳重盛国、山田一介、内田浩
組　長　　横尾良治、川端信一、佐藤良一、粟窪定蔵、小林勇治、古城時太郎　　有働文一、菊地常蔵、梶原弥一郎、田村永治、佐藤喜一、藤戸　勇

一九五一年　二派に分裂したセボロン区では、休校、通信教授を行った。全伯青年連盟の各支部割当金問題に端を発して、同連盟に加盟した２９人のうち１４人が脱会、革新青年団を結成した。移住地は二派に分裂したがサンパウロ州にみるようなテロ行動はなかった。

★

当時ラジオ、新聞をとり上げられて、つんぼ桟敷におかれた日系コロニアに対して、時局を悪用した時局欺偽漢、川崎三造、加藤拓治らは別として民族の誇りを持つ日本人は、臣道指導層の愛国的巧言を捏造記事を信じて〝臣連〟に入会した者も、入会しない者も、日本の勝利を信じたい気持、憂国心に変りはない。憂国心が過熱してテロ行為に走った青年のテロ行為は許せないが、入会した心情は日本人として当然であり責めることはできない。むしろ、純真な青年をテロ行為に走らせた時局欺偽漢の示唆を責め、過熱敗戦認識運動した指導層の罪が問われるべきである。パラナ州では、同胞相剋の悲劇テロ行為はなかったが、移住地では、連合青年会の分裂、区会の決裂、脱会、日語校分裂など約１０年の暗黒時代が続いた。

★

シエッタ島から釈放されて帰植した谷田才次郎親分は、更に信念を変えず、狂信的なまでに戦勝を唱え、死ぬまで押し通した。

★

一九五二年　分裂した各区青年用は、トレス・バラス教員会の仲介により歩み寄った。

一九五四年　各区青年団は復帰、再び平和を呼び戻したが、一部の勝ち組はまだ無料帰国を信じて日本船が迎えにくるのを待つ者があった。

日本戦災同胞救援会

一九四七年三日　日本戦災同胞救援会サンパウロ支部(矢崎節夫支部長)が創立、各地で救援運動が起こった。移住地では榛葉彦平支配人をはじめ中易定一、赤本平十、宇都宮百太郎、林　隆、高橋　末、田草川兵馬らが腰弁をさげて募金運動した

一九四九年九月末までに前後七回、二二五人分

計　二六万六・七三一・八〇センターボスの義捐金をサンパウロ救援会支部を通じてブラジル赤十字社から日本へ送金した。

俳　壇

一九三六年　バルサモで森冬葉が句会　土曜会を創立。
一九三七年　上野克雄先生、町で句会を創立
　高橋果亭　上野蓬生　山内静水　山室黙震
神津目出哉　松本枯葉　山崎峡川
津田穂風　西村市助　村田米曹
細野ひろ志　勝田卯太郎　村田麦仙
山本茂人　森　冬葉　森　南風　森　虹洋
森　星童　梶原以峯　村田筑紫　渡辺華山
神成元女　荒堀徹夫の名がみえる。
一九三八年　青年連盟が〝月報〟を発刊、月報俳壇が生まれた。
一九四〇年　サビア句会　創立、榛葉雨読　古沢典穂　岡村十字星　主唱。
一九四一年　サビア句会第一回バルサモ句会
　第二回ペローバ句会　第三回市街地句会
　第四回市街地句会　この第四句会を第一回　トレスバラス俳句大会とした。この頃
荒堀初穂　山崎青史　佐藤峯花　前坂不折
熊谷文男　小笠原此君子　山本静人
宮崎仁士　奥野泉生　山根白雲　高橋夕経
及川豆流　金田みつほ　木村僚花
池崎勝彦　森下硬市　菊池　端　会田一雄
本庄賢一　阿部不烈風　阿部北舟
小谷流水　四本毯栗　四本峯月　笠岡耽慧
東条球南　菊地新悦　梶原千枝子　田甫強

井戸　巌　河元芳蘭　広森一峯　中根岳陽
など〃かたばみ句会り〃　〃蝸牛会〃　に寄り
〃カビウナ句会〃に小笠原此君子　山口紫水　吉沢竜峡　吉沢耕
雨　村田静水
佐々本文平　能由恵水が集った。
△第二次大戦中〃ともだち句会〃佐藤蒼夏
高橋夕径　渡辺長城　金田みづほ
木村僚花　木村要一郎　木村逝子
奥野泉生　後藤和夫　水谷日出夫
金田富次郎　米倉ひろし　江田翠波
中島松風　坂東東雲　坂本たつまなど、細細と句作
一九四四年四月三十日　木村僚花宅で句会を開催。
一九四七年三月三日　中央の同好者によって
〃丸木舟吟社〃創立　高橋果亭　沢村自葉
村田麦仙　村田米曹　大江木舟　阿部牧宵
森下牧人　広森一峯　東条球南　岡本南窓
出草川兵馬ほか小笠原此君子　吉田松寿
奥野泉生　平栗春星　榛葉雨読　藤原宰女
奥山石斧　四本峯月　宮沢凡仙子　木村兄弟　中島草志。
△七月〃角笛句会〃創立　大江草舟　大江とめ女　東条宵村　上
川星花　上川南
塚田暁光　伊藤星幸　川浜胡舟　須永一星　三池亜生　三池伯水
奥野泉生　東条球南
一九四八年　同吟社に中川いさむ　中川暁星　米沢幹夫　浜津ま
さを　石塚砂童
白田涼仙　遠山荒渕　影山ひろし　が加わった。
△五月二三日　北パ俳句大会（丸木舟吟社主催）開催。

△アサイ木蔭句会創立　沢村白菜　木村僚花　木村逝子　高橋果亭　田草川兵馬。

一九四九年　パウリスタ新聞主催　第一回北パラナ俳句大会　アサイ町で開催。

一九五〇年　山人会（ジャンガーダ）創立

沢村自葉　奥山石斧　白田涼仙　主宰。

△アサイ探勝会　沢村自葉　木村逝子　主宰　ポルテーラ句会　創立。

一九五二年　移住開拓２０周年記念第四回北パラナ俳句大会開催

出席者８７人

一九五三年四月十日　星野立子（高浜虚子の娘）歓迎句会開催。

住みつけるさましみじみと秋灯下　立子

バルサ待つ湧きたつ秋の蝶の中　〃

一九五七年一月　セッテ・ケーダス吟行

一行１８名（木蔭発刊一〇〇号記念）

３月２１日『アサイ俳句大会』同朋会館。念腹師等北パ各地より四十二名。

△移住地２５周年記念俳句大会　富士日語校で開催。

△三月　若草吟社（婦人俳句会）創立

多胡一蚪指導

アサイ俳壇＝一九五八年以降

一九五八年以降、一九七九年十月　佐藤念腹師死亡に至る迄で、木蔭誌を中心に作句活動を続けて来たが、対内的には一九六九年末、丸木舟吟社が活動を停止するに至った十年間は、若草婦人吟社と提携活動を続け、一九七〇年三月以降は、アサイ俳句会が全伯に繋りを持ち、今日に至っている。

一九五九年

△四月『移民五〇年記念俳句集』佐藤念腹著
移民五〇年慶祝使節として、句集『初雪』の著者でも在らせられる三笠宮若杉殿下、ゆかり妃殿下の御来伯があった。

新首都にはや日章旗秋天下　若　杉
大凧の舞い上り下り　リオの浜　〃
コーヒーの実　山と積まれし秋日濃し　若　杉
笠戸丸　こゝに着きしと秋の浜　〃
朝涼しポルトガル語のボーイ達　ゆかり
落葉する並木はあれど暑きこと　〃
山一つ　なき平原は秋天下　〃
移り来て第二の故郷　秋晴るゝ　〃

3月23日『アサイ俳句大会』同朋会館。念腹師、はるえ　白水等五十名。

一九六〇年
3月20日　『アサイ俳句大全』同朋会館。念腹師、記代、久江、伊勢、春一、蒲偶居等四十五名

一九六二年
2月18日　『アサイ開拓三十周年記念、北パ第十四回俳句大会』同朋会館。
帰伯の念腹師を二年振りに迎え、蒼崖、星子、貞逸、南泥、北竜、光男、春雪、甲太、一陽、伊豆夫等九四名の盛会。

一九六四年
3月28日　『アサイ俳句大会』同朋会館。
念腹師、玄海児、その他北パ各地より四十五名集まる。
凶作に生まれしとのみ母に聞く　念　腹

一九六五年
２月２２日　『木蔭二百号記念、アサイ俳句大会』同朋会館、念腹師、樋口昭子等四十名。

雨つづく町に棉摘人夫着く　　信　子
庭に水打てばかなかな一寸鳴く　扶　双

一九六六年
３月１３日　『アサイ俳句大会』同朋会館、七〇名。中易すみ子特別賞受く。
一九六七年
３月５日　『アサイ開拓三十五周年記念、十九回北パ俳句大会』同朋会館。
念腹師、冽生、豊秋等七十五名。
ドイツ移民に負けたくはなし馬肥ゆる　比浪士
銀漢やばったりの米　夜あがる　扶　双
一九六八年
６月２０日　『アサイ俳句大会』同朋会館、三十八名。念腹持選句に賞を出され　た。
一九六九年
３月５日　『アサイ俳句大会』同朋会館、四十名。念腹師、豊年、義人堂、圭流、錦雄、秋葉等四十七名、幹事…要一郎。丸木舟吟杜主催最後の大会となった。
一九七〇年以降
　３月１日　移住地史も古に従い、他地方への転住者相次ぎ、その上、作家の老齢化其の他作句に情熱を失う者等々のため、会員は減少の一途を辿って来た

若草吟社、カトリック婦人俳句会も自体の月例会さえ持てなくなった。
そこで、若草側の信子、たけ、カ・婦人句会側より登女、キヨ子が集り両句会を一本化し、其の第一回例会を三月十五日と決めた。
３月１５日　『アサイ俳句会』発足す。
　第一回アサイ俳句会、キヨ子居で開催。席上、本句会を婦人のみとせず一般志を同じくする希望者を包含出来る事とし『アサイ俳句会』として発足した。
一九七一年
　４月　　木、文『山崎青史哀悼』此君子
　５月　　天理教俳句会生る。幹事…八木羚次
　△　俳誌『火焔樹』要一郎発行。
８月１７日　『アサイ俳句大会』生長の家会館。
念腹師、義人堂、玄海児、星子、春一、久子、北龍等、リオ、サンパウロ、クリチーバその他、
巣立鳥　鍬打つ方へ歩み来る　念　腹
馬の貌　向けて一連アーリオ売る　〃
一九七二年
１１月２６日　『アサイ開拓四十周年記念、北パ俳句大全』同朋会館。念腹師をはじめ初代移住地支配人　斉藤信山（俳名）豆陽、岳陽、岐陽、青灯、すみ江、春雪等七十四名、移住地の俳句開発に尽力された念腹師、信山、兵馬、自葉、麦仙、此君子、松涛、球南、欣吉、光男氏等アサイ縁故の作家に記念品を贈呈した。
移住せしは昔除草をせしも亦　　念　腹
鳳凰樹風吹きあげて葉を見せし　　同

特選

草取りに追われ追われて妻病むと　此君子

一九七三年

２月１８日　『北パ五市合同句会』発足、同朋会館、四十名。

一九七五月

２月１１日　アサイ俳句大会、同朋会館。念腹師

牛童子、星子、岐陽、豆陽、かほる　等四十名。

一九七六年

５月１０日　『アサイ俳句大会』同朋会館。念腹師、カネ女、蜂春等三十五名。

挺かけて余る力や木藷掘る　　念　腹

一九七八年

１１月３日　『米寿』吉田松涛著。米寿の記念出版。ホトトギス雑詠選集の一句『種　選るや納屋一ぱいの輸入薯　松涛』

等八百八十句を収録した句集。序句に『初笑米寿八百八十句念腹』がある。

一九七九年

１０月２２日　佐藤念腹死去、行年八十一才。

畑打って俳諸国を拓くべし　　虚　子

１１月１日　俳誌『朝蔭』発刊、主宰佐藤牛童子

念腹師急逝によって、朝蔭は事実上木蔭俳壇を継いだ。アサイ俳句会はこれを支持した。

一九八一年

９月１３日　『アサイ俳句会の月例会も、今回で百九十二回に達した。

ホトトギス雑詠入選句が更に再選され『選集』に採録されたアサイ作家の句と現会員。

幹事、奥野泉生、会員、小笠原此君子、同五風　吉田松涛、多胡一蚪、同キヨ子、木村欣吉、福島信子、神成登女、宮崎扶双、飯田層雲、藤田千代治、同ひろみ、熊田恵水。

歌　壇

アサイ歌壇小史

第一期一九三六～一九四一

一九三六年、本庄研一責任編集のトレス・バラス月報の文芸欄に渡辺夜話夫、水藻、岡村若水、真田喜之作、古川伏虎園、宮崎人目らが初めて短歌を発表した。

一九三七年一月　当時、アサイに住んでいた武本由夫氏の指導のもとに、竹入食堂で歌会を開いた。参加者　本庄研一、久保庭亮、塚原喜美夫、林　文吾、山室新太郎、間もなく武本が聖市へ移転して作歌は絶えた。

一九四〇年　本庄研一がトレス・バラス産業組合機関誌を刊行、文芸欄投稿者は、高原（本庄）古沢典穂、深山淡月、村田耿、晶山（山室）間もなく廃刊、同好者達は各家庭もちまわりの歌会をひらく。仲根香樹、武田一淋、参加、仝年十二月謄写版の歌語〝ユーカリ〟刊行、日米戦で三号で廃刊。同誌投稿者、貝丘圭子、並木行子、阿部美津子、牛窪星四、紫　香葉、波沫正夫、庄司北陽、庄司憧南、阿部牧青、加藤九郎、招　謬、木村僚花、本庄研一、仲根香樹、武田一淋、山室新太郎。

第二期一九四九～一九五二

戦後一九四九年三月　歌会復活

本庄研一、本庄真津緒、波沫正夫、西灘摂津夫、平栗とも子、羽山孝二、大月澄亮、仲根香樹、行田　進（秀進）小笠原富枝、木村僚一、武田一淋、川田千葉路、岡村滴露、小坂康平、小坂朗子、沢万須子、河合千世、泉皓一、三原千介、平野益子、山室新太郎、丘晶子、尾形ひろし等が参加。

一九五二年　米沢幹夫が参加して歌誌、南回帰線が生れる。これに新しく参加した者に、岡部旭帆、岡本一春、北村都詩夫、神吉良夫、竹山翠峯、間理　浩、藤井　栄。

第三期一九六二～一九七二

本庄研一、米沢幹夫が移転、山室は家庭の事情で十年作歌中止を発表、指導者を失ってアサイ歌壇は衰微した。

一九六二年　椰子樹新編集人米沢幹夫の勧めで山室は、アサイ新聞に歌壇を設けて新人指導に当たった。

一九六四年三月　歌会開催、参加者

平栗とも子、北原しのぶ、神月かおる、山室新太郎、同年六日にアサイ日語学校の先生として移転して来た土屋ゆかりに協力して児童短歌を始めた。それを追うように、アモレイラ日語学校指導者、徳島千代が児童多数つれて参加した

一九六五年二月　歌誌　〃ゆりかご〃（後、朝日短歌に改名一発刊。

一九六七年二月　合同歌集〃パラナ松〃を刊行、パラナ松は、後日、皇太子御夫妻がパラナ訪問の時、本庄研一より献上の光栄に浴した。

一九六七年二月末、パラナ松刊行記念歌会はアサイ市にサンパウロ、各地方歌人多数出席して開催盛大をきわめた。

一九七一年　山室、レジストロへ移転、朝日短歌は危機に面したが笹浪、青木、北原、井上田上ら予定の百号まで出して廃刊。
一九七二年八月　児童歌語〃若竹〃発刊、横島千代主宰現在に至る。
一九七二年一月　朝日短歌一号から百号までの厖大な作品を聖市在の武本由夫、小笠原富枝、陣内しのぶ、弘中千賀子、米沢幹夫らが地元の笹浪北陽に協力、整理して〃朝日短歌〃　百号記念集を刊行。
歌人　八三名　総歌数　一九七首
児童　一三八名　〃　六二四一首
他地方からの投稿
四五名　一六八八首

歌　謡

第一回汎トレス・バラスのど自慢大会
一九五四年九月二六日　旧産業組合倉庫で開催、会場は一・〇〇〇余の聴衆で溢れた。
大会長　小林徳雄、審査委員長　菊池　端
審査員　木村金吾、菊池　章、平岡定次、中畑知助、横山政人
団体成績　歌謡　1アサイ、2バルサモ、3セボロン
第十六回歌謡大会
一九六九年八月十七日　於・同朋会館
団体　1アサイ、2バルサモ、3パルミッタール
第十六回アサイ南北歌合戦　於・同朋会館
一九八一年六日七日
北組　一・四〇四九点

南組　一・四一九五点
一四六点の差をつけて南組が北組の連覇を阻んだ。
第二八回歌謡大会　於・同朋会館
一九八一年八月二三日　参加　５地区６０余名

唱歌大会

第一回唱歌大会　於・同朋会館
一九六八年八月三日　アサイ文化連合会主催
出場歌手　８４名Ｅ級（八才以下）
１勝田エミ（ア）２平野とし子（ア）
第一回北パ唱歌大会
一九七六年九月二六日　於ハンデランテス
団体　アサイ優勝
第十三回アサイ唱歌大会　於・同朋会館
一九八一年八月九日　豆歌手　一〇六名

囲　碁

一九四一第一回アサイ囲碁大会開催
△出席者　岡崎鶴寿、松下二級　西村正之、中易定一三級、横由盛二、林秀雄、山ノ内父四級帯川礼資、小山良二六級。舘脇利一、辻本正之、平野源次郎、藤井新左工門、榛葉彦半、神津国夫、西森熊之助八級。奥田亮、松本泰治、高橋角次、児玉俊男九級。牛窪襄
一九五〇　第三回全伯囲碁大会。小山良三（アサイ）三位。

一九五一・五　北パ第一回囲碁大会、ロンドリーナで開催。
△一二　パラナ棋院創立。総裁後宮武雄初段。理事長　平松伝吉三段。理事・高　橋角次、平野源次郎、谷口対次。幹事牛窪襄
△創立記念北パ囲碁大会コ・プロコピオ市で開催。
一九八一年　囲碁人口減少により衰退を辿っていたが、二世層養成により復興の兆、郡司四級新風を送る。

将　棋

一九四八年第一回全伯将棋大会開催
一九五〇年　棋士・小坂、和田兄弟、菅原、森下父、久保、神津、岩井、西村、野崎、斉藤、紺野ら。
一九五一年　アサイ将棋クラブ創立
一九七〇年五月一九日　第十回パラナ名人戦
於・マリンガ、丸山由三三段優勝、準優勝　坂康平三段
△北パ将棋連盟創立
△全伯名人戦に丸山由三、小坂康平三段出場
一九七五年一月　新年将棋大会開催＝毎年開催　会長・園田　栄、副会長・上井紀与晴
△六月、第一回汎トレス・バラス将棋大会開催＝毎年開催
一九七六年一月　会員３７名　会長　園田　栄、副会長　上井紀与晴
△二月八日　例会開催＝例会は毎月開催
△六月一三日　第二回汎トレス・バラス大会　出場３１名
一九七八年　会長・園田　栄、副・上井紀与晴
△二月一三日　パラナ最強者戦　於・クリチーバ　園田二段、

郡司初段に昇段
一九七九年会長・笹　豊久、副会長・井上治男
一九八〇年　会長・野田昭、副会長・南原孝弟
△二月十日　第四回パラナ最強者戦　於・クリチーバ、アサイから6名
△五月十八日　パラナ名人戦　於・マリンガ、アサイから10名出場
△第十五回東部パラナ王将戦　十二月二三日
アサイ生長ノ家会館で開催、三段戦1位・丸山、2位・杉本、3位・柳瀬、4位・亀井、アサイ有段者＝四段・笹　豊久、三段斉藤　弥、今井崇紀、フランシスコ、二段　園田　栄、上井紀与晴、南原孝弟、野田昭、岩田義久、郡司　修、盛川　弘、酒井、藤村、古田守親、坂本英一、初段・福本正直、塚原、紺野
一九八一年　会長・園田栄、副・上井紀与晴

コチア産組アサイ倉庫

◎コチア産業組合中央会　アサイ倉庫　創設一九五九年十一月七日
組合員　一四人
創立年度
一九六〇年　一七三〃
一九七〇年　四四五〃
一九八〇年　三一七〃
組合員生産高（棉、大豆、カフェー、小麦、果物、豚、鶏卵）
一九六〇年　九一一・五〇八C
一九六〇年　九一一・五〇八C$

一九七〇年　一九・六〇五・〇六〇〃
一九八〇年　六四〇・五六四・〇一二〃

歴代倉庫主任

跡地　辰蔵　一九五九～一九六四年
野沢　学　一九六四～一九六六〃
黒岩　照雄　一九六七～一九七六〃
西村　豊　一九七六～一九八一〃
中上　昭　一九八一～現在

歴代倉庫代表

小岸　金吾　一九六〇～一九六四年
原　正直　一九六五～一九七〇〃
小山　良男　一九七一
佐藤　彦弥　一九七二～一九七四〃
佐々木新治　一九七五
原　正直　一九七六～現在

施　設

一、カフェー精選工場　一九六一年七月八　日落成、組合員特別出資により建設
一、精棉工場、同出資により一九六四年二月一日竣工
一、スーペル・メルカード一九六七年一月一五日操業、一九五九年創設した。購買部を拡大改組したもの。

重要年表

一九三二年五月一日開植（入植記念日）
△十月一日　野村農場の五人組入植
一九三四年　産組創立、理事長・館脇利一
一九三五年八月　第一回農産展開催
一九三六年一月二八日　日本人会創立
△五月二〇日　臼井支配人子息に端を発してカマラーダ暴動事件起こる。暴徒ブラ拓事務所、商店に侵入。
一九三七年八月二八日　トレス・バラス連合日本人会創立。理事長・館脇利一
△トレス・バラス青年連盟創立。理事長・西村市助。
一九四四年　戦争中、奥野正一、安江浦次郎の土地６０アルケール、州警兵が強制立退きを命じて没収、第三者に売却され未だに返戻されてない
一九四七年六月二九日　北パスポーツ連盟創立。
一九五〇年　全伯青年連盟加盟問題で、青年連盟分裂。８支部脱会。
△一月一四日　照真寺建立。
一九五一年十一月・アモレイラ、カビウーナ、セードロ、ポルテーラ、バルサモ区の一部　レイラ郡に編入。
一九五二年六月一日　石原柔道場開設。
一九五三年七月　トレス・バラス産組倒産。七人の犠牲者出す。
一九五四年一月三一日　青年連盟合同。
一九五六年五月　センバツ野球大会、パラナ３連覇の偉業樹立。
△九月八日　天理教　新神殿建立。

一九六〇年五月　センバツ野球大会。パラナ３連覇。
一九六一年　移住地電化。
一九六二年　北パ準青野球大会。アサイ４連覇の偉業樹立。
△三月一八日　池田球場完成。
一九七一年二月二二日　救世教布教所建設。
一九七三年　アサイ＝ジャタイ間舗装路開通。
一九七八年　北パ準青野球大会。アサイ３連覇
△三月　アサイ＝アモレイラ間舗装開通。
一九八〇年　全伯センバツ準育野球大会　パラナ３連覇。
一九八一年　アモレイラ、カビウーナ、セードロ、ポルテーラ＝ＢＲ三六九号街道間舗装道路開通。
一九八一年九月　教会堂落成、起工してから３０年を費す。

野球史

一九三三年六月十五日、ノロエステ、ソロカバナ野球大会、バストス移住地で開催。パラナチーム遠征。引卒者・臼井介仁支配人、島田俊三会計、亀山文治郎技師、選手・中曽根、高橋、竹入　鏡、池田勝二（トレスバラス）
一九三六年　中央区、森川農場の河野正男〃巨　人〃チーム創立、十月、中央区チーム結成
　主軸　林　圭三、河野兄弟、中村。
△十月、バルサモチーム創立　主軸　浅見鉄之助、フィゲーラチーム　主将　坂
一九三七年二月一四日　第一回大会（区対抗野球）バルサモ球場で開幕。参加４チーム　（中央、市街地、バルサモ、フィゲイラ）

大会長　西村市助、中央区優勝△第二回大会　八月八日、市街地球場で開催参加チーム５、１市街地、２中央、３バルサモ、４フィゲーラ、５ペローバ
市街地
　野本４、滝浪９、竹入６、池田２、高橋７　肥後３、禅院１、武井８、中易５
中央区
　林６、五十嵐４、中村１、高橋５、村田２　河野正７、平田８、比留間９、河野勝５
　三月七日　中央グランドで開催。
　サンタ・マリアーナ２×７トレス・バラス
△三月二二日　於・アルト・パルミッタール　球場。アルト７×２トレス・バラス△六月一四日　少年野球大会。サンタ・クルス、オウリンニョス、バンディランテス、トレス・バラスの四チーム。優勝戦オウリンニョス８×７トレス・バラス。
　オ軍　矢部―藤井
　ト軍　木村、広森―坂本
△八月一五日　第二回区対抗リーグ戦、市街　地４戟全勝、中央区　三勝一敗
△八月二七、二八日　カンバラ球場。カンバラ　サンタ・マリアーナ、トレス・バラス、
　ロンドリーナの４チーム。
　ロンドリーナ１８×８トレス・バラス
　カンパラ３×４サンタ・マリアーナ
　カンバラ１２×０トレス・バラス７回コールド。優勝戦ロンドリーナ８×１２サンタ・マリアーナ。
一九三八年三月二十、二七日、四月三、十日の日曜日、第三回対

抗リーグ戦開催、大会長　西村市助成績

市街地　四勝〇敗
ペローバ　三〃一〃
中央区　二〃一〃
バルサモ　一〃一〃
フィゲーラ　〇〃四〃

メンバー＝市街地、高橋（授）池田（捕）肥後（一）田島（二）向井（外）笹沢、武井、ペローバ＝山本（投）関田（遊）烏賀陽、宮下、清水、四本　中央＝森下（投）塚原、平田、高橋

ト軍		アルト軍	
6	林	森・弟	4
2	浅見	江原・弟	6
5	中村	木村	1
4	高橋	藤井	9
3	山本	大畑	2
7	河野・兄	江原・兄	3
8	坂本	安田	8
9	村田	稗田	5
1	河野・弟	森・兄	7

△第一回全伯青年野球大会開催（於・サンパウロ）

△八月二一日、北パラナ青年連盟創立、理事長　横沢太一

△第一河北パ青年野球大会、トレス・バラス移住地で開幕、参加チーム、アルト、パルミッタール、カンバラ、セントラル（コルネリオ）トレス・バラスの4、コル　ネリオ優勝

△トレス・バラス野球クラブ創立

一九三九年三月五日、第四回大会、市街地で開催、優勝バルサモ

一九四〇年二月四日、第五回大会、市街地で開催、バルサモ（5×3）中央区でバルサモ連覇

△第六回大会、九日一～八日、市街地で開催、パルミッタール初参加で決勝戦に進出、参加チーム6、バルサモ（15×5）パルミッタール、バルサモ三連覇　バルサモ

山本（投）森
千野（捕）中島
浅用（一）森
熊谷（二）佐藤
岡野（三）木村
吉岡（遊）木村
土井（左）山根
鈴木（中）盛川
奥野（右）加藤

パルミッタール

△四〇年四月七日　於・ピリアニット球場

サンタ・マリアーナ17×0トレス・バラス

△七月一八日　少年野球、於・オウリンニョス球場。オウリンニョス、サンタ・クルス、バンディランテス、トレス・バラスの4チーム。

優勝戦オウリンニョス8×7トレス・バラス。

△第三回北パ青年野球大会、八月八、九日、ロンドリーナで開

催、参加・アサイ、ロンドリーナ、ウライ、サンタ・マリアーナの４チーム。優勝ロンドリーナ（１０×７）トレスバラス

一九四一年五月四日、第七回大会　於・市街地　バルサモ四連覇

△八月八、九日　於・ロンドリーナ。

カンバラ、サンタ・マリアーナ、ピリアニット、トレス・バラス、ロンドリーナの５チーム。

トレス・バラス８×５サンタ・マリアーナ

二回戦トレス・バラス７×１０ロンドリーナ　優勝戦カンバラ１８×４ロンドリーナ

一九四六年　戦後八月三一日から三日間、第八回大会　於・市街地球場、参加１２チーム、１アサイ、２フィゲーラ、３セボロン

△八月二六日、北パラナ青年連盟創立、第一回（戦後）野球大会、ウライで開催。参加　カンバラ、バンディランテス、コルネリオ、サンタマリアーナ、ウライ、トレス・バラス、ロンドリーナ、アプカラナの８チーム

大会長…ジョン・リベイロ・ジュニオール

理事長、副理事長　西村市助、トレスバラス優勝（７×６）ウライ

一九四八年、第一回トレス・バラス少年野球

大会（アサイ球場）参加・旭、富士、上山　アモレイラの４校、優勝　旭校

△四移住地対抗試合、バストスで開催、トレス・バラス三戦全勝

△第一回北パ少年野球大会　アサイ優勝

△第二回北パ青年野球大会、十月三一月～十一月一日、アサイ球場で開催、トレス・バラス優勝

△四移住地野球リーグ戦、アリアンサで開催　トレス・バラス

三勝〇敗
一九四九年三月十二、十三、二十の三日間、第十一回大会、フィゲーラで開催、参加１２チーム、バルサモ三連覇、通算優勝七回、パルミッタール２、共和２
△第三回北パ青年野球大会、四月八、九、十の三日間、ローランジァで開催へ参加７チーム、ロンドリーナ（３×１３）トレス・バラス（優勝戦）サンタ・マリアナ（４×７）トレス・バラス＝三連覇
△第一回全伯選抜野球大会、サンパウロで開催、参加・サンパウロ、ノロエステ、パウリスタ、ソロカバナ、パラナ、南聖の６地方
優勝戦ノロエステ（３×２）サンパウロ
パラナ（２×１）ノロエステ
パラナ（２×３）パウリスタ
△パラナ
木村要、木村政、頼則、星加、盛川、小林　榛葉、岩井、嘉登、権藤、小林徳雄投手出場
△第六回北パ青年野球大会、於・アサイ球場
アサイ連覇チーム。
トレス・バラス８×５サンタ・マリアーナ
二回戦トレス・バラス７×１０ロンドリーナ　優勝戦カンバラ１８×４ロンドリーナ
一九四六年　戦後八月三一日から三日間、第八回大会　於・市街地球場、参加１２チーム、１アサイ、２フィゲーラ、３セボロン
△八月二六日、北パラナ青年連盟創立、第一回（戦後）野球大会、ウライで開催。参加　カンバラ、バンディランテス、コルネリオ、サンタマリアーナ、ウライ、トレス・バラス、ロンドリー

ナ、アプカラナの８チーム
大会長…ジョン・リベイロ・ジュニオール
理事長、副理事長　西村市助、トレスバラス優勝（７×６）ウライ
一九四八年、第一回トレス・バラス少年野球
大会（アサイ球場）参加・旭、富士、上山　アモレイラの４校、優勝　旭校
△四移住地対抗試合、バストスで開催、トレス・バラス三戦全勝
△第一回北パ少年野球大会　アサイ優勝
△第二回北パ青年野球大会、十月三一月～十一月一日、アサイ球場で開催、トレス・バラス優勝
△四移住地野球リーグ戦、アリアンサで開催　トレス・バラス三勝〇敗
一九四九年三月十二、十三、二十の三日間、第十一回大会、フィゲーラで開催、参加１２チーム、バルサモ三連覇、通算優勝七回、パルミッタール２、共和２
△第三回北パ青年野球大会、四月八、九、十の三日間、ローランジァで開催へ参加７チーム、ロンドリーナ（３×１３）トレス・バラス（優勝戦）サンタ・マリアナ（４×７）トレス・バラス＝三連覇
△第一回全伯選抜野球大会、サンパウロで開催、参加・サンパウロ、ノロエステ、パウリスタ、ソロカバナ、パラナ、南聖の６地方
優勝戦ノロエステ（３×２）サンパウロ
パラナ（２×１）ノロエステ
パラナ（２×３）　パウリスタ

△パラナ
木村要、木村政、頼則、星加、盛川、小林　榛葉、岩井、嘉登、権藤、小林徳雄投手出場
△第六回北パ青年野球大会、於・アサイ球場
アサイ連覇

△第二回四移住地リーグ戦　優勝アリアンサ
一九五〇年　全伯青連主催第一回北パ大会開催
参加・アプカラーナ、ウライ、バンディランテス、トレス・バラスの４チーム、優勝　トレスバラス（１７×０）バンディランテス
△第十二回大会、五月二七、二八日、於・フィゲーラ球場　参加９チーム、戦後青年連盟分裂、優勝フィゲーフ、２アサイ、３パルミッタール
△四移住地リーグ戦、アサイ・バルサモ球場で開催、四者二勝一敗の同率で優勝預り
一九五一年　汎米野球大会　於・ブエノス・アイレス　小林徳雄投手出場
△第六回北パ青年野球大会、於・アセル球場、アサイ連覇
△コロンビア大学チーム来伯、ブラジルチームに小林徳雄、木村要一郎、星加和久出場
△第五回北パＯＢ大会　アサイ優勝
△第四回選抜大会、パラナ決勝戦で惜敗、ノロエステ（２×１）パラナ
一九五三年
△四移住地野球大会　アサイ主催（三月三日）バストス優勝

△第七回北パ青年野球大会、アサイ三連覇の偉業樹立（コルネリオ球場）通算優勝６回

一九五四年　第六回選抜大会　ノロエステ（３×５）パラナ、初優勝、大優勝旗がパラナ、パネマ河を初めて越した。小林徳雄投手をはじめ傑出したプレヤーが現われた。パラナ黄金時代の幕開

メンバー◎印はアサイ選手

８清水、４山中、◎３木村、９岡田、２矢部、◎１小林、◎５神田、佐藤、６津ノ瀬　７寺田

△オールアサイ軍　ロンドリーナ文協招待野球に出場、緒戦オズワルド・クルスに敗退、参加５チーム

一九五五年　第一回汎トレス・バラス準青野球

大会開催、ロゼイラ優勝、参加６チーム（中央球場）

△第一回汎トレス・バラスＯＢ野球大会開催

△第十七回青年連盟復帰大会　三月十、十一、十二、十三の四日間、於・バルサモ、参加

１６チーム、優勝カビウーナ、２アサイ、３フィゲイラ、４バルサモ

△第七回選抜野球大会　パラナ（４×０）サンパウロ　連勝、小林、清の投手戦、延長１１回の激斗、黄昏のアセル球場で小林が、二死満塁さようならアーチをかけた。球史に残る大試合であった

メンバー◎印はアサイ選手

◎小林（投）岡田（捕）◎木村要（一）、

山中（二）、◎神田（三）津ノ瀬（遊）寺川（左）清水（中）中野（右）

一九五六年　オール・トレスバラス、クリチーバに遠征、一勝一

敗
△第八回選抜大会、パラナ（３×２）ノロエステ、パラナ輝く三連覇
メンバー、◎印アサイ選手
渋谷（二）和田（一）中野（右）本田（中）
◎小林（投）寺田（左）岡田（捕）◎神田（三）津ノ瀬（遊）
一九五七年　第十九回（２５周年記念）大会三
月一～三日、於・バルサモ、１アサイ、２フィゲイラ、３カビウーナ、４バルサモ
△第九回少年大会　四月十四、十五日　於・バルサモ、選手に規則違反問題が起こり、優勝無効
△第八回北パＯＢ大会　アサイ優勝　アサイ（９×７）マリング
△第十回全伯少年野球大会　アサイ優勝　於ツパン、ツパン（９×４）サン・ミゲル
△第十回北パ少年野球大会　アサイ三連覇
△南米野球連盟創立（１０月１９日）
一九五八年　第十二回北パ青年野球大会　四月　アサイ緒戦でアプカラナに敗退
△第十回選抜野球大会　パラナ優勝、パラナ（５×１）サンパウロ
△第九回北パＯＢ大会　十月、アサイ優勝　於・ウライ球場
△早稲間大学来パ
一九五九年　第八回北パ準青天会　三月、アサイ優勝　於・アラポンガス球場
△第十一回選抜野球大会　パラナ（６×１）サンパウロ　パラナ連覇
△第十回北パＯＢ野球大会　アサイ優勝、十月二四、二五日開催

△汎ＴＢ支部対抗野球リーグ戦　開始八月二日、終了十二月六日
試合日数十六日、計六〇試合
国体優勝アサイ、２パイネーラ、３アモレーラ、４フィゲイラ、５カビウーナ、６バルサモ
一九六〇年　第九回北パ準青大会　二月　於・アラポンガス、アサイ連覇
△第十四回北パ青年野球大会　於・アストルガ球場　四月七、八、九、十の四日間アサイ優勝、アサイ（６×０）　マリンガ

打点賞　神田弟　３位
最高持勲選手賞　佐藤投手
最優秀投手賞　佐藤投手
最優秀捕手賞　栄野此捕手
選抜（パラナ代表）アサイ選手、佐藤、大場、倉谷、中村
△第十二回選抜野球大会　パラナ（４×０）パウリスタ、パラナ三連覇（二度目）△第二回全伯準青野球大会　七月八、九、十日
於・サンパウロ、アサイ優勝（６×５　サンパウロ
個人賞＝最優秀選手・倉谷投手、美技・清野遊撃手、本塁打・久村外野手

△第七回北パ青年野球大会、アサイ三連覇の偉業樹立（コルネリオ球場）通算優勝６回
一九五四年　第六回選抜大会　ノロエステ（３×５）パラナ、初優勝、大優勝旗がパラナ、パネマ河を初めて越した。小林徳雄投手をはじめ傑出したプレヤーが現われた。パラナ黄金時代の幕開

メンバー◎印はアサイ選手

８清水、４山中、◎３木村、９岡田、２矢部、◎１小林、◎５神田、佐藤、６津ノ瀬　７寺田

△オールアサイ軍　ロンドリーナ文協招待野球に出場、緒戦オズワルド・クルスに敗退、参加５チーム

一九五五年　第一回汎トレス・バラス準青野球大会開催、ロゼイラ優勝、参加６チーム（中央球場）

△第一回汎トレス・バラスＯＢ野球大会開催

△第十七回青年連盟復帰大会　三月十、十一、十二、十三の四日間、於・バルサモ、参加

１６チーム、優勝カビウーナ、２アサイ、３フィゲイラ、４バルサモ

△第七回選抜野球大会　パラナ（４×０）サンパウロ　連勝、小林、清の投手戦、延長１１回の激斗、黄昏のアセル球場で小林が、二死満塁さようならアーチをかけた。球史に残る大試合であった

メンバー◎印はアサイ選手

◎小林（投）岡田（捕）◎木村要（一）、

山中（二）、◎神田（三）津ノ瀬（遊）寺川（左）清水（中）中野（右）

一九五六年　オール・トレスバラス、クリチーバに遠征、一勝一敗

△第八回選抜大会、パラナ（３×２）ノロエステ、パラナ輝く三連覇

メンバー、◎印アサイ選手

渋谷（二）和田（一）中野（右）本田（中）

◎小林（投）寺田（左）岡田（捕）◎神田（三）津ノ瀬（遊）

一九五七年　第十九回（２５周年記念）大会三

月一～三日、於・バルサモ、１アサイ、２フィゲイラ、３カビウーナ、４バルサモ
△第九回少年大会　四月十四、十五日　於・バルサモ、選手に規則違反問題が起こり、優勝無効
△第八回北パＯＢ大会　アサイ優勝　アサイ（９×７）マリング
△第十回全伯少年野球大会　アサイ優勝　於ツパン、ツパン（９×４）サン・ミゲル
△第十回北パ少年野球大会　アサイ三連覇
△南米野球連盟創立（１０月１９日）
一九五八年　第十二回北パ青年野球大会　四月　アサイ緒戦でアプカラナに敗退
△第十回選抜野球大会　パラナ優勝、パラナ（５×１）サンパウロ
△第九回北パＯＢ大会　十月、アサイ優勝　於・ウライ球場
△早稲間大学来パ
一九五九年　第八回北パ準青天会　三月、アサイ優勝　於・アラポンガス球場
△第十一回選抜野球大会　パラナ（６×１）サンパウロ　パラナ連覇
△第十回北パＯＢ野球大会　アサイ優勝、十月二四、二五日開催
△汎ＴＢ支部対抗野球リーグ戦　開始八月二日、終了十二月六日
試合日数十六日、計六〇試合
国体優勝アサイ、２パイネーラ、３アモレーラ、４フィゲイラ、５カビウーナ、６バルサモ
一九六〇年　第九回北パ準青大会　二月　於・アラポンガス、アサイ連覇
△第十四回北パ青年野球大会　於・アストルガ球場　四月七、八、

九、十の四日間アサイ優勝、アサイ（６×０）　マリンガ

打点賞　　神田弟　３位
最高持勲選手賞　　佐藤投手
最優秀投手賞　　佐藤投手
最優秀捕手賞　　栄野此捕手
選抜（パラナ代表）アサイ選手、佐藤、大場、倉谷、中村
△第十二回選抜野球大会　パラナ（４×０）パウリスタ、パラナ三連覇（二度目）△第二回全伯準青野球大会　七月八、九、十日
於・サンパウロ、アサイ優勝（６×５　サンパウロ
個人賞＝最優秀選手・倉谷投手、美技・清野遊撃手、本塁打・久村外野手

一九六一年　第十三回選抜野球大会　優勝サンパウロ（６×３）ソロカバナ、アサイから　倉谷光政、中村康成、神田正勝、大場ジョゼ出場
△第十回北パ準育野球大会　アサイ優勝、個人賞アサイ選手が独占。

一九六二年　七月
△第四回全伯準青大会、準決勝アサイ対イビウナ戦、九回裏（５１４）審判の不手際から日没、試合不可能となった。激昂したアサイ応援団、グランドに乱入、遂にアサイは試合放棄した。これに端を発して北パ運連、聖州球連から脱退した。
△九月、第十六回全伯青年野球大会決勝戦、アサイ３Ｘ２豊和、ニッポン高校野球移民豊和対コロニア・チームの最初の対決として歴史的意義があった。コロニアに軍配。

◎　◎　◎

場所・コチア球場、試合開始午後２時３５分
アサイ先攻、両軍３回まで００の投手戦
４回アサイ四番打者神田初球をハッシと叩いてライト線すれすれの先制二塁打。五番清野も初球をカーン一良い当り、右中間深く二塁打して、神田一挙にホームイン。六番中村三振、七番西森、投ゴロで二死、走者清野三塁へ。八番打者栄之比兄、中前二塁を抜く安打で出塁、西森一ゴロで中村二封、栄之此兄死球、佐藤右前ヒットで二死満塁の好機を迎えた。スタンドは唸ったが、栄之此兄投手索制球に倒れて万休。溜気がスタンドに湧く。
７回、倉谷、左中間二塁打で出塁、栄之比弟の一打は大右飛となり倉谷三盗に成功安打で清野生還、２点を上げた。
４回裏、二番打者西森甲飛のあと３番小松、三遊間を抜くヒットで出塁、四番打者福泉、中越えライナー制場外アーチを放って２点タイに持ちこんだ。試合は、俄然白熱化した。６回アサイは、清野三振、中村した。一死ランナー三塁、球神はアサイにほほえみかけた。打者、大場二ゴロを小松二塁手バック・ホーム猛然とホームを突いた倉谷、白煙の中にセーフ、決定の１点を挙げた。スコア３×２。
９回裏、豊和最後の攻撃、三番打小松三ゴロ、福泉、中飛で二死、試合終ったかにみえたが、小田島、左巽越し二塁打で一打同点のチャンスを迎えたスタンドの目は辻口に集中された。一ゴロ、神田、軽く捕んでベースへ…終了のサイレンが高々と鳴った。

アサイ		０	０	０	２	０	０	１	０	０	一	３							
豊　和		０	０	０	２	０	０	０	０	０	一	２							

アサイ
倉谷４
栄之比弟５
大場８
神田３
清野６
中村９
西森７
栄之此兄２
佐藤１

アサイ監督　倉谷、主将　大場。
豊　和監督　太田（近鉄）主将　福泉（柳井高商）
△第十六回北パ青年野球大会　アサイ優勝３×１マリンガ。
△第四回全伯準青野球大会　七月十三、十四、十五日　於・マリンガ、イビウーナ５×１　アサイ準決勝戦、日没８回でドロンゲーム
一九六三年　第十七回北パ青年野球大会　五月九、十、十一、十二の四日間　於・ノーバエスペランサ、アサイ優勝、アサイ１０×５　アラポンガス
△第十七回全伯青年野球大会　九月六、七、八日　アサイ２１×８リオで優勝、最優秀投手・大場、本塁打・神田
△第十五回選抜野球大会　五月二四、二五、二六日、パラナ４×１ソロ、最優秀選手・山本投手、首位打者・大場中堅手
一九六四年　第十回ＴＢ準青大会一月二五、三〇、三一開催
△五月一、二、三日選抜野球大会　パラナ連覇、本塁打王　中村右翼手パラナ　神田４、清野６、中村９、岡崎３、大場８、西山

7、藤谷5、佐藤1、山本2　　◎優勝戦
パラナ
0203103300－9
0120010010－5
セントラル
△第十八回北パ青年野球大会
アサイ三連覇
アサイ18×7ノーバ・エスペランサ
△第十八回全伯青年野球大会　九月五、六、
七日、於・ボンレチーロ球場、参加14チーム　豊和5×1アサイ
敢斗賞・大場投手、美技賞・倉谷二塁手
一九六五年一月三〇、三一日、第十四回北パ準青野球大会の帰途、アプカラナから8kmの地点曲り角で雨、前方のカミニョンを避けようとして横転、全員車体の下敷きとなった。(立仙博幸コーチ重傷、肋骨三骨折、上井清春監督作椎骨折、平野君広選手重傷)治療費三・〇〇〇クルゼイロス各区戸数割で分担した。
一九六六年　△ノンフロ電々近畿来パ
△七月、パラナ球連結成、会長　上野義雄州議。
△九月二八日、日本、ベネズエラ、ブラジル国際親善野球（日本10戦全勝）於マリンガ
日本5×0全パラナ
日本8×1ベネズエラ
一九六七年　第十九回選抜野球大会、決勝戦

パラナ４×３サンパウロ、延長１０回、菅田
ジエラルド、菅田次の好投、岡崎、菅田次の打棒冴ゆ。
△十一日、サロンパス（日本女子野球）チーム、パラナで親善試合を行ない、人気をさらった。
一九六八年　第二十回選抜野球大会、
セントラル４×３パラナ、エース菅田好投　球神味方せず
△第二一十二回全伯青年野球大会　第二回戦、豊和４×３ロンドリーナ、惜敗
一九六九年、第十八回北パ準青年野球一月二四、二五、二六日（ソセマ球場）参加１０チーム、アサイ優勝２４×０バンディランテス
代表・村田豊治、監督・佐藤敏夫、優秀選手・頼則、優秀投手・板田、優秀捕手・黒沼、敢斗・西森。
打撃・頼則６０、打点１林、２頼則
△第十一回全伯準青年野球大会決勝戦
豊和１１Ｘ４アサイ　優秀選手・西森
△第二十三回北パ青年野球大会　三月十三、十四、十五、十六日　於・ノーバ・エスペランサ　参加１１チーム　優勝マリンガ４×３ロンドリーナ
△九月七日　日本１×２パラナ　菅田好投、神田、久村、大場、鳥田、西森、丹野出場美技賞・久村、打撃・２神岡６３・６、３久村６０、打点２久村６点
△日本高校野球親善試合　九月六日　日本８×０全パラナ　（マリンガ球場）
日本７×２全パラナ（アセル球場）
△第二十一回選抜野球
優勝セントラル６×１パラナ

オール・パラナ＝アサイ選手　神川正勝、大場ジョゼ、畠田朝雄、久村進

一九七〇年

△一月二五、二六日　第十九回北パ準青大会　アサイ優順１０×５マリンガ　最優秀選手、最優秀投手＝西森　第二十二回選抜野球大会

優勝セントラル３×１サンパウロ

選抜＝アサイ代表選手　記録・久村勝志郎、監督・木村金吉選手

神田正勝、丹野ベント、西森クラウジオ、島田ジョゼ

△第十二回全伯準青野球人会　七月十、十二

於・ボンレナーロ球場　アサイ０×９プ・ウエンセスラウ　二回戦で敗退

決勝戦　豊和７×１プ・ウエンセスラウ　豊和七連覇

△第十六回全伯ＯＢ大会　十月二六、二七日　於・ボンレナーロ球場　パラナ１０×９セントラル、延長１０回、パラナ四年ぶり三度目の優勝、最優秀投手・小林、打点賞・後藤　優秀監督・三浦

一九七一年五月、第二十三回選抜野球

優勝パラナ３×０サンパウロパラナ

菅田弟４、荻堂６、大場８、南保７、菅田兄１、神田３、中村９、久永２、笠岡５

四回からふりだした雨はやまず、壮絶な雨中の対決となった。七回から雨は増し、遠手はズブぬれ、しかし、菅田は、ますます好調、不死身の力投でサ軍を完封（ヒット２本）四年ぶり、観衆三千の喚声の中に緋の大優勝旗を手にした。

敢斗賞・神田三塁手

八日　アサイ２１×８リオで優勝、最優秀投手・大場、本塁打・神田

△第十五回選抜野球大会　五月二四、二五、二六日、パラナ４×１ソロ、最優秀選手・山本投手、首位打者・大場中堅手

一九六四年　第十回ＴＢ準青大会一月二五、三〇、三一開催

△五月一、二、三日選抜野球大会　パラナ連覇、本塁打王　中村右翼手パラナ　神田４、清野６、中村９、岡崎３、大場８、西山７、藤谷５、佐藤１、山本２　◎優勝戦

パラナ

０２０３１０３００－９

セントラル

０１２００１０１０－５

△第十八回北パ青年野球大会

アサイ三連覇

アサイ１８×７ノーバ・エスペランサ

△第十八回全伯青年野球大会　九月五、六、

七日、於・ボンレチーロ球場、参加１４チーム　豊和５×１アサイ

敢斗賞・大場投手、美技賞・倉谷二塁手

一九六五年一月三〇、三一日、第十四回北パ準青野球大会の帰途、アプカラナから８ｋｍの地点曲り角で雨、前方のカミニョンを避けようとして横転、全員車体の下敷きとなった。（立仙博幸コーチ重傷、肋骨三骨折、上井清春監督作椎骨折、平野君広選手重傷）

治療費三・〇〇〇クルゼイロス各区戸数割で分担した。
一九六六年　△ノンフロ電々近畿来パ
△七月、パラナ球連結成、会長　上野義雄州議。
△九月二八日、日本、ベネズエラ、ブラジル国際親善野球（日本１０戦全勝）於マリンガ
日本５×０全パラナ
日本８×１ベネズエラ
一九六七年　第十九回選抜野球大会、決勝戦
パラナ４×３サンパウロ、延長１０回、菅田
ジエラルド、菅田次の好投、岡崎、菅田次の打棒冴ゆ。
△十一日、サロンパス（日本女子野球）チーム、パラナで親善試合を行ない、人気をさらった。
一九六八年　第二十回選抜野球大会、
セントラル４×３パラナ、エース菅田好投　球神味方せず
△第二一十二回全伯青年野球大会　第二回戦、豊和４×３ロンドリーナ、惜敗
一九六九年、第十八回北パ準青年野球一月二四、二五、二六日（ソセマ球場）参加１０チーム、アサイ優勝２４×０バンディランテス
代表・村田豊治、監督・佐藤敏夫、優秀選手・頼則、優秀投手・板田、優秀捕手・黒沼、敢斗・西森。
打撃・頼則６０、打点１林、２頼則
△第十一回全伯準青年野球大会決勝戦
豊和１１Ｘ４アサイ　優秀選手・西森
△第二十三回北パ青年野球大会　三月十三、十四、十五、十六日　於・ノーバ・エスペランサ　参加１１チーム　優勝マリンガ４×３ロンドリーナ

△九月七日　日本１×２パラナ　菅田好投、神田、久村、大場、鳥田、西森、丹野出場美技賞・久村、打撃・２神岡６３・６、３久村６０、打点２久村６点

△日本高校野球親善試合　九月六日　日本８×０全パラナ　（マリンガ球場）

日本７×２全パラナ（アセル球場）

△第二十一回選抜野球

優勝セントラル６×１パラナ

オール・パラナ＝アサイ選手　神川正勝、大場ジョゼ、畠田朝雄、久村進

一九七〇年

△一月二五、二六日　第十九回北パ準青大会　アサイ優順１０×５マリンガ　最優秀選手、最優秀投手＝西森　第二十二回選抜野球大会

優勝セントラル３×１サンパウロ

選抜＝アサイ代表選手　記録・久村勝志郎、監督・木村金吉選手

神田正勝、丹野ベント、西森クラウジオ、島田ジョゼ

△第十二回全伯準青野球人会　七月十、十二

於・ボンレナーロ球場　アサイ０×９プ・ウエンセスラウ　二回戦で敗退

決勝戦　豊和７×１プ・ウエンセスラウ　豊和七連覇

△第十六回全伯ＯＢ大会　十月二六、二七日　於・ボンレナーロ球場　パラナ１０×９セントラル、延長１０回、パラナ四年ぶり三度目の優勝、最優秀投手・小林、打点賞・後藤　優秀監督・三浦

一九七一年五月、第二十三回選抜野球

優勝パラナ３×０サンパウロパラナ

菅田弟４、荻堂６、大場８、南保７、菅田兄１、神田３、中村９、久永２、笠岡５

四回からふりだした雨はやまず、壮絶な雨中の対決となった。七回から雨は増し、遠手はズブぬれ、しかし、菅田は、ますます好調、不死身の力投でサ軍を完封（ヒット２本）四年ぶり、観衆三千の喚声の中に緋の大優勝旗を手にした。

敢斗賞・神田三塁手

アサイ選手

神田正勝、佐藤俊雄、頼則賢治、森本アントニオ、西森クラウジオ

△第十七回全伯ＯＢ野球　九月二五、二六日　於・サンパウロ

優勝パラナ１２×４パウリスタ

△第二十四回北パ少年野球大会　於・アラボンガス　アサイ２×０マリンガ、一四年目の優勝、古川監督、選手と１０年後の再会を約す

△七月、木村欣吉、パウリスタ新聞社２５周年記念野球功労章受章

一九七二年　第二十五回全伯少年野球大会　七月二一、二三日　於・ボンレナーロ球場

優勝戦アサイ１×２プ・プルデンテ

個人賞＝敢斗・加藤投手、美技・清野右翼手、捕手・井戸、中堅・重岡、右翼・清野

△第二十一回北パ準青大会一月二九、三〇日　於・ソセマ球場

参加８チームアサイ３位　打撃賞・２弘法５０％、本塁打　佐藤。

△第十八回全伯ＯＢ野球大会　十月二八、二九日　於・サンパウ

ロ　パラナ１９×７セントラル　パラナ三連覇、通算五度目
打点賞・後藤右翼手
一九七三年　第十回選抜準青野球大会　二月
二三～二五日於・バストス球場
準決勝セントラル５×１パラナ
決勝セントラル９×３パウリスタ
個人賞＝本塁打・弘法
△第二十五回選抜野球大会
決勝戦セントラル３×０ソロカバナオール・パラナ　アサイ選手
記録・久村勝志郎、助監督・神田正行、神田正勝、選手・丹野
ベント、神田正勝△十月四、五日　東芝来パ
△十月二五日　第二十回全伯ＯＢ大会に向かう途次、カステロ・ブランコ街道でバス、カミニョンに追突、選手１２人重軽傷を負う９人は軽傷、３人は翌日退院。
九七四年　第二十三回北パ準青野球大会
二月二六、二七日　於・池田球場
優勝マリンガ２×０アサイ敢斗賞・仲山
△五月、第二六回選抜野球大会
優勝戦セントラル４×０パラナ
一九七五年　第二十四回北パ準青野球大会
一月二五、二六日　於・アセル球場
優勝ロンドリーナ２×０アサイ、敢斗賞・　仲山、打撃・３後藤３３・３、打点・仲山　３点
△第十二回全伯選抜準育野球大会
パラナ連覇１×０ソロカバナ
パラナ代表アサイ選手　仲山セルジオ、加藤正俊、後藤ジュリ

オ、三浦セルジオ、助監督・神田正勝
△第二十七回選抜野球大会　決勝戦セントラル２×１パラナ、パラナの雪辱成らず。
選抜アサイ選手
　記録・工藤一夫、助監督・後藤和夫、選手　仲山セルジオ、三浦セルジオ、丹野ベント、三浦ネルソン、広沢ロベルト
△第二一十九回北パ青年野球大会　於・アセル球場　参加７チーム　優勝アサイ４×０ロンドリーナ
　個人賞＝優秀技手・仲田セルジオ、優秀　捕手・三浦セルジオ、打撃・丹野４４・５　三浦３７・５、打占・２二三浦ネルソン３点　丹野ベント２点
一九七六年　第二十五回北パ準青野球大会
一月二四、二五日　於・ソセマ球場　優勝アサイ３×２ノーバ・エスペランサ
優秀技手賞・加藤、打撃・３加藤４０、打点・鴨狩４点、井戸４点
△第三十回北パ青年野球大会　アサイ連覇　アサイ１１×５ノーバ・エスペランサ　投手賞・仲山セルジオ、敢斗・丹野ベント
打撃・丹野４１・７、打点・２丹野４点
△第一回パラナ幼年野球人会一月十、十一日、於・クリチーバ波崎球場
　三位決定戦ロンドリーナ３×０７サイ
　決勝マリンガ６×１ノ・エスペランサ
　個人賞＝丹野ジョルジ右翼手
△第二十八回選抜野球大会　優勝セントラル４×０サンパウロ選抜アサイ代表
　選手・古川章、仲山セルジオ、広沢ロベルト、佐藤セルジオ

△六月六日日、二十日　北パ代表選手選考大会
ロンドリーナがナショナルリーグに出場のため行なう。一位アサイ、二位ロンドリーナ、三位ノ・エスペランサ
△第十八回全伯準青野球大会　七月二三～二五日　於・ボンレチーロ球場
決勝アサイ３×１プ・プルデンテ
十六年ぶり二度目の優勝
個人賞＝最優秀投手・加藤投手、打点・三浦二塁手、本塁打・加藤投手、美技・清野一塁手、監督・平野
△第三十回全伯青年野球大会　九月五、六、七、十一、十二日
一回戦アサイ０×２アリアンサ
代表・佐藤　昭、監督・神田正勝
一九七七年　第二十六回北パ準青野球大会
一月十五、十六日　於・池田球場　優勝アサイ１０×４ロンドリーナアサイ連覇　優秀投手・菊地、優秀選手・井戸、打撃・１井戸６１・５、三浦４２・９、打点・１、三浦７点、３広沢５点
△第三十一回北パ青年野球大会　於・アセル球場、参加７チーム
優勝ロンドリーナ４×１アサイ　打撃・鴨川５０、打点・２三浦１点、藤川４点　本塁打・後藤克巳
△七七年　第二十九回選抜野球大会　優勝ソロカバナ１×０セントラルパラナ選抜アサイ選手　代表・久村勝志郎、記録・久村勝志郎、助監督・後藤和夫、選手・佐藤マリオ、三浦セルジオ、後藤克巳、加藤正俊、菊地マリオ
△七月　四移住地対抗野球　アサイ全階、二位バストス、三位アリアンサ、四位チエテ

一九七八年　第二十七回北パ準青野球大会一月十四、十五日
於・アセル球場
　アサイ三連覇１２×３ロンドリーナ　優秀投手・菊地、優秀選手・大場、打撃・　２大場５８・３、打点・１大場７点、ホームラン・大場選抜アサイ選手
　菊地マリオ、藤川ミルトン、大場セルソ、井戸セルジオ、広沢パウロ、三浦ロベルト、加藤義隆、平岩ジョルジ、坂本パウロ、選手２０人のうち９人アサイ選手　代表・古川　章、監督・平野邦幸、助監督
後藤克巳、中山セルジオ、マネジャー・岡村平八郎
△六日　四移住地対抗野球　アサイ優勝
△九月二七日　明治大学１×２パラナ（アセル球場）
一九七九年　第二十八回北パジュニオール野球　大会　一月二七、二八日　アシス・シャト　ブリアンで開催　参加６チーム
　優勝戦マリンガ４×３アサイ　延長１２回　マリンガ優勝、敢斗賞・大場
　△第十六回選抜準青野球大会　二月十六日から三日間、於・ボンレチーロ球場　参加８チーム、決勝戦延長１１回　セントラル２×３パラナで優勝
選抜パラナ、アサイ選手
　菊地マリオ、大場エリト、大場セルソ、広沢パウロ、盛川ロベルト、記録・工藤一夫
　△第二十三回北パ青年野球大会　四月十七、十八日　於・アセル球場　優勝アサイ９×７ロンドリーナ
　アサイ監督　神田　三浦２、井戸４、大場３、三浦６、後藤９、広沢５、後藤７、菊地１、中山８
　最優秀投手・菊地マリオ、敢斗（遊撃）・三浦幸郎、本塁打・後

藤克巳、打撃・大場セルソ７点
△第三十回選抜野球大会　優勝セントラル１０×１パラナパラナ選抜アサイ選手　重岡ジョン、三浦セルジオ、後藤克巳、湯原グロビス、鴨川ジュリオ
△七月四日　四移住地野球　アサイ全勝、二位アリアンサ、三位バストス、四位チエテ
△八月　野球後援会結成、会長　竹山一夫、副会長　野崎二郎
△第三回パラナ幼年野球大会　十二月十九日　マリンガで開催
参加・アサイ、マリンガノーバ・エスペランサの３チーム
　アサイ連覇、菊地投手、二試合ノー・ヒットノーランの完全試合大記録をたてた。
△北パ運動連盟３０周年記念祭　頼則照雄、古川　章、久村勝志郎、菊地　端、小林一郎　館脇利一、平岩与一郎、西尾　茂、浅間源治、小林徳雄、樋代武夫、川瀬正三、小田島秀雄、森本Ｆジョン、工藤一夫、後藤和夫、岡村平八郎外８名表彰
△第一回南米インファンチル野球大会リマで開催　参加５ヵ国
１ペルー、２ブラジル、３コロンビア

△日本学生選抜親善試合　十一日十五日
　クリチーバ球場　日本学生８×０全パラナ
一九八〇年　コロニアの〝甲子園野球〟　センバツ準青大会　二月、アラサツーバで開幕
　パラナは３連覇を狙って新進スドエステと対決、５回までに６×１と庄され、勝負あったかに見えたが、７回３点、９回猛打をあびせて８×７逆転さようなら勝した。
メンバー＝代表・古川　章、記録・久村勝志郎、マネージャー・岡地　英、監督・平野邦幸

助監督・後藤克巳、平岩ジョルジ、選手・盛川ラウル、丹野ジョルジ、河野ファビオ、後藤ロベルト、湯原ロベルト、大場エリト、菊地マリオ、広沢エジソン、選手１９人中アサイ８人。

△第三十二回選抜野球大会　五月

優勝セントラル５×４サンパウロ

準決勝サンパウロ２×１パラナ　延長１０回　サンパウロ、伊藤の逆転快アーチでパラナ惜敗、激斗３時間選抜パラナ、アサイ選手　代表・古川　章、監督・平野邦幸、助監督　後藤克巳、選手・菊地マリオ、湯原グロビス、三浦セルジオ、井戸セルジオ、大場セルジオ、大場セルソ、広沢パウロ、中山セルジオ

△第四回四移住地野球大会　六月二一日　於　アリアンサ球場、アサイ三戦全勝

△第十五回北パＳＯＢ野球大会　九月十三、十四日　於・ノーバ・エスペランサ球場　参加７チーム　雨のため試合中止、本塁打佐藤マリオ

一九八一年　第三十回北パ準青野球大会一月一七、一八日　於・マリンガ　参加５チーム、優勝アサイ４×３マリンガ　優秀投手・後藤、打点・河野、敢斗・河野アサイ・ナイン　後藤５、松村６、河野２、盛川８、浜４、鴨狩３、田中７、湯原９、阿部１

△第十八回全伯選抜準青野球大会　二月一三、一四、一五日　決勝戦ソロカバナ３×１パラナパラナ・ナイン　柳瀬３、内村５、平富６、中島８、湯原９　堀川１、豊福７、小野２、沖村４選抜アサイ選手

代表・古川　章、記録・工藤一夫、助監督　後藤克巳選手・盛川ラウル、河野ファビオ、後藤ロベルト、松村ファビオ、湯原ロベルト

△南米ジュニオール大会　三月二八日チリーで開催、阿部ロベル

ト投手、伊豆カルロス一塁手出場
△第三十三回全伯選抜野球大会　五月一、二、三の三日間、アダマンチーナ球場で開幕　参加８チーム、準決勝でパラナ敗退　パラナ１×５ソロカバナ　優勝サンパウロ２×１ソロカバナオール・パラナに選考されたアサイ選手　代表・古川　章、選手・菊地マリオ、三浦セルジオ、井戸セルジオ、中山セルジオ、後藤ジユリオ、湯原グロビス
△１０年前（一九七一～一九七二年）全伯少年野球大会に出場した選手３４人（古川野球教室で育ったメンバー）再会を約した１０年目の７月、アサイで再会した
△第一回北パ青年野球大会　八月八、九日
ノーバ・エスペランサで開催　参加６チーム（ナショナル・リーグに出場するアサイは不出場）
優勝マリンガ２×１エスペランサ
△第三十四回全伯青年野球大会　九月六、七日　ボンレナーロ球場　参加１２チーム
優勝アサイ７×１トッパン、アサイ一七年目の優勝、通算三回優秀投手・菊地、打撃・大場５・８３、打点・大場Ｃ７点
△第十六回北パＳＯＢ野球大会　九月一二、一三日　於・アラポンガス球場　参加６チーム　優勝マリンガ１３×７ノーバ・エスペランサ　本塁打・小林徳雄　第七回ナショナル野球リーグ、決勝トーナ・メント。
南伯４×３アサイ、決勝・南伯３×２プ・プルデンデ。
△第二十七回全伯ＯＢ野球大会。十月十、十一日、グァルーリョス、サンパウロに於いて。参加１１チーム。決勝・スドエステ１１Ｘ６セントラル　北パラナ緒戦で敗退。

柔　道

石原道場史

アサイの柔道は、石原貞伊四投＝現八段福島県出身＝によって創められ、石原四段によって興隆をみた〃石原柔道史〃と言える。

一九三七年十一月　伯国柔剣道連盟トレス・バラス支部創立。

支部長…島田俊三、柔道部長…菊地新悦三

段、幹部…桜田松麿、上野克男、西村市助、野木進、伊丹司、鈴木四郎、

部員…滝浪実義、加藤英二、和田、久保庭亮、植田兄弟

山之内、滝浪義、伏木、林、木葉、中島、奥野、上芝、田島、会田、小波、内　藤、田辺、中村、・赤木

一九五二年六月一日　石原貞伊四投アサイ道場

一九五三年五月三日　第一回石原道場進級試合

大会開催、門弟七〇名。

一九五四年八月一日　第二回昇段進級試合大会

開催、門弟一〇〇人、ロンドリーナロランジァ道場参加、機関誌〃柔道〃発行

▽八月、柔道後援会創立。会長…荒沢鉄夫、

副会長…亀谷長四郎。

一九五五年一月六日

▽一月二三日、第一回北パ柔道大会開催：ロンドリーナ・カントリークラブ、出場チーム…アサイ、ロンドリーナ、ローランジァ＝アサイ優勝。

▽七月二四日、パラナ柔連主催第一回昇段進級試合アサイ道場で開催。参加人員二六人。

一九五六年一月二九日　第二回パラナ柔道大会
出場予選大会：会場、コルネリオ真木道場
▽六月二日、アサイ道場創立五周年記念祝賀大会。
大会長：柳沢嘉輝。
審判長…寺崎徳蔵、副審判長…石原貞伊。
審判員…鈴木卯吉、佐藤久、植田貞雄。植田貞晴、大森義、川崎厚、千田正一、篠原　　出場人員二五〇名。
▽七月十四日　第三回パラナ柔道大会
主催・パラナ柔道連盟　会場・アサイ道場
大会長…柳沢嘉輝、審判長…石原貞伊、出場選手　二一四名。
アサイ道場入門者数　三一九名。
▽七月　アサイ道場五周年記念誌発行。
七月　戦後第一回全伯大会スザノで開催、パラナ優勝。
一九五八年二月十日　アサイ道場パラナ柔連から脱退。
▽六月三十日、移民五十周年記念大会開催。
▽第四回パラナ柔道大会開催、西森、杉本、石原、田野、荒沢、補欠別府出場
一九五九年二月一日　第五回パラナ柔道大会ロンドリーナ天理教道場で開催、鈴木、植田、滝狼、大村、増田、補欠、石原出場。
一九六〇年一月二四日　第六回パラナ大会アラポンガスで開催。
一九六八年二月四日　女子柔道六人、アサイ道場で初のデモストラソンを行なう
第十五回全伯選手偉大会ロンドリーナで開催…十一月十一、十二、十三日。
一九六九年二月二三日　第十八回昇段進級試合開催。
▽十月十八、十九日、第一回全パラナ学生柔道大会アラポンガス体育館で開催。

アサイ
十七人出場、青年七〇ｋｇ以下　島田繁信、
七十ｋｇ以上…荒沢孝優勝。
一九七三年三月十八日、パラナ有段者戦（アプカラナで開催）に出場。
一九七七年
▽六月二六日、アサイ道場二十五周年記念大会開催。参加チーム…山ノ内（クリチーバ）、岡野、鈴木、アダウト（ロンドリーナ）、園部（アプカラーナ）、中井（カスカベル）、皿海（シアノルテ）、森本（クルゼイロ・ド・オエステ）、関根（パラナバイ）ノーバ・ロンドリーナ各道場。
一九七九年三月三十日　パラナ柔連役員改選。
山ノ内誠会長に当選。
▽五月一日、Ｔ・Ｂ開植記念祝賀大会開催。
▽五月二六日、パラナ柔連、名誉会長石原貞伊に推選。
▽十二月一、二日、第一回パラナ女子柔道大会アサイ道場で開催。参加…アサイ、アプカラーナ、パラナバイ、クリチーバ、コルネリオ、ロンドリーナ、メジァネイラ。
一九八一年
▽アサイ柔道人口…五三、佐藤三段、坂本三段、現役有段者…島田四段、古田三段、奥野初段、湯沢一級。
パラナ柔道連盟
顧　問　石原貞伊　八段
理事長　山内　誠
副理事長　鈴木量詞
技術部長　アダウト・ドミンゴ
技術員　岡野義弘

審判員　弘中健次郎
パラナ有段者５０余人、段外二・〇〇〇余人、柔道人口、ブラジル人６０％日系４０％

剣　道

一九三七年　伯国柔剣道連盟トレス・バラス支部創設。支部長島田俊三、剣道部長　桜田松磨三段、指導　野本　進二段。
一九三八年八月六日　第一回大会　アサイ町で開催。
一九四八年十二月五日　第二回大会　パルミッタール会館で開催。大会長　菊地　端、審判長　竹山三五郎　参加六チーム。団体一位フィゲーラ　個人一位上田　清。
一九四九年十二月四日　第三回大会　フィゲーラ会館で開催。審判長　竹山三五郎、審判　松山慎二郎、永吉正光、木村三男、吉田修一郎。団体一位　フィゲーラ連覇、個人一位　佐藤万里夫。
一九五〇年
△第二回ロンドリーナ対抗試合（於・照美寺）十五勝五敗　アサイ勝
△五月二八日　第一回北パラナ剣道大会。
団体一位　アサイ、二位　ウライ、三位サンタ・マリアナ、四位　カンバラ。
個人一位　若杉健助（ア）二位　酒井　隆（ア）三位　岩瀬重雄（ウ）四位　川上（ウ）五位　布村　正（ア）
高点試合一位　佐藤万里夫（ア）二位　岩瀬喜久雄（ウ）三位竹田梅雄（ア）　四位　大久保俊忠。
全伯大会にパラナ代表として選考された。
監督　木村三男二段、選手　佐藤万里夫、
若杉健助、酒井　隆、布村　正、丹野隆吉、名波昭一（以上アサイ）岩瀬重雄、川上一男、窪田久雄（以上ウライ）

△十二月三日　第四回大会　照真寺で開幕。
団体一位　アサイ文協、個人一位　阿部薫
一九五一年十二月二日　第五回大会　アサイ・クラブで開催。団体一位　サン・ジョン。
△第一回ロンドリーナ対抗試合
十勝五敗　アサイ勝。

一九五二年十一月三日　第六回大会　フィゲーラ会館で開催。団体一位　サン・ジョン、個人（有段）一位　星加和久。

一九五三年十二月八日　第七回大会　フィゲーラ会館で開催。団体一位　サン・ジョン、個人（有段）一位　竹山一夫、九月六日
第一回少年大会　アサイ富士学園で開催。
一位　ロゼーラ。
△中原達士歓迎剣道大会共催。
一九五四年十月十六日　第八回大会　中央区青年会館で開催（戦後創立した青年団復帰　第一回大会）参加　九チーム。団体一位
サン・ジョン、個人（有段）名波昭一、第二回少年大会一位
ロゼーラ。
△第二回北パ剣道大会主催。
△四連覇を遂げたサン・ジョンのメンバーは
星野勝雄、星野星一、秋葉隆三、永田精男、桑波田興二段たち。
木村三男教士（七段）指南のもとに剣道王国を築いた。
一九五五年十一月六日　第九回大会　フィゲーラで開催。青年八、少年四、幼年五、チーム合同大会。団体一位　ロゼーラ、個人（有段）一位　名波昭一。
△第三回少年大会一位　ロゼーラ。

一九五六年十月二八日　第十回大会　アサイ石原道場で開催。団体一位　ロゼーラ、個人（有段）一位　名波昭一。

△第四回少年大会　ロゼーラ優勝。メンバ

一九五七年十一月十七日　第十一回大会　アサイ石原道場で開催。団体一位　アサイ、個人（有段）一位　清水　健。第六回少年大会団体アサイ優勝。

当時の同区有段者メンバー．

清水　健、清水　昇、川野正信、川野正之、吉田聖八郎有段者。指南　木村三男　教士（七段）飯より剣道が好きだという木村師範の指導でロゼイラ、サン・ジョン剣道王国を築いた。やがて剣道衰退を辿り、自然廃止された。

汎トレス・バラス剣道大会

回	年次	団体優勝	個人優勝
一	一九三八	フィゲーラ	上田　清
二	四八	フィゲーラ	上田　清
三	四九	セボロン	佐藤万里夫
四	五〇	アサイ	阿部　薫
五	五一	サンジョン	
六	五二	〃	星加　和久
七	五三	〃	竹山　一夫
八	五四	〃	名波　昭一
九	五五	ロゼイラ	〃
十	五六	〃	〃
十一	五七	アサイ	清水　健

十二　五八　以後中止

人間、松山三段

竹山一夫、浅岡源治対談

竹山『松山憤二郎さんは、立派な人だった。面が実にすごいった。後、グワイラに移って博物館を私営したが、たいした人物だった』浅岡『豪傑だった。ドイツ敗戦の年、わしと同じ頃結婚したのだが、わしは二十八日に挙式した。松山さんは二十九日の天長節にシャカラで挙式した。堂々と日の丸の旗を掲揚してね、度胸が据っていたよ』

（大戦中は公衆場で日語会話は禁じられてほどの取締り厳重な時代であった。

一九七三年十二月八日松山慎次郎死亡。

トレス・バラス区長会

相　撲

一九三八年五月一日　入植６年記念祭に開催

行司　島田与三吉

一九四七年八月一六、一七日　戦後復活第一回

相撲大会、サンパウロ市アクリマソン公園で開催

一九四八年八月二一、二二日、第二回全伯大会マリリアで開催、参加８地方代表８チーム

北パラナ初参加

一九四九年五月八日　第一回トレス・バラス少年大会開催、出場校１２、選手一八〇名

１位　ジャクチンガ、２位　パイネイラ、３位　セボロン、４位　アモレイラ　△六月一二日　第一回トレス・バラス青年相撲大会、富士学園で　開催、参加チーム１４

大会長　菊池　端、審判長　西森熊之助

団体１位　バルサモ、個人１位　佐藤庫章　２位　菅原初五郎、３位　新垣有年　△第三国全伯大会、マリリアで開催（八月一二、一三、一四日）参加チーム１２、北パラナ３位、中村正一、佐藤庫章、小笠原富士雄出場

一九五〇年六月二日　全伯青年連盟主催、第一回北パ相撲大会アサイで開催、　国体１位　マリンガ、２位　アラポンガス、３位　トレス・バラス　個人戦　大雄山（中村正一）優勝

一九五一年九月二三日　第二回青少年大会、中央カンポで挙行

国体１位　バルサモ　個人１位　中村正一

△全伯相撲大会でパラナ２位

一九五二年九月二〇日　第三回大会、アモレイラで開催。１位バルサモ

△第二回少年大会、１位　セートロ

△第一回北パ相撲アプカラナ大会へ出場

一九五三年八月一六日　第四回大会アモレイラで開催。バルサモ優勝。第三回少年大会、バルサモ優勝

△北パ相撲大会へ出場

一九五四年　第三回北パ相撲大会、ウライで開催。団体、個人共、アサイ優勝。

△第五回大会九月一一、一二日、バルサモで開催、アサイ優勝。個人　中村正一（パイネイラ）優勝、２位　南

△五四年　聖市四〇〇年祭典記念大会、九月　四、五日騎兵連隊調練場で開催、パラナから９力士出場、アサイから中村正一、佐

藤万里夫、大山重男の４人出場

一九五五年　第四回北パ相撲大会へ出場　青年、準青　団体優勝、準青個人優勝　△九日一七日　第六回大会、バルサモで開催

参加力士　一七〇人、国体１位　アモレイラ、個人１位　佐藤慶吉、２位　小笠原昇三、３位　佐藤万里夫

△第五回少年大会、１位　セボロン

一九五六年九月二二日　第七回大会　アサイで開催　団体　アサイ（Ａ）１位　吉留春雄　２位　小坂正衛、３位　小笠原富士錐

△第四回北パ相撲大会へ出場、国体、個人共に優勝

一九五七年九月二九日　第八回大会、バルサモで開催。団体１位　アサイ、個人１位　木村昇、２位　大山松雄、３位　小坂正衛

一九五八年六月二八、二九日

日本移民５０年祭　祝賀相撲大会、聖市イビラプエラ体育館で開催　パラナからＡ、Ｂ、二チーム参加（２０人）

団体１位　ノロエステ、２位　パラナ、３位　セントラル

アサイから木村　昇、中村正一、佐藤万里夫、吉留春雄、佐藤慶吉、大山重夫、栄森久夫、堺沢岩夫、小坂正衛、田代幸夫

小笠原富士雄出場

大会委員長　頼則　照雄

世話役　八重樫弥平

審判長　大滝　信定

△五八年十月一九日　第六回少年、第九回青年相撲大会、バルサモで開催

参加　青年６、少年４チーム（団体・青年の部）

１位　パイネイラ、２位　アヅカリ、３位　アヅカリ

歴代トレス・バラス相撲部々長

初代　熊田　米昭　一九四九年
後藤　和夫　一九五〇年
佐藤　照徳　一九五一年
菊地　克美　一九五二年
鈴木　　哲　一九五三年
佐藤万里夫　一九五四年
小笠原富士雄一九五七年
森口　英治　一九五八年

一九六二年　ブラジル相撲連盟創立
中村正一、佐藤兄弟、小笠原富士雄、創立に協力
△六月一四日　第１０回トレス・バラス大会
池田グランドで開催、マリンガ特別出場
１位　パイネイラ、２位　セボロン、３位　カビウーナ個人・青年１位　佐藤慶吉　２位　大山、３位　大刀山（マリンガ）
△七月二八日　第一回伯国相撲連盟主催全伯
相撲大会、モジ市で開催。パラナ出場、アサイから中村正一、佐藤万里夫、佐藤　慶吉、大山重男、小笠原富士雄の五力士出場
主催地側より補助金３０コント受けとる
一九六三年五月一九日　アサイ相撲大会開催
一九六四年八月一五、一六日　第三回全伯相撲大会、サント・アマーロで開催
佐藤照徳、佐藤慶吉、小笠原富士雄の三力士出場。パラナ（河野、西山、成松、菅原、牧山とアサイ二力士）パラナ五戦全敗
一九六六年　第五回全伯大会、クリチーバで開催　佐藤兄弟、小笠原、高崎（アサイ）升田（ロンドリーナ）大山（ジャンダイア）田口（マリンガ）上村（ウムアラマ）出場　パラナ四敗

一九六七年　第六回全伯大会、アラサツーバで開催　アサイから佐藤兄弟、中村正一
小笠原富士雄出場、パラナ二勝三敗、５位
△五月一日　復興第一回アサイ相撲大会　アサイ大会　参加６区、優勝　カビウーナ
△六月二九日　全伯大会パラナ予選、クリチーバ市グロリア会館で開催　青年１位ルイス（クリチーバ）２位楢崎（クリチーバ）３位中村康成（アサイ）
△第一九回全伯大会七月二六、二七日、クリチーバ体育館で開催、参加１１団体　パラナ代表南原春雄、監督佐藤万里夫
マネージャ　長谷川昌輝、選手・青年：選手・青年　中村正一、佐藤慶吉、中村　康成（アサイ）菅原ジョージ（ロンドリーナ）
一九六八年八月一七、一八日　第七回全伯大会
サンパウロ　アグア・ブランカ体育館で開催。アサイから中村、佐藤兄弟、小笠原富士雄出場
一九八〇年　北パラナ相撲復興
三月二六日　アサイ相撲愛好会創立
会長　南原春雄、副会長　中村正一、佐藤　万里夫、小笠原富士雄、総務　小笠原　中山松雄、会計　長谷川昌輝、佐藤慶吉
書記　樋代武夫、外交　南原孝弟、島田巧　企画　樋代、平野稔、坂本弘道、監事　三人、支部長　各区二名

一九八一年　アサイ相撲愛好会役員全員留任
△一月一八日　全伯大会パラナ予選、アサイで開催、出場選手４９名
△パラナ相撲連盟創立　理事長　山脇ジョルジ、第二副　南原春雄　第二会計　佐藤慶吉、監査　森本Ｆジョン

△二日一五日　全伯相撲強化大会、エンブー市で開催
△パラナ相撲連盟創立第一回パラナ相撲大会　アセル・グランドで開催、参加５団体　一四〇人
　パラナ代表に選考されたアサイ選手
青年　中村康成、山崎義秀　準青　田村春樹、長谷川武志、酒井孝行
△第２０回全伯相撲大会、七月二六日　スザノ体育館で開催。参加１４団体
パラナ代表　南原春雄監督　根本良美、助　中村正一
マネージャ　長谷川昌輝、コーチ　佐藤万里夫、選手（青年）中村康成　山崎義秀（準青）田村春樹、長谷川武志、酒井
第四回相撲連盟派遣相撲使節団のデモンストレーションがあった。小笠原富士雄中村正一、佐藤万里夫、同連盟から名誉五段位を受賞、佐藤慶吉、中村康成が初段に昇段した。
☆
トレス・バラス青少年相撲大会

回	年度	青年団体優勝	個人　優勝
1	一九四九	バルサモ	佐藤庫（タンボリ）
2	五一	〃	中村正一（パイネイラ）
3	五二	〃	
4	五三	〃	
5	五四	アモレイラ	中村正一（パイネイラ）
6	五五	〃	佐藤慶（セボロン）

（個人・青年の部）
１位　大山（アモレーラ）２位　佐藤弟（セボロン）３位　中村（パイネーラ）

８　五七　アサイ　木村　昇（アサイ）
９　五八　パイネイラ　大山（アモレイラ）
１０　パイネイラ　佐藤慶（セボロン）
以後自然立ち消え
１一九八〇　復興第一回大会
２一九八一　〃　第二回〃

卓球

一九五四年八月八日　第一回大会、アサイ・クラブで開催。参加１１支部
　団体男子一位　アサイ、女子一位　セボロン、個人男子一位　、木村正和。
一九五五年八月二八日　第二回大会　於・アサイ・クラブ、参加７チーム　選手三五人。
　団体一位　アサイ、個人一位　木村正和
△北パ運連卓球部創設　七月二四日、第一回　北パ大会開催、アサイ優勝、個人女子引地（アサイ）優勝。
△第五回全伯大会　八月一四日、混合ダブルス一位　木村・引地組、壮年一位　禅院、二位　藤谷。
一九五六年六日一七日　第三回大会　於・アサイ・クラブ、個人一位　木村正和、女子一位　小松洋子、団体賞、会場使用問題で保留、壮年一位　禅院、三位　佐藤。
一九五七年六月二日　第四回大会、於・アサイ小学校、参加１５チーム　選手二一〇人。
団体一位　アサイＢ組、個人一位　木村正和。

一九五八年六月一日　第五回大会、於・同朋会館。
団体　アサイB優勝、個人一位　外山（アサイ）
△第三回北パ大会　六月一五日。
個人男子一位　木村（アサイ）二位　西森（アサイ）三位　市川（アサイ）女子一位　平岩（アサイ）二位　石川（アサイ）三位　佐竹（アラポンガス）
一九五九年
△第四回北パ大会　六月一四日、於・ロンドリーナ・アセル会館。
団体男女共にアサイ優勝。
一九六〇年六月一二日　第五回北パ大会、於・同朋会館。
団体男子　アサイ優勝、女子アサイ二位。
男子ダブルス　アサイ優勝。
一九六一年五月二八日　第八回汎トレス・バラス大会、於・同朋会館。
団体A組一位　アサイ、B組一位　フィゲイラ、C組一位　アサイ、個人A組一位前田（アサイ）二位　木村（アサイ）B組一位加藤（バルサモ）二位　盛川（バルサモ）C組一位　前田（アサイ）二位　山本（中央）
△第十一回全伯大会　成年一位　木村正和、二位　平岩与一郎。
△第六回北パ大会　六月十一日　於・アプカラナ。
団体男子　アサイ二位。
一九六二年
△第十二回全伯大会　壮年一位　木村正和、二位　禅院。
一九六三年六月二日　第十回汎トレス・バラス大会。
△第十三回全伯大会、壮年北パ一位、女子北パ四位。

△第十一回全伯地方卓球大会。
団体　アサイ三位、壮年一位　平岩、二位　工藤、三位　佐藤。
一九六四年
△第十二回全伯地方卓球大会、於・マリリア　総合　アサイ四位、壮年一位　平岩、二位　工藤。
△第十四回全伯邦人卓球大会。
超壮年一位　禅院、壮年一位　平岩、二位　工藤、三位　佐藤。
△第十二回全伯地方卓球大会、於・マリリア
総合四位　アサイ、壮年一位　平岩、二位　工藤。
△第一六回全伯邦人卓球大会。
超壮年一位　禅院、壮年一位　木村・工藤組、超壮年一位　平岩・禅院組。
△北パ卓球大会。男子　前田（アサイ）優勝
一九六五年　第一五回全伯邦人卓球大会　個人成年一位　木村。
一九六六年六月　第五回南パラナ卓球大会
団体一位　コルネリオ、二位　アサイ。
△第一六回全伯邦人卓球大会
個人壮年一位　禅院、超壮年一位　工藤。
団体超壮年　北パラナ優勝。
一九六七年　第一七回全伯邦人卓球大会。
女子ダブルス二位　渡辺・丸尾組、壮年一位　禅院。
一九六八年　禅院幸栄、パウリスタ・スポーツ賞受賞。
△第一八回全伯邦人大会。
団体少年一位　北パラナ、壮年一位　北パラナ。個人壮年一位　工藤。
△第一六回地方卓球大会。
壮年一位　禅院。

△十月　第一回アサイ・ポプラール卓球大会　参加一二〇名。
一九六九年四月二六、二七日　第一四回北パ卓球大会、於・同朋会館。
　男子混合一位　前田・佐藤、女子ダブルス　二位　佐藤姉妹。男子ダブルス二位　禅院　前田。
△第一七回インテリオール卓球大会　於・アラポンガス、五月一七、一八日。
△第一九回全伯邦人卓球大会　七月一二、一三日、於・ＤＥＦＥ体育館。
　団体一位　パラナ、１１年ぶりに優勝。
　壮年一位、成年三位、女子三位、ジュベニル四位、少女四位、成年一位、工藤二位禅院
△第三回アサイ・ポプラール卓球大会　十一月一五日開催、参加８０名。
一九七〇年　第一五回北パ卓球大会
　男子Ａ組一位　喜屋武セルジオ。
△第一八回インテリオール卓球大会　五月一六、一七日、於　バストス。
△第二十回全伯邦人卓球大会　七月四、五日　於・ＤＥＦＥ体育館。混合壮年一位　禅院、工藤、混合壮年ダブルス一位　禅院・工藤、壮年
　単一位　工藤。団体男子北パ二位。
一九七一年　第二回汎アサイ混合ダブルス　卓球大会、三月一四日。
　一位　佐藤・千野組、二位　岩田・大貫組
△第一九回インテリオール卓球大会、五月一五、一六日　於・バストス。

総合一位　アサイ。少女二位　佐藤文子、女子三位　佐藤ケイ子、四位　植村常子、壮年一位　工藤忠夫。

△第二一回全伯邦人卓球大会　七月一〇日、一一日、於・ＤＥＦＥ

△第五回アサイ卓球大会

一九七二年　第二二回全伯邦人卓球大会　七月八、九日、於・ＤＥＦＥ体育館。

少女二位　平岩Ｔ、壮年一位　工藤、三位　禅院、団体男子三位、女子　三位

△第二十回インテリオール卓球大会　アサイ　不参加。

一九七三年　第三八回全伯邦人卓球大会　七月七、八日　於・ＤＥＦＥ体育館

団体少女一位　北パラナ、壮年一位　北パラナ、女子二位　北パラナ、個人壮年二位　工藤、混合ダブルス二位　平岩・赤松組。

一九七四年　第八回アサイ卓球大会　四月一四日。

△第一九回北パラナ卓球大会　五一一日、一二日、ウライで開催。

△第二四回全伯邦人卓球大会　七月一三、一四日　ロンドリーナで開催。

団体男子一位　ＡＢＣ、二位　北パラナ、女子一位　北パラナ、個人少女三位　平岩Ｔ、成年一位　西森、超壮年一位　禅院、女子ダブルス一位　平岩・宮崎組

一九七五年四月　第九回アサイ卓球大会

△第二十河北パ卓球大会　五月二四、二五日　於・同朋会館。

男女共一位　ロンドリーナ、男女共二位アサイ。

△第二五回全伯邦人卓球大会　八月二、三日　於・元聖州体育館。

団体男子一位　北パラナ、二位　サンパウロ、女子一位　北パラナ。個人少女七位　頼則Ｈ、一般男子一位　小笠原ネルソン。

成年一位　西森、壮年一位　工藤T、八位　工藤K、超壮年一位　禅院。

一九七六年　第十回アサイ卓球大会　四月二五日、参加一二〇人。

△第二六回全伯邦人卓球大会　七日三一日、八月一日　於・グワルーリョス市営体育館　参加１０地方、二五〇人。

団体男子三位　北パ、女子　三位。個人ジュペニール女子八位　頼則H、一般女子七位　平岩、壮年一位　工藤忠、超壮年三位　禅院。

一九七七年四月十日　第二回アサイ卓球大会

△第二二回北パ卓球大会　五月一四、一五日　於・アラポンガス、参加１１地方。

団体女子一位　ロンドリーナ、男子一位マリンガ。

△第二七回全伯邦人卓球大全　七月二、三日　於・パカエンブー体育館。

団体男子　北パラナ三位。

一九七八年　第一二回アサイ卓球大会　三月一九日、参加５０人。

△第二八回全伯邦人卓球大会　七月七、八、九日　於・パカエンブー体育館。

団体男子　北パラナ三位、女子三位、個人　佐藤M　三位、超壮年一位　禅院

一九七九年　第三一回アサイ卓球大会　三月一八日。

△第二四回北パ卓球大会　四月二一、二二日　於・アセル会館。

団体女子一位　ロンドリーナ、二位　アサイ、三位　ノ・エスペランサ、

男子一位　マリンガ、二位　アプカラナ、三位　ロンドリーナ。

△第二九回全伯邦人卓球大会　八月三、四、五日、於・パウロ・マッシャード・カルバリョ体育館、参加９チーム　四二五人。

男子一位　サンパウロ、二位　北パラナ、女子一位　ＡＢＣ、四位　北パラナ

△第四回アサイ・ポプラール卓球大会　参加一〇一名。
ベテラーノ一位　工藤、男子一位　前田、　女子一位　佐藤。

一九八〇年　第一四回アサイ卓球大会　三月一八日　男子一位　佐藤レオナルド、二位　久谷ネウトン、女子一位　熊田ジュリアス、二位　横山マリエセ

△第三十回全伯日系卓球大会　七月一一、一三日　於・パカエンブ体育館、参加１３チーム、２８タイトル。
ジュベニール二位　鴨狩、超壮年三位　禅院。

△第二五回北パ卓球大会　於・アラポンガス　女子一位　ロンドリーナ、男子一位　マリンガ。

△十二月一四日　アサイ婦人卓球大会
一位　松原しげる　二位　禅院佐年子。

一九八一年　第一五回アサイ卓球大会　三月八日　於・同朋会館。
女子一位　宮エベリン、青年一位　佐藤レオナルド、婦人一位　土田チエ子。

△第二六回北パ卓球大会　四月二、二百　於・マリンガ。
男子幼年一位　宮ファブリシオ、女子一位　宮エベリアン、青年男子四位　小笠原マリオ。

△四都市親善卓球大会　毎月会場持ち廻りで開催。アサイ、ウライ、コ・プロコピオ、バンディランテス。

△第三十一回全伯日系卓球選手権大会
七月一七～一九日、於・イビラプエラ体育館。参加１３チーム五二五人。団体男子総合　③北パラナ

△第六回北パ大会　六月十一日　於・アプカラナ。
団体男子　アサイ二位。
一九六二年
△第十二回全伯大会　壮年一位　木村正和、二位　禅院。
一九六三年六月二日　第十回汎トレス・バラス大会。
△第十三回全伯大会、壮年北パ一位、女子北パ四位。
△第十一回全伯地方卓球大会。
団体　アサイ三位、壮年一位　平岩、二位　工藤、三位　佐藤。
一九六四年
△第十二回全伯地方卓球大会、於・マリリア　総合　アサイ四位、壮年一位　平岩、二位　工藤。
△第十四回全伯邦人卓球大会。
超壮年一位　禅院、壮年一位　平岩、二位　工藤、三位　佐藤。
△第十二回全伯地方卓球大会、於・マリリア
総合四位　アサイ、壮年一位　平岩、二位　工藤。
△第一六回全伯邦人卓球大会。
超壮年一位　禅院、壮年一位　木村・工藤組、超壮年一位　平岩・禅院組。
△北パ卓球大会。男子　前田（アサイ）優勝
一九六五年　第一五回全伯邦人卓球大会　個人成年一位　木村。
一九六六年六月　第五回南パラナ卓球大会
団体一位　コルネリオ、二位　アサイ。
△第一六回全伯邦人卓球大会
個人壮年一位　禅院、超壮年一位　工藤。
団体超壮年　北パラナ優勝。
一九六七年　第一七回全伯邦人卓球大会。
女子ダブルス二位　渡辺・丸尾組、壮年一位　禅院。

一九六八年　禅院幸栄、パウリスタ・スポーツ賞受賞。
△第一八回全伯邦人大会。
　団体少年一位　北パラナ、壮年一位　北パラナ。個人壮年一位
　工藤。
△第一六回地方卓球大会。
　壮年一位　禅院。
△十月　第一回アサイ・ポプラール卓球大会　参加一二〇名。
一九六九年四月二六、二七日　第一四回北パ卓球大会、於・同朋
会館。
　男子混合一位　前田・佐藤、女子ダブルス　二位　佐藤姉妹。男
子ダブルス二位　禅院　前田。
△第一七回インテリオール卓球大会　於・アラポンガス、五月一
七、一八日。
△第一九回全伯邦人卓球大会　七月一二、一三日、於・ＤＥＦＥ
体育館。
　団体一位　パラナ、１１年ぶりに優勝。
　壮年一位、成年三位、女子三位、ジュベニル四位、少女四位、成
年一位、工藤二位禅院
△第三回アサイ・ポプラール卓球大会　十一月一五日開催、参加
８０名。
一九七〇年　第一五回北パ卓球大会
　男子Ａ組一位　喜屋武セルジオ。
△第一八回インテリオール卓球大会　五月一六、一七日、於　バ
ストス。
△第二十回全伯邦人卓球大会　七月四、五日　於・ＤＥＦＥ体育
館。混合壮年一位　禅院、工藤、混合壮年ダブルス一位　禅院・
工藤、壮年

単一位　工藤。団体男子北パ二位。
一九七一年　第二回汎アサイ混合ダブルス　卓球大会、三月一四日。
一位　佐藤・千野組、二位　岩田・大貫組
△第一九回インテリオール卓球大会、五月一五、一六日　於・バストス。
総合一位　アサイ。少女二位　佐藤文子、女子三位　佐藤ケイ子、四位　植村常子、壮年一位　工藤忠夫。
△第二一回全伯邦人卓球大会　七月一〇日、一一日、於・ＤＥＦＥ
△第五回アサイ卓球大会
一九七二年　第二二回全伯邦人卓球大会　七月八、九日、於・ＤＥＦＥ体育館。
少女二位　平岩Ｔ、壮年一位　工藤、三位　禅院、団体男子三位、女子　三位
△第二十回インテリオール卓球大会　アサイ　不参加。
一九七三年　第三八回全伯邦人卓球大会　七月七、八日　於・ＤＥＦＥ体育館
団体少女一位　北パラナ、壮年一位　北パラナ、女子二位　北パラナ、個人壮年二位　工藤、混合ダブルス二位　平岩・赤松組。
一九七四年　第八回アサイ卓球大会　四月一四日。
△第一九回北パラナ卓球大会　五一一日、一二日、ウライで開催。
△第二四回全伯邦人卓球大会　七月一三、一四日　ロンドリーナで開催。
団体男子一位　ＡＢＣ、二位　北パラナ、女子一位　北パラナ、個人少女三位　平岩Ｔ、成年一位　西森、超壮年一位　禅院、女子ダブルス一位　平岩・宮崎組

一九七五年四月　第九回アサイ卓球大会
△第二十河北パ卓球大会　五月二四、二五日　於・同朋会館。
男女共一位　ロンドリーナ、男女共二位アサイ。
△第二五回全伯邦人卓球大会　八月二、三日　於・元聖州体育館。
団体男子一位　北パラナ、二位　サンパウロ、女子一位　北パラナ。個人少女七位　頼則Ｈ、一般男子一位　小笠原ネルソン。
成年一位　西森、壮年一位　工藤Ｔ、八位　工藤Ｋ、超壮年一位　禅院。
一九七六年　第十回アサイ卓球大会　四月二五日、参加一二〇人。
△第二六回全伯邦人卓球大会　七日三一日、八月一日　於・グワルーリョス市営体育館　参加１０地方、二五〇人。
団体男子三位　北パ、女子　三位。個人ジュペニール女子八位　頼則Ｈ、一般女子七位　平岩、壮年一位　工藤忠、超壮年三位　禅院。
一九七七年四月十日　第二回アサイ卓球大会
△第二二回北パ卓球大会　五月一四、一五日　於・アラポンガス、参加１１地方。
団体女子一位　ロンドリーナ、男子一位マリンガ。
△第二七回全伯邦人卓球大全　七月二、三日　於・パカエンブー体育館。
団体男子　北パラナ三位。
一九七八年　第一二回アサイ卓球大会　三月一九日、参加５０人。
△第二八回全伯邦人卓球大会　七月七、八、九日　於・パカエンブー体育館。
団体男子　北パラナ三位、女子三位、個人　佐藤Ｍ　三位、超壮年一位　禅院
一九七九年　第三一回アサイ卓球大会　三月一八日。

△第二四回北パ卓球大会　四月二一、二二日　於・アセル会館。
　団体女子一位　ロンドリーナ、二位　アサイ、三位　ノ・エスペランサ、
　男子一位　マリンガ、二位　アプカラナ、三位　ロンドリーナ。
△第二九回全伯邦人卓球大会　八月三、四、五日、於・パウロ・マッシャード・カルバリョ体育館、参加９チーム　四二五人。
　男子一位　サンパウロ、二位　北パラナ、女子一位　ＡＢＣ、四位　北パラナ
△第四回アサイ・ポプラール卓球大会　参加一〇一名。
　ベテラーノ一位　工藤、男子一位　前田、　女子一位　佐藤。
一九八〇年　第一四回アサイ卓球大会　三月一八日　男子一位　佐藤レオナルド、二位　久谷ネウトン、女子一位　熊田ジュリアス、二位　横山マリエセ
△第三十回全伯日系卓球大会　七月一一、一三日　於・パカエンブ体育館、参加１３チーム、２８タイトル。
　ジュベニール二位　鴨狩、超壮年三位　禅院。
△第二五回北パ卓球大会　於・アラポンガス　女子一位　ロンドリーナ、男子一位　マリンガ。
△十二月一四日　アサイ婦人卓球大会
一位　松原しげる　二位　禅院佐年子。
一九八一年　第一五回アサイ卓球大会　三月八日　於・同朋会館。
　女子一位　宮エベリン、青年一位　佐藤レオナルド、婦人一位　土田チエ子。
△第二六回北パ卓球大会　四月二、二百　於・マリンガ。
　男子幼年一位　宮ファブリシオ、女子一位　宮エベリアン、青年男子四位　小笠原マリオ。
△四都市親善卓球大会　毎月会場持ち廻りで開催。アサイ、ウラ

イ、コ・プロコピオ、バンディランテス。

△第三十一回全伯日系卓球選手権大会

七月一七～一九日、於・イビラプエラ体育館。参加１３チーム五二五人。団体男子総合　③北パラナ

一九三五年三月三日　第一回大会、市街地で開催、参加チーム＝フィゲーラ、ペローバ、市街地、中央、バルサモの５、１位・市街地

一九三六年　第二回大会　五月一日、於・市街地、市街地連勝

△六月二八日第一回ロンドリーナ、トレス・バラス対抗試合、総合６２×２０で移住地敗退

一九三七年　第三回大会　六月二七日　於・フィゲーラ、大会長・西村市助、参加６チーム、１位・ペローバ、２位・フィゲーラ・３位・市街地、４位・バルサモ、５位・中央、６位・パルミッタール

陸上

△・第一回北パ陸上大会　七月二五日　ロンドリーナで開催（ロンドリーナ、トレス・バラス対抗）総合５２×４２ロンドリーナ連覇

△北パ青年陸上大会、クリチーバに遠征、アサイから６人出場

△サンパウロ、パラナ対抗陸上大会にアサイ　選手４人出場

△第十二回北パ陸上、第五回北パ少年陸上大会開催

△第十九回全伯陸上大会　槍投　１宮城五　一メートル七六

△第八回全伯少年陸上大会、少年少女１０人出場

△アデマール・ダ・シルバ　三段跳　世界記録保持者、アサイでデモストラソン一九三八年　第五回大会　二月六日　於・市街地グランド、大会長・西村市助、団体　1ペローバ、2中央、3フィゲーラ、ペローバ脱退

△第二回北パ陸上大会（北パ青連主催）移住地で開催

△第二回全伯陸上大会にパラナ初出場、監督　久万　浩、アサイ選手の記録＝

一〇〇　菊地新悦　一一秒六

五・〇〇〇岡村普典　一八分〇四

一万　〃　三八分五五秒三

槍投　清水隆之　五〇㍍二八

巾跳　笹沢　六㍍〇七

三段跳　〃　一二㍍七〇

一九三九年　第五回大会　八月二〇日　於・市街地、参加7チーム、大会長・舘脇利一、

団体1中央、2フィゲーラ、3ペローバ、4パルミッタール、5バルサモ、6セボロン

△南部忠平　訪アサイ、中央グランドでコーチ2日

△第三回北パ大会、ロンドリーナで開催

一九四〇年　第四回大会　六月一六日　市街地で開催、大会長・館脇利一、団体1ペローバ、2中央、3バルサモ

△全伯大会にパラナ代表として菊地…一〇〇

朝倉…棒高、清水…槍投、阿部出場

一九四一年

△第七回大会　七月六日　於・市街地　大会長・舘脇利一、団体1ペローバ、2中央、3パルミッタール

一九四六年　第八回大会・十一月九日　於・フィゲーラ、大会長・

森下　信、戦後、青年連盟主催初の行事　チーム９、団体１フィゲーラ、２パルミッタール、３ロゼーラ

一九四七年　第九回大会　七月一九、二〇日、於・市街地、大会長・岡村清己、団体１フィゲーラ、２アサイ、３パルミッタール

△北パラナ・スポーツ連盟結成復活第一回大会開催、委員長・西村市助

△第十一回全伯陸上大会、アサイ選手活躍

一・五〇〇　妻沼　①四分一八秒七　（大会新）

五・〇〇〇　妻沼　①一七分〇秒四

一万　〃　①三五分五六秒三

△四七年八月一五日　戦後第一回北パ陸上大　会、総合１ロンドリーナ一七三、２トレス

バラス一四三・五

《記録》

四〇〇　浅間　五六秒四

八〇〇　中司　二分一六秒四

一・五〇〇　妻沼　四分二九秒

五・〇〇〇　一六分五八秒

棒高　守屋　三メートル二〇

一九四八年　第十回大会　八月一、二日　於・

△九月一八、一九日　第十二回全伯大会　パラナ初優勝、パラナ一四五、サンパウロ八八、ノロエステ七九

《記録》

一万　妻沼　①三五分三四秒二

五・〇〇〇　〃　①一六分三〇秒九

（大会新）

四百リレーパラナ　①四五秒

千六百リレー〃　①三分三〇秒五
鉄槌　盛川　②三六㍍五三
△第五回北パ大会　八月二三日　ロンドリーナで開催、総合1ロンドリーナ…一七八、2トレス・バラス…一五一
《記録》
五・〇〇〇　妻沼一六分五六秒八
一万　〃　三五分四四秒
棒高　守屋　三㍍四〇
一一〇障碍　星加一九秒五
一九四九年　第十一回大会　七月一六、一七日　於・フィゲーラ、大会長・菊池　端、団体　1パルミッタール、2フィゲーラ、3バルサモ
△第十三回全伯陸上大会　佐藤三種目征覇
《記録》
一・五〇〇　佐藤　①四分三二秒三
五・〇〇〇　〃　①一六分四一秒〇
一万　〃　①三六分三〇秒四
団体1サンパウロ…一二〇、2パラナ…一一六
△第六回北パ大会　八月二一日、フィゲーラ区で開催、参加8チーム　選手一四〇名
《記録》
二〇〇　酒井　二五秒
一・五〇〇　佐藤　四分二五秒二
五・〇〇〇　〃　一六分三五秒三
一万㍍　〃　三五分〇二秒二
棒高跳　守屋　三㍍三〇
砲丸投　盛川一〇㍍九〇

槍授　　国武　四四㍍一五

一九五〇年　移住地大会なし

△第一回アサイ少年陸上大会　六月一七、一八日、中央グランドで開催　バルサモ優勝

△第一回北パ少年陸上大会　於・アサイ、ロンドリーナ優勝

△第七回北パ大会　八月六日　ロンドリーナで開催

《記録》

一〇〇　酒井　一一秒　九

二〇〇　〃　二四秒九

棒高跳　守屋　三㍍四〇

鉄槌投　盛川　四〇㍍六八（大会新）

八〇〇　佐藤　二分一六秒

一・五〇〇　〃　四分四四

五・〇〇〇　〃　一八分三三秒六

△第十四回全伯陸上大会、団体1パウリスタ、3パラナ

《記録》

五・〇〇〇　佐藤　①一六分五七秒〇

一九五一年　南部忠平監督、沢田、高橋、岡野、田島選手来伯

△第十三回大会　七月八日　於・中央グランド、青年連盟分裂後、初の大会、大会長・菊池　端、団体1バルサモ、2フィゲーラ

一九五二年　二十周年記念青少年合同陸上大会　共催、第九回北パ陸上大会　棒高跳び1守屋三㍍六〇、一万　1佐藤

一九五四年　第十五回青年、第五回少年陸上大会、六月四、九、十日の三日間、フィゲーラで開催　青年団合併第一回大会、参加16チーム、大会長・舘脇利一、団体1中央区

2パルミッタール、3ロゼーラ、少年ペロバ三連覇

△第十八回全伯大会　団体1サンパウロ、パラナ、槍投げ1宮城　五一㍍七六

一九五五年

一九五六年　第六回北パ・パジリア杯陸地親大会

アサイ優勝

△第六回北パ少年陸上大会　於・ロンドリーナ、優勝アサイ

△第二十回全伯大会　砲丸投げ1宮城　二㍍八六、槍投　1宮城　四九㍍一三

一九五七年　第十八回大会　六月九、十日　於

バルサモ、参加12チーム　大会長・頼則照雄、審判長・小林一郎、団体1アサイ、2サン・ジョン、3バルサモ

△第八回少年大会同日挙行、アサイ三連覇

△第二十一回全伯大会　アサイ選手12人派遣

砲丸投　1宮城　一一㍍八三

槍投　1〃　五〇㍍〇九

一九五八年

△第十九回青年、第九回少年少女大会、五月一〇、一一日開催

△七月六、七日　第十五回北パ陸上大会バルサモで開催、総合アサイ二位。

△第二二回全伯邦人陸上大会に出場　七月一九日、砲丸一位・宮城一一・九九、円盤一位・宮城三七・二六。

一九五九年

△第二十回青年、第十回少年少女大会　五月一六、一七日　於・バルサモ　参加10チーム。

団体総合

優勝　バルサモ　九〇

△第二三回全伯大会　八月一、二日　於・サンパウロ。

中家　高跳①　一・八〇

中家　三段①　一一・九六

宮城　砲丸①　一一・九六

宮城　円盤①　三三・八八

一九六〇年

△第二一回青年第二回少年少女大会　五月一四、一五日　於・バルサモ。

総合一位　セードロ青年一位　パイネイラ

△第二四回全伯大会　七月二三、二四日、サンパウロ・チエテ・クラブ　ＡＡＣ優勝。

中家　高跳①　一・八五、

中家　三段①　一四・四二

宮城　円盤①　三六・二八。

一九六一年

△第二二回青年、第一二回少年少女、第二回　ＯＢ陸上大会　五月一三、一四日　於・バルサモ、参加１１チーム　選手八〇〇名。

団体青年

一位　パイネーラ

△第十八回青年、第十四回少年少女北パ陸上大会　七月一、二日　於・アサイ、団体アサイ二位。

△第二五回全伯邦人陸上大会　七月二二、二三日　於・サンパウロ。

宮城　円盤①　三七・九五

宮城　砲丸①　一二・六二

パラナ優勝。

一九六二年
△第二六回全伯陸上大会　七月二一、二二日開催。パラナ連覇、円盤　宮城　①　三五・八二。
一九六三年六月八、九日　第二四回アサイ陸上大会　於・アサイ、パイネイラ優勝。
△第三回ＯＢ、第二六回青年、第十四回少年　少女汎トレス・バラス陸上大会　六月八、九日　於・アサイ、総合力ビウーナ優勝。
△第二七回全伯陸上大会　七月二〇、二一日
パラナ三連覇。
走巾跳　中家①　六・八〇
三　段　中家③　一三・八〇
棒　高　中家②　三・四〇
砲　丸　宮城①　一二・九二
槍　宮城②　四九・五
円　盤　宮城①　三五・八三
一九六四年　第二五回青年、第一五回少年少女
△第二八回全伯大会
宮城　円盤①　三五・二八
宮城　砲丸②　一一・七〇
宮城　ハンマー②　三五・〇三
中家　槍授②　五二・一〇パラナ四連覇
一九六五年　第二六回青年、第十六回少年少女
第五回ＯＢ陸上大会　五月二二、二三日
於・アサイ総合　力ビウーナ三連覇　五四
二点、二位　アサイ　三四七、三位　バルサモ　二九九。
△第二九回全伯大会　七月一七、一八日、北パ五連覇。
宮城　砲丸①　一二・二五

宮城　円盤①　三八・〇九（コロニア新）

一九六六年　第二七回青年、第十七回少年少女

第六回ＯＢ大会　五月二八、二九日　於・アサイ、総合力ビウーナ四連覇。

△第二三回北パ陸上大会。

△第三十回全伯陸上大会　パラナ六連勝。

一九六七年　第二八回青年、第十八回少年少女

第七回ＯＢ陸上大会　五月二〇、二一日、総合カビウーナ五連覇。

△第三一回全伯陸上大会　北パラナ七連覇。

一九六八年　第三二回全伯邦人陸上大会　北パラナ八連覇。

△第二五回北パ陸上大会一位　マリンガ、五位　アサイ。

平栗　八〇〇①　二・〇八

為弘　三段跳①　一二㍍七三

一九六九年

△第三十回汎アサイ陸競大会　五月一七、一八日開催、一位フィゲイラ、二位カビウーナ、三位　北アサイ、カビウーナ七連覇ならず。フィゲイラ優勝は、四六、四七、四八年三連覇以来のもの。

△第二六回北パ陸上大会　六月一三日　於・アラポンガス　参加８チーム、一位マリンガ、二位アサイ。

△第三三回全伯陸上大会　七月二六、二七日　於・ピニエイロス　参加８チーム、パラナ　九連覇成らず。

後藤英樹　走高③　三段⑤　走巾⑥

平栗マリオ四百ｍ④百ｍ⑥一千六百リレー　⑥円盤　小笠原②

三四・四九

一九七〇年　第三四回全伯邦人陸上大会　北パラナ優勝。

一位　パラナ　三二八点　二位　サンパウロ　三二〇・五

△第三一回アサイ陸上　五月一六、一七日
一位　フィゲイラ、連覇、二位　カビウーナ、三位　北アサイ
△第二回アサイ・ポプラール陸上大会
一位　フィゲイラ、二位　北アサイ。
△第二七回北パ陸上大会　六月一三日　参加　７チーム、一位
マリンガ　二九三、二位　アサイ　二四四。
一九七一年三月二八日　第二回アサイポプラール陸上大会　一位
北アサイ、二位カビウーナ、三位フィゲイラ。
△第三二回アサイ陸上大会
一位フィゲイラ　三連覇、二位カビウーナ　三位　北アサイ。
△七一年　第三五回全伯邦人睦上大会　パラナ二連覇　通算一〇
度
四〇〇②平栗　五二・六
八〇〇③乎栗　二・〇・七
四〇〇リレーパラナ①四三・八
△第十八回全伯大会　於・サンパウロ、団体　１パラナ、２
総合ブラジル①三〇八　四連覇　ペルー②　一四六、アルゼンチン③一三九、パラグワイ④五三。
一九七二年　第三回アサイ・ポプラル陸上大会　三月二六日一位
カビウーナ、二位　北アサイ。三位　フィゲイラ
△第三六回全邦人陸上大会　七月二九、三〇日、サント・アンドレ市営競技場　八〇〇ｍ平栗①二・〇二　総合一位　北パラナ
三三五、二位　サンパウロ近郊　三一〇
一九七三年　第三四回アサイ陸上大会　五月一三、一四日、参加
１１チーム。
一位　カビウーナ　五二九、二位　フィゲイラ　四四四・五、三
位　北アサイ　三五三。

△第三十回北パラナ陸上大会、六月一〇、一一日、参加７チーム。
総合一位　マリンガ　五一九・五　二位　アサイ　四二〇・五、三位レステ　一五二、四位　ロンドリーナ、一〇二。
△第三七回全伯陸上大会　七月二八、二九日　於・オザスコ、一位　聖市近郊　三六七、二位　パラナ　三六五・五パラナ四連覇成らず。
△第一七回パラナ・オープン総合体育大会。
九月、於・マリンガ
八〇〇ｍ①平栗　二・八二走高②山本Ｒ、三段②山本Ｒ、槍⑥斉木
△第五回南米日系陸上大会　於・ペルー　総合一位　ブラジル、男子一位　ブラジル　女子一位　ブラジル。
一九七四年五月一一、一二日　第三五回アサイ陸上大会　参加１２チーム
一位　カビウーナ、二位　西アサイ、
△第三一回北パ陸上大会　六月八、九日　於・アセル。
一位　ロンドリーナ、二位　マリンガ、三位　アサイ。
△第三八回全伯邦人陸上大会　七月二七、二八日、サンパウロ近郊連覇、二位　サンパウロ二世陸協、三位　北パラナ。
一九七五年　第三二回北パ陸上大会　六月七、八日　於・マリンガ、参加６チーム。
一位　ロンドリーナ、二位　マリンガ　三位　アサイ
△第三六回アサイ陸上大会　参加九〇〇人。
一位　カビウーナ　四六八、二位　北アサイ　三〇七。三位セボロン　三〇三。
△第三九回全伯邦人陸上大会　八月二、三日　於・イビラプエ

ラ競技場、十種目にコロニア新。
一位　サンパウロ近郊、三位　北パラナ
個人
八〇〇ｍ①平栗Ｍ一・五九・六
一・五〇〇ｍ③平栗Ｍ　四・二一・六
一九七六年
△第三三回北パ陸上大会　四月一七、一八日
△七月六、七日　第十五回北パ陸上大会バルサモで開催、総合アサイ二位。
△第二二回全伯邦人陸上大会に出場　七月一九日、砲丸一位・宮城一一・九九、円盤一位・宮城三七・二六。
一九五九年
△第二十回青年、第十回少年少女大会　五月一六、一七日　於・バルサモ　参加１０チーム。
団体総合
優勝　バルサモ　九〇
△第二三回全伯大会　八月一、二日　於・サンパウロ。
中家　高跳①　一・八〇
中家　三段①　一一・九六
宮城　砲丸①　一一・九六
宮城　円盤①　三三・八八
一九六〇年
△第二一回青年第二回少年少女大会　五月一四、一五日　於・バルサモ。
総合一位　セードロ青年一位　パイネイラ
△第二四回全伯大会　七月二三、二四日、サンパウロ・チエテ・

クラブ　ＡＡＣ優勝。
中家　高跳①　一・八五、
中家　三段①　一四・四二
宮城　円盤①　三六・二八。
一九六一年
△第二二回青年、第一二回少年少女、第二回　ＯＢ陸上大会　五月一三、一四日　於・バルサモ、参加１１チーム　選手八〇〇名。
団体青年
一位　パイネーラ
△第十八回青年、第十四回少年少女北パ陸上大会　七月一、二日　於・アサイ、団体アサイ二位。
△第二五回全伯邦人陸上大会　七月二二、二三日　於・サンパウロ。
宮城　円盤①　三七・九五
宮城　砲丸①　一二・六二
　パラナ優勝。
一九六二年
△第二六回全伯陸上大会　七月二一、二二日開催。パラナ連覇、円盤　宮城　①　三五・八二。
一九六三年六月八、九日　第二四回アサイ陸上大会　於・アサイ、パイネイラ優勝。
△第三回ＯＢ、第二六回青年、第十四回少年　少女汎トレス・バラス陸上大会　六月八、九日　於・アサイ、総合力ビウーナ優勝。
△第二七回全伯陸上大会　七月二〇、二一日
パラナ三連覇。
走巾跳　中家①　六・八〇
三　段　中家③　一三・八〇

棒　高　中家②　三・四〇
砲　丸　宮城①　一二・九二
槍　宮城②　四九・五
円　盤　宮城①　三五・八三
一九六四年　第二五回青年、第一五回少年少女
△第二八回全伯大会
宮城　円盤①　三五・二八
宮城　砲丸②　一一・七〇
宮城　ハンマー②　三五・〇三
中家　槍授②　五二・一〇パラナ四連覇
一九六五年　第二六回青年、第十六回少年少女
第五回ＯＢ陸上大会　五月二二、二三日
於・アサイ総合　力ビウーナ三連覇　五四
二点、二位　アサイ　三四七、三位　バルサモ　二九九。
△第二九回全伯大会　七月一七、一八日、北パ五連覇。
宮城　砲丸①　一二・二五
宮城　円盤①　三八・〇九（コロニア新）
一九六六年　第二七回青年、第十七回少年少女
第六回ＯＢ大会　五月二八、二九日　於・アサイ、総合力ビウーナ四連覇。
△第二三回北パ陸上大会。
△第三十回全伯陸上大会　パラナ六連勝。
一九六七年　第二八回青年、第十八回少年少女
第七回ＯＢ陸上大会　五月二〇、二一日、総合カビウーナ五連覇。
△第三一回全伯陸上大会　北パラナ七連覇。
一九六八年　第三二回全伯邦人陸上大会　北パラナ八連覇。
△第二五回北パ陸上大会一位　マリンガ、五位　アサイ。

平栗　八〇〇①　　二・〇八
為弘　三段跳①　一二メートル七三
一九六九年
△第三十回汎アサイ陸競大会　五月一七、一八日開催、一位フィゲイラ、二位カビウーナ、三位　北アサイ、カビウーナ七連覇ならず。フィゲイラ優勝は、四六、四七、四八年三連覇以来のもの。
△第二六回北パ陸上大会　六月一三日　於・アラポンガス　参加８チーム、一位マリンガ、二位アサイ。
△第三三回全伯陸上大会　七月二六、二七日　於・ピニエイロス　参加８チーム、パラナ　九連覇成らず。
後藤英樹　走高③　三段⑤　走巾⑥
平栗マリオ四百m④百m⑥一千六百リレー　⑥円盤　小笠原②三四・四九
一九七〇年　第三四回全伯邦人陸上大会　北パラナ優勝。
一位　パラナ　三二八点　二位　サンパウロ　三二〇・五
△第三一回アサイ陸上　五月一六、一七日
一位　フィゲイラ、連覇、二位　カビウーナ、三位　北アサイ
△第二回アサイ・ポプラール陸上大会
一位　フィゲイラ、二位　北アサイ。
△第二七回北パ陸上大会　六月一三日　参加　７チーム、一位マリンガ　二九三、二位　アサイ　二四四。
一九七一年三月二八日　第二回アサイポプラール陸上大会　一位北アサイ、二位カビウーナ、三位フィゲイラ。
△第三二回アサイ陸上大会
一位フィゲイラ　三連覇、二位カビウーナ　三位　北アサイ。
△七一年　第三五回全伯邦人睦上大会　パラナ二連覇　通算一〇

度

四〇〇②平栗　五二・六

八〇〇③平栗　二・〇・七

四〇〇リレーパラナ①四三・八

△第十八回全伯大会　於・サンパウロ、団体　1パラナ、2総合ブラジル①三〇八　四連覇　ペルー②　一四六、アルゼンチン③一三九、パラグワイ④五三。

一九七二年　第三回アサイ・ポプラル陸上大会　三月二六日一位カビウーナ、二位　北アサイ。三位　フィゲイラ

△第三六回全邦人陸上大会　七月二九、三〇日、サント・アンドレ市営競技場　八〇〇m平栗①二・〇二　総合一位　北パラナ三三五、二位　サンパウロ近郊　三一〇

一九七三年　第三四回アサイ陸上大会　五月一三、一四日、参加11チーム。

一位　カビウーナ　五二九、二位　フィゲイラ　四四四・五、三位　北アサイ　三五三。

△第三十回北パラナ陸上大会、六月一〇、一一日、参加7チーム。

総合一位　マリンガ　五一九・五　二位　アサイ　四二〇・五、三位レステ　一五二、四位　ロンドリーナ、一〇二。

△第三七回全伯陸上大会　七月二八、二九日　於・オザスコ、一位　聖市近郊　三六七、二位　パラナ　三六五・五パラナ四連覇成らず。

△第一七回パラナ・オープン総合体育大会。

九月、於・マリンガ

八〇〇m①平栗　二・八二走高②山本R、三段②山本R、槍⑥斉木

△第五回南米日系陸上大会　於・ペルー　総合一位　ブラジル、男子一位　ブラジル　女子一位　ブラジル。

一九七四年五月一一、一二日　第三五回アサイ陸上大会　参加12チーム

一位　カビウーナ、二位　西アサイ、

△第三一回北パ陸上大会　六月八、九日　於・アセル。

一位　ロンドリーナ、二位　マリンガ、三位　アサイ。

△第三八回全伯邦人陸上大会　七月二七、二八日、サンパウロ近郊連覇、二位　サンパウロ二世陸協、三位　北パラナ。

一九七五年　第三二回北パ陸上大会　六月七、八日　於・マリンガ、参加6チーム。

一位　ロンドリーナ、二位　マリンガ　三位　アサイ

△第三六回アサイ陸上大会　参加九〇〇人。

一位　カビウーナ　四六八、二位　北アサイ　三〇七。三位セボロン　三〇三。

△第三九回全伯邦人陸上大会　八月二、三日　於・イビラプエラ競技場、十種目にコロニア新。

一位　サンパウロ近郊、三位　北パラナ

個人

八〇〇m①平栗M一・五九・六

一・五〇〇m③平栗M　四・二一・六

一九七六年

△第三三回北パ陸上大会　四月一七、一八日

参加　4チーム一位　マリンガ、二位　ロンドリーナ、三位アサイ、四位　ローランジア。

△第三七回アサイ陸上大会　五月二三日

一位　カビウーナ、二位　サ・セシリア、三位　北アサイ。

△第一回北パ日系コロニア陸上大会　六月一二、一三日　於・マリンガ、参加９チーム　一位　アサイ、二位　マリンガ、三位　ロンドリーナ。

△第四十回全伯邦人陸上大会　七月三一日、八月一日　於・イビラプエラ競技場。

一位　サンパウロ近郊、二位　北パラナ。

個人

八〇〇ｍ　平栗①　二・〇・五

一・五〇〇ｍ　平栗①　四・五一・八

走巾　山本Ｒ③、三段　山本Ｒ③一三・六七。

一九七七年　第三四回北パ陸上大会　四月一六日、一七日。一位　マリンガ　二一七、二位　アサイ　八四、三位　ロンドリーナ　八一、四位　ウライ　七。

△第三八回アサイ陸上大会　五月七、八日

参加１１チーム。

一位　北アサイ　四五八、二位　サ・セシリア　三八九、三位　西アサイ　三六八、四位　カビウーナ　三三九。

△第二回北パコロニア陸上大会　六月二、一二日　於・アサイ

参加７チーム

一位　アサイ　四一五、二位　マリンガ　三七〇、三位　レステ、四位　ロンドリーナ。

個人

八〇〇ｍ①平栗Ｍ　二・〇七・六

一・五〇〇ｍ①平栗Ｍ　四・〇二・六

四〇〇リレー　①アサイ　四五・八

一・六〇〇リレー　①アサイ　三・四六・二。

△第四一回全伯陸上大会　七月三十、三一日　イビラプエラ

団体総合一位　サンパウロ近郊、二位　北パラナ。
個人
八〇〇m①平栗M　一・五七・九（大会新）一・五〇〇m①平栗M　四・一一・七　棒高③平栗、三段③山本R
一九七八年　第三九回アサイ陸上大会　五月一三、一四日　参加11チーム、一位　北アサイ　五〇七、二位　バルサモ　三六〇、三位　西アサイ　三〇六。
△第三回北パコロニア陸上大会　六月二五日　於・アセル　参加5チーム、一位　アサイ　三八四、二位　マリンガ　二八九・五、三位　レステ　二〇四・五。
△第四二回全伯邦人陸上大会　七月二九、三〇日、於・イビラプエラ競技場。
一位　サンパウロ近郊、二位　パラナ八〇〇m②平栗、一・五〇〇m②平栗、
走巾③山本R、三段③山本R。
一九七九年　第三六回北パ陸上大会　四月二〇日、於・アセマ　参加5チーム、一位　アサイ　五〇六・五、二位　マリンガ　二九八・五、三位　レステ　二〇七
△第四十回アサイ陸上大会　五月一二、一三日　参加11チーム、一位　北アサイ、二位　西アサイ、三位　バルサモ。
△第四三回全伯邦人陸上大会　七月二八、二九日、於・イビラプエラ競技場、参加8チーム　四八八人。
一位　サンパウロ近郊　四二六、三位　パラナ　一九三。
一九八〇年　第四一回アサイ陸上大会　五月一〇、二日、参加11チーム、一位　バルサモ、二位　西アサイ、三三位　北アサイ。
△第五回北パ・コロニア陸上大会　五月二五日　於・アサイ　参加7チーム一位　アサイ、二位　東部連盟、三位　マリンガ。

△第四四回全伯日系陸上大会　七月二六、二七日　於・イビラプエラ競技場、総合一位サンパウロ近郊、三位　北パラナ。

個人成績（男子）

走巾跳　②山本Ｒ　六・六三

三段跳　③山本Ｒ　一三・三九

砲　丸①①木戸　一二・六〇

円　盤　①木戸　三八・一二

棒　高　①小池　三・七〇

槍　投　③服部　五〇・六八

（女子）

槍　授　④金松　円　盤　⑤金松

四百メートル　④小林

一九八一年　第四二回アサイ陸上大会、第二一回壮年、第四二回青年、第三二回少年少女　陸上大会　五月九、一〇日開催。参加１１区一・〇〇〇余名、大会長　森本Ｆジョン　女子Ａ百メートル　浜田トシエ一三・四（新）一位　北アサイ、二位　バルサモ、三位　西アサイ

△第六回北パコロニア陸上大会　六月一四日　アサイで開催。参加６チーム、団体一位　アサイ　三三五、二位　マリンガ一九五　ロンドリーナ　三一。

△第四五回全伯陸上大会　七月二六、二七日　於・イビラプエラ競技場、参加８チーム　五〇〇名。北パラナ団体四位、

功労章

小笠原富士雄、功労賞を受賞。

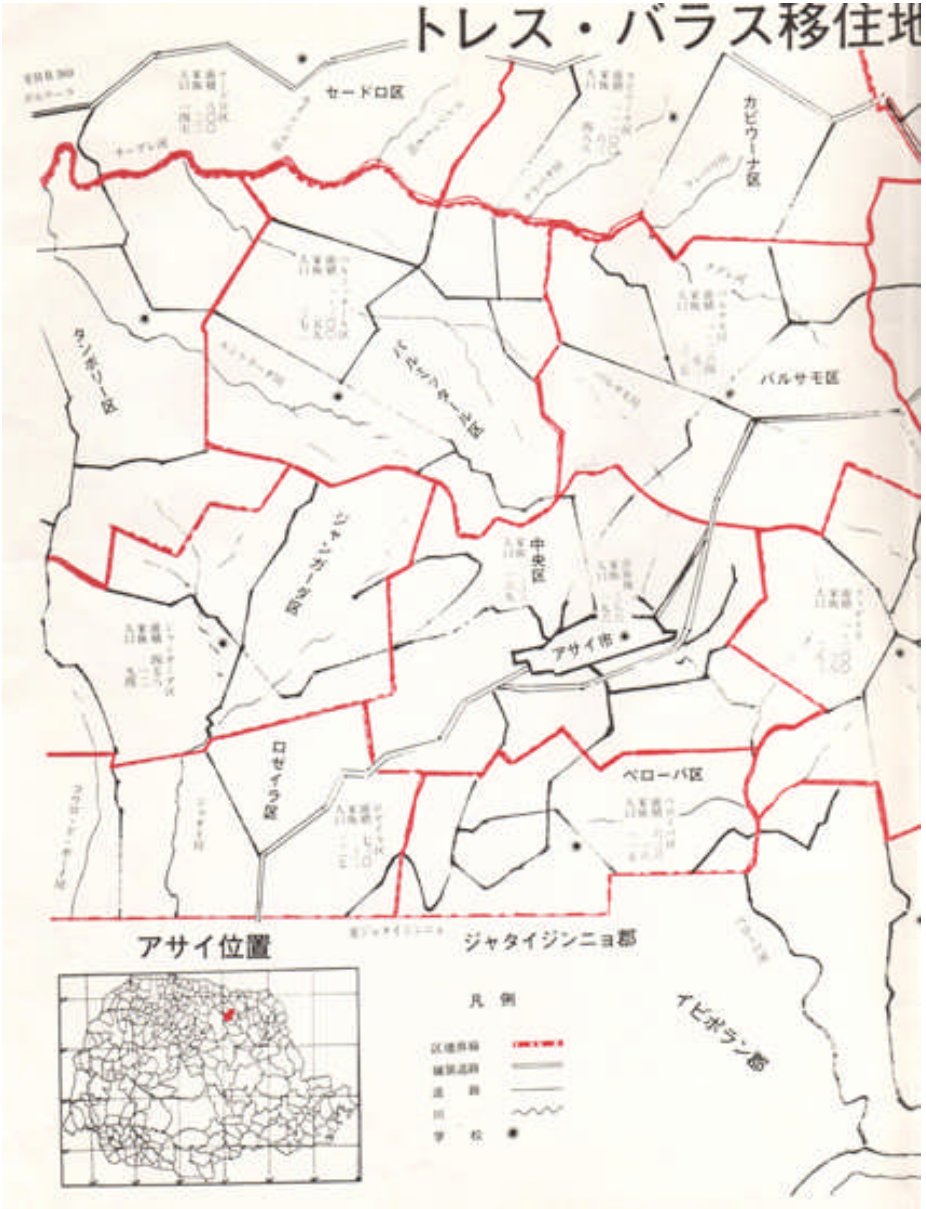
全伯で最も活躍したアサイ選手

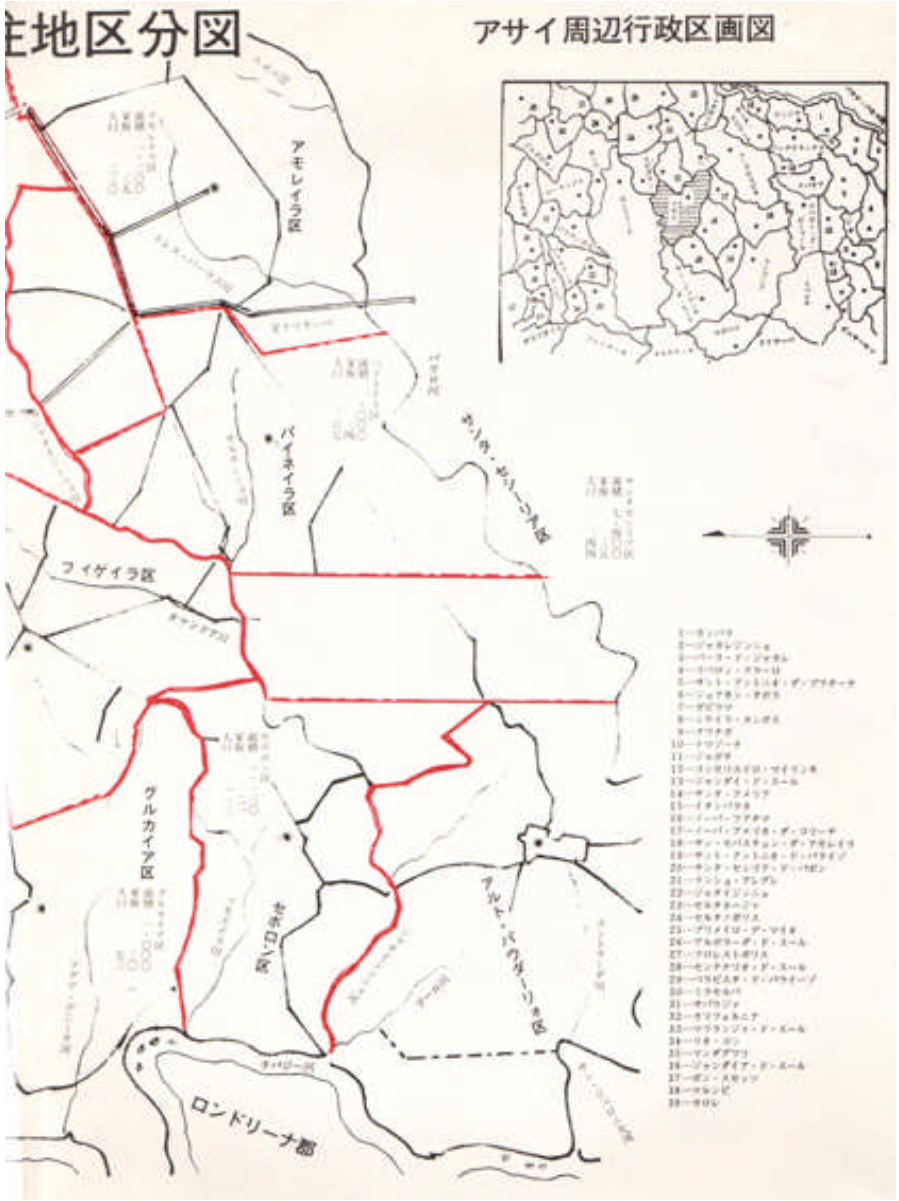
妻沼、佐藤、中家一郎、宮城政光、平栗マリオ。

アサイ陸上最高記録

種目	記録	選手名	年度
百メートル	一一・四	後藤	一九七〇
二百〃	二四・二	山本R	八〇
四百〃	五二・六	平栗M	七一
八百〃	一・五七・九	〃	七七
千五百〃	四・〇二・六	〃	
五千〃	一六・〇六・五	中司	四一
一万〃	三五・〇二・〇	佐藤	四九
四百リレー	四〇・〇八	カビウーナ準青	七五
千六百〃	三・三九・一	アサイ	七五
走高跳	一・八七	中家	五三
走巾跳	六・八〇	〃	六三
三段跳	一四・四二	〃	六〇
棒高跳	三・六〇	守屋	五三
〃	三・六〇	平栗	七五
砲丸投	一二・九二	宮城	六三
円盤授	三八・〇九	〃	六五
槍投	五四二八七	清水	四一
鉄槌	四〇・六八	盛川	五〇
一一〇障	一六・七	山本J	七五

トレス・バラス移住地区分図





編さん委員会

名誉委員長…上野アントニオ下院議員、野々村義博アサイ市長、頼則照雄

委員長……原　勉

副委員長…小林一郎、南原春雄

編集主任…牛窪　襄

編纂委員〈教育〉青木孝雄、日語学校…樋代武夫、幼稚園…今村崇記〈宗教〉カトリック…浅岡源治、真宗…杉原五月、生長の家…工藤完、天理教…岡村俊郎、本門仏立講…小河歳雄〈スポーツ〉陸上…小笠原富士雄、野球…久村勝志郎、柔道…石原貞伊〈文化〉歌謡…藤島一夫、青年弁論…小林徳雄、唱歌…青木房江、俳句…多胡　茂、囲碁…牛窪　襄、将棋…上井紀与晴〈LACA〉各区男女

アモレイラ…小林徳雄、アサイ…佐々木三世バルサモ…仲山清治、カビウーナ…島田　巧セボロン…佐藤マリオ、セントラル…田口明夫、セードロ…岸野哲夫、フィゲイラ…小見森衛、グワルカイア…中根義夫、ジャンガーダ…広沢加寿夫、パイネイラ…原　正直、パルミッタール…小山良雄、ペローバ…清水六雄、ポルテイラ…島田松雄、ロゼイラ…荒堀徹夫、サンジョン…星野量一、サンタセシリア…平野　稔